

楢葉町 住民意向調査 報告書

平成 25 年 3 月

復興庁
福島県
楢葉町

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査対象	3
4. 調査時期	3
5. 調査方法	3
6. 調査実施	3
7. 回収結果	3
8. 回答者の属性	4
(1) 性別	4
(2) 年齢・学年	4
(3) 職業(震災発生当時・現在)	5
(4) 震災発生当時居住地区と居住年数	6
(5) 世帯での立場(現在)	6
9. この報告書を読む際の注意点	6
II 調査結果	7
1 世帯・家族の状況	9
(1) 震災発生当時の世帯構成(現在世帯主・代表者)	9
(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方(現在世帯主・代表者)	11
(3) 現在の世帯構成(現在世帯主・代表者)	12
(4) 分散避難の状況(現在世帯主・代表者)	14
(5) 現在の住居種別(現在世帯主・代表者)	17
2 東日本大震災発生当時および震災前の状況	20
(1) 震災発生当時の職業	20
(2) 震災発生当時まで通勤・通学していた地域と移動手段	25
(3) 震災発生当時まで日常の買い物をしていた場所と移動手段	28
(4) 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況	32
(5) 震災発生当時の介護や福祉サービスを受けていた経験の有無	34
3 現時点の状況	36
(1) 現在避難している先の自治体	36
(2) 現在の職業	38
1) 現在の職業	38
2) 震災発生当時の職業との違いと変わった理由	42
3) 求職状況(無職者)	46
(3) 避難生活の中で困っていること	51
(4) 医療サービスについて困っていること	53
(5) 介護・福祉サービスについて困っていること	55
(6) 教育(学校)について困っていること	57
(7) 就労について困っていること	61
(8) 地域のコミュニティについて困っていること	63

4 将来についての思い	66
(1) 希望する避難生活のかたち	66
1) 希望する避難居住地	66
2) 避難期間中に希望する住居形態	70
(2) 高校卒業後の進路	74
1) 高校卒業後の進路	74
2) 進学・就職する地域	75
3) 震災による進路希望の変化	75
(3) 檜葉町への帰還意向	76
(4) 帰還後の檜葉町に必要なもの	78
(5) 帰還時に行政に要望する支援	80
(6) 帰還のための必要条件	82
(7) 帰還までの猶予年数	85
(8) 帰還後の町内での事業再開	87
1) 帰還後の町内での事業再開意向	87
2) 事業再開の課題	88
3) 事業を再開しない理由	89
(9) 檜葉町に帰還しない理由	90
(10) 今後の生活拠点候補の自治体	92
(11) 今後の生活拠点への転居の時期と判断のタイミング	95
(12) 今後の生活において行政に望む支援	99
(13) 帰還を判断する条件	101
(14) 世帯で所有している家屋等の今後の取り扱い(現在世帯主・代表者)	103
5 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて	106
Ⅲ 調査票(付:単純集計結果)	111

I 調査の概要

1 調査目的

檜葉町住民の避難期間中の生活環境の整備や、復興の拠点のあり方等の諸施策の適切な実施を行うための基礎データを収集することを目的とする。

2 調査項目

- (1) 回答世帯属性
- (2) 東日本大震災発生時および震災前の状況
- (3) 現時点の状況
- (4) 将来についての思い
- (5) 国・町への要望・提案・意見等

3 調査対象

- (1) 調査対象
15 歳以上の檜葉町住民(東日本大震災発生当時居住住民)
(但し、中学生は除く)

- (2) 対象数 6,986 人

4 調査時期

平成 24 年 11 月 29 日(木)～12 月 13 日(木)

5 調査方法

郵送法

6 調査実施

復興庁 福島県 檜葉町

7 回収結果

有効回収数(率) 3,888 人(55.7%)

8 回答者の属性

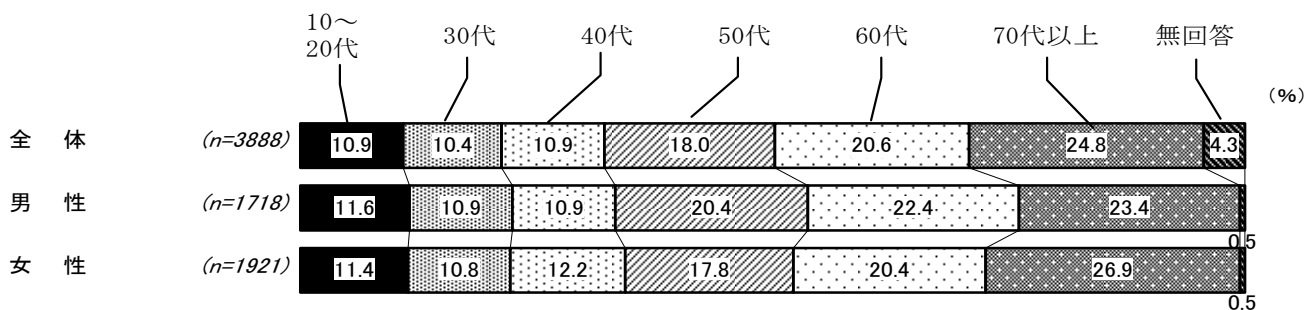
(1) 性別

図表1 性別

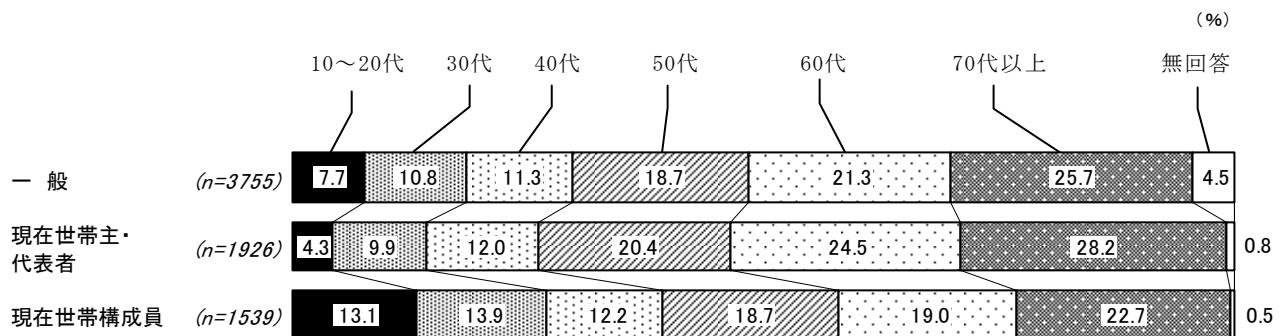


(2) 年齢・学年

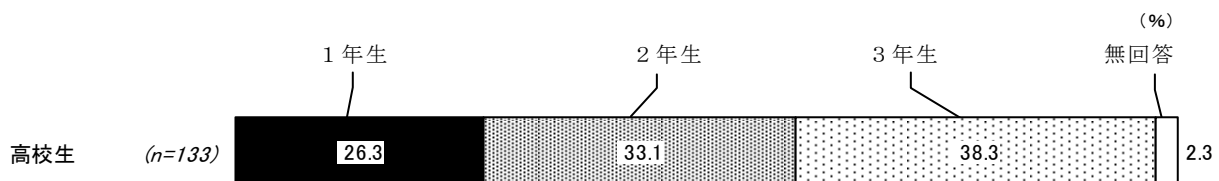
図表2 年齢(全体)



図表3 年齢(世帯主・構成員別)

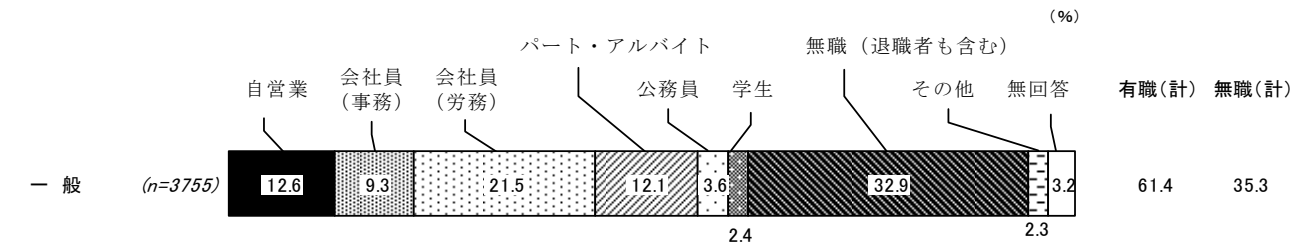


図表4 学年(高校生)

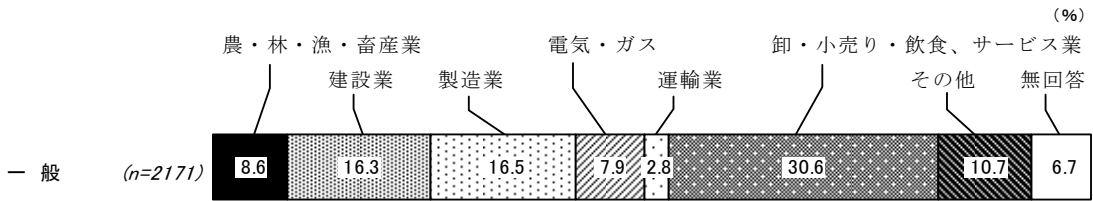


(3) 職業(震災発生当時・現在)

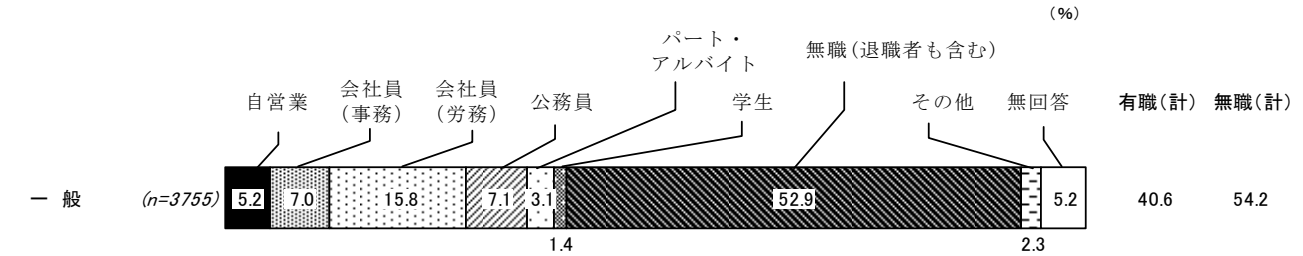
図表5 職業(震災発生当時)(一般)



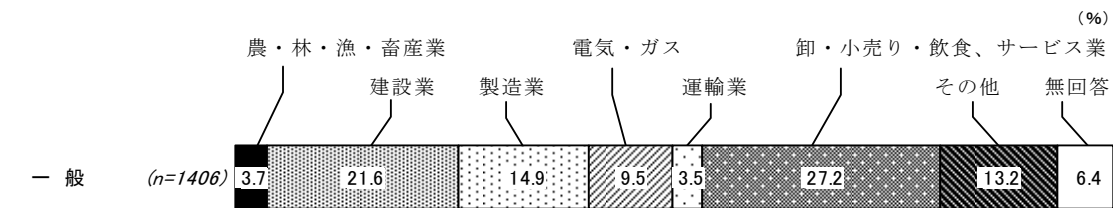
図表6 業種(震災発生当時)(一般)



図表7 職業(現在)(一般)



図表8 業種(現在)(一般)

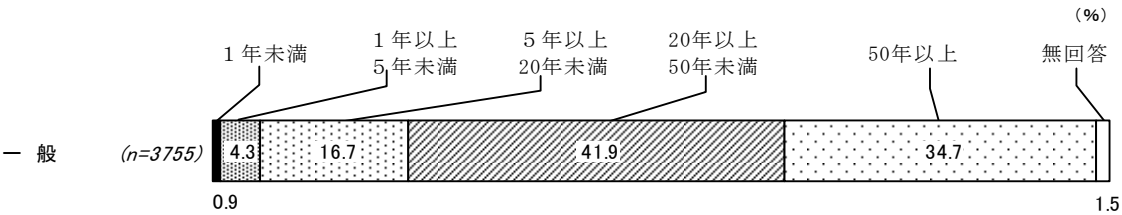


(4) 震災発生当時居住地区と居住年数

図表9 震災発生当時居住地区

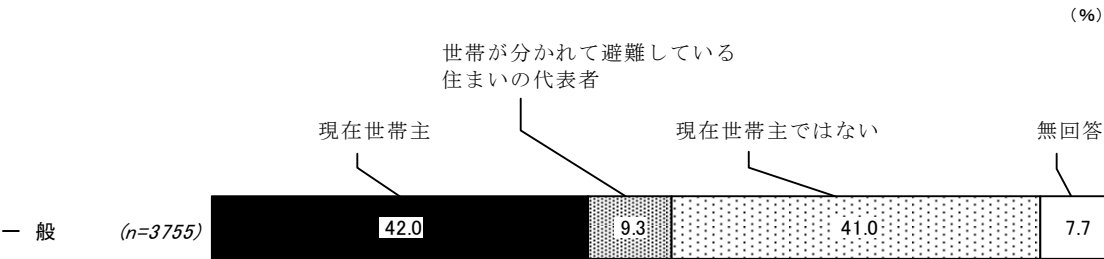
		旭ヶ丘	営団	乙次郎	下井出	下小堤	下繁岡	山所布	山田岡	山田浜	女平	松館	上井出	上小堤	上繁岡	前原	大坂	大谷	榎木下	波倉	繁岡	北田	その他	無回答
全 体	(n=3888)	0.3	4.5	0.2	6.3	12.0	4.4	0.1	12.7	3.6	0.9	2.4	14.1	5.1	5.1	3.5	0.6	4.4	0.1	3.0	4.4	9.4	1.2	1.6

図表 10 居住年数(一般)



(5) 世帯での立場

図表 11 世帯での立場(一般)



9 この報告書を読む際の注意

- (1) 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答者総数(3,888 人)、または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、小数点第 2 位で四捨五入して、小数点第 1 位までを表示した。四捨五入したため、合計値が 100% を前後することがある。
- (3) 「(○はいくつでも)」と表示のある質問は、2 つ以上の複数回答を認めているため、回答計は 100% を超える。
- (4) 図表中“－”は、回答者が皆無であることを、“0.0”は 0.05 未満の数値であったことを示す。
- (5) 「Ⅱ 調査結果」では、分類別の回答者数が 50 人より少ない場合は傾向をみるにとどめ、分類別の分析の対象からは外している。
- (6) 高校生には、全体の設問から一部を抜粋した調査票により質問したため、設問番号が一般(高校生以外)と異なっている。図表中は、下記のように表記して区別した。

全体: 一般(高校生以外)と高校生の計
一般: 高校生以外の一般住民
高校生: 調査時点で高校生

Ⅱ 調査結果

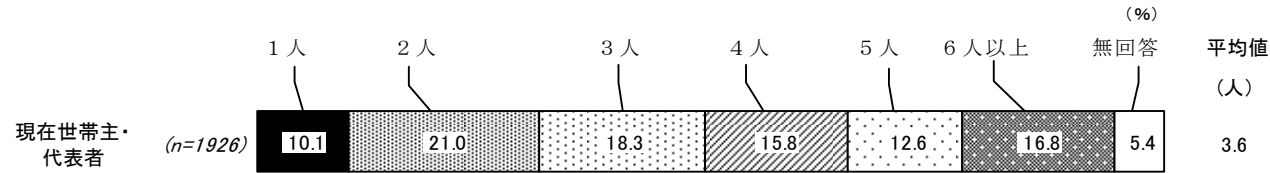
1 世帯・家族の状況

(1) 震災発生当時の世帯構成(現在世帯主・代表者)

問 35(1) 震災当時は、あなたを含めて何人でお住まいでしたか。

現在世帯主もしくは世帯の代表者(1,926 人)の震災発生当時の世帯人数は平均 3.6 人で、「2 人」世帯(21.0%)と「3 人」世帯(18.3%)が 2 割前後である。(図表 1-1-1)

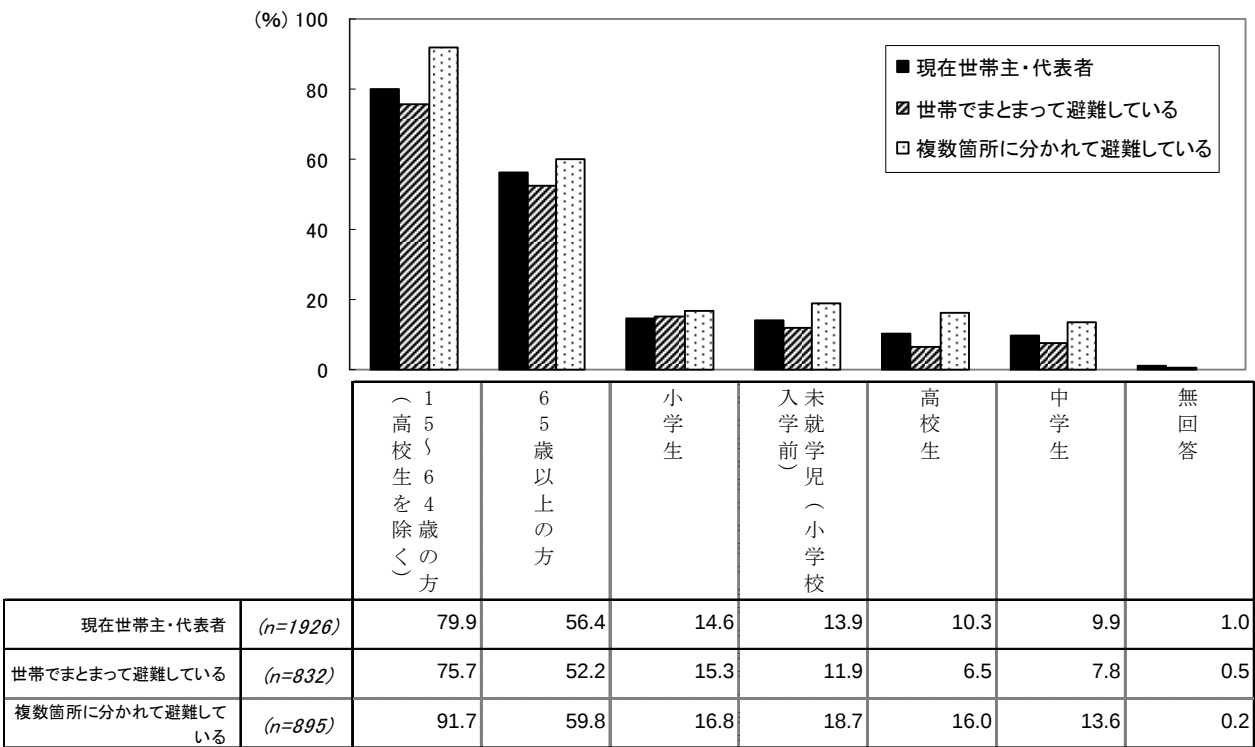
図表 1-1-1 震災発生当時の世帯構成(一般)



震災発生当時の世帯主を含めた世帯構成員の年齢属性を見ると、当時「65 歳以上の方」がいた世帯は 56.4%で、過半数を占める。当時「未就学児(小学校入学前)」が 13.9%、当時「小学生」は 14.6%である。当時「高校生」は、10.3%となっている。(図表 1-1-2)

世帯の避難状況別(p.14 参照)に見ると、複数箇所に分かれて避難している分散世帯の 6 割は、震災発生当時、高齢層である「65 歳以上の方」(59.8%)と同居していたと回答している。(図表 1-1-2)

図表 1-1-2 震災発生当時の世帯構成(世帯の避難状況別)



世帯主もしくは代表者の年代別に見ると、30 代の半数は、当時「未就学児（小学校入学前）」（50.5%）と同居していたと回答している。40 代では、当時「65 歳以上の方」（40.3%）もしくは「小学生」（39.8%）との同居がそれぞれほぼ 4 割で、世帯構成が多様である。（図表 1-1-3）

図表 1-1-3 震災発生当時の世帯構成（世帯主・代表者の年代別）

(%)

		15～64歳の方 （高校生を除く）	65歳以上の方	小学生	未就学児 （小学校入学前）	高校生	中学生	無回答
現在世帯主・代表者	(n=1926)	79.9	56.4	14.6	13.9	10.3	9.9	1.0
10－20代	(n=82)	98.8	37.8	7.3	25.6	15.9	11.0	－
30代	(n=190)	100.0	23.2	30.5	50.5	2.1	10.5	－
40代	(n=231)	100.0	40.3	39.8	19.5	27.7	31.2	－
50代	(n=393)	100.0	41.2	8.4	6.6	17.6	11.5	－
60代	(n=471)	86.8	43.9	8.7	10.8	2.3	2.5	3.2
70代以上	(n=543)	41.4	100.0	9.4	4.8	6.8	5.7	－

(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方(現在世帯主・代表者)

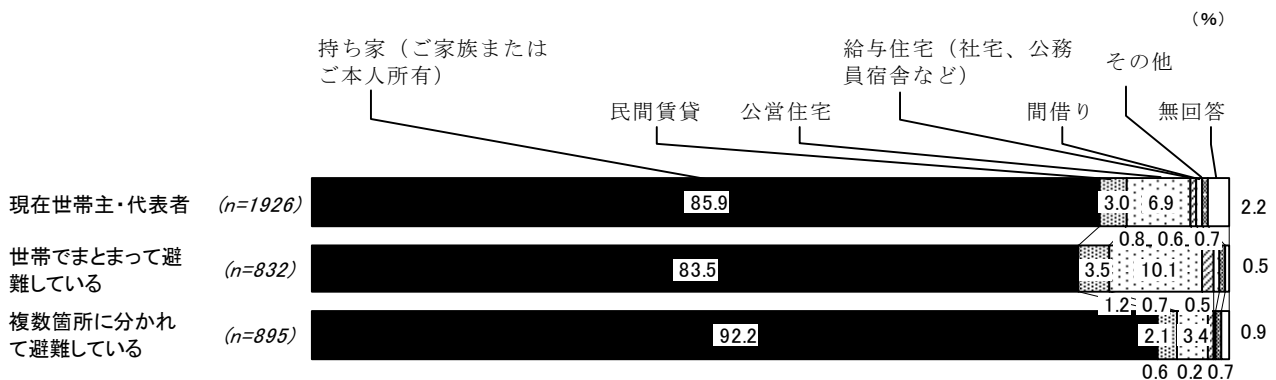
問 36 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方でしたか。

- (1) 所有形態
(2) 住居の建て方

現在世帯主もしくは世帯の代表者(1,926人)の、震災発生当時の住宅の所有形態としては、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」が 85.9%で際立って多く、「公営住宅」(6.9%)、「民間賃貸」(3.0%)などは 1 割に満たない。(図表 1-2-1)

世帯の避難状況別(p.14 参照)を見ると、複数箇所に分かれて避難している分散世帯の9割以上は、震災発生当時「持ち家(ご家族またはご本人所有)」(92.2%)に居住しており、まとまって避難している世帯(83.5%)より持ち家比率が高くなっている。(図表 1-2-1)

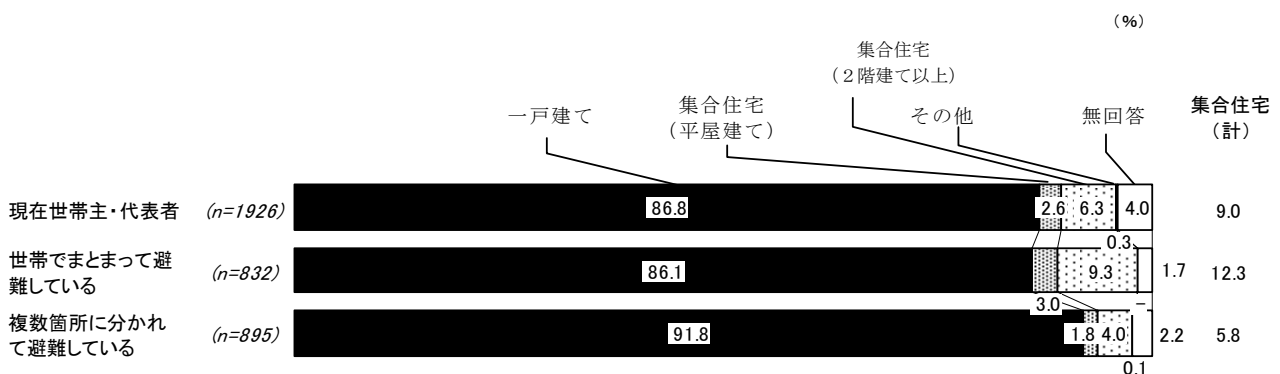
図表 1-2-1 震災発生当時の住宅の所有形態(世帯の避難状況別)



震災発生当時の住宅の建て方を見ると、「一戸建て」が 86.8%と多数を占める。(図表 1-2-2)

世帯の避難状況別(p.14 参照)を見ると、持ち家比率の高い分散世帯の方が、当時「一戸建て」居住者(91.8%)が多くなっている。(図表 1-2-2)

図表 1-2-2 震災発生当時の住宅の建て方(世帯の避難状況別)



(3) 現在の世帯構成(現在世帯主・代表者)

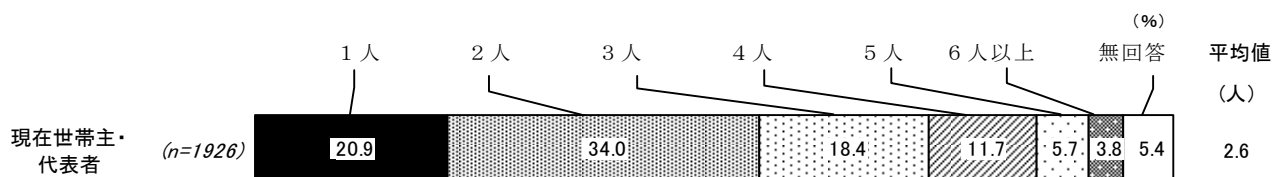
問 34(1) 現在あなたがお住まいの住宅のご同居人数を教えてください。

問 34(2) 現在あなたが同居されている方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。(〇はいくつでも)

現在世帯主もしくは世帯の代表者(1,926 人)の現在の同居世帯人数は平均 2.6 人で、「2 人」世帯が 34.0%で最も多く、次いで「1 人」世帯(20.9%)と「3 人」世帯(18.4%)が 2 割前後となっている。

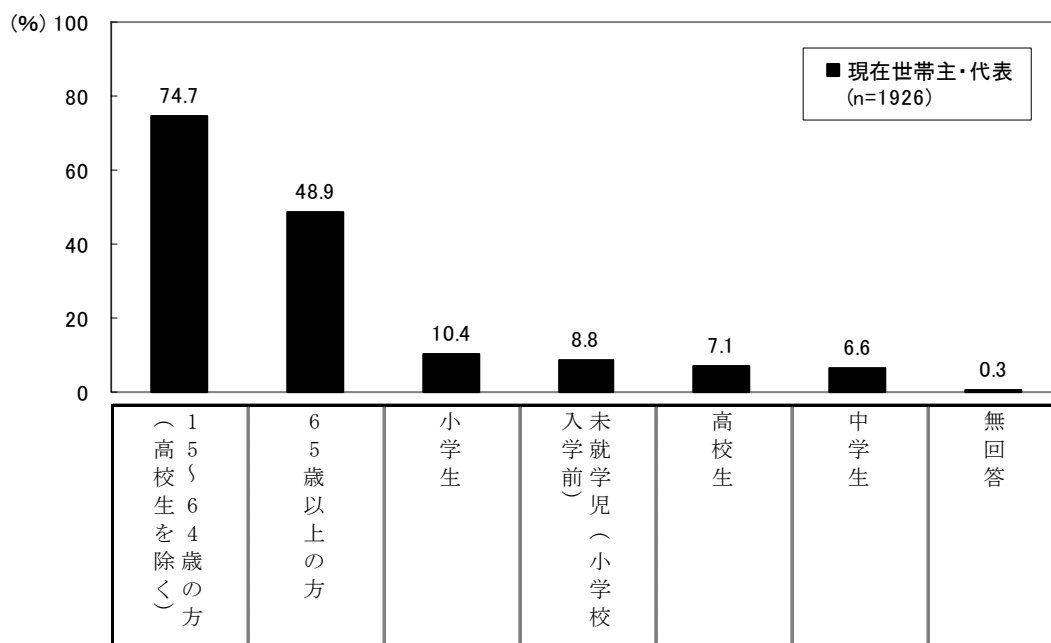
ちなみに、先にみた震災発生当時の「1 人」世帯は 10.1%であり、震災発生から 1 年9ヶ月がたった調査時点で、10.8 ポイント増加している。(図表 1-3-1)

図表 1-3-1 現在の同居人数



現在の家族の状況としては、現在、65 歳以上の高齢者がいる世帯は 48.9%で、震災発生当時より 7.5 ポイント減少している。また、「未就学児(小学校入学前)」は 8.8%、「小学生」は 10.4%がいると回答しており、高年齢層とともに低年齢層がいる世帯の割合も減少している。(図表 1-3-2)

図表 1-3-2 現在の世帯構成(世帯)

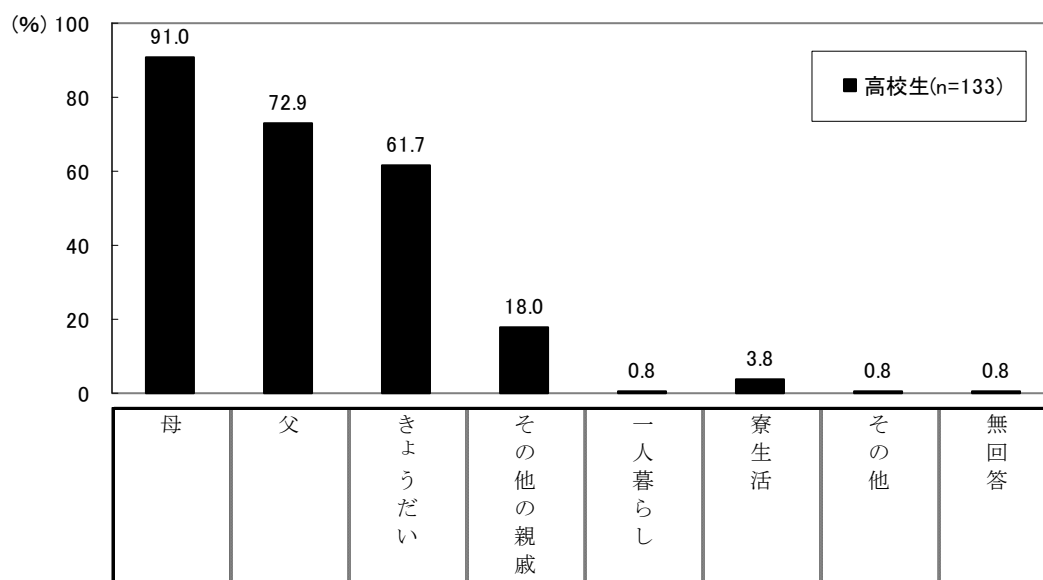


問 15(高校生) 現在一緒に暮らしている人を教えてください。(○はいくつでも)

高校生(133 人)には、現在同居している家族を聞いた。

同居家族としては、「母」が 91.0%で最も多く、次いで「父」72.9%、「きょうだい」61.7%となっている。(図表 1-3-3)

図表 1-3-3 現在の同居家族(高校生)



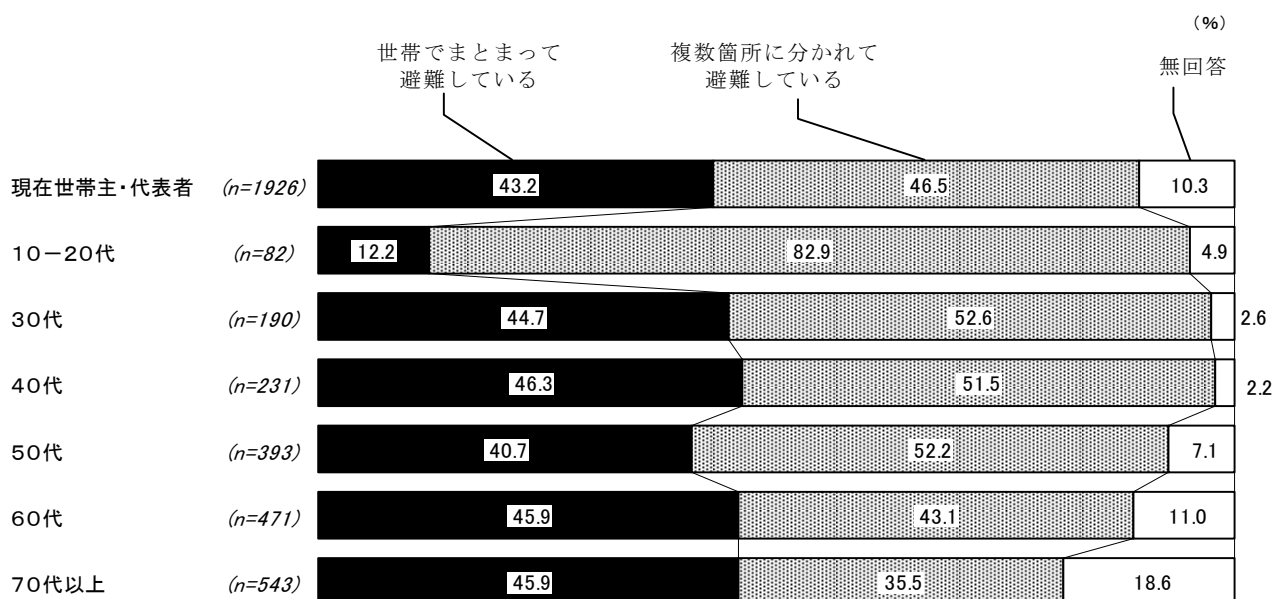
(4)分散避難の状況(現在世帯主・代表者)

問 34(3) 現在、あなたがお住まいの住宅には、震災発生当時の世帯でまとまって避難していますか。(○は1つ)

現在世帯主もしくは世帯の代表者(1,926 人)の避難状況を聞いたところ、「複数箇所に分かれて避難している」と回答した、いわゆる“分散世帯”は46.5%で、「世帯でまとまって避難している」世帯(43.2%)より3.3ポイント多くなっている。(図表 1-4-1)

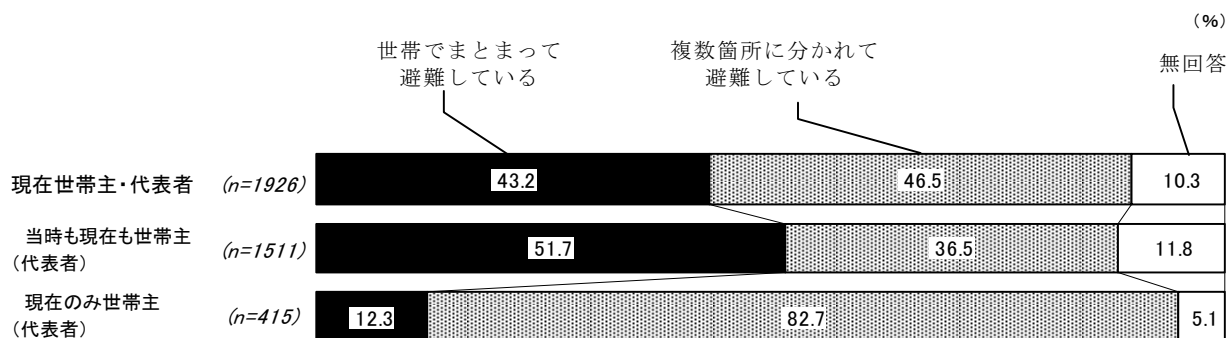
世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、若年齢層ほど「複数箇所に分かれて避難している」世帯が多い傾向があり、特に世帯主もしくは代表者が10～20代の世帯では、82.9%が“分散世帯”となっている。(図表 1-4-1)

図表 1-4-1 世帯の避難状況(世帯主・代表者の年代別)



震災発生当時の世帯での立場別に見ると、震災発生当時世帯主で今も世帯主の場合は、過半数が「世帯でまとまって避難している」(51.7%)と回答しているが、当時世帯主ではなく現在世帯主の場合は8割以上が「複数箇所に分かれて避難している」(82.7%)と回答しており、震災をきっかけに世帯が分散したことで、世帯主もしくは代表者になったものと推察される。(図表 1-4-2)

図表 1-4-2 世帯の避難状況(震災発生当時の世帯での立場別)

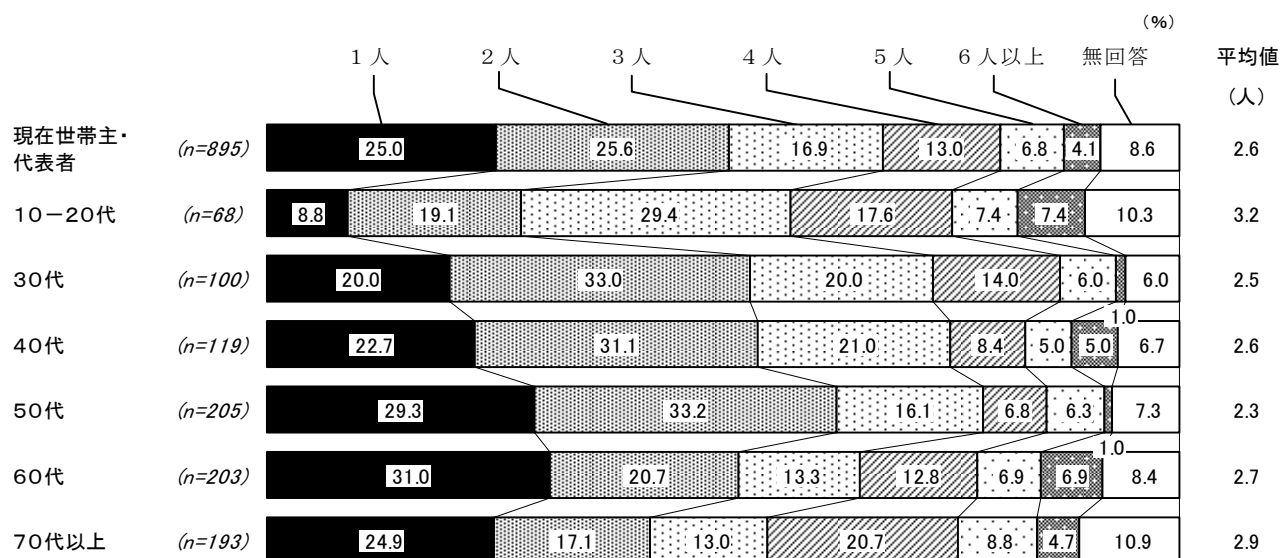


【問 34(3)で「2 複数箇所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】

問 34(4) 現在、あなたと別居している方の人数は何人ですか。

複数箇所に分かれて避難している分散世帯(895 世帯)で別居している家族人数は、「1 人」(25.0%)もしくは「2 人」(25.6%)がほぼ同率で、約半数を占めている。(図表 1-4-3)

図表 1-4-3 別居の家族人数



【問 34(3)で「2 複数箇所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】

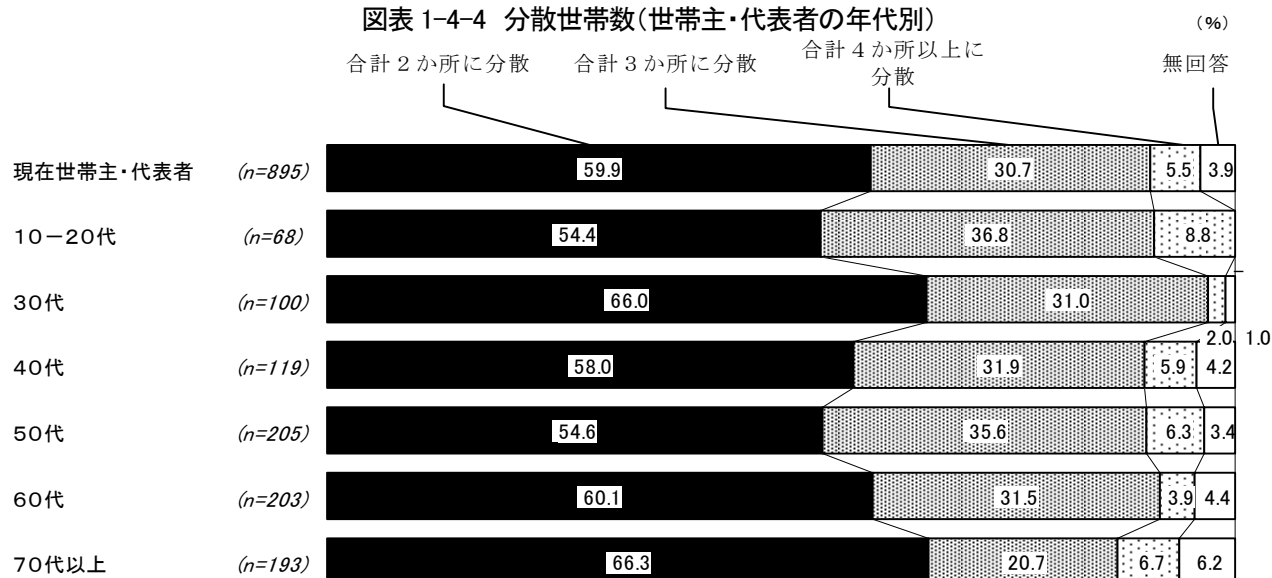
問 34(5) 震災発生当時、ご一緒にお住まいであった世帯のご家族は、現在、合計何か所に分散してお住まいですか。(〇は1つ)

※現在のあなたのお住まいも含めた数を教えてください。

分散世帯数を見ると、「合計2か所に分散」が 59.9%で多数を占め、次いで「合計3か所に分散」が 30.7%、「合計4か所以上に分散」という世帯は 5.5%である。(図表 1-4-4)

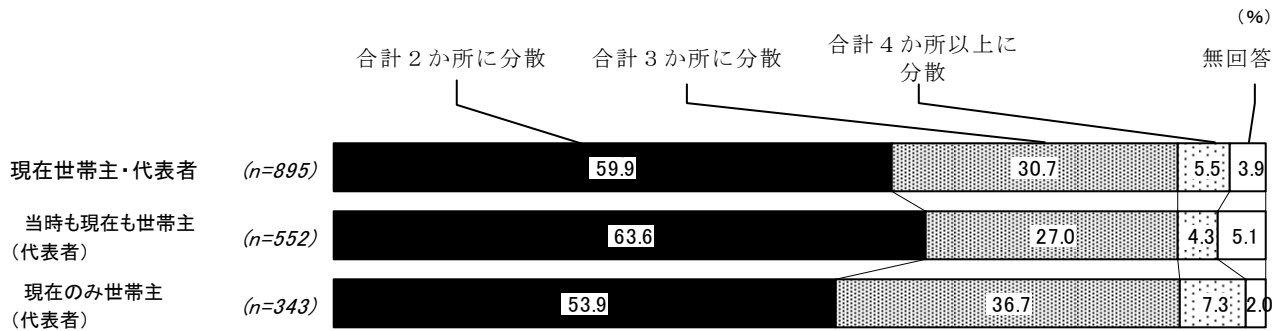
年代別に見ると、10～20代と50代の年代層で、「合計3か所に分散」(10～20代 36.8%、50代 35.6%)もしくは「合計4か所以上に分散」(同 8.8%、6.3%)という世帯が、他の世帯主年代層よりもやや多くなっている。(図表 1-4-4)

図表 1-4-4 分散世帯数(世帯主・代表者の年代別)



震災発生当時の世帯での立場別に見ると、震災発生当時世帯主だった場合は 63.6%が、「合計2か所に分散」と回答しており、「合計3か所に分散」(27.0%)している世帯は 3 割弱である。一方、震災発生当時世帯主でなかった場合は「合計3か所に分散」(36.7%)もしくは「合計4か所以上に分散」(7.3%)という世帯が、やや多くなっている。(図表 1-4-5)

図表 1-4-5 分散世帯数(震災発生当時の世帯での立場別)



(5) 現在の住居種別(現在世帯主・代表者)

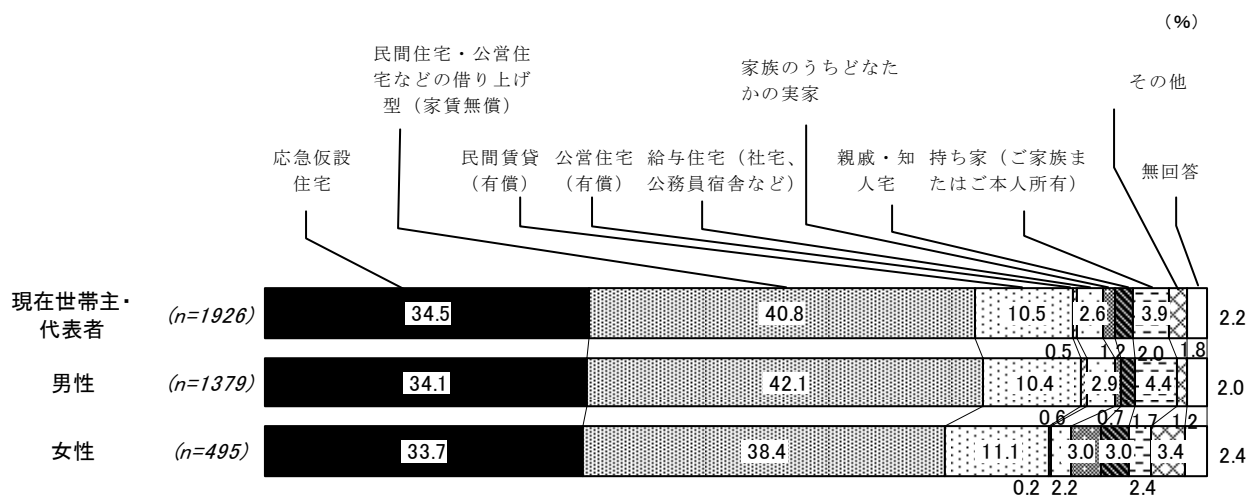
問 33 現在お住まいになっている住宅はどのような所有形態、住宅の建て方ですか。(○は1つ)

- (1)所有形態
(2)住居の建て方

現在の住居形態としては、「民間住宅・公営住宅などの借り上げ型(家賃無償)」が 40.8%で最も多く、次いで「応急仮設住宅」が 34.5%となっている。

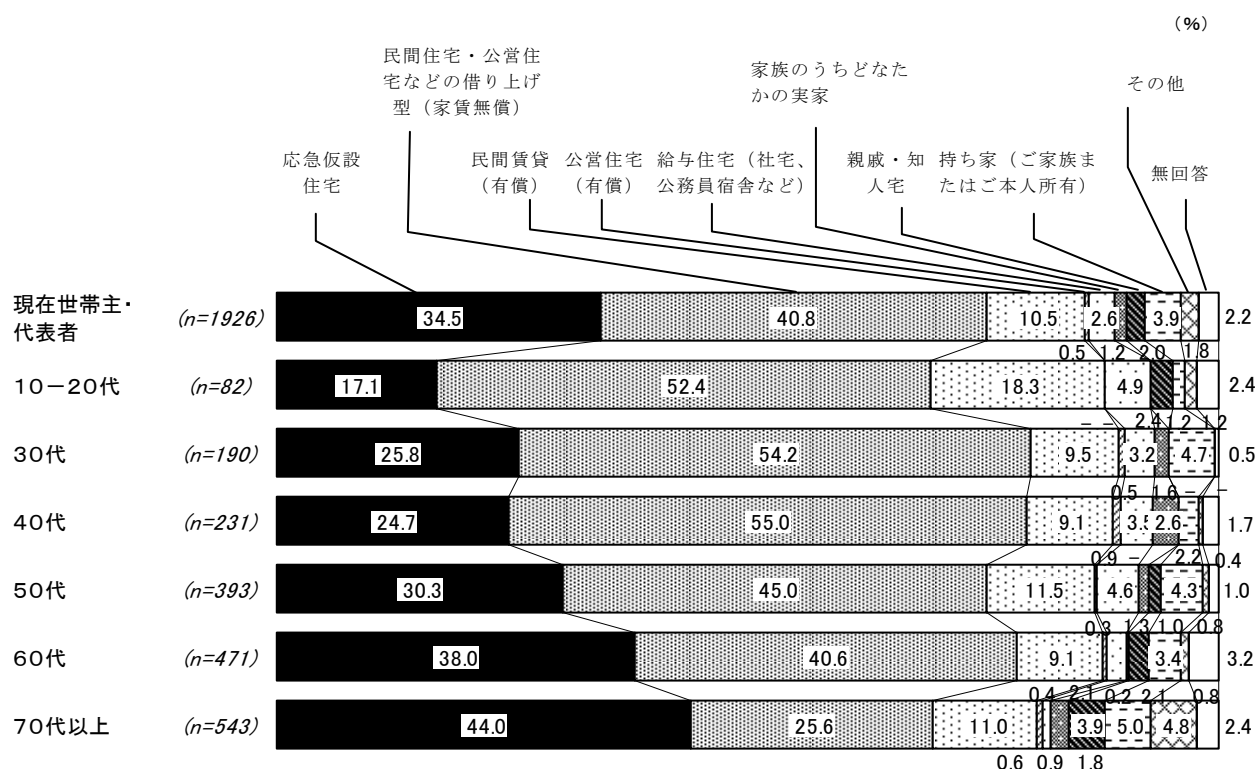
世帯主もしくは代表者の男女別に見ても、差はみられない。(図表 1-5-1)

図表 1-5-1 現在の住居種別(世帯主・代表者の男女別)



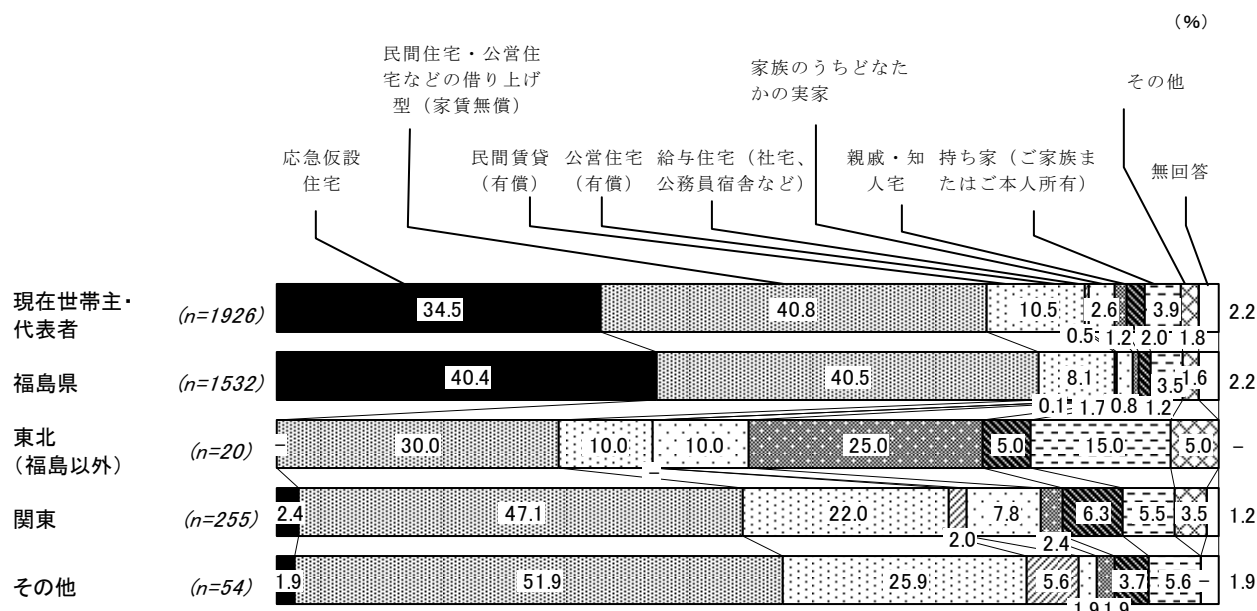
年代別に見ると、高年齢層ほど「応急仮設住宅」居住世帯が多く、70代以上(44.0%)では4割以上となっている。一方、若年層ほど「民間住宅・公営住宅などの借り上げ型(家賃無償)」居住世帯が多い傾向があり、40代以下の年代層では過半数を占める。(図表 1-5-2)

図表 1-5-2 現在の住居種別(世帯主・代表者の年代別)



現在の避難先別に見ると、福島県内避難世帯では、「応急仮設住宅」居住世帯(40.4%)と「民間住宅・公営住宅などの借り上げ型(家賃無償)」居住(40.5%)が 4 割で、ほぼ同率である。関東地方に避難している世帯では、「民間住宅・公営住宅などの借り上げ型(家賃無償)」居住が47.1%で最も多く、次いで「民間賃貸(有償)」居住(22.0%)が約 2 割となっている。(図表 1-5-3)

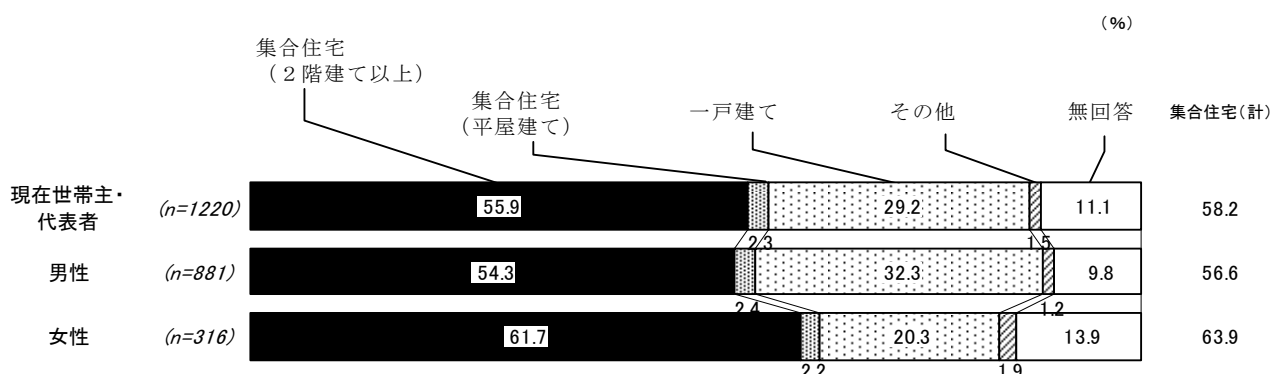
図表 1-5-3 現在の住居種別(現在の避難先別)



現在、応急仮設住宅以外に居住している世帯(1,220 世帯)に、現在居住の住宅の建て方を聞いたところ、「集合住宅(2階建て以上)」が 55.9%と最も多く、次いで「一戸建て」居住世帯が 29.2%である。(図表 1-5-4)

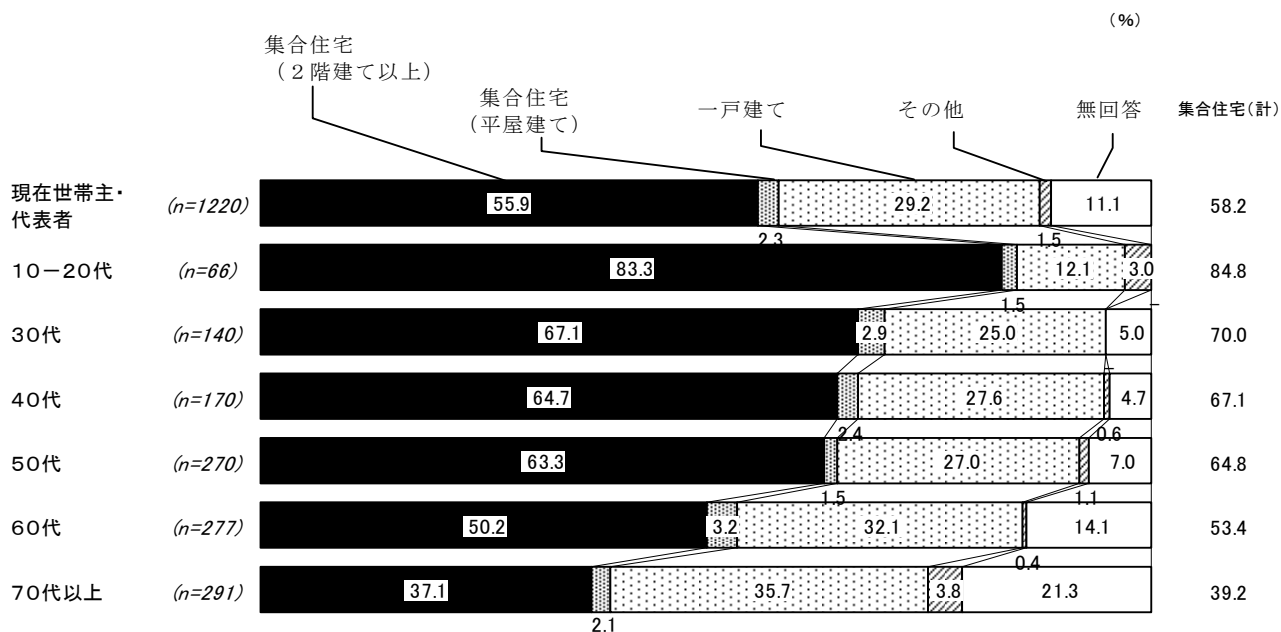
世帯主もしくは世帯の代表者の男女別に見ると、「集合住宅(2階建て以上)」居住(男性 54.3%、女性 61.7%)は男性より女性に、「一戸建て」居住(同 32.3%、20.3%)は女性より男性に、それぞれ多くなっている。(図表 1-5-4)

図表 1-5-4 現在の住宅の建て方(世帯主・代表者の男女別)



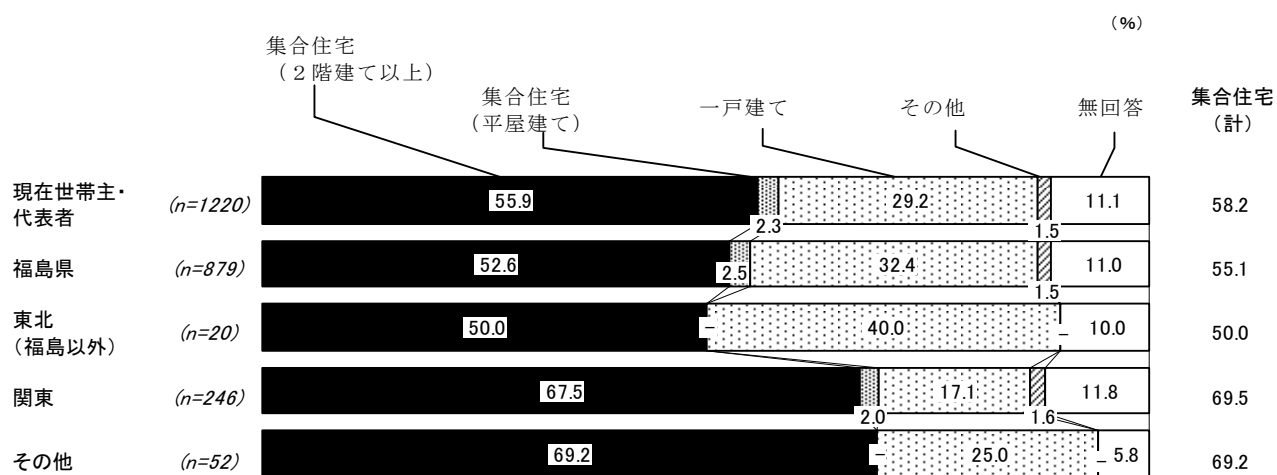
世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、10～20代では「集合住宅(2階建て以上)」居住(83.3%)が多く、8割を超える。(図表 1-5-5)

図表 1-5-5 現在の住宅の建て方(世帯主・代表者の年代別)



現在の避難先別に見ると、福島県内居住世帯では、ほぼ3人に1人が「一戸建て」(32.4%)と回答しているが、関東地方に避難している世帯では17.1%にとどまり、「集合住宅(2階建て以上)」(67.5%)が7割近くを占めている。(図表 1-5-6)

図表 1-5-6 現在の住宅の建て方(現在の避難先別)



2 東日本大震災発生当時および震災前の状況

(1) 震災発生当時の職業

問 3 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態)

(2) 業種

高校生以外の一般住民(3,755 人)の震災発生当時の職業を聞いたところ、「無職(退職者も含む)」が 32.9%で最も多く、次いで「会社員(労務)」(21.5%)、「自営業」(12.6%)などの順となっている。(図表 2-1-1①)

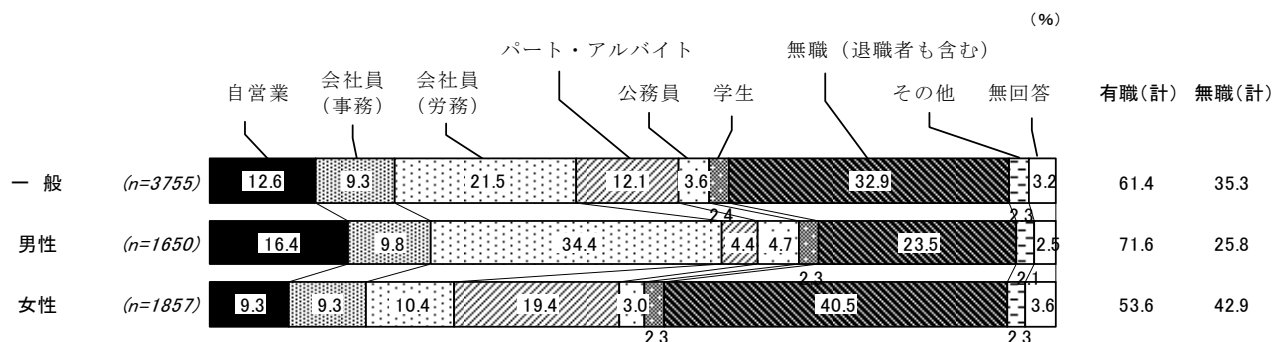
震災発生当时有職者(2,171 人)の業種としては、「卸・小売り・飲食、サービス業」(30.6%)が3割で最も多く、次いで「製造業」(16.5%)と「建設業」(16.3%)がほぼ同率となっている。(図表 2-1-1②)

男女別に見ると、男性では「会社員(労務)」が 34.4%で最も多く、「自営業」(16.4%)や「会社員(事務)」(9.8%)などを合わせると、震災発生当時“有職者”が7割を上回っている。一方、女性では「無職(退職者も含む)」が 40.5%で最も多く、「パート・アルバイト」(19.4%)、「会社員(労務)」(10.4%)などを合わせた“有職者”は 53.6%となっている。(図表 2-1-1①)

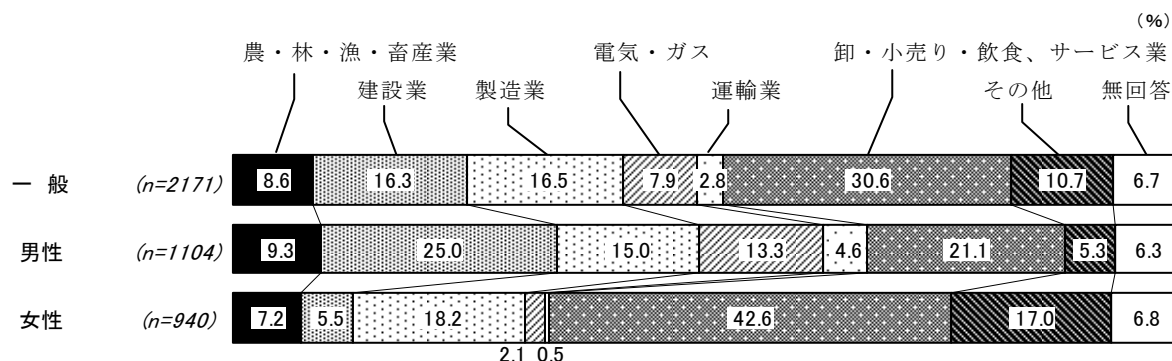
さらに業種を見ると、男性では「建設業」に従事する人が 25.0%で最も多く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」(21.1%)、「製造業」(15.0%)、「電気・ガス」(13.3%)などの順となっている。女性では、「卸・小売り・飲食、サービス業」(42.6%)に従事する人が4割以上で最も多く、次いで「製造業」が 18.2%となっている。(図表 2-1-1②)

図表 2-1-1 震災発生当時の職業(男女別)

①職業



②業種

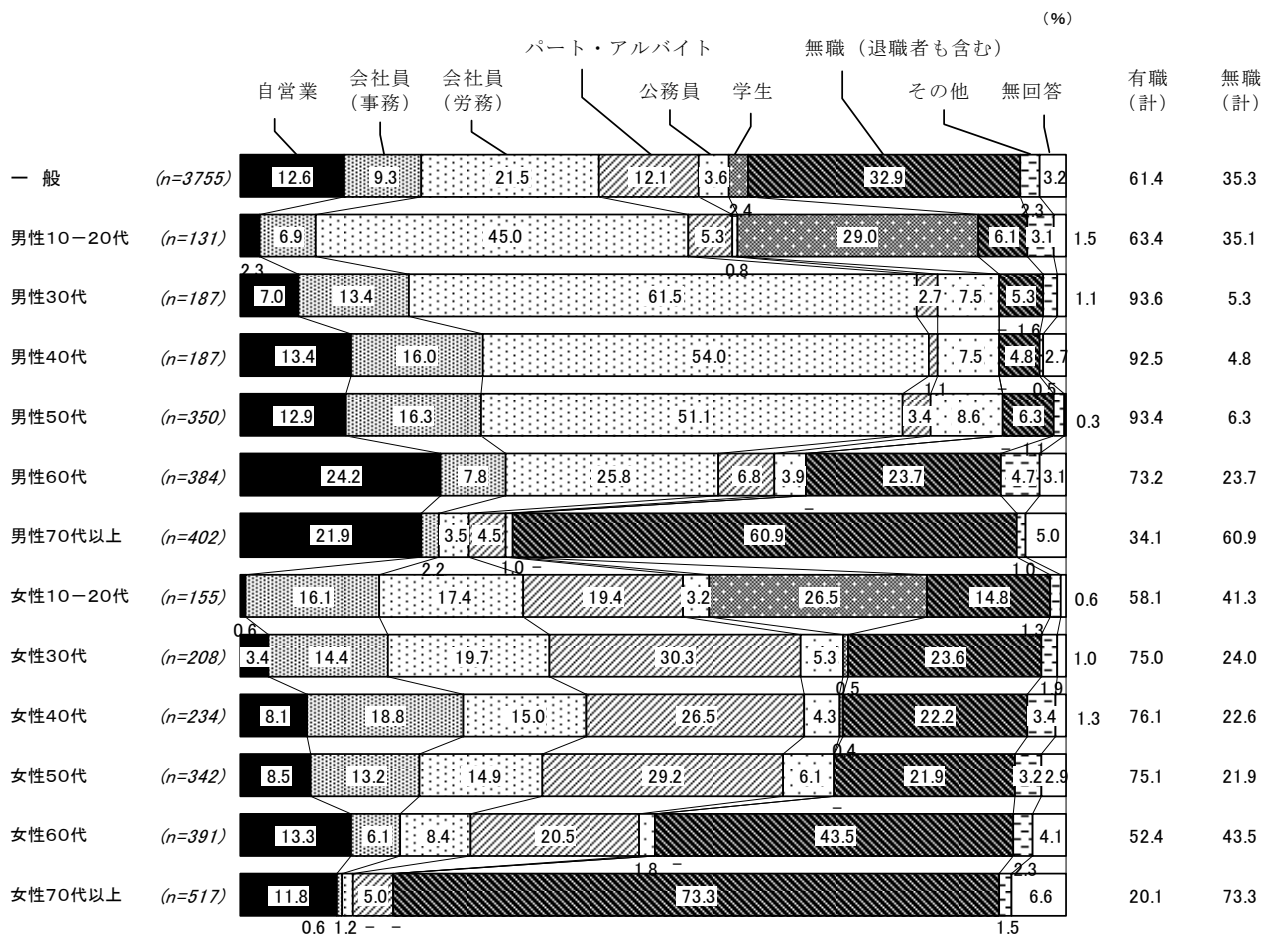


性・年代別に職業を見ると、「自営業」は、男女とも高年齢層ほど多くなる傾向があり、特に男性の60代以上では2割を上回っている。また、男性の30代では「会社員(労務)」が61.5%と、他の性・年代より高くなっている。一方、女性の30～50代では「パート・アルバイト」が3割前後と多くなっている。「無職(退職者も含む)」は、70代以上の男性で60.9%、女性で73.3%である。(図表2-1-2①)

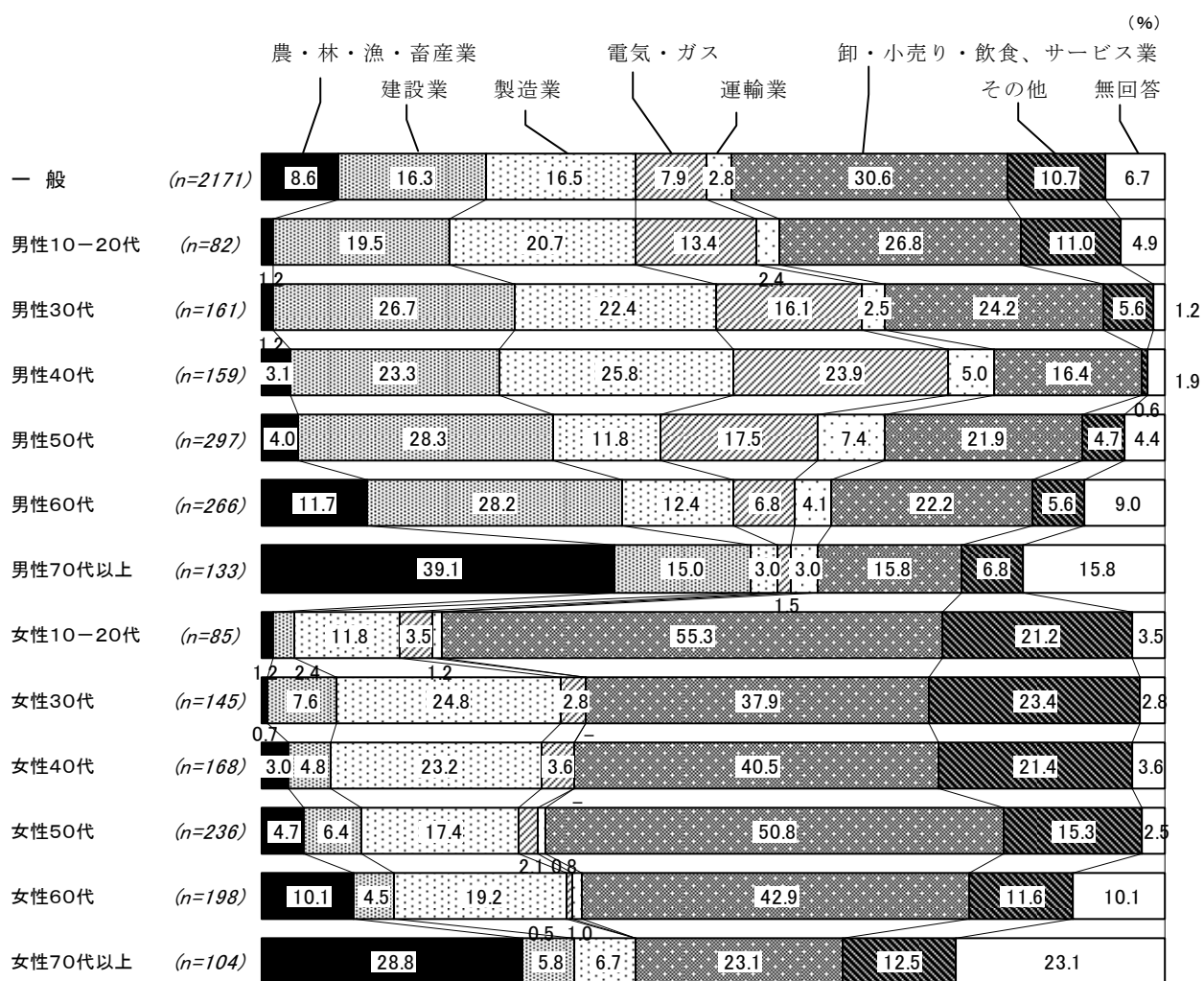
業種としては40代以下の男性では「建設業」「製造業」「卸・小売り・飲食、サービス業」「電気・ガス」などが中心である。一方、60代以下の女性では「卸・小売り・飲食、サービス」従事者が最も多く、特に10～20代と50代では、半数以上を占めている。(図表2-1-2②)

図表 2-1-2 震災発生当時の職業(性・年代別)

①職業



②業種



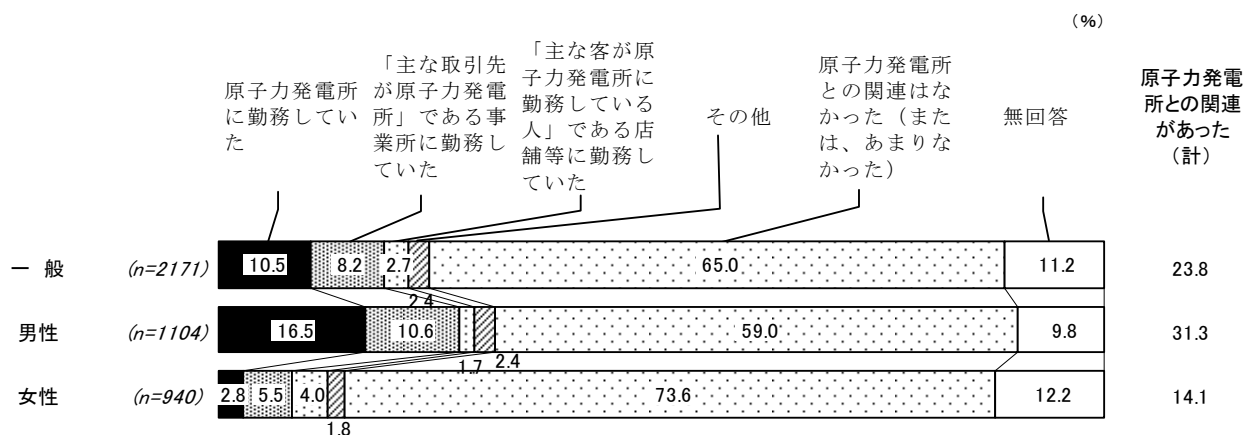
【就業していた方にうかがいます。】

問3(3) 震災発生当時の職業は、原子力発電所に関連していましたか。(○は1つ)

震災発生当時の有職者(2,171 人)の職業の、原子力発電所との関連を見ると、原子力発電所と何らかの関連があったという人は 2 割強で、「原子力発電所に勤務していた」(10.5%)もしくは『「主な取引先が原子力発電所」である事業所に勤務していた」(8.2%)という回答者が、1 割前後である。(図表 2-1-3)

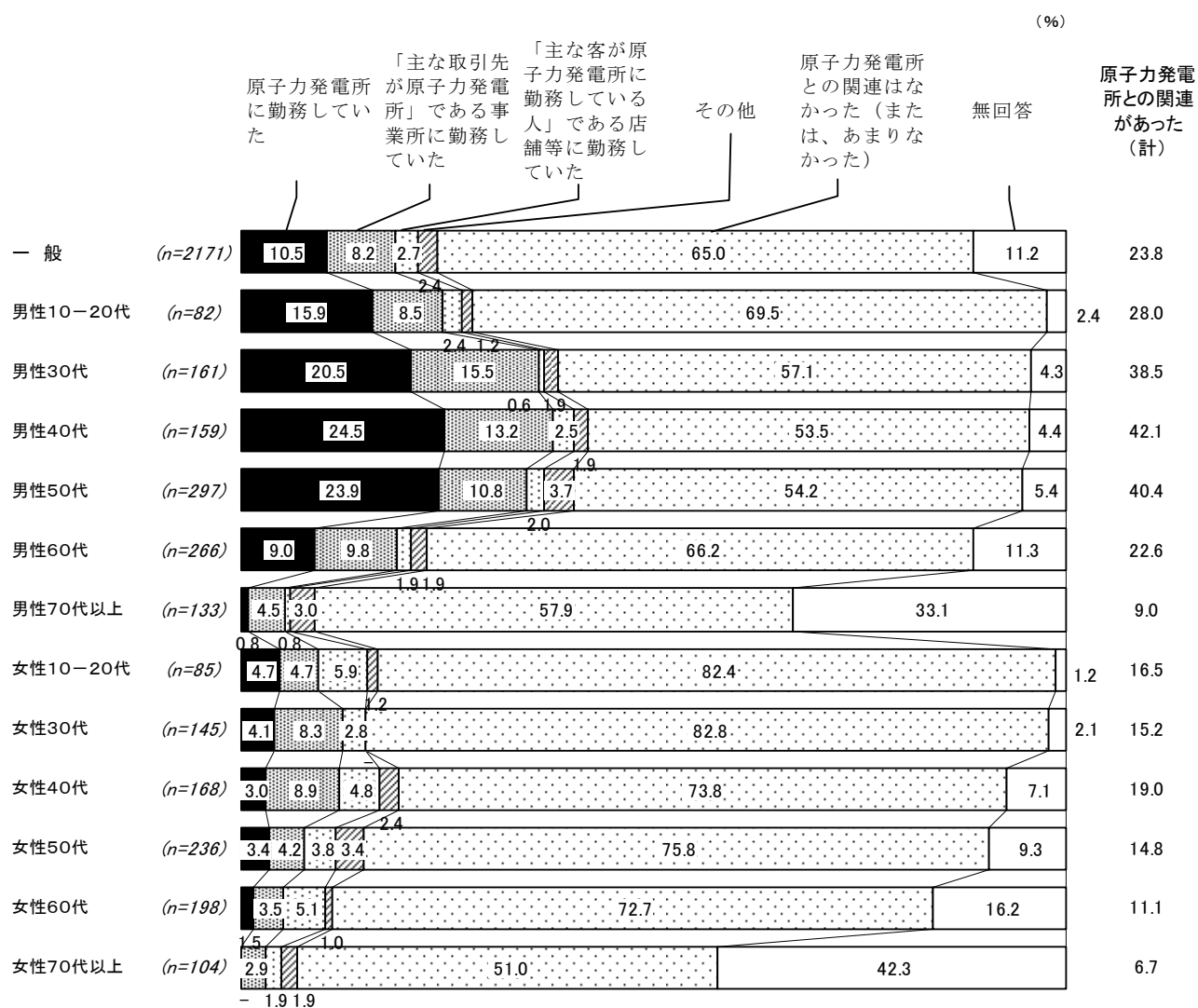
男女別に見ると、「原子力発電所に勤務していた」(男性 16.5%、女性 2.8%)もしくは『「主な取引先が原子力発電所」である事業所に勤務していた」(同 10.6%、5.5%)という回答者は女性より男性に多くなっている。女性の 73.6%は、「原子力発電所との関連はなかった(または、あまりなかった)」と回答している。(図表 2-1-3)

図表 2-1-3 震災発生当時職業の原子力発電所との関連(男女別)



性・年代別に見ると、「原子力発電所に勤務していた」という回答者は、30～50代以下の男性で2割台となっている。
(図表 2-1-4)

図表 2-1-4 震災発生当時職業の原子力発電所との関連(性・年代別)



(2) 震災発生当時まで通勤・通学していた地域と移動手段

【就業していた方、学生の方にうかがいます。】

問4 あなたが震災発生当時まで通勤・通学していた地域と、利用していた移動手段を教えてください。移動手段については、利用していた手段をすべて教えてください。

(1)通勤・通学先(○は1つ)

(2)通勤・通学していた方は、その移動手段(○はいくつでも)

問2(高校生) あなたが震災発生当時まで通学していた地域と、利用していた移動手段を教えてください。移動手段については、利用していた手段をすべて教えてください。

(1)通学先(○は1つ)

(2)その移動手段(○はいくつでも)

一般住民の有職者と学生および高校生(2,529人)に、震災発生当時まで通勤・通学していた地域を聞いたところ、「檜葉町内」という回答者が41.0%で最も多く、次いで「富岡町」(11.9%)、「大熊町、双葉町、浪江町」(11.5%)、「いわき市」(10.5%)が1割程度となっている。「通勤・通学はしていなかった(自宅兼店舗等で勤務していた、通信教育を受講していた等)」という回答者は、2.8%である。(図表2-2-1①)

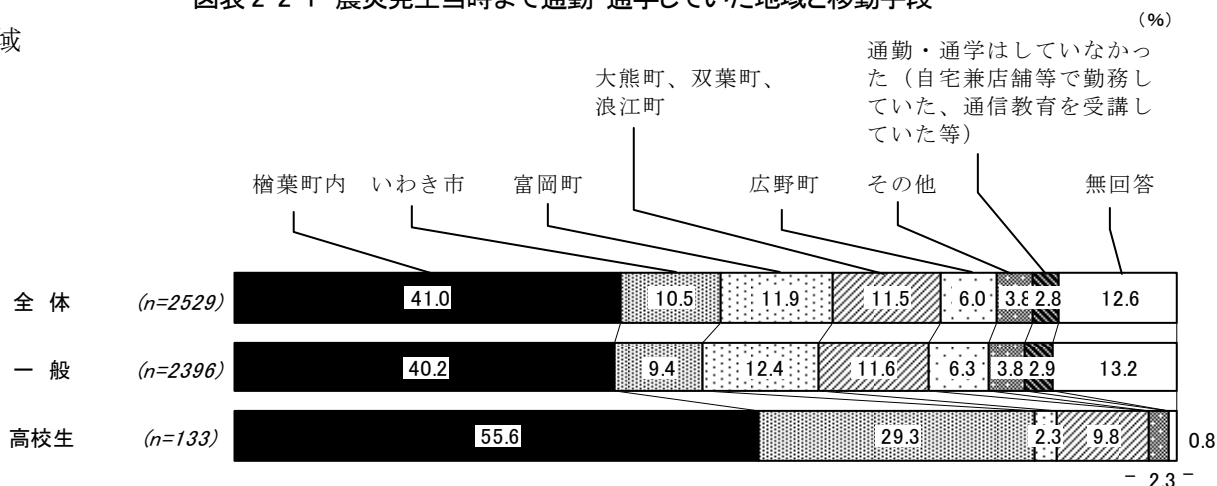
移動手段としては、「自家用車・バイク」が77.9%と多数を占める。(図表2-2-1②)

高校生(133人)にしぼって見ると、通学先は「檜葉町内」という回答者が55.6%で最も多く、次いで「いわき市」が29.3%となっている。(図表2-2-1①)

通学手段は、「鉄道」(38.3%)、「自家用車・バイク」(36.8%)、「自転車」(36.1%)などに回答が分散している。(図表2-2-1②)

図表2-2-1 震災発生当時まで通勤・通学していた地域と移動手段

① 地域



② 移動手段

(%)

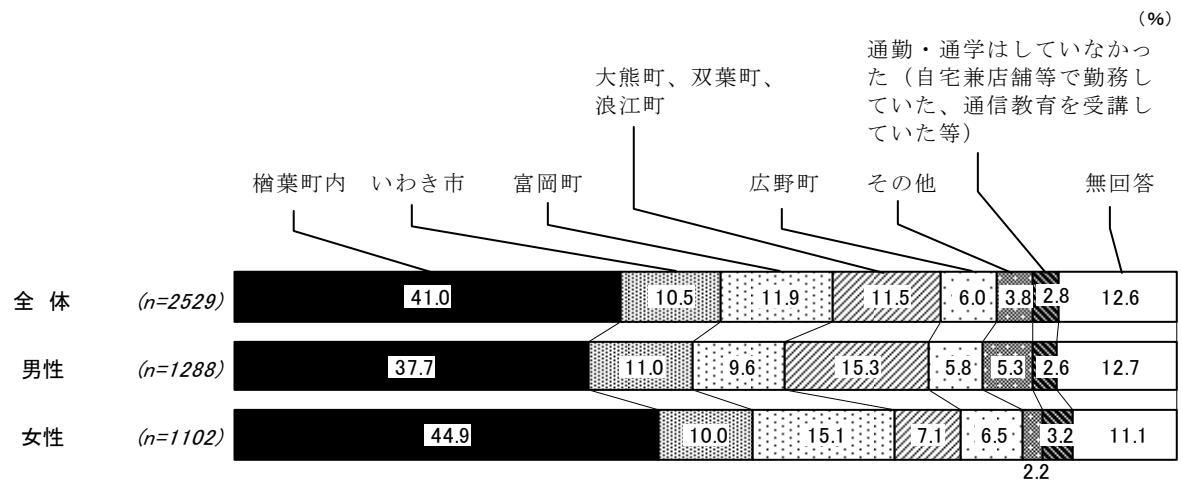
		自家用車・バイク	鉄道	徒歩のみ	自転車	バス	その他	無回答
全体	(n=2142)	77.9	8.3	6.1	5.1	4.6	2.4	4.0
一般	(n=2009)	80.6	6.3	4.9	3.1	4.5	2.5	4.2
高校生	(n=133)	36.8	38.3	24.1	36.1	6.8	0.8	-

男女別に通勤・通学していた地域を見ると、「檜葉町内」(男性 37.7%、女性 44.9%)と「富岡町」(同 9.6%、15.1%)に通勤・通学していた回答者は、男性より女性に多くなっている。一方、「大熊町、双葉町、浪江町」(同 15.3%、7.1%)への通勤・通学者は、女性より男性に多い。(図表 2-2-2①)

通勤手段を男女別に見ると、男女とも「自家用車・バイク」(男性 77.0%、女性 79.6%)が最も多くあげられ、大きな差はみられない(図表 2-2-2②)

図表 2-2-2 震災発生当時まで通勤・通学していた地域と移動手段(男女別)

①地域



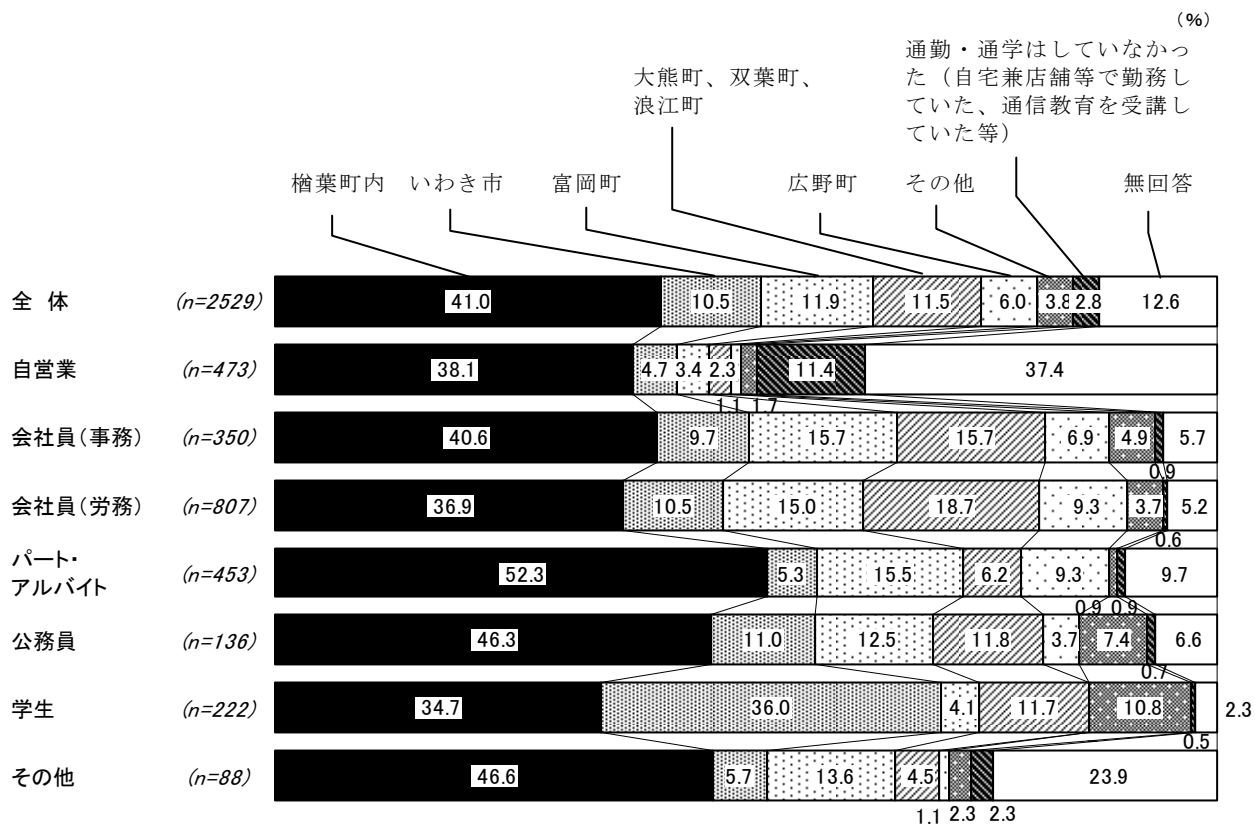
②移動手段

(%)

		自家用車・バイク	鉄道	徒歩のみ	自転車	バス	その他	無回答
全 体	(n=2142)	77.9	8.3	6.1	5.1	4.6	2.4	4.0
男性	(n=1091)	77.0	7.9	4.5	5.9	5.8	3.1	4.1
女性	(n=945)	79.6	8.4	8.1	4.3	3.3	1.2	3.6

震災発生当時の職業別に見ると、学生以外はいずれの職業でも「檜葉町内」での通勤・通学者が最も多くなっているが、特にパート・アルバイト(52.3%)と公務員(46.3%)では 5 割前後を占めている。学生は、「いわき市」(36.0%)と「檜葉町内」(34.7%)が拮抗している。(図表 2-2-3)

図表 2-2-3 震災発生当時まで通勤・通学していた地域(震災発生当時の職業別)



震災発生当時の通勤・通学の移動手段を、通勤・通学していた地域別に見た。

いずれの地域への通勤・通学にも、「自家用車・バイク」利用者が 7 割以上と、多数を占めている。また、いわき市への通勤・通学の場合は、「鉄道」利用者が 33.2%と、他の地域よりは多くなっている。(図表 2-2-4)

図表 2-2-4 震災発生当時の通勤・通学への移動手段(通勤・通学していた地域別)

(%)

		自家用車・バイク	鉄道	徒歩のみ	自転車	バス	その他	無回答
全体	(n=2142)	77.9	8.3	6.1	5.1	4.6	2.4	4.0
檜葉町内	(n=1038)	74.6	1.0	11.0	7.0	3.3	2.4	7.3
いわき市	(n=265)	72.5	33.2	1.9	4.5	8.3	0.8	0.8
富岡町	(n=300)	95.3	2.0	0.7	0.7	2.7	1.7	0.3
大熊町・双葉町・浪江町	(n=291)	81.1	11.7	1.4	3.1	8.6	3.1	-
広野町	(n=152)	91.4	2.0	2.0	3.9	2.0	2.0	0.7
その他	(n=95)	43.2	36.8	3.2	7.4	7.4	8.4	5.3

(3) 震災発生当時まで日常の買物をしていた場所と移動手段

問5 あなたが、震災発生当時まで、日常の生鮮食料品や日用品の買物をしていた場所(市町村)と、店舗までの移動手段を教えてください。

(1)もっともよく買物に行っていた市町村を1つ教えてください。(○は1つ)

(2)もっともよく行っていた買物場所(市町村)へ行く際に利用していた移動手段を、すべて教えてください。(○はいくつでも)

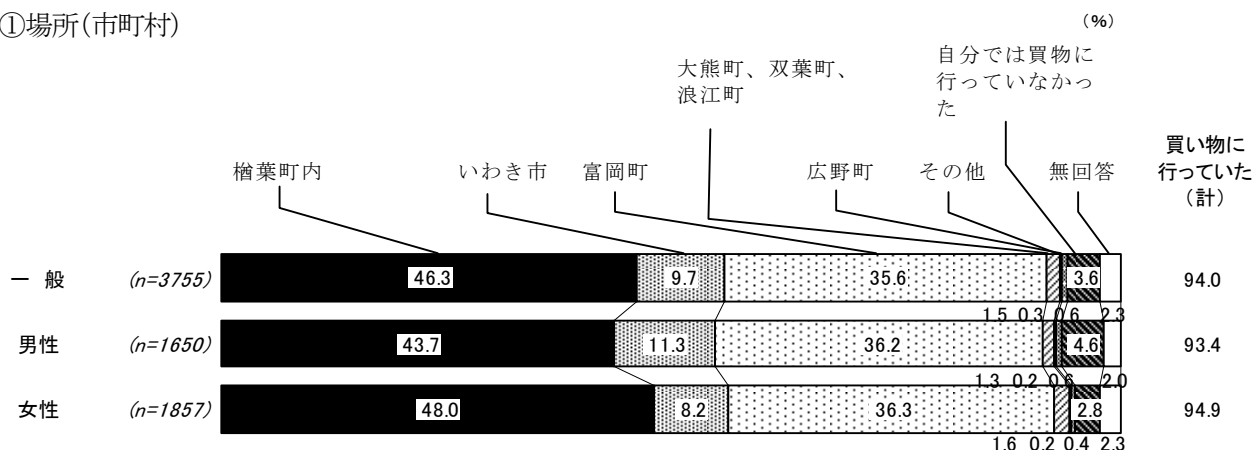
高校生以外の一般住民(3,755 人)に、震災発生当時までよく日常の生鮮食料品や日用品の買物をしていた場所(市町村)を聞いたところ、「檜葉町内」という回答者が 46.3%で最も多く、次いで「富岡町」が 35.6%で、この 2 町に集中している。(図表 2-3-1①)

買物場所への移動手段としては、「自家用車・バイク」が 87.2%と、多数を占めている。(図表 2-3-1②)

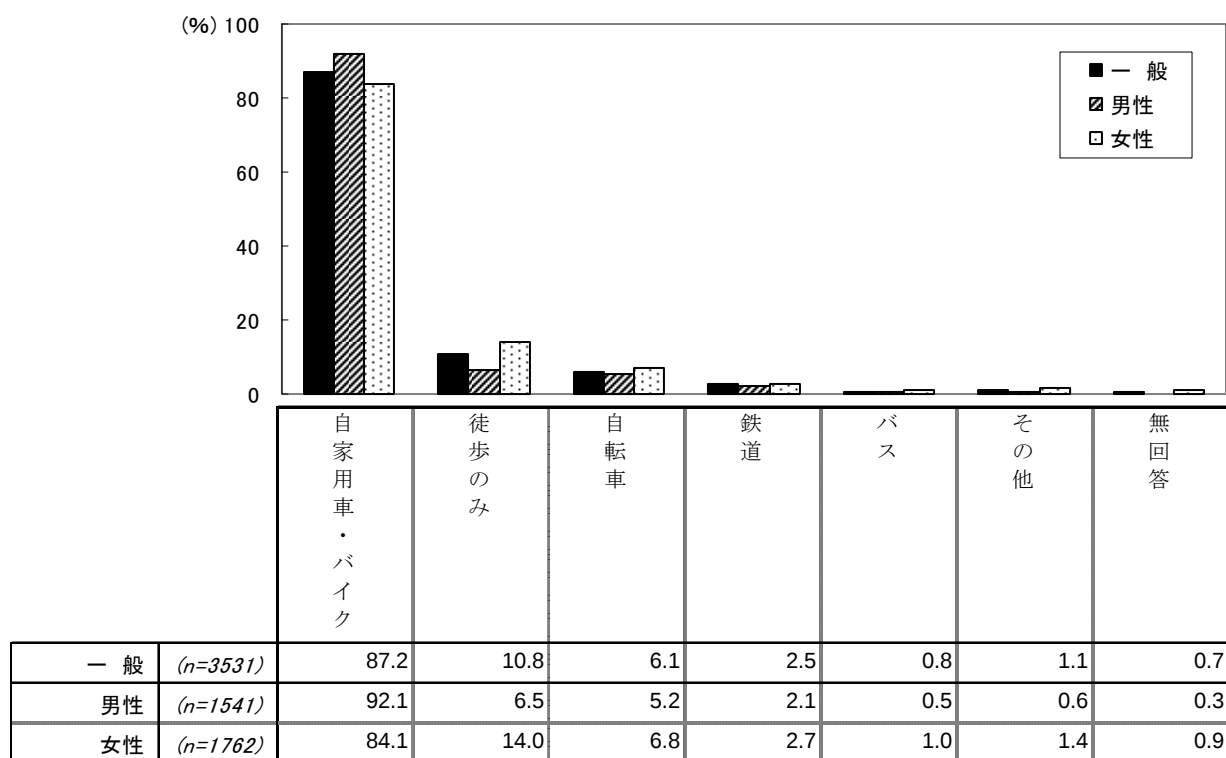
日常の買物場所に大きな男女差はみられないが、移動手段の「自家用車・バイク」利用者(男性 92.1%、女性 84.1%)は、女性より男性に多くなっている。(図表 2-3-1①②)

図表 2-3-1 震災発生当時まで日常の買物をしていた場所と移動手段(男女別)

①場所(市町村)



②移動手段



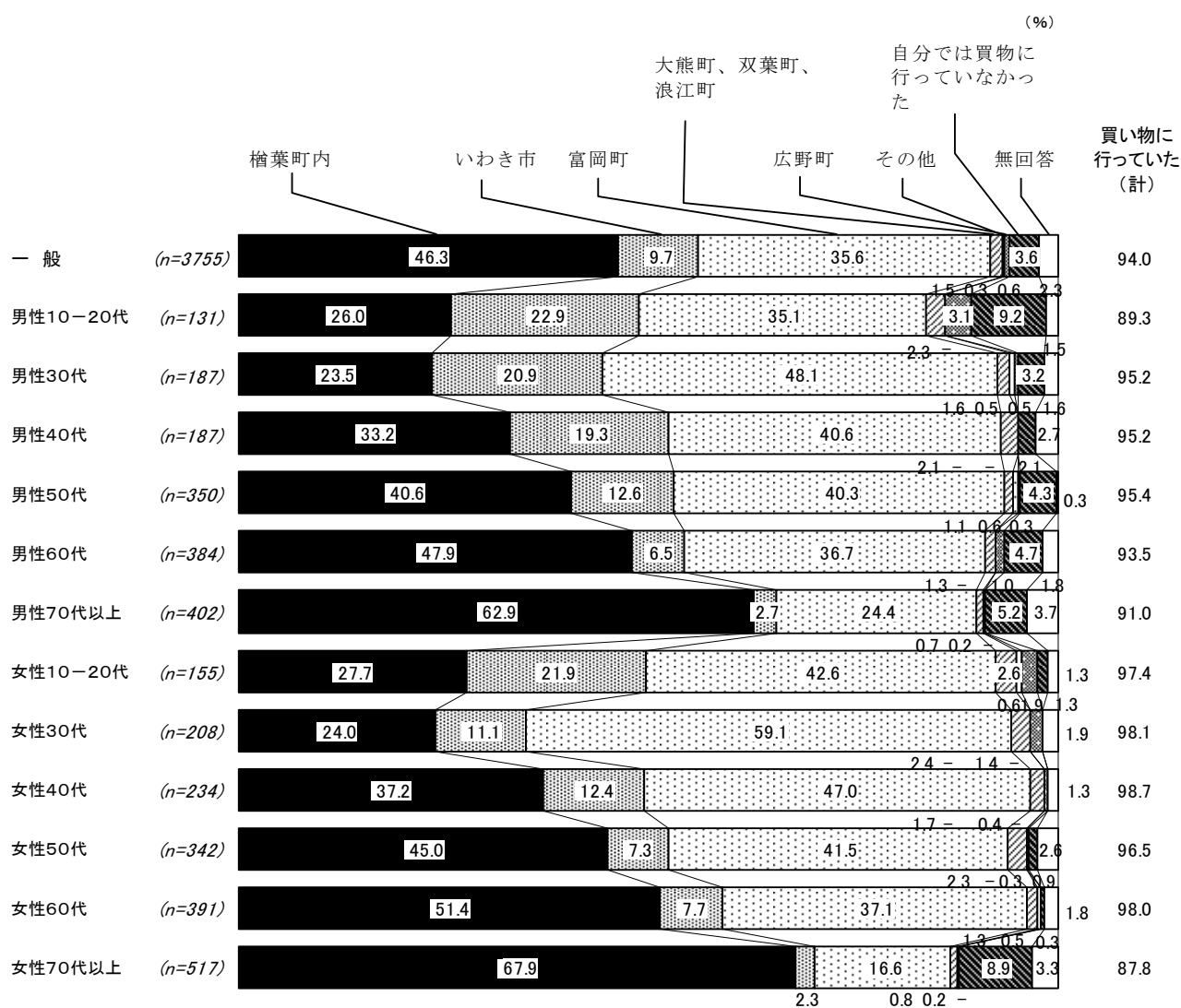
震災発生当時まで日常の買物をしていた場所を性・年代別に見ると、男女とも高年齢層ほど「檜葉町内」という回答者が多く、特に70代以上(男性62.9%、女性67.9%)では6割を上回っている。一方、男性の30代と女性の40代以下では、「富岡町」で買物をする回答者の方が「檜葉町内」よりも多く、特に女性の30代(59.1%)では6割近い。

「いわき市」という回答者も、若年齢層に多くなっている。(図表2-3-2①)

移動手段としては、女性の70代以上で「徒歩のみ」という回答者が30.0%と、他の性・年代層より多くなっている。(図表2-3-2②)

図表2-3-2 震災発生当時まで日常の買物をしていた場所と移動手段(性・年代別)

①場所(市町村)



②移動手段

(%)

		自家用車・ バイク	徒歩のみ	自転車	鉄道	バス	その他	無回答
一 般	(n=3531)	87.2	10.8	6.1	2.5	0.8	1.1	0.7
男性10-20代	(n=117)	82.9	7.7	10.3	10.3	0.9	-	-
男性30代	(n=178)	96.1	3.4	1.1	1.1	-	-	-
男性40代	(n=178)	97.2	4.5	3.4	0.6	0.6	-	-
男性50代	(n=334)	95.5	4.8	3.3	1.5	0.3	0.6	0.3
男性60代	(n=359)	93.3	3.9	4.2	1.4	0.3	1.4	0.3
男性70代以上	(n=366)	86.3	12.8	9.3	1.9	0.8	0.8	0.5
女性10-20代	(n=151)	86.8	9.9	7.9	10.6	-	-	-
女性30代	(n=204)	97.1	4.4	1.5	1.5	0.5	-	0.5
女性40代	(n=231)	95.7	4.8	4.3	0.9	-	-	-
女性50代	(n=330)	92.7	8.2	4.2	1.2	-	-	0.3
女性60代	(n=383)	88.0	12.0	6.8	2.1	0.8	0.5	0.8
女性70代以上	(n=454)	61.7	30.0	11.9	3.3	3.1	4.8	2.4

移動手段を、買い物の場所別に見ると、檜葉町内で買い物をする回答者は、「自家用車・バイク」(79.2%)に次いで「徒歩のみ」が 20.5%と、町外に買物に行く回答者より多くなっている。(図表 2-3-3)

図表 2-3-3 震災発生当時まで日常の買物をしていた場所への移動手段(買物をしていた場所別)

(%)

		自家用車・ バイク	徒歩のみ	自転車	鉄道	バス	その他	無回答
一 般	(n=3531)	87.2	10.8	6.1	2.5	0.8	1.1	0.7
檜葉町内	(n=1738)	79.2	20.5	10.4	1.3	1.2	1.6	0.9
いわき市	(n=366)	90.2	2.5	3.0	10.9	0.5	0.3	0.3
富岡町	(n=1338)	97.2	0.6	1.3	1.8	0.4	0.6	0.4
大熊町、双葉町、 浪江町	(n=57)	94.7	1.8	1.8	—	—	1.8	—
広野町	(n=11)	72.7	9.1	18.2	9.1	—	—	—
その他	(n=21)	42.9	23.8	28.6	14.3	4.8	9.5	4.8

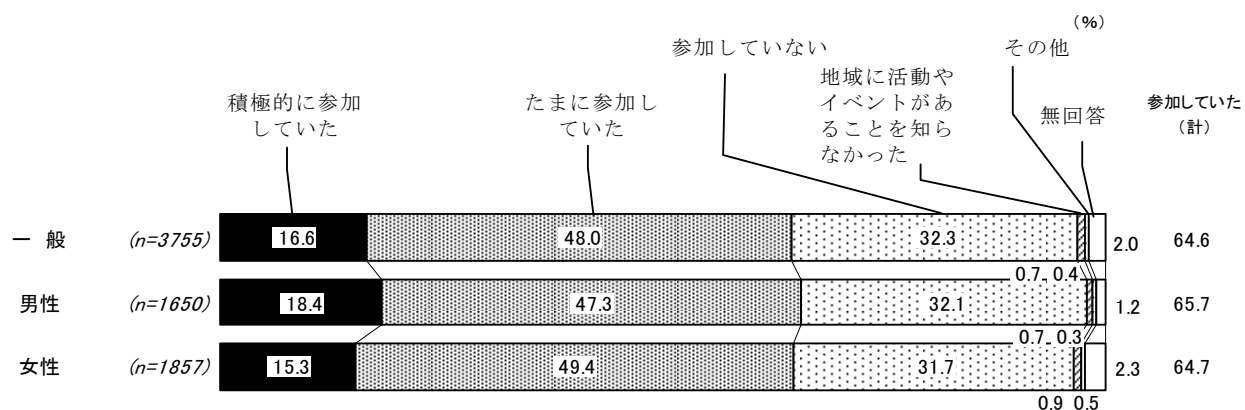
(4) 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況

問6 あなたは、震災前の檜葉町では、コミュニティ活動や町内イベントに参加していましたか。(○は1つ)

高校生以外の一般住民(3,755 人)のうち、震災発生前の大熊町でのコミュニティ活動や町内イベントに「積極的に参加していた」という回答者は 16.6%で、「たまに参加していた」(48.0%)を合わせると、6 割以上は『参加していた』と答えている。(図表 2-4-1)

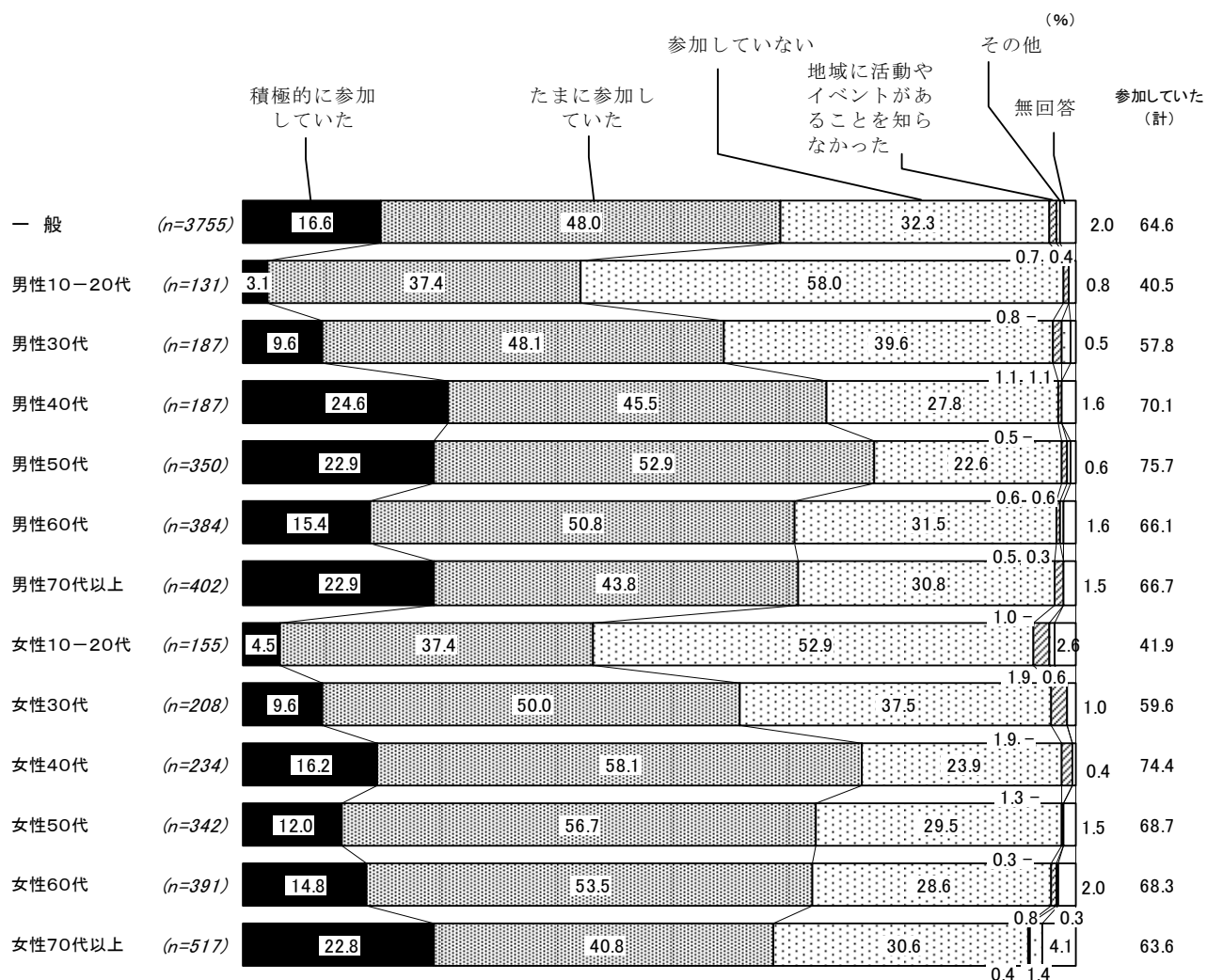
男女別に見ても、参加状況に差はみられない。(図表 2-4-1)

図表 2-4-1 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況(男女別)



性・年代別に見ると、男性の40～50代と70代以上で「積極的に参加していた」という回答者が2割を上回り、参加率も7割前後と高くなっている。一方、女性の70代以上でも「積極的に参加していた」(22.8%)という回答者が2割を上回っているが、「たまに参加していた」を合わせた参加率は、女性の40代(74.4%)の方が高い。(図表2-4-2)

図表 2-4-2 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況(性・年代別)



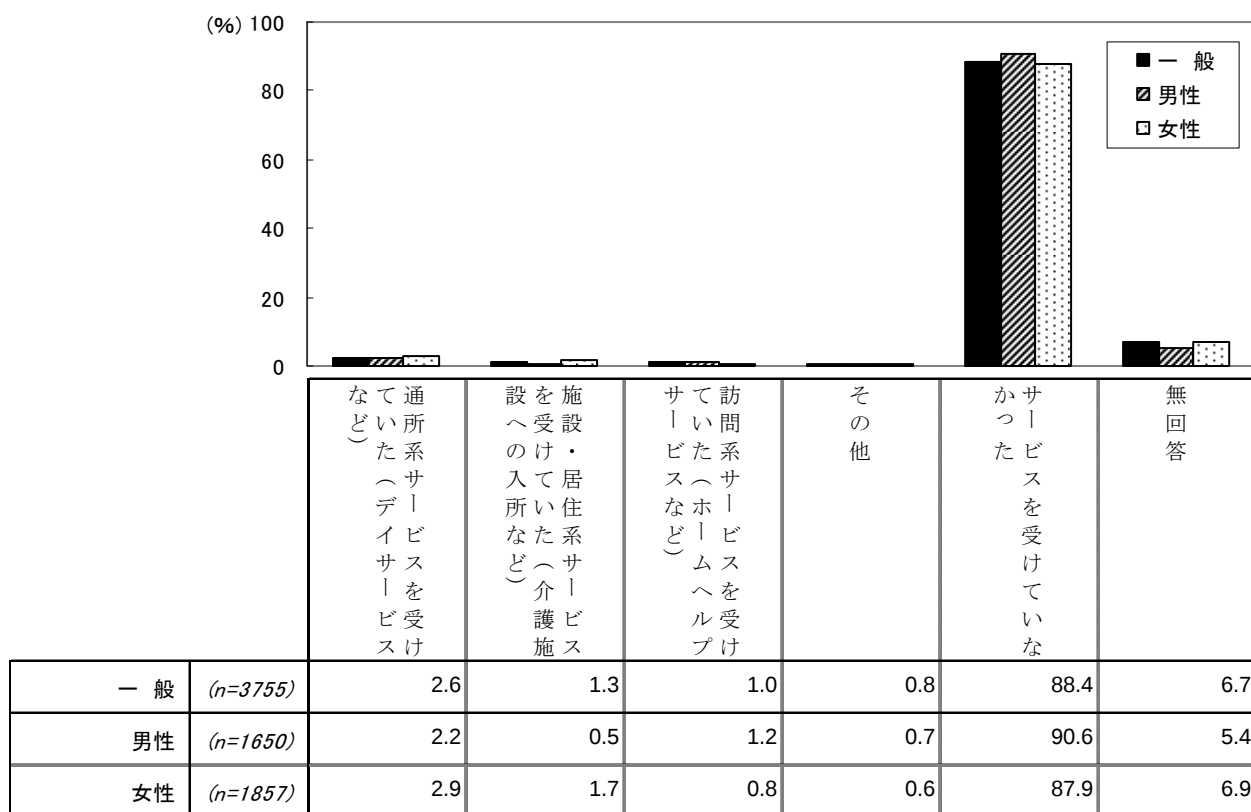
(5) 震災発生当時の介護や福祉サービスを受けていた経験の有無

問7 震災発生時に、あなたは介護や福祉サービスを受けていましたか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

高校生以外の一般住民(3,755 人)に、震災発生時に介護や福祉サービスを受けていたかどうかを聞いたところ、「サービスを受けていなかった」という回答者が 88.4%で、いずれかのサービスを受けていた回答者は 4.9%である。(図表 2-5-1)

男女別に見ても、差はみられない。(図表 2-5-1)

図表 2-5-1 震災発生当時の世帯における介護や福祉サービスを受けていた方の有無(男女別)



性・年代別に見ると、男女とも70代以上になると、「通所系サービスを受けていた（デイサービスなど）」（男性6.2%、女性 8.1%）という回答者がやや多くなり、女性では何らかのサービスを受けていた回答者が 1 割を上回る。（図表 2-5-2）

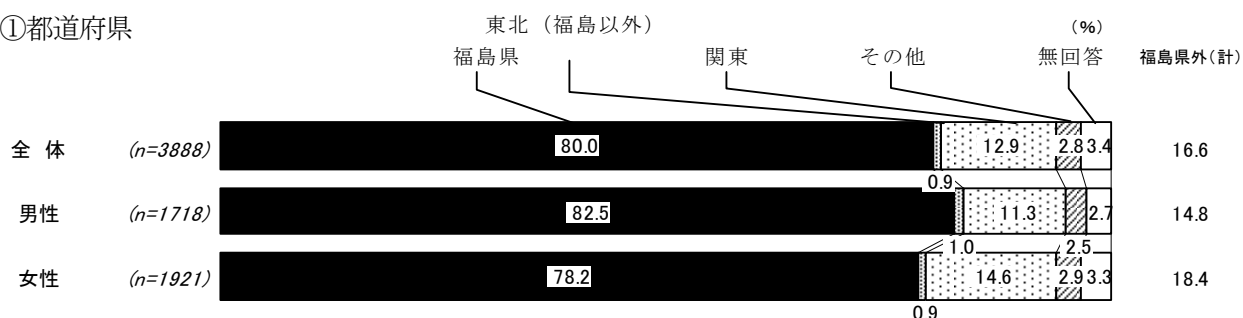
図表 2-5-2 震災発生当時の世帯における介護や福祉サービスを受けていた経験の有無（性・年代別）

		(%)					
		通所系サービスを受けていた（デイサービスなど）	施設・居住系サービスを受けていた（介護施設への入所など）	訪問系サービスを受けていた（ホームヘルプサービスなど）	その他	サービスを受けていなかった	無回答
一 般	(n=3755)	2.6	1.3	1.0	0.8	88.4	6.7
男性10－20代	(n=131)	1.5	－	－	1.5	94.7	2.3
男性30代	(n=187)	0.5	－	0.5	－	98.4	1.1
男性40代	(n=187)	0.5	0.5	－	－	94.1	4.8
男性50代	(n=350)	0.3	0.9	0.9	0.3	94.9	3.1
男性60代	(n=384)	1.8	－	1.0	1.0	89.8	6.5
男性70代以上	(n=402)	6.2	1.0	2.7	1.2	81.3	9.2
女性10－20代	(n=155)	0.6	－	－	－	95.5	3.9
女性30代	(n=208)	1.0	0.5	－	0.5	94.7	3.8
女性40代	(n=234)	0.9	－	－	－	95.7	3.4
女性50代	(n=342)	0.9	0.3	0.3	－	93.0	6.1
女性60代	(n=391)	1.0	0.5	0.3	0.8	91.6	6.4
女性70代以上	(n=517)	8.1	5.4	2.5	1.4	73.3	11.6

(1) 現在避難している先の自治体

現在の避難先を都道府県別に見ると、「福島県」内(80.0%)が8割を占める。(図表 3-1-1①)
福島県内に避難している回答者(3,111 人)の避難先は、「いわき市」が83.2%となっている。(図表 3-1-1②)
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-1-1①②)

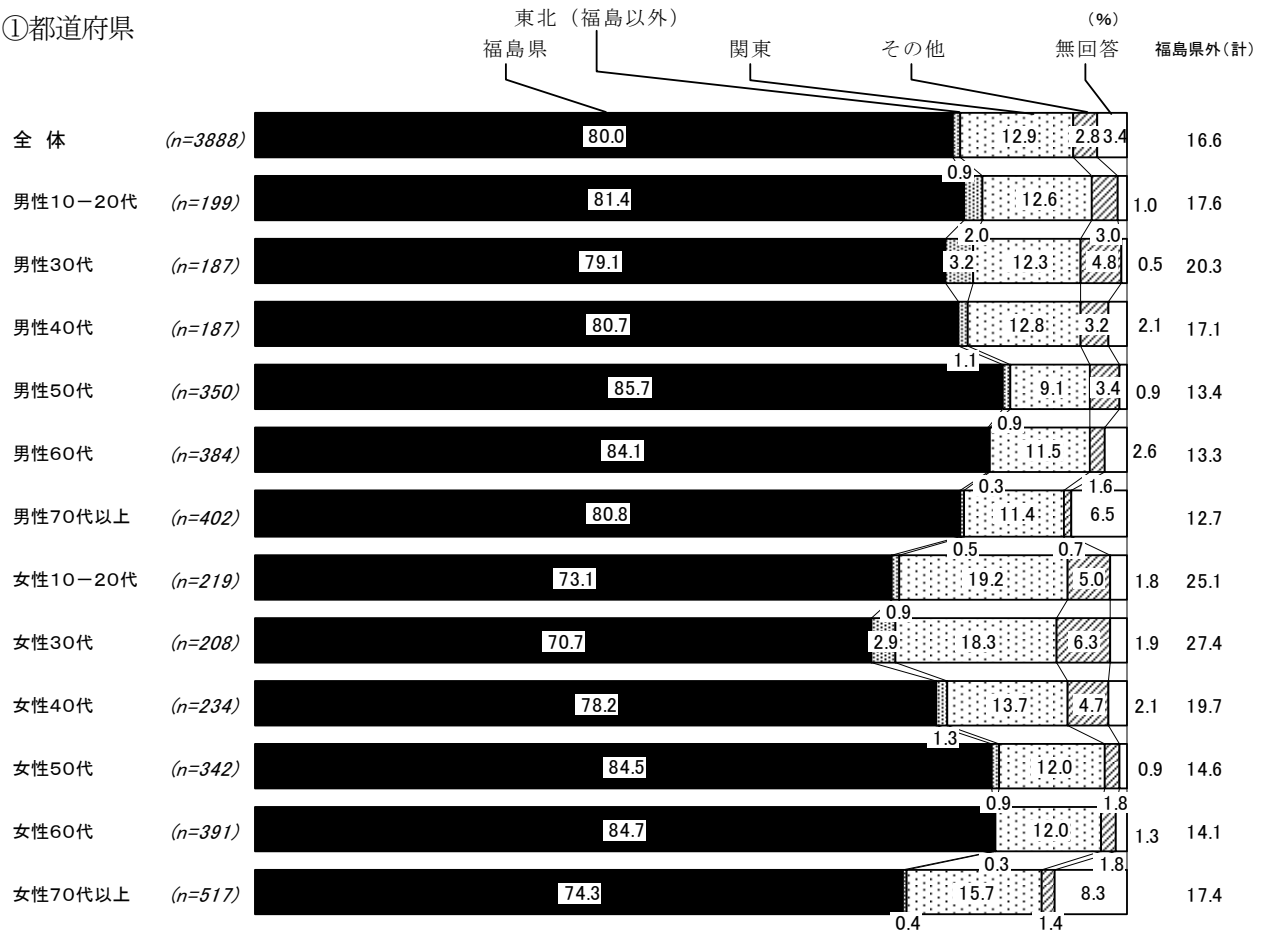
①都道府県

[illegible]

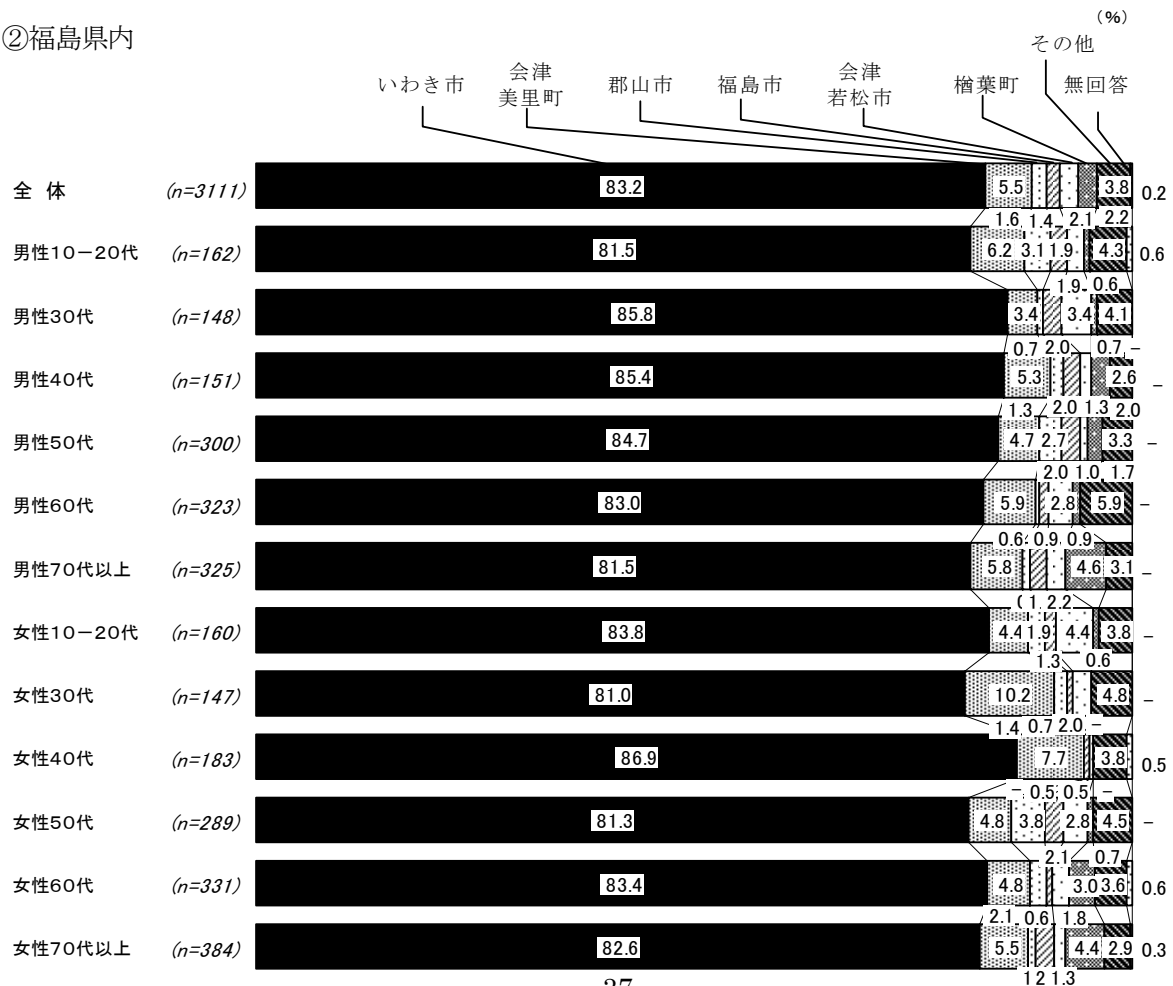
福島県内での避難先としては、いずれの性・年代層でも「いわき市」が最も多いが、女性の 30～40 代で「会津美里町」が 1 割前後とやや多くなっている。(図表 3-1-2②)

図表 3-1-2 現在避難している先の自治体(性・年代別)

①都道府県



②福島県内



(2) 現在の職業

1)現在の職業

問9 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。(○は1つ)

(1)職業(就業形態)

(2)業種

高校生以外の一般住民(3,755 人)に現在の職業を聞いたところ、「無職(退職者も含む)」が 52.9%で最も多く、「学生」(1.4%)を合わせると過半数は職に就いていない。有職者は、「会社員(労務)」(15.8%)、「パート・アルバイト」(7.1%)、「会社員(事務)」(7.0%)などの順となっている。(図表 3-2-1①)

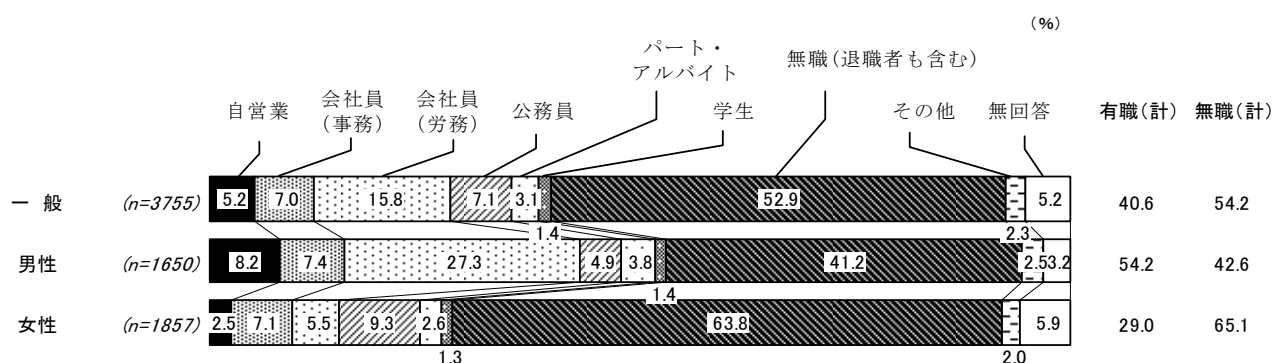
有職者(1,406 人)の業種としては、「卸・小売り・飲食、サービス業」(27.2%)、「建設業」(21.6%)、「製造業」(14.9%)などの順となっている。(図表 3-2-1②)

男女別に職業を見ると、「会社員(労務)」(男性 27.3%、女性 5.5%)は女性より男性に多く、男女差が大きくなっている。これに対して、「無職(退職者も含む)」は、女性で 63.8%と、男性を 20ポイント以上上回っている。(図表 3-2-1①)

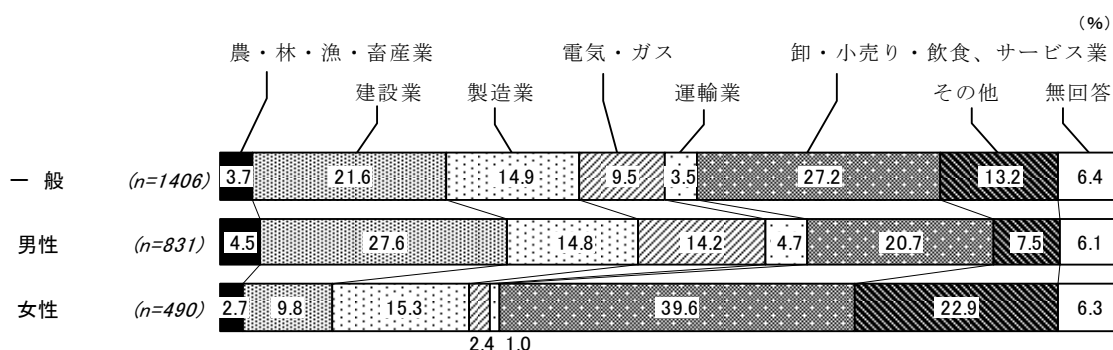
さらに業種を見ると、「建設業」従事者(男性 27.6%、女性 9.8%)は女性より男性に、「卸・小売り・飲食、サービス業」(同 20.7%、39.6%)は男性より女性に、それぞれ多くなっている。(図表 3-2-1②)

図表 3-2-1 現在の職業(男女別)

① 職業



②業種



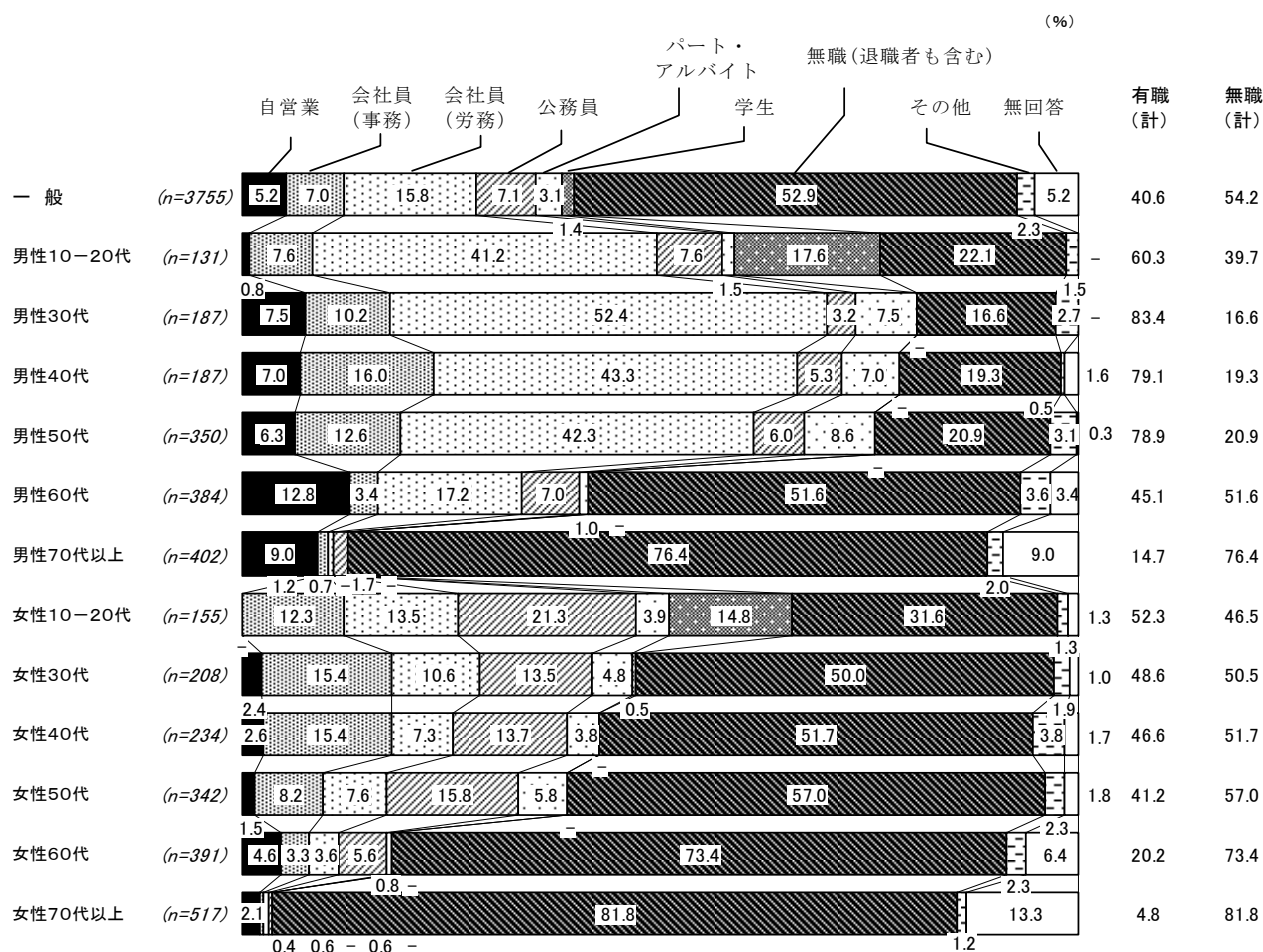
性・年代別に職業を見ると、男性の10～50代では4割以上が「会社員(労務)」で、特に30代(52.4%)では過半数を占めている。一方、女性の10～40代は5割前後が有職で、10～20代では「パート・アルバイト」(21.3%)で働いている回答者が、他の性・年代層よりやや多い。

「無職(退職者も含む)」は、男性の70代以上、女性の60代以上の年齢層で7割を超える。(図表3-2-2①)

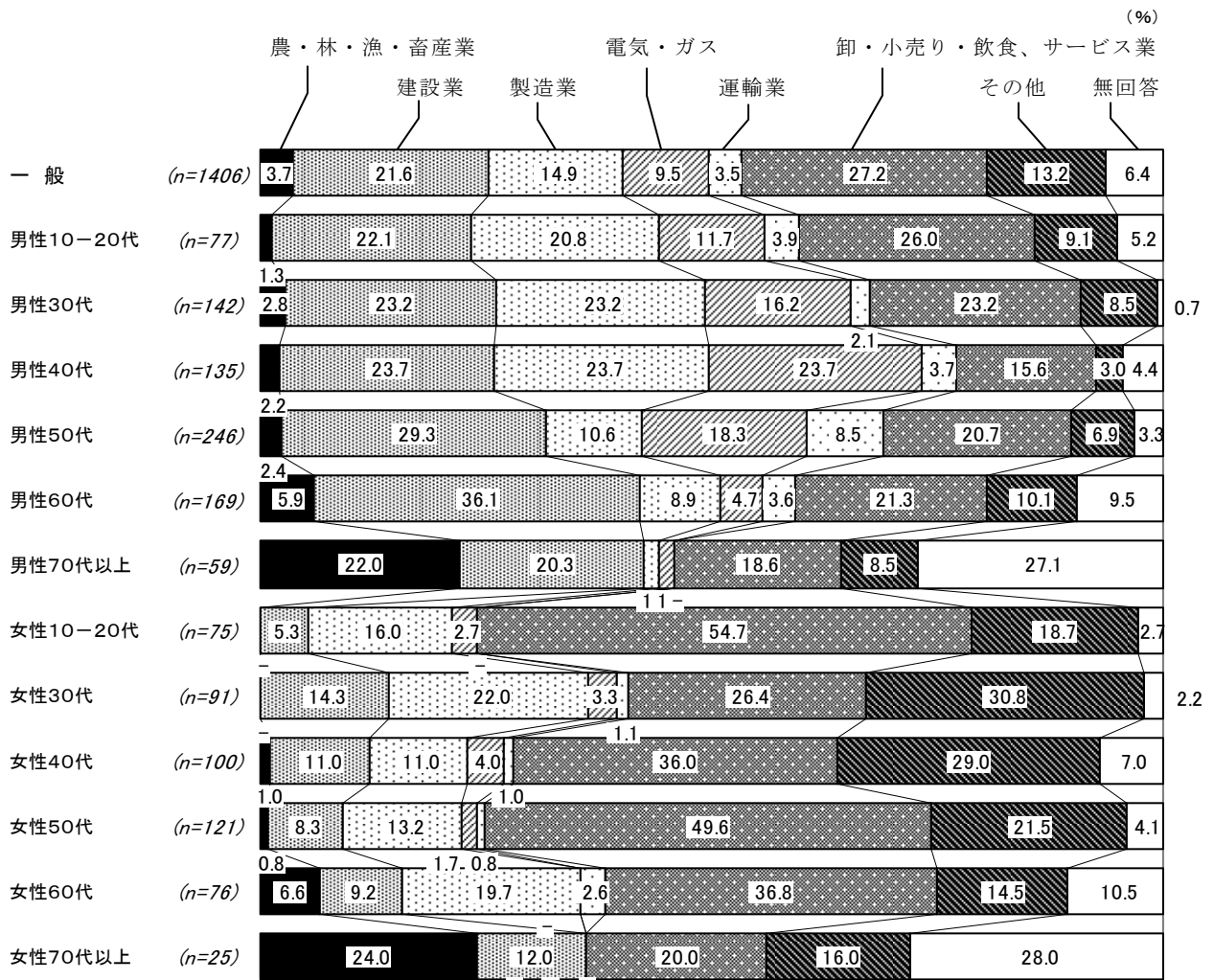
性・年代別に業種を見ると、男性の60代で「建設業」従事者が36.1%と、他の性・年代層より多くなっている。また、男性の40代以下では「製造業」と「建設業」がともに2割程度である。一方、女性の10～20代と50代で「卸・小売り・飲食、サービス業」が5割前後と多くなっている。また、男女とも70代以上では「農・林・漁・畜産業」が2割を上回っている。(図表3-2-2②)

図表3-2-2 現在の職業(性・年代別)

①職業



②業種

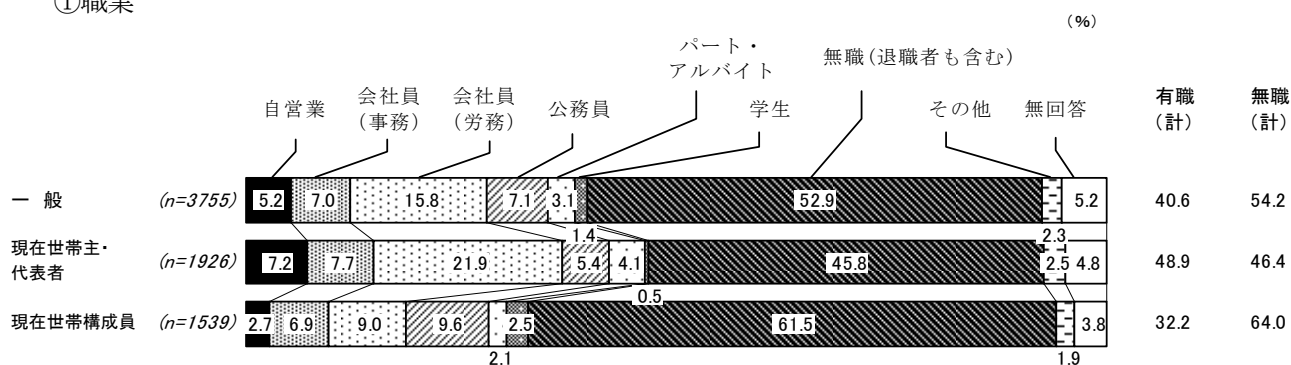


現在の世帯での立場別に見ると、現在世帯主もしくは世帯の代表者は半数近くが有職で、「会社員(労務)」が最も多くなっている。一方、世帯主以外の世帯構成員で仕事に就いているのは 32.2%で、「パート・アルバイト」(9.6%)、「会社員(労務)」(9.0%)、「会社員(事務)」(6.9%)など、いずれも1割に満たない。(図表 3-2-3①)

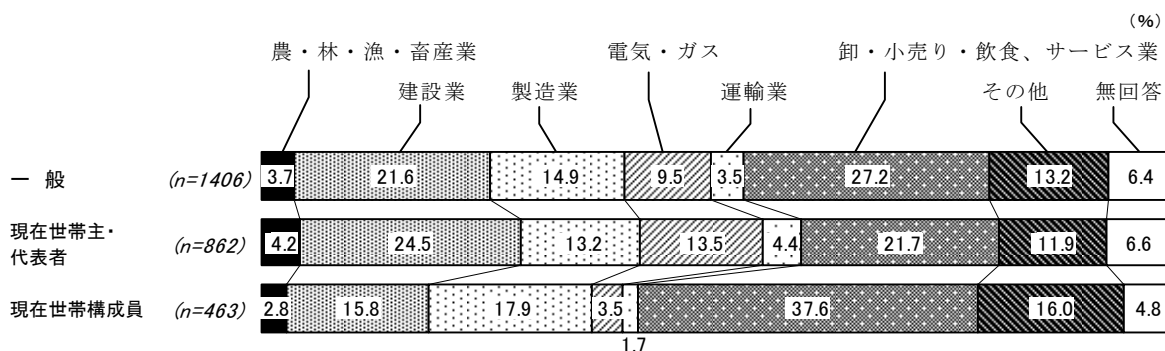
業種を見ると、世帯構成員の場合、「卸・小売り・飲食、サービス業」(37.6%)が 4 割近くを占めている。(図表 3-2-3②)

図表 3-2-3 現在の職業(現在の世帯での立場別)

①職業



②業種



2) 震災発生当時の職業との違いと変わった理由

【就業している方にうかがいます。】

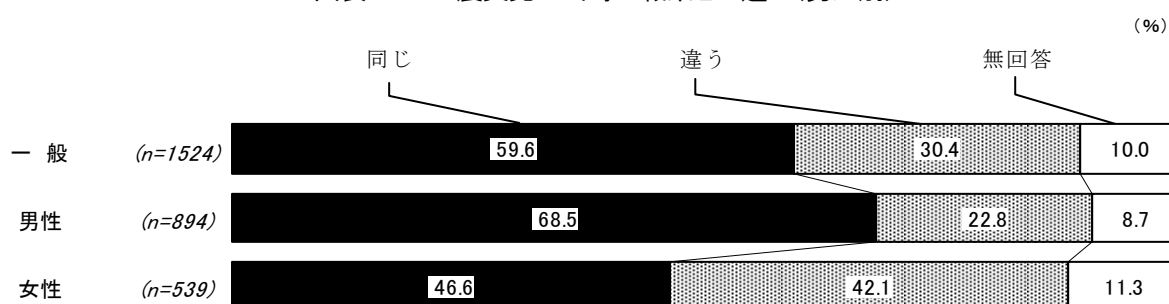
問 9(3) (自営業の方に)現在の仕事は、震災発生当時と同じですか。

(会社などに勤めている方に)現在勤めている会社などは、震災発生当時の会社などと同じですか。(○は1つ)

有職者(1,524 人)に、現在の職業が震災発生当時の職業と同じかどうかを聞いたところ、6 割は、現在の職業が、震災発生当時と「同じ」(59.6%)であると回答している。(図表 3-2-4)

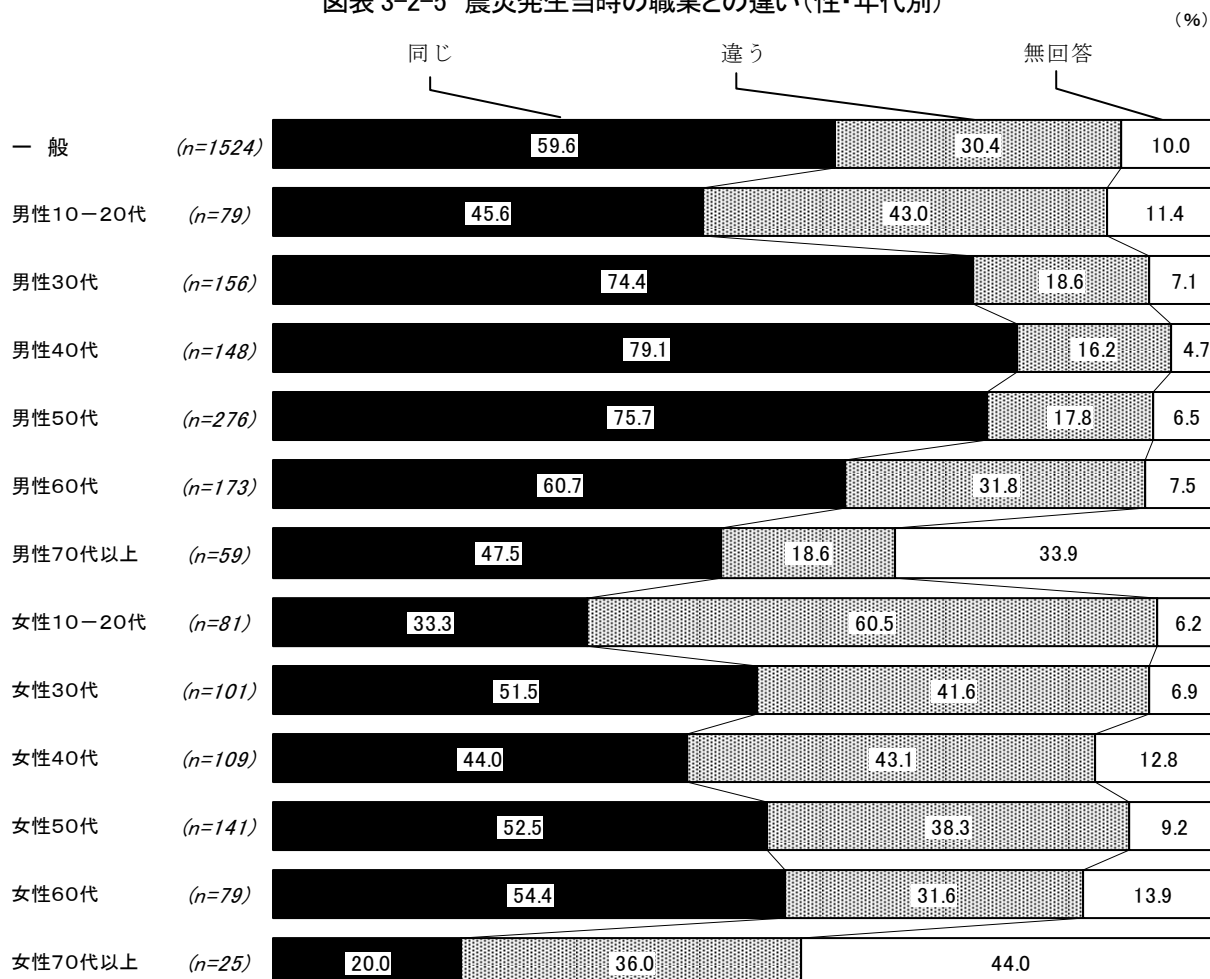
男女別に見ると、女性では震災発生当時と職業が「違う」という回答者が 42.1%であるが、男性では 22.8%で、男性の 7 割近くは震災発生当時と「同じ」職業(68.5%)に就いている。(図表 3-2-4)

図表 3-2-4 震災発生当時の職業との違い(男女別)



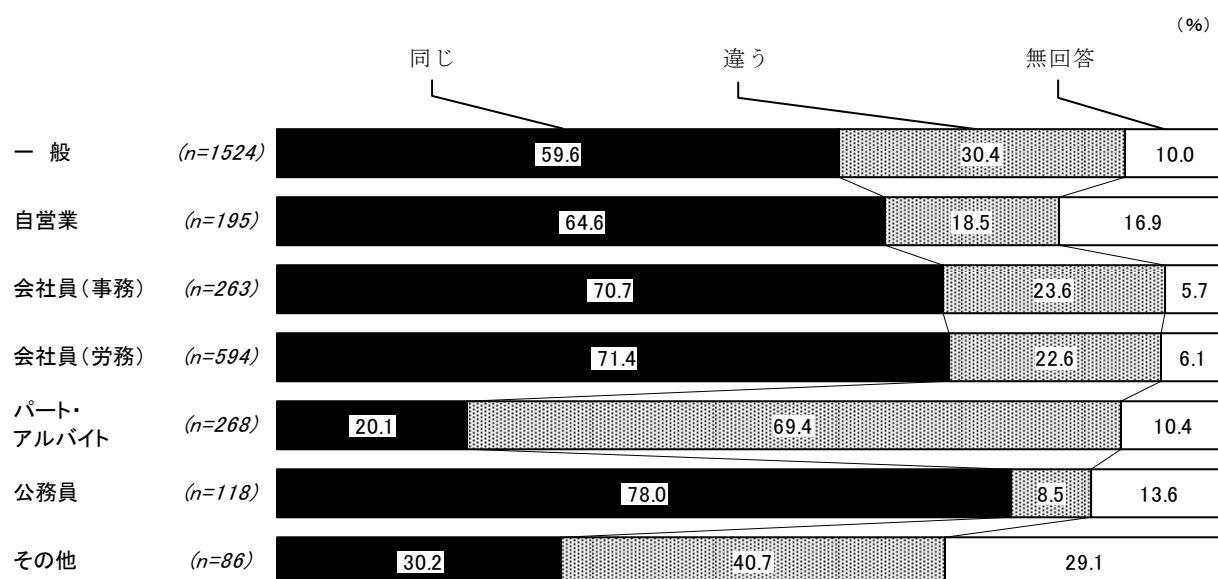
性・年代別に見ると、男性では 30～50 代で震災発生当時と「同じ」職業に就いている人が多く、特に 40 代(79.1%)では 8 割に近い。(図表 3-2-5)

図表 3-2-5 震災発生当時の職業との違い(性・年代別)



震災発生当時の職業別に見ると、当時パート・アルバイトの回答者では、震災発生当時と現在の職業が「違う」(61.0%)という者が6割を占めている。(図表 3-2-6)

図表 3-2-6 震災発生当時の職業との違い(現在の職業別)



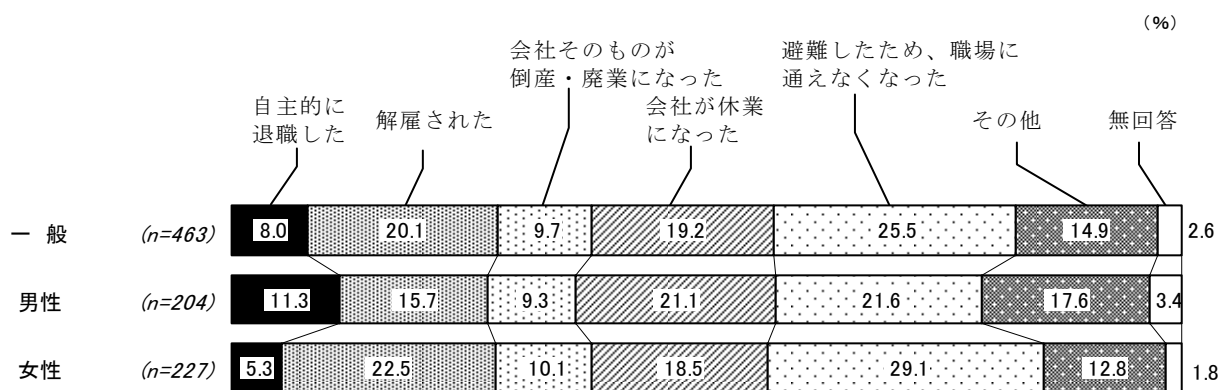
【問9(3)で「2 違う」と回答した方にうかがいます。】

問9(4) 震災発生当時の仕事から、現在の仕事に変わられたのはなぜですか。もっとも大きな理由を教えてください。(○は1つ)

震災発生当時と現在の職業が違う有職者(463人)が、職業を変った理由としては、「避難したため、職場に通えなくなった」(25.5%)、「解雇された」(20.1%)、「会社が休業になった」(19.2%)などの順にあげられている。(図表3-2-7)

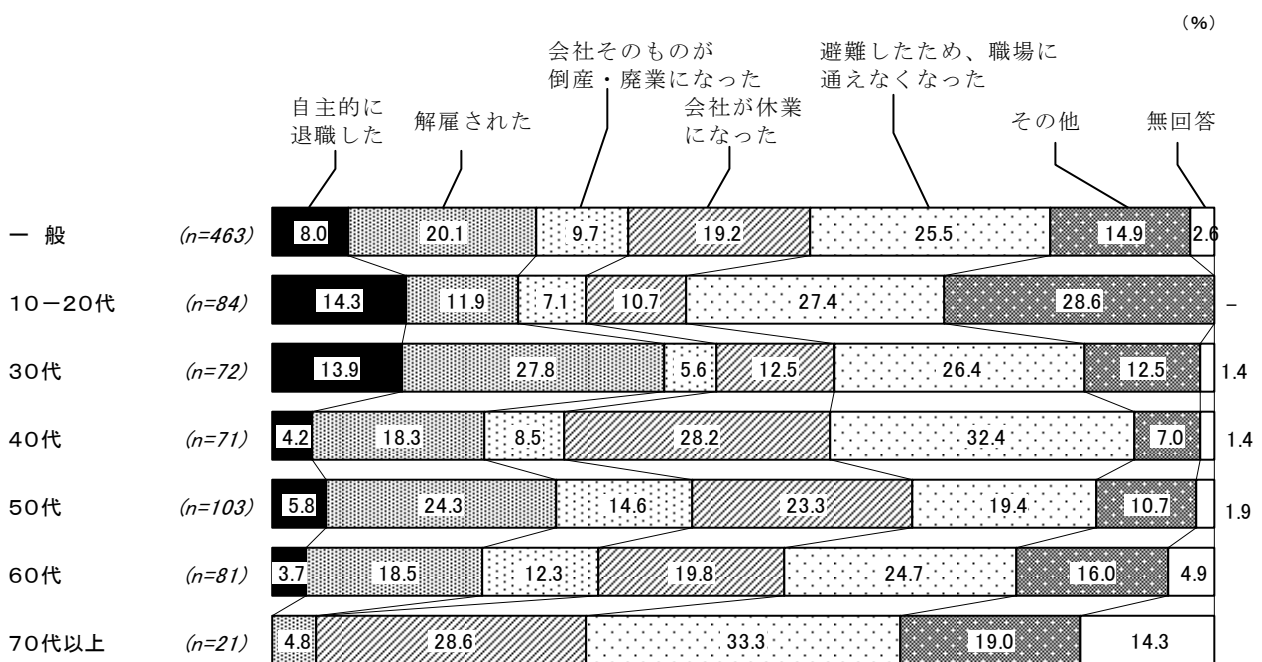
男女別に見ると、「避難したため、職場に通えなくなった」(男性 21.6%、女性 29.1%)と「解雇された」(同 15.7%、22.5%)は男性より女性に、「自主的に退職した」(同 11.3%、5.3%)は女性より男性に、それぞれ多くあげられている。(図表3-2-7)

図表 3-2-7 現在の職業に変わった理由(男女別)



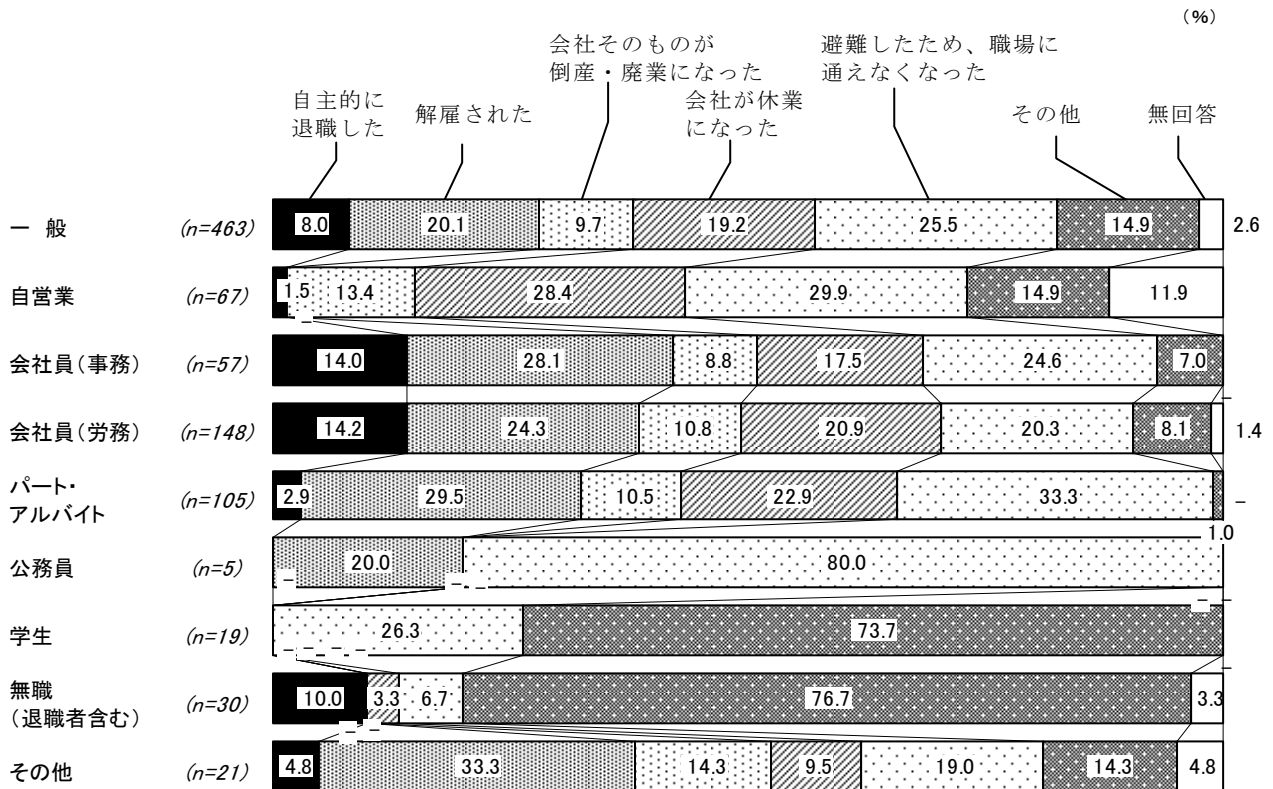
年代別に見ると、「解雇された」は30代で27.8%と、他の年齢層より多くなっている。また、「自主的に退職した」は若年齢層に多い傾向がある。(図表3-2-8)

図表 3-2-8 現在の職業に変わった理由(年代別)



震災発生当時の職業別に見ると、「避難したため、職場に通えなくなった」は、当時パート・アルバイト(33.3%)または自営業(29.9%)だった回答者で 3 割前後とやや多くなっている。また、自営業者では、「会社が休業になった」も 28.4%と、他の職業より多くあげられている。(図表 3-2-9)

図表 3-2-9 現在の職業に変わった理由(震災発生当時の職業別)



3) 求職状況(無職者)

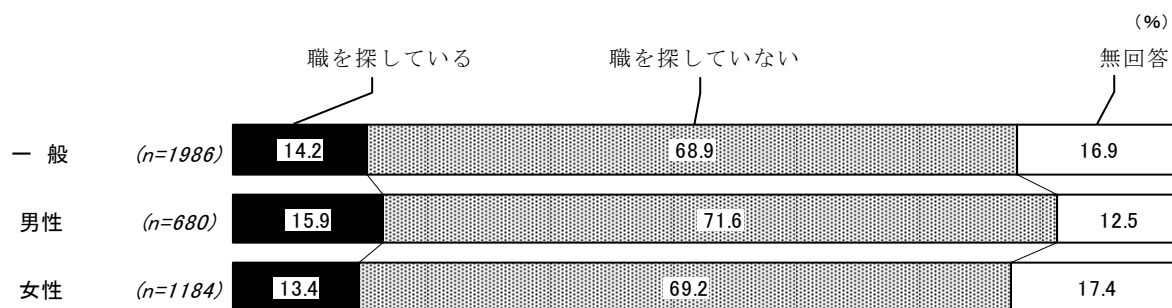
【問 9(1)職業で、「7 無職(退職者も含む)」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問 10 へお進みください。】

問 9(5) あなたは現在、職を探していますか。(○は 1 つ)

現在無職の回答者(1,986 人)に求職状況を聞いたところ、「職を探している」という回答は 14.2%にとどまり、7 割近くは「職を探していない」(68.9%)と回答している。(図表 3-2-10)

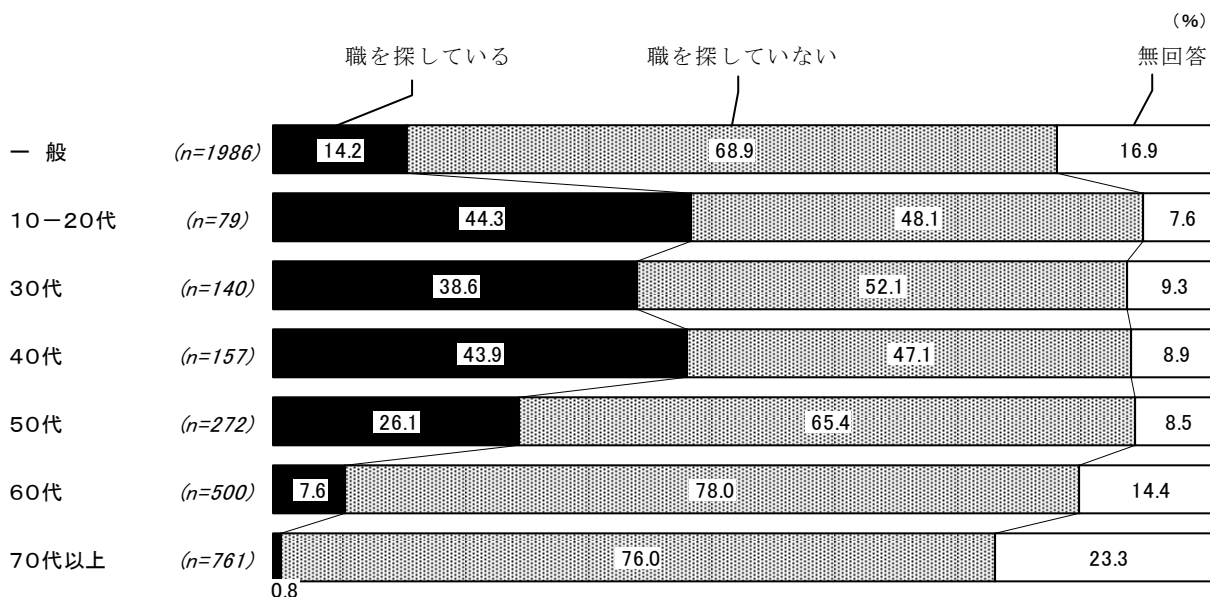
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-2-10)

図表 3-2-10 求職状況(男女別)



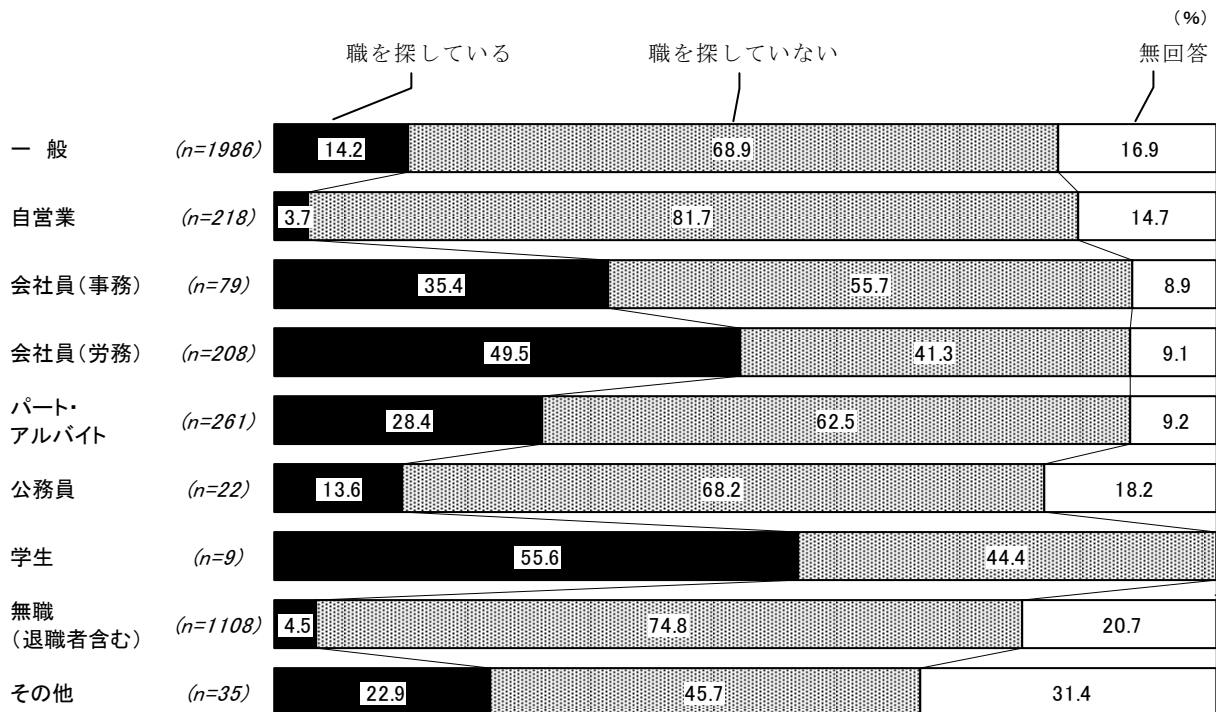
年代別に見ると、40 代以下の年齢層では 4 割前後が「職を探している」と回答しているが、60 代以上になると 1 割に満たず、8 割近くが「職を探していない」と回答している。(図表 3-2-11)

図表 3-2-11 求職状況(年代別)



震災発生当時の職業別に見ると、当時会社員(労務)だった回答者の半数は「職を探している」(49.5%)と回答している。これに対して、当時自営業者で「職を探している」という回答者は 3.7%にとどまり、8 割以上が「職を探していない」(81.7%)と回答している。(図表 3-2-12)

図表 3-2-12 求職状況(震災発生当時の職業別)



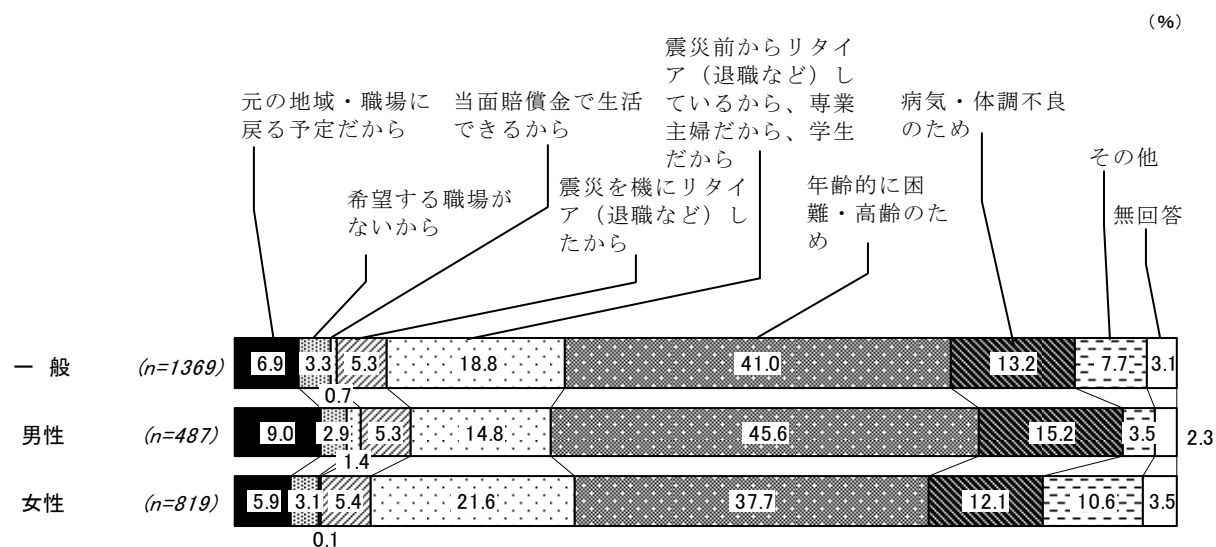
【問 9(5)で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。】

問 9(6) 現在、職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(○は 1 つ)

職を探していない無職者(1,369 人)の理由としては、「年齢的に困難・高齢のため」(41.0%)が目立って多くあげられ、以下「震災前からリタイア(退職など)しているから、専業主婦だから、学生だから」(18.8%)、「病気・体調不良のため」(13.2%)などの順となっている。(図表 3-2-13)

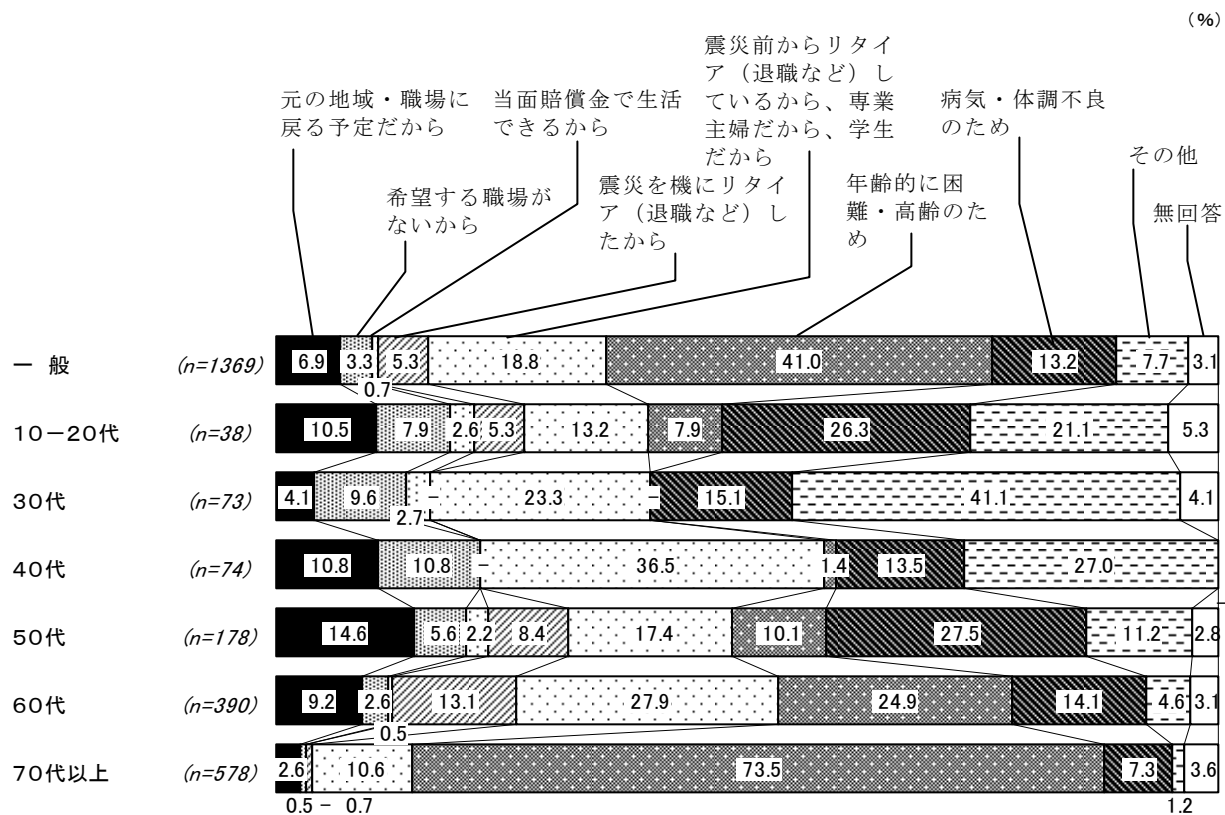
男女別に見ると、「年齢的に困難・高齢のため」(男性 45.6%、女性 37.7%)は女性より男性に、「震災前からリタイア(退職など)しているから、専業主婦だから、学生だから」(同 14.8%、21.6%)は男性より女性に、それぞれ多くあげられている。(図表 3-2-13)

図表 3-2-13 職を探していない理由(男女別)



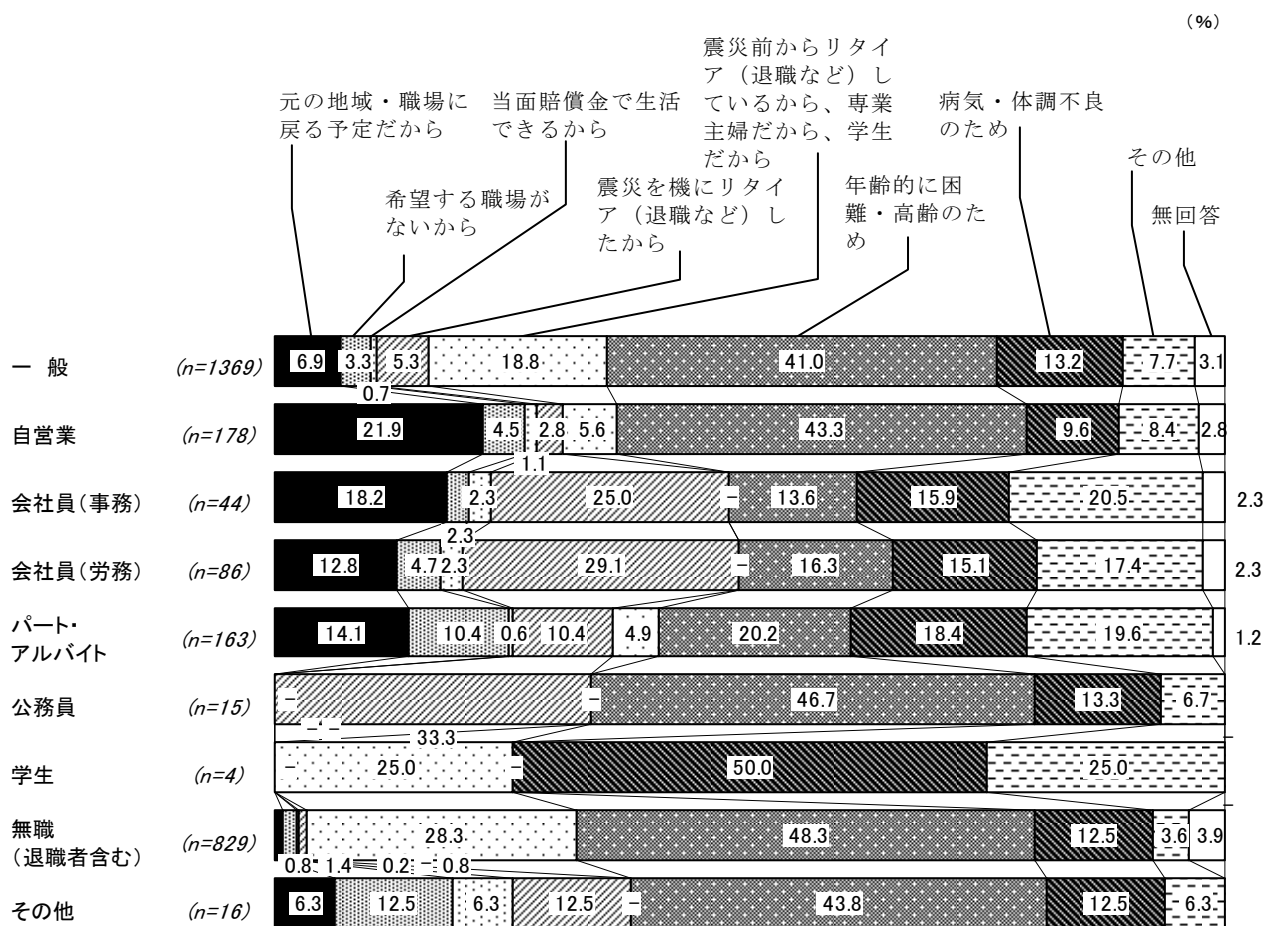
年代別に見ると、「年齢的に困難・高齢のため」は、60代では24.9%であるが、70代以上(73.5%)になると7割以上の回答者が求職しない理由としてあげている。(図表 3-2-14)

図表 3-2-14 職を探していない理由(年代別)



震災発生当時の職業別に見ると、当時自営業だった回答者では、「年齢的に困難・高齢のため」(43.3%)に次いで、「元の地域・職場に戻る予定だから」(21.9%)が、求職しない理由として多くあげられている。一方、「震災を機にリタイア(退職など)したから」は、会社員(労務)(29.1%)と会社員(事務)(25.0%)で、他の職業層より多くあげられている。(図表 3-2-15)

図表 3-2-15 職を探していない理由(震災発生当時の職業別)



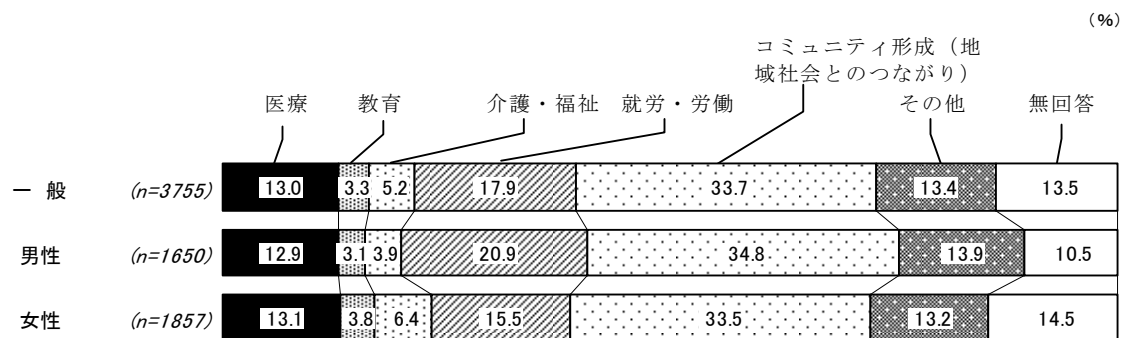
(3) 避難生活の中で困っていること

問 10 現在の避難生活において居住環境以外でもっとも困っていること、改善を求める分野を1つ教えてください。(○は1つ)

高校生以外の一般住民(3,755 人)が、現在の避難生活において居住環境以外で困っていること、改善を求めていることとしては、「コミュニティ形成(地域社会とのつながり)」という回答が 33.7%で最も多く、次いで「就労・労働」(17.9%)、「医療」(13.0%)の順となっている。(図表 3-3-1)

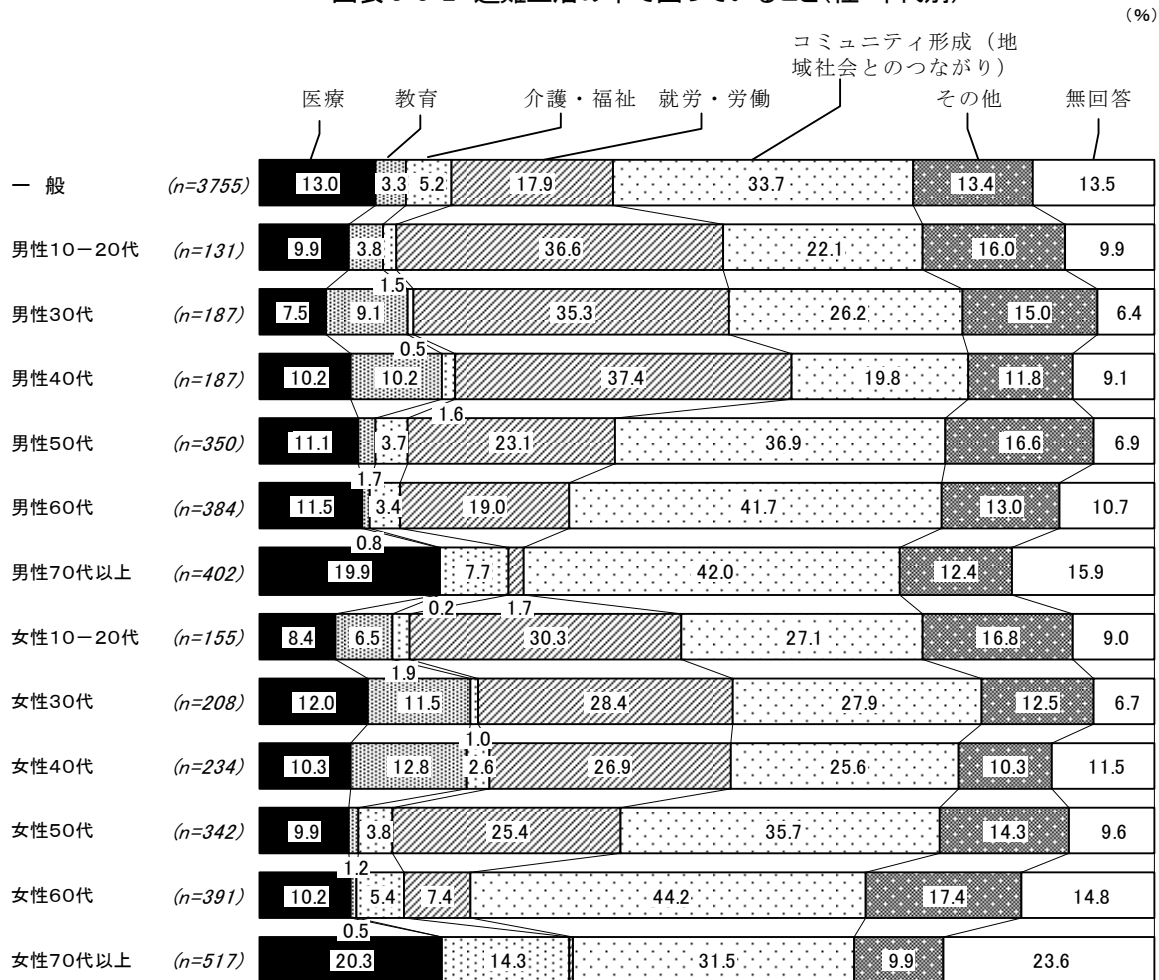
男女別に見ると、「就労・労働」(男性 20.9%、女性 15.5%)は、女性より男性に多くなっている。(図表 3-3-1)

図表 3-3-1 避難生活の中で困っていること(男女別)



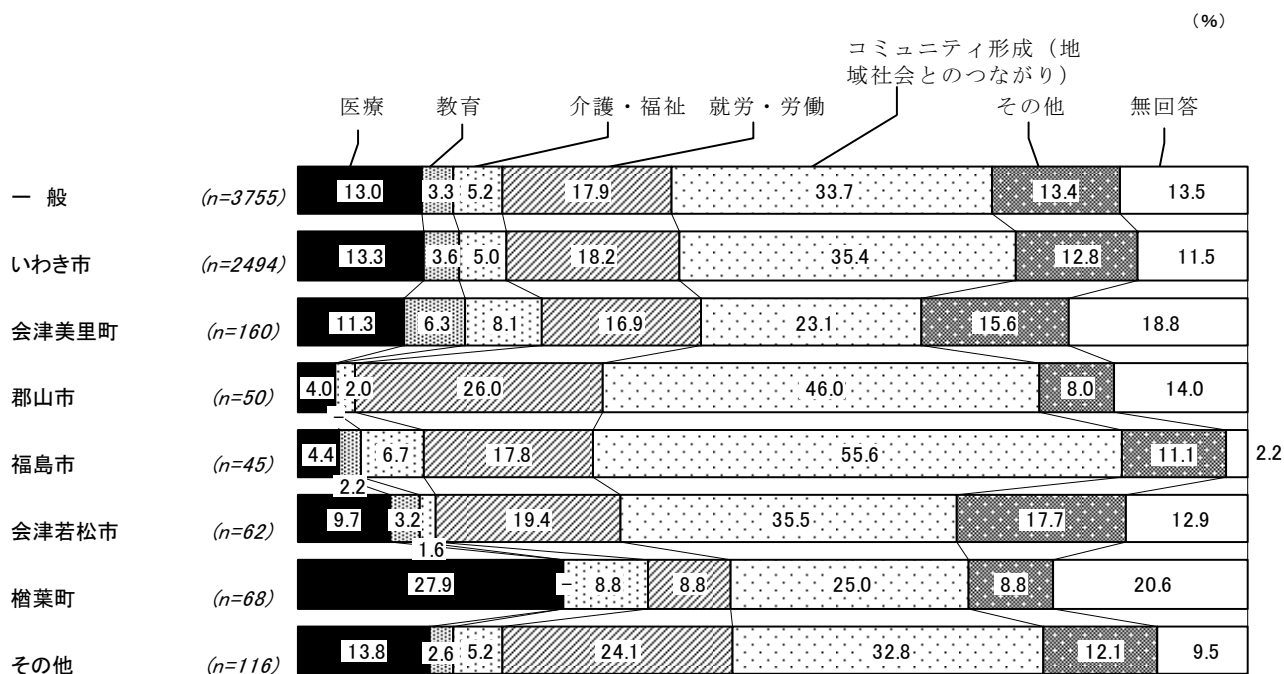
性・年代別に見ると、「コミュニティ形成(地域社会とのつながり)」は、男性の60代以上と女性の60代で要望が強くなっている。また、男女とも70代以上になると「医療」「介護・福祉」分野改善の要望が、他の性・年代に比べて強くなっている。一方、男女ともに若年齢層ほど「就労・労働」で困っているという回答者が多く、40代以下の男性では4割近くなっている。(図表 3-3-2)

図表 3-3-2 避難生活の中で困っていること(性・年代別)



現在の県内避難先別に見ると、檜葉町内の避難者で「医療」(27.9%)について困っているという回答者が、「コミュニティ形成(地域社会とのつながり)」(25.0%)をわずかに上回って、最も多くなっている。また、該当者数の少ない郡山市と福島市への避難者では、「コミュニティ形成(地域社会とのつながり)」という回答者の割合が、他地域への避難者よりも高くなっている。(図表 3-3-3)

図表 3-3-3 避難生活の中で困っていること(現在の県内避難先別)



(4) 医療サービスについて困っていること

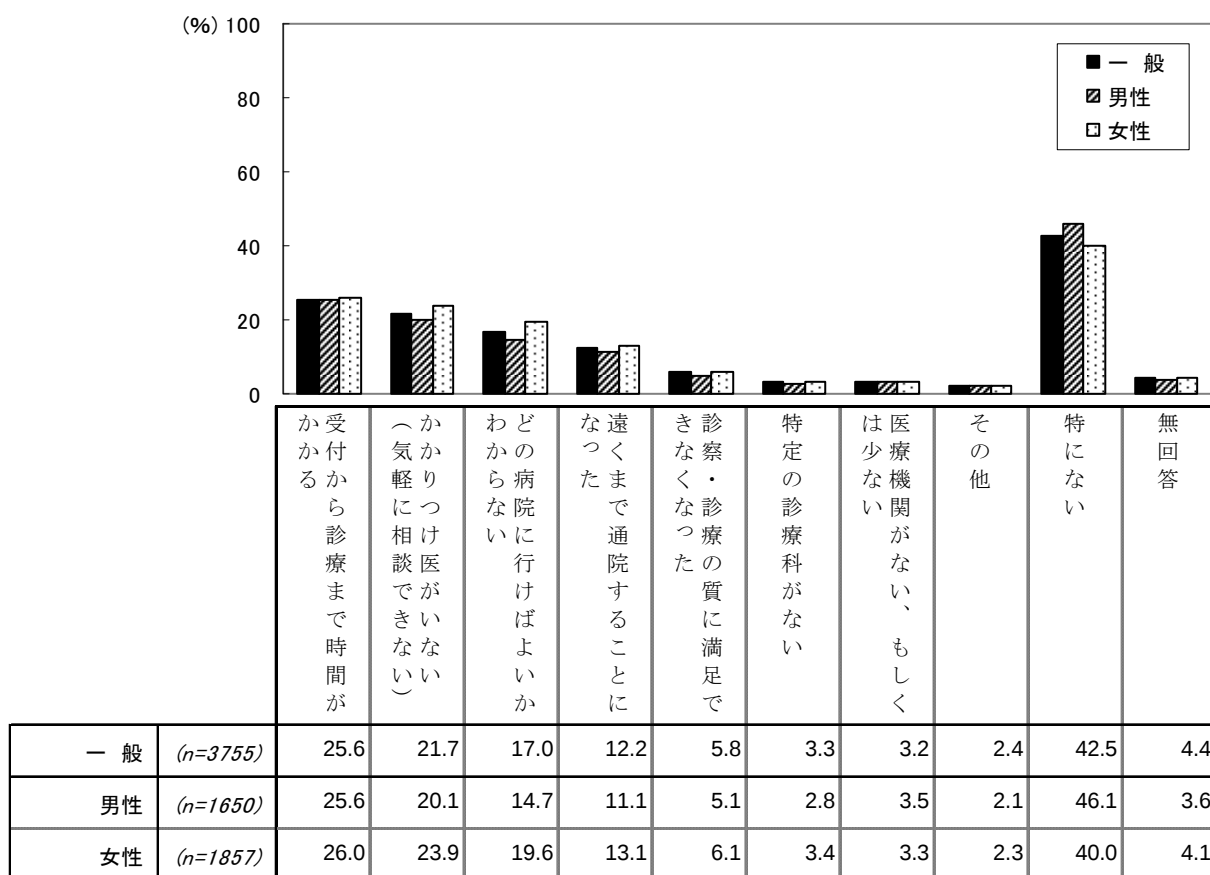
問 11 医療サービスについて困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

高校生以外の一般住民(3,755 人)が、医療サービスについて困っていること(複数回答)としては、「受付から診療まで時間がかかる」(25.6%)、「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)」(21.7%)、「どの病院に行けばよいかわからない」(17.0%)、「遠くまで通院することになった」(12.2%)などの順にあげられている。

「特にない」という回答者は、42.5%である。(図表 3-4-1)

男女別に見ると、「どの病院に行けばよいかわからない」(男性 14.7%、女性 19.6%)という回答者は、男性より女性に多くなっている。(図表 3-4-1)

図表 3-4-1 医療サービスについて困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、「どの病院に行けばよいかわからない」と「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)」は、男女とも若年層ほど、「遠くまで通院することになった」は、男女とも高齢層ほど、それぞれ多くあげられる傾向となっている。(図表 3-4-2)

図表 3-4-2 医療サービスについて困っていること(性・年代別)

(%)

		受付から診療まで時間がかかる	かかりつけ医がない(気軽に相談できない)	どの病院に行けばよいかわからない	遠くまで通院することになった	診察・診療の質に満足できなかった	特定の診療科がない	医療機関がない、もしくは少ない	その他	特になし	無回答
一 般	(n=3755)	25.6	21.7	17.0	12.2	5.8	3.3	3.2	2.4	42.5	4.4
男性10-20代	(n=131)	16.8	23.7	30.5	4.6	4.6	3.8	2.3	1.5	43.5	1.5
男性30代	(n=187)	31.6	24.6	28.3	7.5	4.3	3.2	2.7	1.1	41.2	-
男性40代	(n=187)	25.7	27.3	23.5	7.0	5.9	3.7	4.8	2.1	43.3	2.7
男性50代	(n=350)	23.7	20.3	13.4	7.1	6.3	2.6	3.1	1.7		2.3
男性60代	(n=384)	25.8	18.5	11.2	13.0	4.2	1.8	3.9	1.3	49.5	3.4
男性70代以上	(n=402)	26.9	14.7	3.7	18.4	5.2	3.0	3.5	3.5	43.8	7.0
女性10-20代	(n=155)	25.8	31.0	33.5	8.4	6.5	6.5	4.5	0.6	40.6	0.6
女性30代	(n=208)	30.8	26.4	36.5	10.1	6.3	3.4	4.8	2.4	35.1	0.5
女性40代	(n=234)	26.5	36.3	33.3	6.0	7.3	3.8	3.0	3.4	31.2	4.3
女性50代	(n=342)	24.6	26.6	24.6	10.2	3.8	3.5	1.8	2.3	42.1	2.9
女性60代	(n=391)	23.8	19.7	10.2	13.6	5.1	2.6	3.6	1.5	45.3	3.8
女性70代以上	(n=517)	26.3	16.8	6.4	20.3	7.5	3.1	3.3	2.7	40.4	7.4

現在の県内避難先別に見ると、檜葉町内の避難者では「受付から診療まで時間がかかる」(36.8%)と「遠くまで通院することになった」(17.6%)が、他の避難地域の住民よりも多くあげられている。また、会津美里町への避難者では、「診察・診療の質に満足できなかった」(10.6%)がやや多くあげられている。(図表 3-4-3)

図表 3-4-3 医療サービスについて困っていること(現在の県内避難先別)

(%)

		受付から診療まで時間がかかる	かかりつけ医がない(気軽に相談できない)	どの病院に行けばよいかわからない	遠くまで通院することになった	診察・診療の質に満足できなかった	特定の診療科がない	医療機関がない、もしくは少ない	その他	特になし	無回答
一 般	(n=3755)	25.6	21.7	17.0	12.2	5.8	3.3	3.2	2.4	42.5	4.4
いわき市	(n=2494)	29.8	23.1	18.0	11.5	5.9	3.2	2.9	1.8	40.5	4.0
会津美里町	(n=160)	18.8	20.0	15.6	13.8	10.6	4.4	3.1	5.6	40.6	5.0
郡山市	(n=50)	16.0	12.0	8.0	10.0	2.0	2.0	-	2.0	64.0	2.0
福島市	(n=45)	6.7	24.4	11.1	4.4	4.4	-	2.2	2.2	57.8	2.2
会津若松市	(n=62)	16.1	14.5	19.4	4.8	3.2	1.6	4.8	6.5	51.6	3.2
檜葉町	(n=68)	36.8	13.2	10.3	17.6	7.4	2.9	7.4	4.4	27.9	10.3
その他	(n=116)	18.1	20.7	13.8	22.4	4.3	11.2	9.5	2.6	44.8	2.6

(5) 介護・福祉サービスについて困っていること

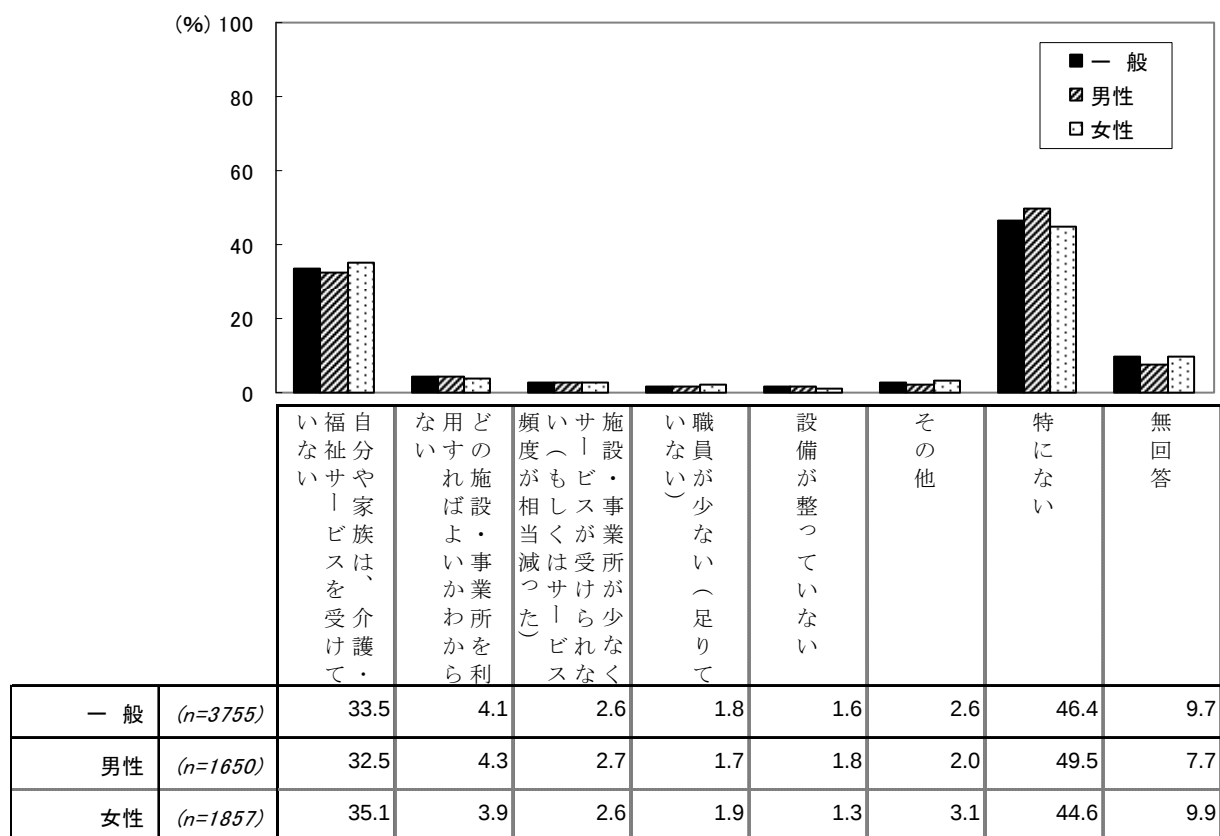
問 12 ご自身またはご家族が受けている介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

高校生以外の一般住民(3,755 人)が、介護・福祉サービスで困っていることを聞いたところ、「自分や家族は、介護・福祉サービスを受けていない」という回答者が 33.5%で、それ以外でも困っていることは「特にない」という回答者が 46.4%にのぼる。

何らかの困っていることがあるという回答者は全体の 1 割程度で、「どの施設・事業所を利用すればよいかわからない」が 4.1%、「施設・事業所が少なくサービスが受けられない(もしくはサービス頻度が相当減った)」が 2.6%、「職員が少ない(足りていない)」が 1.8%、「設備が整っていない」が 1.6%となっている。(図表 3-5-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-5-1)

図表 3-5-1 介護・福祉サービスについて困っていること(男女別)



性・年代別にも、現在の県内避難先別にも、大きな差はみられない。(図表 3-5-2・図表 3-5-3)

図表 3-5-2 介護・福祉サービスについて困っていること(性・年代別)

(%)

		自分や家族は、介護・福祉サービスを受けていない	どの施設・事業所を利用すればよいかわからない	施設・事業所が少なくサービスが受けられない（もしくはサービス頻度が相当減った）	職員が少ない（足りていない）	設備が整っていない	その他	特にない	無回答
一 般	(n=3755)	33.5	4.1	2.6	1.8	1.6	2.6	46.4	9.7
男性10-20代	(n=131)	26.0	4.6	0.8	0.8	1.5	0.8	64.9	1.5
男性30代	(n=187)	29.4	3.7	2.1	2.1	0.5	0.5	62.0	1.6
男性40代	(n=187)	28.9	5.3	1.1	0.5	1.6	1.1	57.2	5.3
男性50代	(n=350)	31.1	6.0	4.3	2.0	2.9	2.6	49.1	6.0
男性60代	(n=384)	32.8	2.9	2.3	2.1	1.8	2.1	47.9	9.9
男性70代以上	(n=402)	39.1	4.0	3.0	1.7	1.7	3.0	37.1	12.4
女性10-20代	(n=155)	34.2	4.5	0.6	2.6	1.3	1.3	56.1	1.9
女性30代	(n=208)	42.3	1.4	2.4	1.4	1.0	0.5	46.2	6.3
女性40代	(n=234)	44.0	3.0	2.6	0.9	0.9	1.7	43.2	5.6
女性50代	(n=342)	30.1	4.4	2.9	2.3	0.9	4.4	50.6	7.0
女性60代	(n=391)	36.6	3.8	1.8	1.8	1.5	3.8	41.4	12.0
女性70代以上	(n=517)	31.1	5.0	3.5	2.1	1.9	3.9	39.8	15.3

図表 3-5-3 介護・福祉サービスについて困っていること(現在の県内避難先別)

(%)

		自分や家族は、介護・福祉サービスを受けていない	どの施設・事業所を利用すればよいかわからない	施設・事業所が少なくサービスが受けられない（もしくはサービス頻度が相当減った）	職員が少ない（足りていない）	設備が整っていない	その他	特にない	無回答
一 般	(n=3755)	33.5	4.1	2.6	1.8	1.6	2.6	46.4	9.7
いわき市	(n=2494)	34.6	3.8	2.2	1.7	1.8	2.3	46.7	9.3
会津美里町	(n=160)	36.3	3.8	6.9	3.8	1.3	1.3	41.3	8.1
郡山市	(n=50)	18.0	2.0	-	-	-	8.0	64.0	8.0
福島市	(n=45)	44.4	4.4	-	-	-	4.4	40.0	6.7
会津若松市	(n=62)	46.8	1.6	4.8	-	1.6	1.6	37.1	8.1
檜葉町	(n=68)	29.4	-	4.4	7.4	4.4	5.9	35.3	20.6
その他	(n=116)	29.3	4.3	3.4	4.3	1.7	5.2	47.4	6.9

問 13 ご自身またはご家族が受けている教育(学校)について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

問 4(高校生) 学校(教育)について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

教育(学校)について何らかの困っていることがあるという回答者は 1 割台で、「通学に時間がかかるようになった」(6.5%)、「避難している子どもたちに対して放射能に関する偏見がある」(4.7%)、「避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している」(3.8%)などの順となっている。(図表 3-6-1)

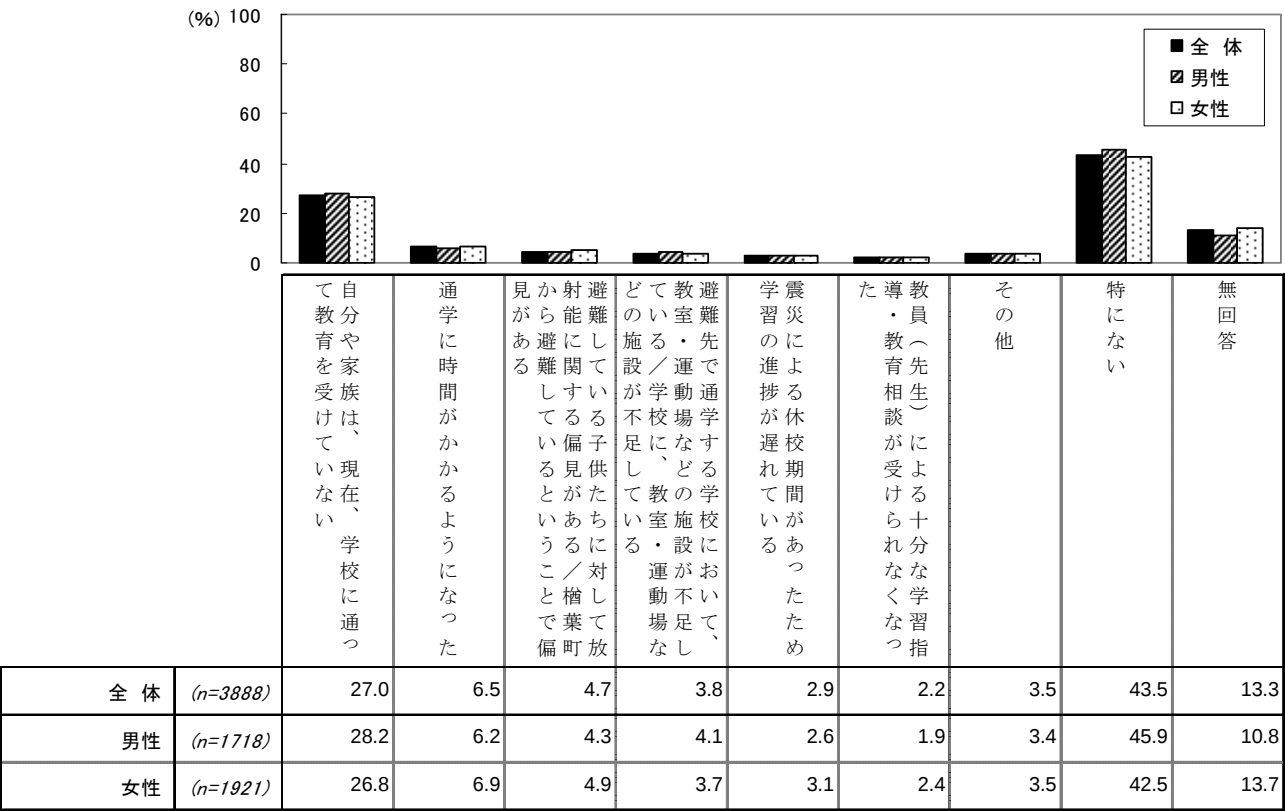
「特にない」(63.9%)という高校生は、6割強である。(図表 3-6-1)

(%)

		無回答	特にな	その他	教員（先生）による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなつた	震災による休校期間があつたため学習の進捗が遅れている	避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している／学校に、教室・運動場などの施設が不足している	避難している子供たちに対して放射能に関する偏見があること／檜葉町から避難しているというこで偏見がある	通学に時間がかかるようになった	自分や家族は、現在、学校に通つて教育を受けていない
全 体	(n=3888)	27.0	6.5	4.7	3.8	2.9	2.2	3.5	43.5	13.3
一 般	(n=3755)	27.9	6.4	4.6	3.6	2.7	2.1	3.5	42.7	13.7
高校生	(n=133)	-	10.5	9.0	9.0	8.3	3.8	5.3	63.9	3.0

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-6-2)

図表 3-6-2 教育(学校)について困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、男女ともに 30～40 代では、他の性・年代層よりも“困っていること”の回答率がやや高くなっている。(図表 3-6-3)

図表 3-6-3 教育(学校)について困っていること(性・年代別)

(%)

		自分や家族は、現在、学校に通って教育を受けていない	通学に時間がかかるようになった	避難している子供たちに対して、放射能に関する偏見があること、避難する偏見があること、避難する偏見があること、避難する偏見があること	避難先で通学する学校において、教室・運動場の不足、教室・運動場の不足、教室・運動場の不足、教室・運動場の不足	震災による休校期間があったため、学習の進捗が遅れている	教員（先生）による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなつた	その他	特にな	無回答
全 体	(n=3888)	27.0	6.5	4.7	3.8	2.9	2.2	3.5	43.5	13.3
男性10－20代	(n=199)	16.6	6.5	6.0	5.0	4.5	2.0	4.5	60.8	3.0
男性30代	(n=187)	25.7	12.8	4.3	9.6	1.6	2.1	3.7	50.8	1.6
男性40代	(n=187)	11.2	12.3	8.0	6.4	5.3	7.0	8.6	49.7	5.9
男性50代	(n=350)	28.9	7.1	5.1	5.1	3.7	2.0	4.3	46.3	7.7
男性60代	(n=384)	37.8	2.6	2.3	1.6	0.8	0.5	1.8	42.2	13.3
男性70代以上	(n=402)	32.8	2.7	3.0	1.7	1.7	0.5	1.2	37.8	21.4
女性10－20代	(n=219)	17.4	8.2	7.3	6.4	3.7	2.7	3.7	59.4	1.4
女性30代	(n=208)	20.7	16.3	8.2	8.7	3.8	5.3	6.3	45.2	1.9
女性40代	(n=234)	11.5	16.2	9.0	7.7	9.0	6.0	12.8	39.7	6.8
女性50代	(n=342)	36.5	2.9	3.2	2.0	1.8	1.5	2.0	43.0	10.2
女性60代	(n=391)	34.5	3.1	2.8	1.0	2.0	1.5	1.8	38.1	18.9
女性70代以上	(n=517)	27.7	3.9	3.5	1.7	1.7	1.0	0.6	38.5	25.1

(7) 就労について困っていること

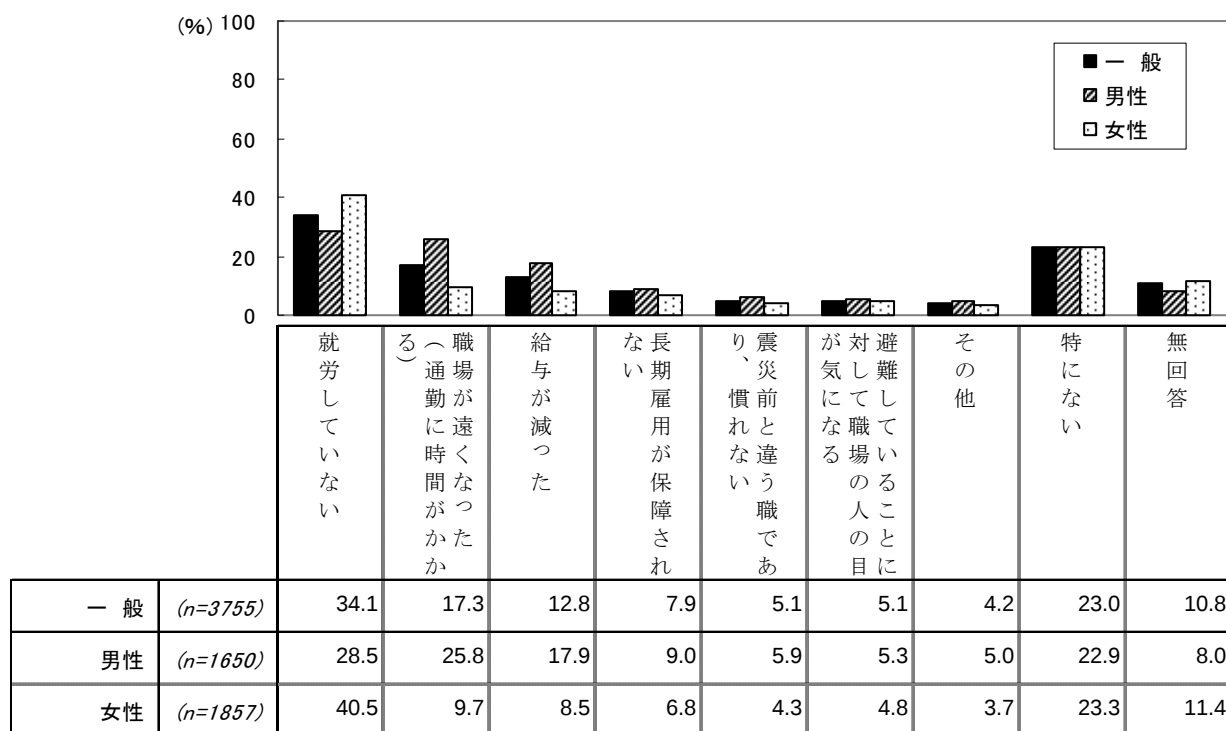
問 14 就労について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

高校生以外の一般住民(3,755 人)に、就労について困っていることを聞いたところ、「就労していない」が 34.1%で最も多く、以下「職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)」(17.3%)、「給与が減った」(12.8%)、「長期雇用が保障されない」(7.9%)などの順となっている。就労に関して困っていることが「特にない」という回答者は 23.0%である。

なお、「就労していない」という回答には、無職者以外にも自営業やパート・アルバイトの身分で、休業・休職状態にあると思われる回答者も“困っていること”としてあげている。(図表 3-7-1)

男女別に見ると、男女とも「職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)」(男性 25.8%、女性 9.7%)と「給与が減った」(同 17.9%、8.5%)が上位にあげられているが、女性より男性に回答率が高くなっている。また、女性では、「就労していない」という回答者が 40.5%である。(図表 3-7-1)

図表 3-7-1 就労について困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、男性の30～40代は、7割近くが就労について何らかの困り事を抱えており、「職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)」と「給与が減った」が上位にあげられている。一方、30～40代の女性では男性と同様に「職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)」と「給与が減った」が上位にあげられているが、10～20代の女性では「長期雇用が保障されない」(15.5%)、「避難していることに対して職場の人の目が気になる」(12.9%)などが、他の年代よりやや多くなっている。(図表3-7-2)

図表3-7-2 就労について困っていること(性・年代別)

		(%)								
		就労していない	職場が遠くなった (通勤に時間がかかる)	給与が減った	長期雇用が保障されない	震災前と違う職であり、慣れない	避難していること に対して職場の人の 目が気になる	その他	特になし	無回答
一般	(n=3755)	34.1	17.3	12.8	7.9	5.1	5.1	4.2	23.0	10.8
男性10～20代	(n=131)	22.1	21.4	11.5	11.5	7.6	7.6	2.3	28.2	3.8
男性30代	(n=187)	12.3	51.3	33.7	12.3	9.6	11.8	6.4	16.0	2.1
男性40代	(n=187)	12.8	41.7	38.0	18.7	10.7	8.6	8.6	18.2	1.1
男性50代	(n=350)	15.7	37.1	25.1	10.3	8.3	7.4	8.6	23.7	4.9
男性60代	(n=384)	34.9	21.4	14.3	8.9	5.2	3.1	3.1	24.0	6.8
男性70代以上	(n=402)	50.7	2.2	0.7	1.2	—	0.5	2.2	25.1	18.7
女性10～20代	(n=155)	26.5	12.3	12.9	15.5	9.0	12.9	6.5	29.0	1.9
女性30代	(n=208)	38.5	18.8	19.2	8.7	10.6	9.6	3.8	16.8	1.9
女性40代	(n=234)	35.9	17.1	15.8	15.0	7.7	8.5	4.7	12.8	6.0
女性50代	(n=342)	41.2	14.9	10.8	9.4	5.6	6.7	5.3	19.6	3.8
女性60代	(n=391)	47.1	6.6	4.3	3.3	1.0	1.0	3.3	25.1	12.5
女性70代以上	(n=517)	42.7	0.6	0.8	0.6	0.4	0.2	1.4	30.0	24.6

現在の職業別に見ると、会社員(事務)と会社員(労務)で「職場が遠くなった」(事務 44.1%、労務 55.7%)が、他の職業層よりも多くあげられている。一方、パート・アルバイトでは、「給与が減った」(38.8%)、「長期雇用が保障されない」(34.7%)、「震災前と違う職であり、慣れない」(23.9%)が、他の職業層よりも多くあげられている。(図表3-7-3)

図表3-7-3 就労について困っていること(現在の職業別)

		(%)								
		就労していない	職場が遠くなった (通勤に時間がかかる)	給与が減った	長期雇用が保障されない	震災前と違う職であり、慣れない	避難していること に対して職場の人の 目が気になる	その他	特になし	無回答
一般	(n=3755)	34.1	17.3	12.8	7.9	5.1	5.1	4.2	23.0	10.8
自営業	(n=195)	15.4	21.0	16.4	5.6	2.1	3.1	6.2	30.8	15.4
会社員(事務)	(n=263)	—	44.1	30.8	14.4	9.5	13.3	7.2	22.1	2.3
会社員(労務)	(n=594)	—	55.7	33.2	12.8	12.0	9.8	5.7	20.0	2.9
パート・アルバイト	(n=268)	3.7	26.9	38.8	34.7	23.9	11.6	4.1	20.1	2.6
公務員	(n=118)	—	30.5	8.5	6.8	8.5	11.9	11.9	36.4	5.1
学生	(n=51)	41.2	—	—	—	—	—	3.9	47.1	7.8
無職 (退職者含む)	(n=1986)	59.2	1.5	1.7	2.4	—	2.0	2.6	21.9	11.7
その他	(n=86)	—	17.4	22.1	18.6	16.3	4.7	11.6	33.7	14.0

(8) 地域のコミュニティについて困っていること

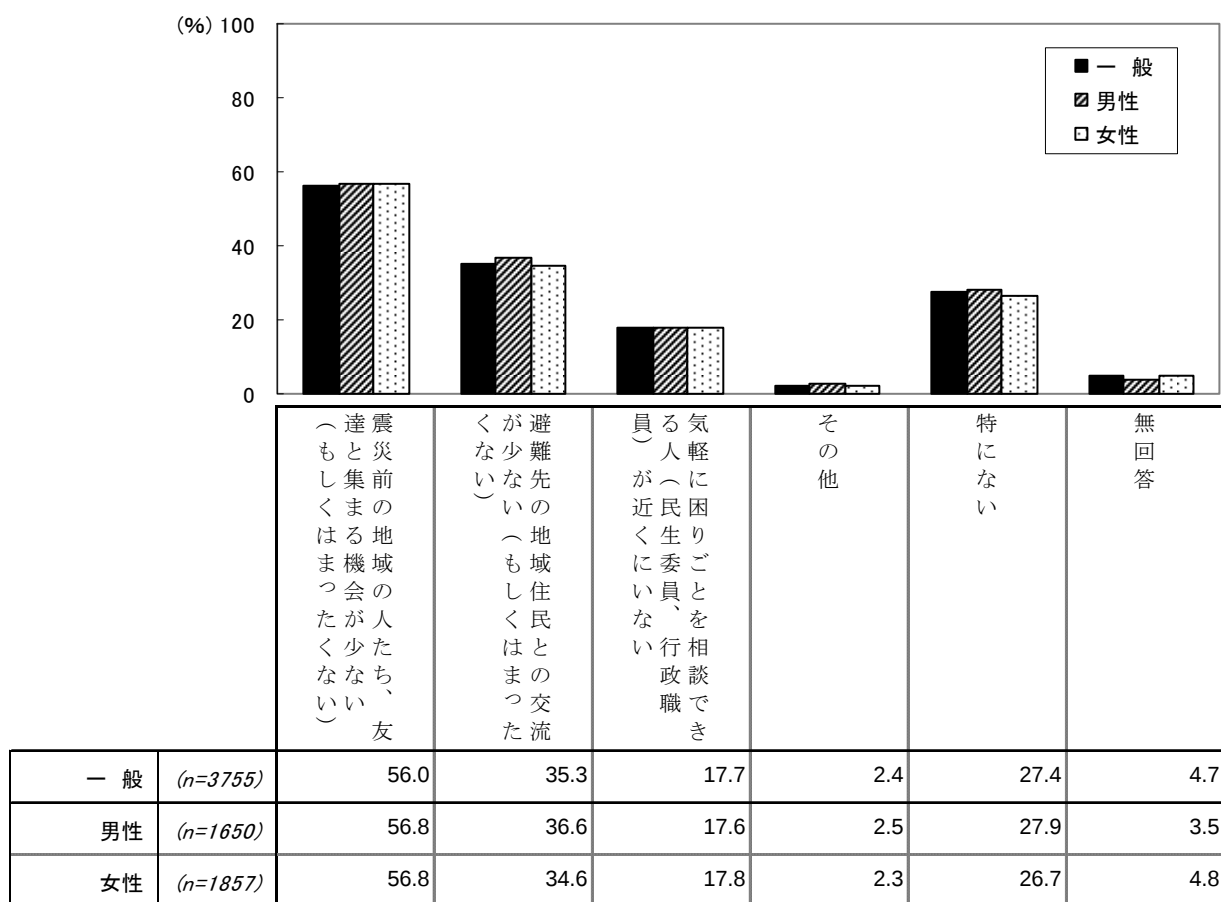
問 15 地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

高校生以外の一般住民(3,755 人)が、地域のコミュニティについて困っていることとしては、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」が 56.0%で最も多くあげられ、以下「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」が 35.3%、「気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない」(17.7%)の順にあげられている。

「特にない」という回答者は 27.4%である。(図表 3-8-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-8-1)

図表 3-8-1 地域のコミュニティについて困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、男性の 50 代以上で、「避難先の地域住民との交流が少ない（もしくはまったくない）」が他の性・年代層よりも多くあげられている。（図表 3-8-2）

図表 3-8-2 地域のコミュニティについて困っていること(性・年代別)

(%)

		震災前の地域の 人たち、友達と集まる機 会が少ない (もしくは まったくない)	避難先の地域 住民との交流 が少ない(も しくはまった くない)	気軽に困りご とを相談でき る人(民生委 員、行政職 員)が近くに いない	その他	特にな	無回答
一 般	(n=3755)	56.0	35.3	17.7	2.4	27.4	4.7
男性10-20代	(n=131)	55.0	24.4	15.3	6.1	35.9	-
男性30代	(n=187)	54.5	28.3	14.4	1.6	34.2	2.1
男性40代	(n=187)	56.1	29.9	19.8	4.3	28.3	3.7
男性50代	(n=350)	59.4	43.4	16.6	0.9	26.9	2.9
男性60代	(n=384)	55.7	40.6	18.0	2.1	27.6	3.4
男性70代以上	(n=402)	58.0	38.3	19.4	3.0	23.4	5.2
女性10-20代	(n=155)	56.8	25.2	16.8	0.6	34.8	1.3
女性30代	(n=208)	53.8	26.9	16.3	1.9	30.8	3.4
女性40代	(n=234)	59.8	37.6	17.1	3.4	23.1	4.7
女性50代	(n=342)	58.5	36.5	18.4	1.5	27.5	2.3
女性60代	(n=391)	56.8	36.6	18.7	3.1	26.6	4.3
女性70代以上	(n=517)	55.1	36.6	17.8	2.1	23.8	8.5

現在の県内避難先別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-8-3)

図表 3-8-3 地域のコミュニティについて困っていること(現在の県内避難先別)

(%)

		震災前の地域の 人たち、友達と集まる機 会が少ない(もしくは まったくない)	避難先の地域 住民との交流 が少ない(もしくは まったくない)	気軽に困りごとを相談できる人(民生委 員、行政職員)が近くに いない	その他	特にな	無回答
一 般	(n=3755)	56.0	35.3	17.7	2.4	27.4	4.7
いわき市	(n=2494)	56.5	36.5	16.6	2.4	26.9	4.7
会津美里町	(n=160)	55.0	21.3	11.9	1.9	33.1	5.0
郡山市	(n=50)	52.0	40.0	16.0	—	28.0	—
福島市	(n=45)	73.3	55.6	35.6	2.2	13.3	—
会津若松市	(n=62)	54.8	33.9	21.0	—	30.6	1.6
檜葉町	(n=68)	52.9	27.9	23.5	1.5	26.5	11.8
その他	(n=116)	57.8	32.8	19.8	4.3	29.3	3.4

4 将来についての想い

(1) 希望する避難生活のかたち

1) 希望する避難居住地

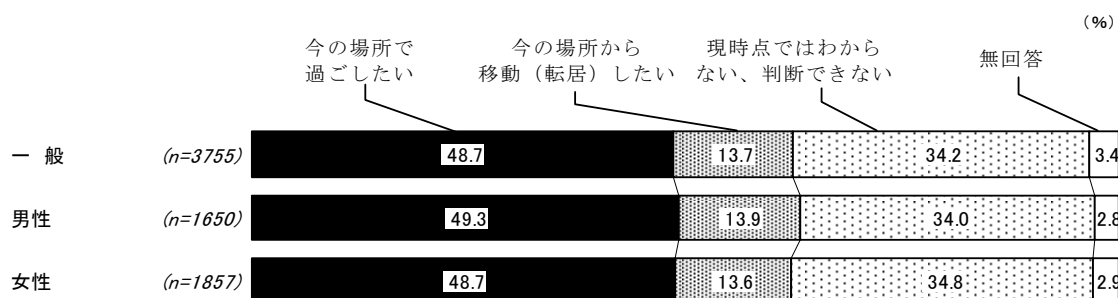
問 16 あなたは、これから避難解除までの間の避難生活をどこで過ごしたいですか。(〇は1つ)

高校生以外の一般住民(3,755 人)に、今後の避難期間中の生活を過ごしたい場所を聞いたところ、「今の場所で過ごしたい」(48.7%)という回答者が半数近く、「今の場所から移動(転居)したい」と考える回答者が 13.7%である。

ほぼ 3 人に 1 人は、「現時点ではわからない、判断できない」(34.2%)と回答している。(図表 4-1-1)

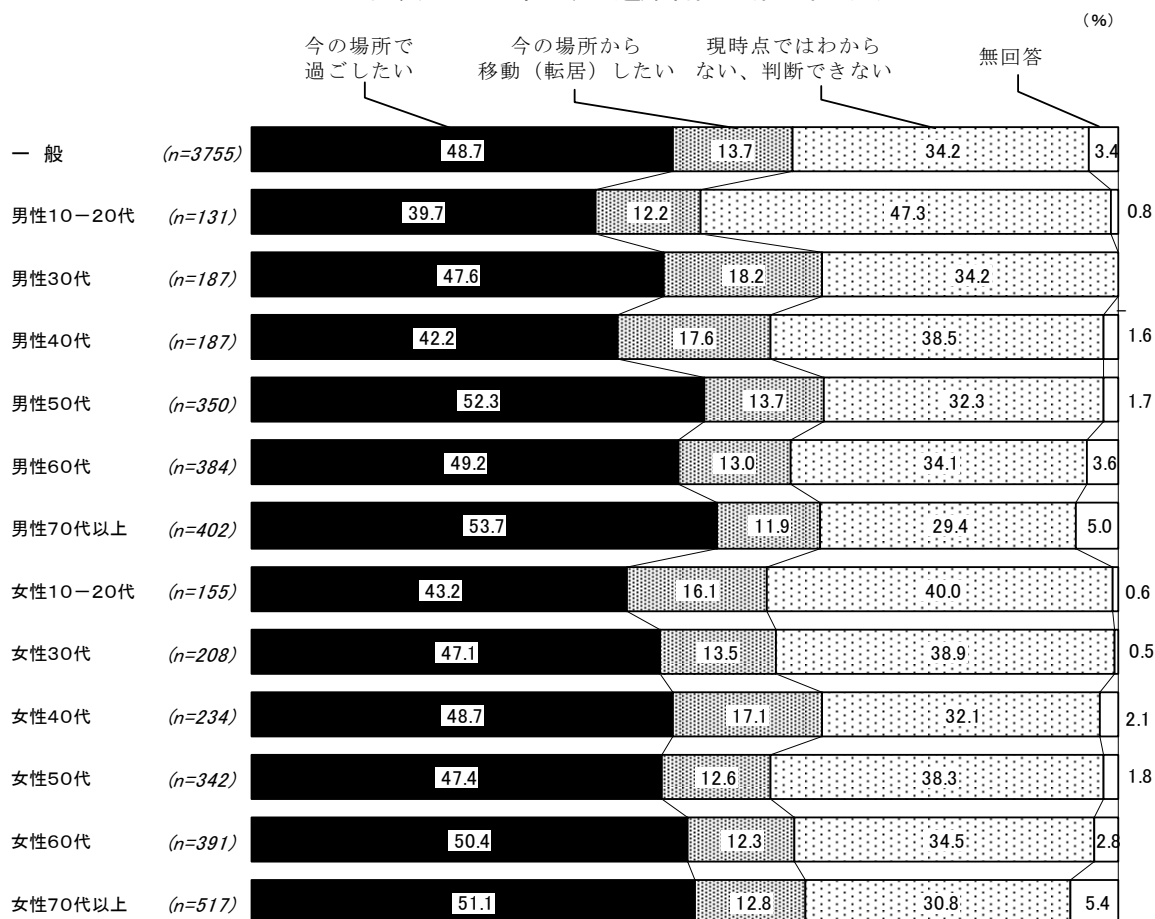
男女別に見ると、男女とも「今の場所で過ごしたい」(男性 49.3%、女性 48.7%)という回答者が最も多く、男女差はみられない。(図表 4-1-1)

図表 4-1-1 希望する避難居住地(男女別)



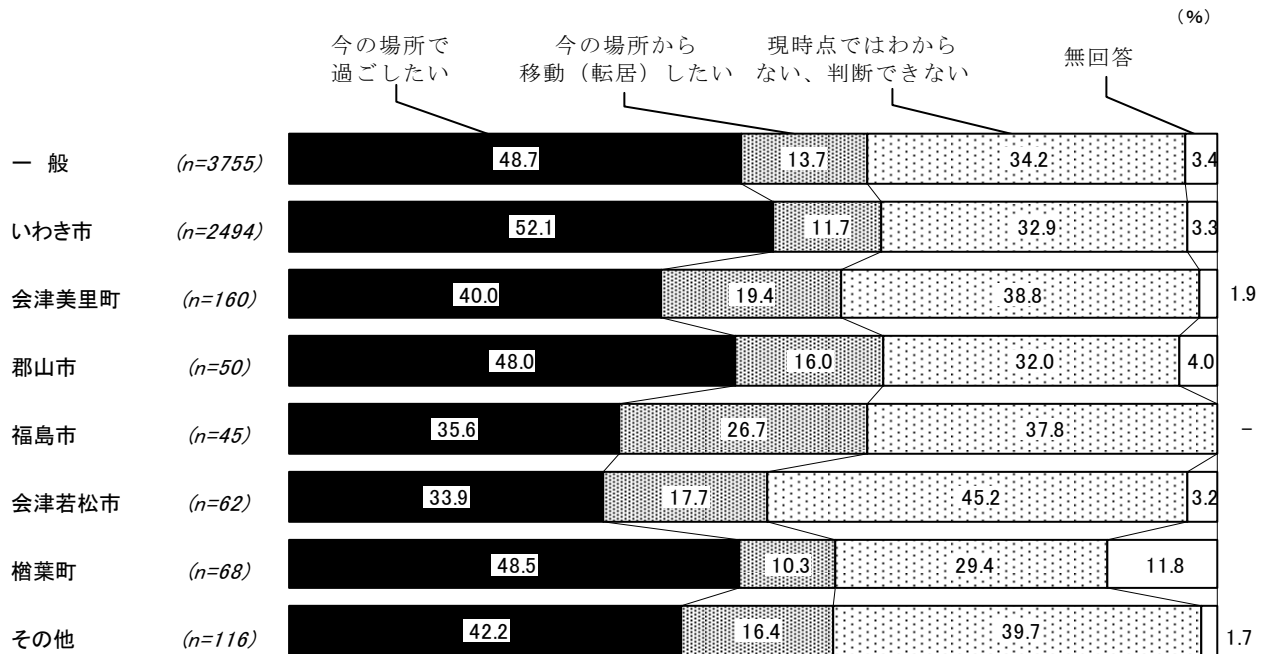
性・年代別に見ると、男性の 10～20 代では、「現時点ではわからない、判断できない」(47.3%)という回答者が半数近くで最も多いが、それ以外の性・年代層では、いずれの層でも「今の場所で過ごしたい」という回答者が最も多くなっている。(図表 4-1-2)

図表 4-1-2 希望する避難居住地(性・年代別)



現在の県内避難先別に見ると、県内避難者の 8 割以上を占めるいわき市への避難者の過半数は、「今の場所で過ごしたい」(52.1%)と回答している。会津若松市への避難者は、「現時点ではわからない、判断できない」(45.2%)という回答者が他の地域より多くなっている。(図表 4-1-3)

図表 4-1-3 希望する避難住居形態(現在の県内避難先別)



【問 16(1)で「2 今の場所から移動(転居)したい」と回答した方にうかがいます。】

問 16(2) これからの避難期間中に、さらに転居をされる予定先があれば、その自治体名を教えてください。(具体的に)

これから避難解除までの間、今の場所から移動(転居)したい回答者(514 人)に、転居予定の自治体を聞いたところ、過半数は「福島県」(55.6%)と回答している。(図表 4-1-4①)

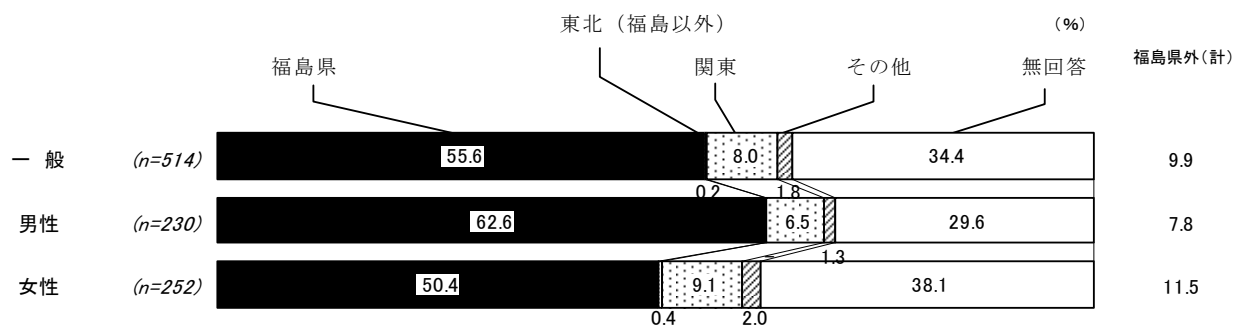
さらに、福島県を希望する回答者(286 人)に、具体的な市町村名を聞いたところ、「いわき市」が86.4%と大多数を占める。(図表 4-1-4②)

男女別に見ると、「福島県」(男性 62.6%、女性 50.4%)という回答者は、女性より男性に多くなっている。(図表 4-1-4①)

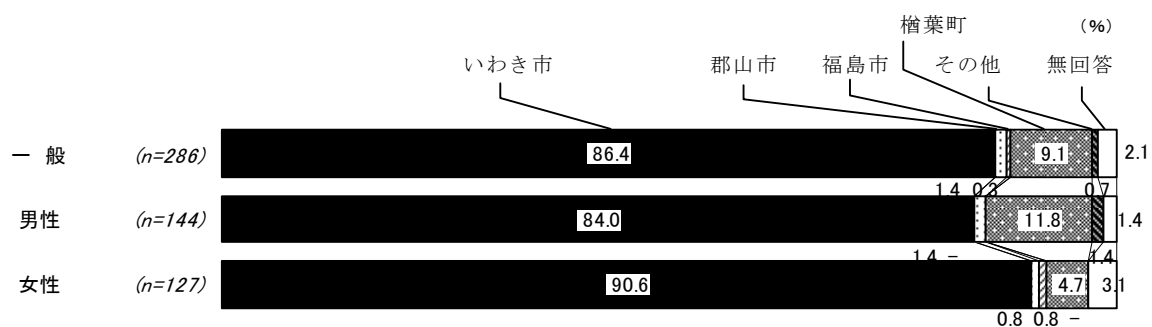
さらに県内市町村を見ると、男女とも「いわき市」(男性 84.0%、女性 90.6%)を希望する回答者が最も多く、特に女性では9割を占めている。「檜葉町」(同 11.8%、4.7%)への転居希望者は女性より男性に、やや多くなっている。(図表 4-1-4②)

図表 4-1-4 避難期間中の転居予定先(男女別)

①都道府県

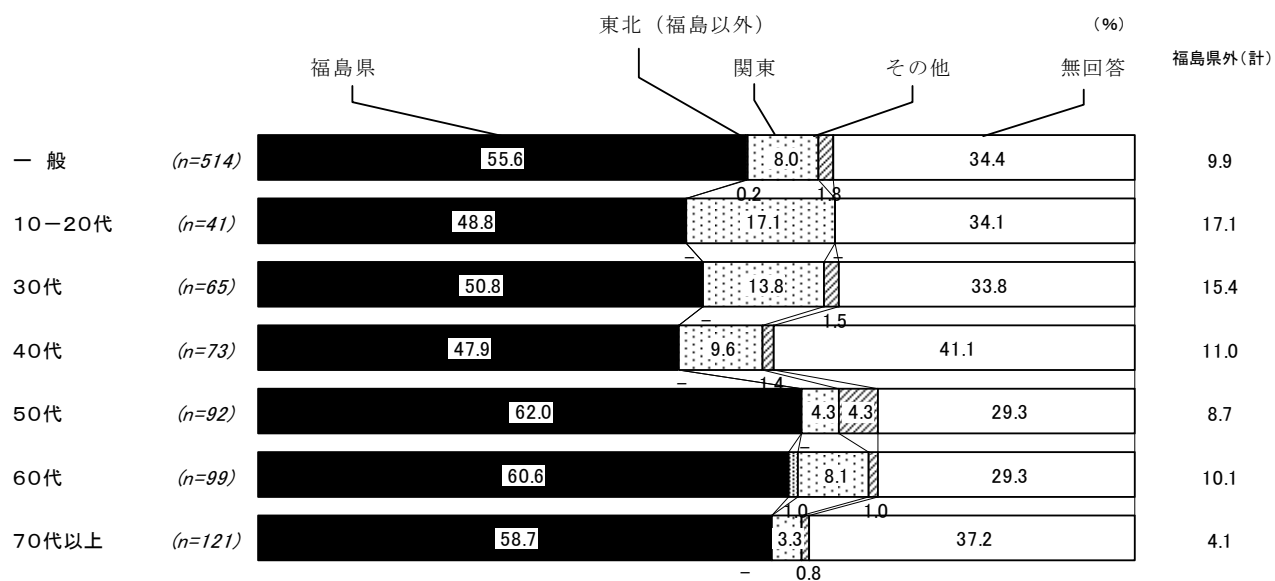


②福島県内



年代別に見ると、「福島県」内での転居希望者は50代以上では6割前後であるが、40代以下では5割前後となっている。(図表4-1-5)

図表 4-1-5 避難期間中の転居予定先(年代別)



2)避難期間中に希望する住居形態

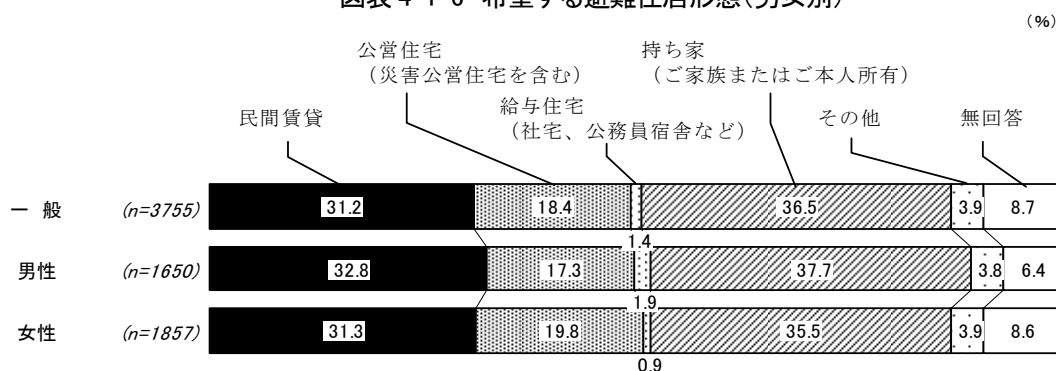
問 17 避難期間中の生活において居住を希望する住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方ですか。

(1)所有形態(○は1つ)

高校生以外の一般住民(3,755 人)に、これからの避難期間中の生活において希望する住居の所有形態を聞いたところ、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」を希望する回答者が 36.5%で最も多く、次いで「民間賃貸」が 31.2%である。「公営住宅(災害公営住宅を含む)」を希望するという回答者は 18.4%となっている。(図表 4-1-6)

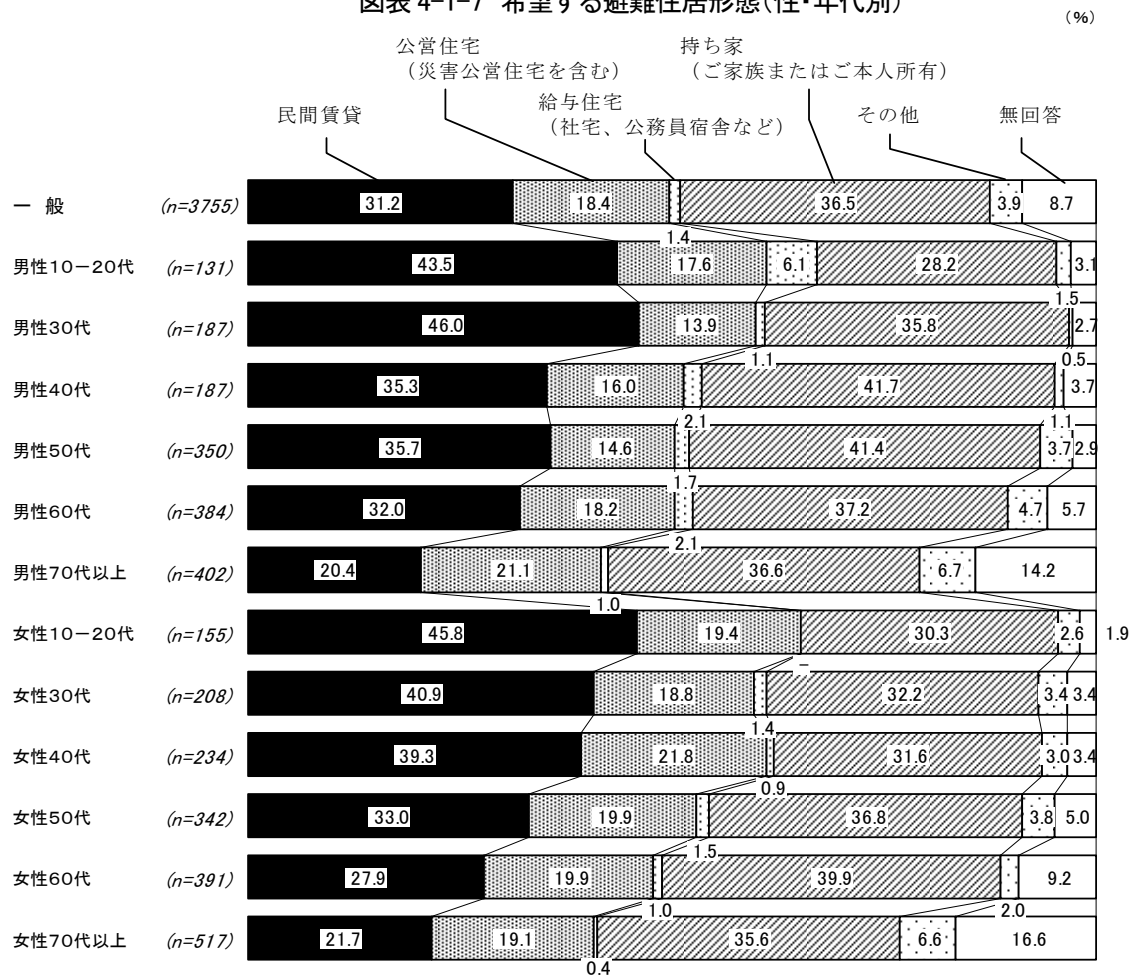
男女別に見ても、差はみられない。(図表 4-1-6)

図表 4-1-6 希望する避難住居形態(男女別)



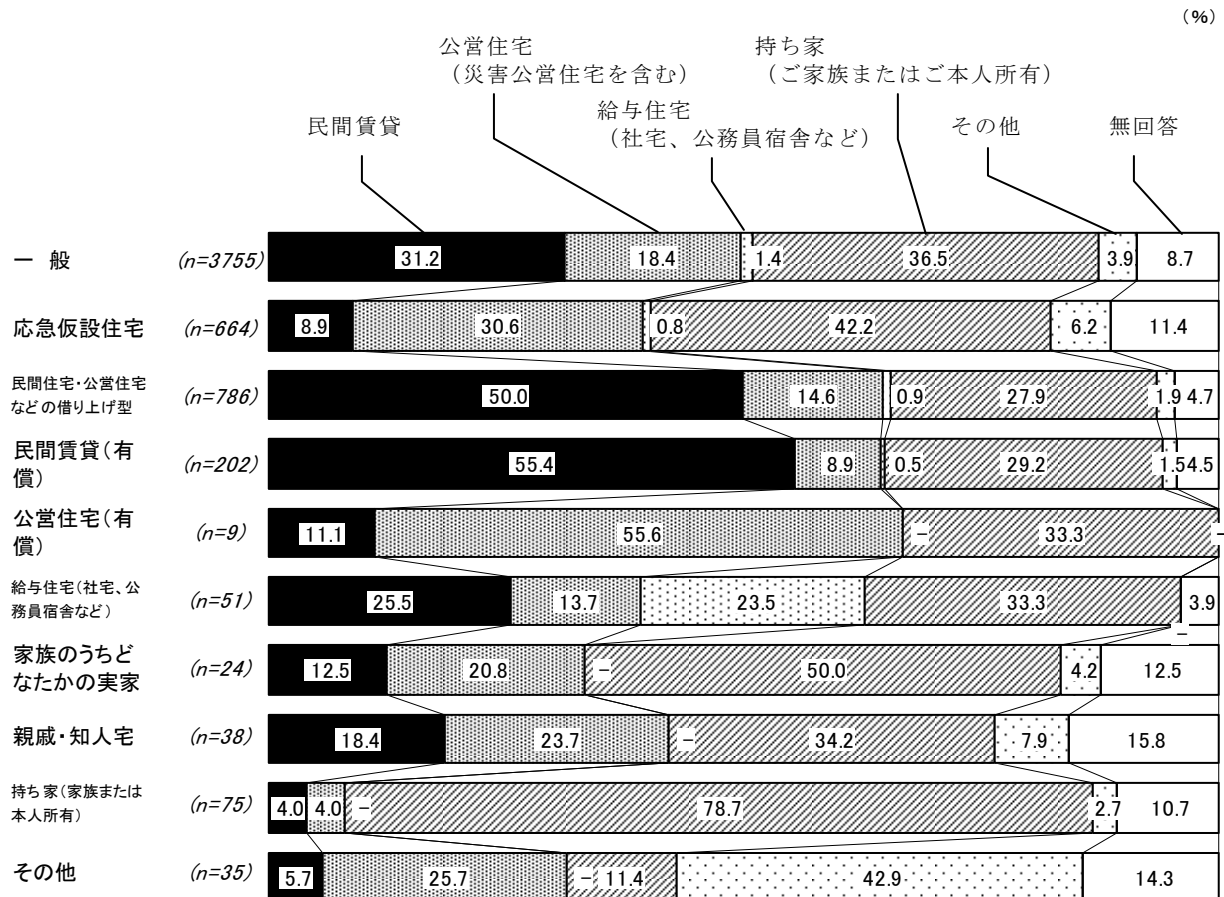
性・年代別に見ると、「民間賃貸」は若年齢層ほど希望者が多く、男性の 30 代以下と女性の 40 代以下では「持ち家(ご家族またはご本人所有)」への入居希望者よりも多くなっている。(図表 4-1-7)

図表 4-1-7 希望する避難住居形態(性・年代別)



現在の住居形態別に見ると、応急仮設住宅入居者では 4 割以上が「持ち家(ご家族またはご本人所有)」(42.2%)を希望しているが、「公営住宅(災害公営住宅を含む)」への入居希望者も30.6%と、他の住居形態入居者より多くなっている。一方、現在、民間住宅・公営住宅の借り上げ型もしくは民間賃貸(有償)に入居している回答者は、半数以上が、今後の避難期間中にも「民間賃貸」(借り上げ型 50.0%、民間賃貸 55.4%)での生活を希望している。(図表 4-1-8)

図表 4-1-8 希望する避難住居形態(現在の住居形態別)



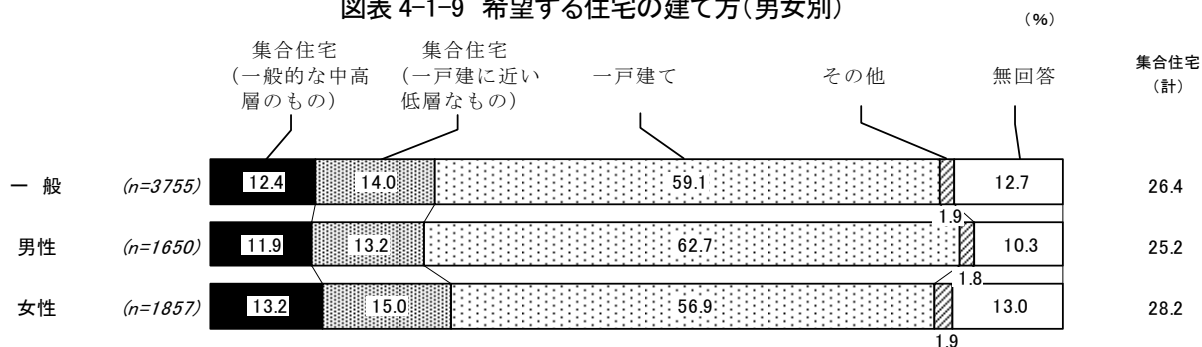
問 17 避難期間中の生活において居住を希望する住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方ですか。

(2)住宅の建て方(○は1つ)

高校生以外の一般住民(3,755 人)に、これからの避難期間中の生活において希望する住宅の建て方を聞いたところ、「一戸建て」(59.1%)という回答者が 6 割を占めている。「集合住宅(一戸建に近い低層なもの)」(14.0%)もしくは「集合住宅(一般的な中高層のもの)」(12.4%)と回答した『集合住宅(計)』を希望する人は 26.4%である。(図表 4-1-9)

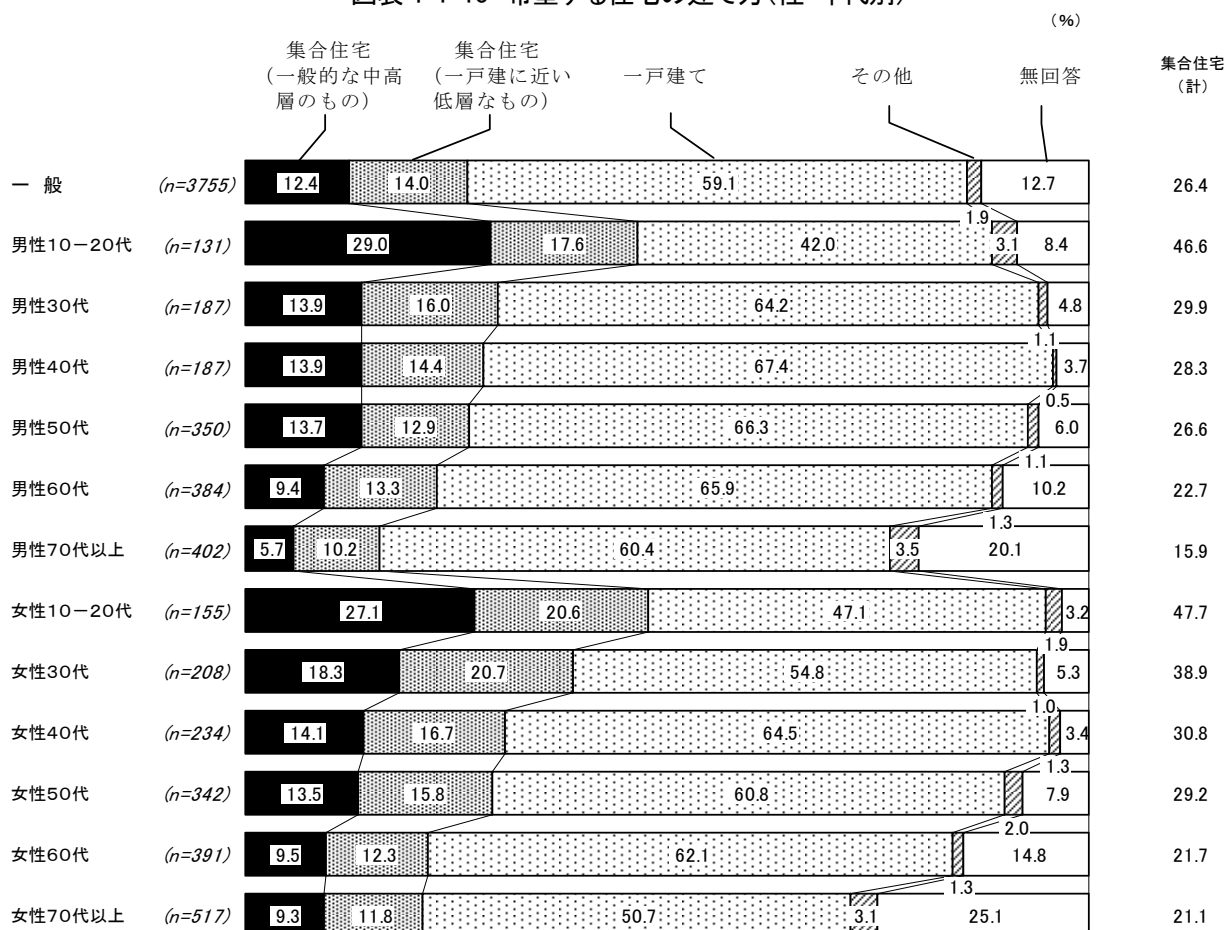
男女別に見ると、男女とも「一戸建て」(男性 62.7%、女性 56.9%)を希望する人が多数を占めるが、女性より男性の希望が強くなっている。(図表 4-1-9)

図表 4-1-9 希望する住宅の建て方(男女別)



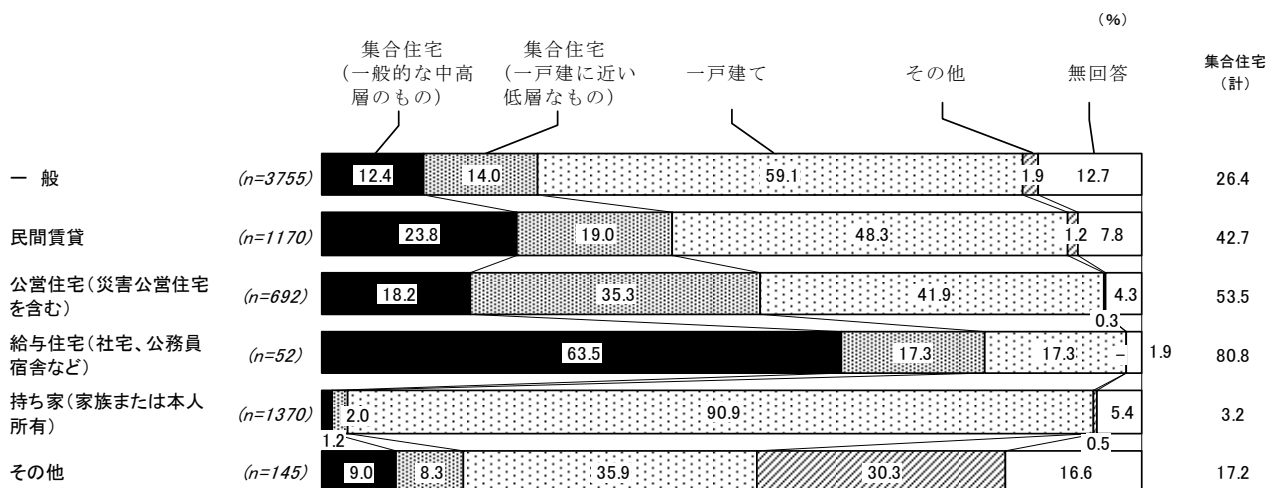
性・年代別に見ると、いずれの層でも「一戸建て」を希望する人が多数を占めるが、「集合住宅(一戸建に近い低層なもの)」もしくは「集合住宅(一般的な中高層のもの)」を希望する回答者は、若年層に多い傾向があり、男女とも 10～20 代では『集合住宅(計)』希望者が「一戸建て」を上回っている。(図表 4-1-10)

図表 4-1-10 希望する住宅の建て方(性・年代別)



希望する住居の所有形態別に見ると、民間賃貸住宅を希望する回答者の約半数は「一戸建て」(48.3%)を希望しており、「集合住宅(一般的な中高層のもの)」希望は 23.8%である。一方、公営住宅(災害公営住宅を含む)を希望する回答者でも「一戸建て」の希望が 41.9%と最も多くなっているが、次いで「集合住宅(一戸建に近い低層なもの)」への希望が 35.3%と、民間賃貸への入居希望者よりも低層建築を希望し、『集合住宅(計)』希望者が過半数となっている。(図表 4-1-11)

図表 4-1-11 希望する住宅の建て方(希望する住居の所有形態別)



(2) 高校卒業後の進路

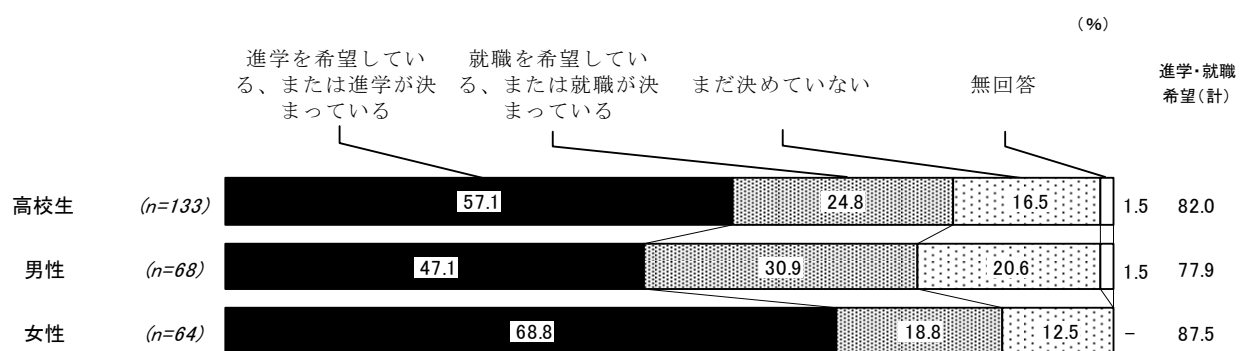
1) 高校卒業後の進路

問 5(高校生) あなたは、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。(○は1つ)

高校生(133 人)に、高校卒業後の進路を聞いたところ、「進学を希望している、または進学が決まっている」という回答者が 57.1%で最も多く、次いで「就職を希望している、または就職が決まっている」者が 24.8%、「まだ決めていない」という者が 16.5%である。(図表 4-2-1)

男女別に見ると、「進学を希望している、または進学が決まっている」(男性 47.1%、女性 68.8%)という高校生は男性より女性に、「就職を希望している、または就職が決まっている」(同 30.9%、18.8%)と「まだ決めていない」(同 20.6%、12.5%)という高校生は女性より男性に、それぞれ多くなっている。(図表 4-2-1)

図表 4-2-1 高校卒業後の進路(男女別)



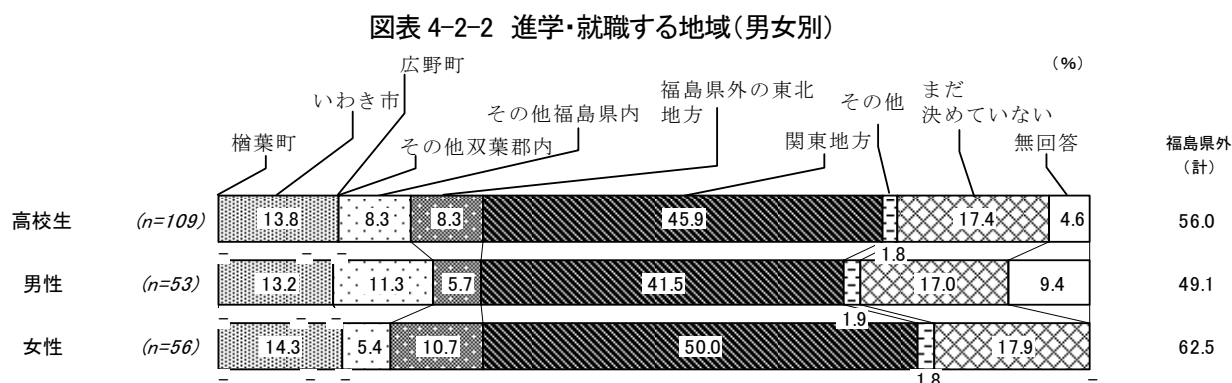
2) 進学・就職する地域

【問5で「1 進学を希望している、または進学が決まっている」「2 就職を希望している、または就職が決まっている」と回答した方にうかがいます。】

問6(高校生) あなたは、どの地域への進学や就職を希望していますか。すでに卒業後の進学先や就職先が決まっている方は、その場所を教えてください。(○は1つ)

高校生のうち「進学を希望している、または進学が決まっている」もしくは「就職を希望している、または就職が決まっている」という回答者(109人)に進学・就職先を聞いたところ、「いわき市」(13.8%)、「その他福島県内」など『福島県内』で進学・就職する人は2割程度で、過半数は『福島県外(計)』に進学・就職すると回答している。(図表4-2-2)

男女別に見ると、男性の41.5%、女性の50.0%は、「関東」と回答しており、卒業後の進学・就職先が『福島県外(計)』である高校生は、女性の方が多くなっている。(図表4-2-2)



3) 震災による進路希望の変化

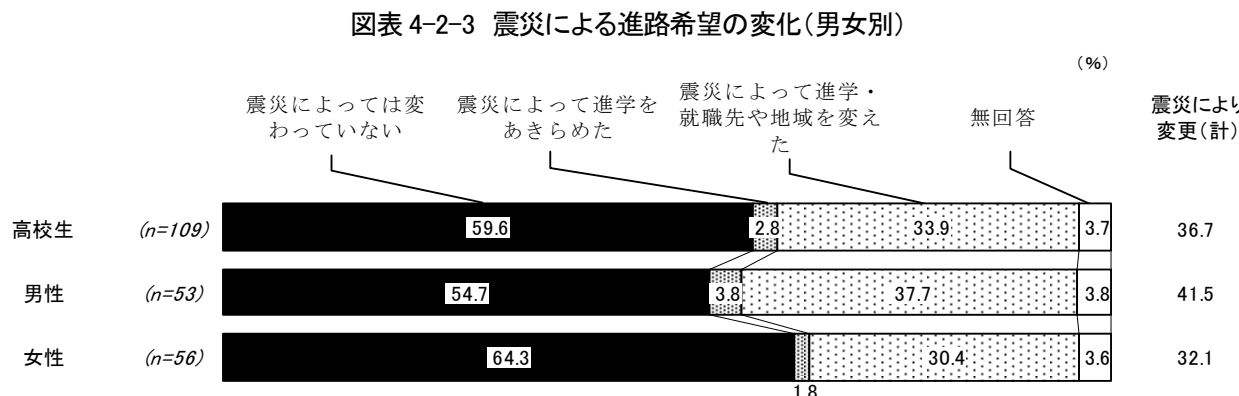
【問5で「1 進学を希望している、または進学が決まっている」「2 就職を希望している、または就職が決まっている」と回答した方にうかがいます。】

問7(高校生) その進路の希望は震災によって変わりましたか(○は1つ)

進学もしくは就職意向のある高校生(109人)に、震災により進路の希望が変化したかどうかを聞いたところ、「震災によって進学・就職先や地域を変えた」という回答者は33.9%で、6割は「震災によってとは変わっていない」(59.6%)と回答している。(図表4-2-3)

3名は、「震災によって進学をあきらめた」(2.8%)と回答している。(図表4-2-3)

男女別に見ると、男女とも「震災によってとは変わっていない」(男性54.7%、女性64.3%)という高校生が最も多いが、男性より女性に多く、男子では4割近くが「震災によって進学・就職先や地域を変えた」(37.7%)と回答している。(図表4-2-3)



(3) 檜葉町への帰還意向

問 18 将来、檜葉町の避難指示が解除され、戻ることができるようになった場合、あなたは檜葉町に戻りますか。(〇は1つ)

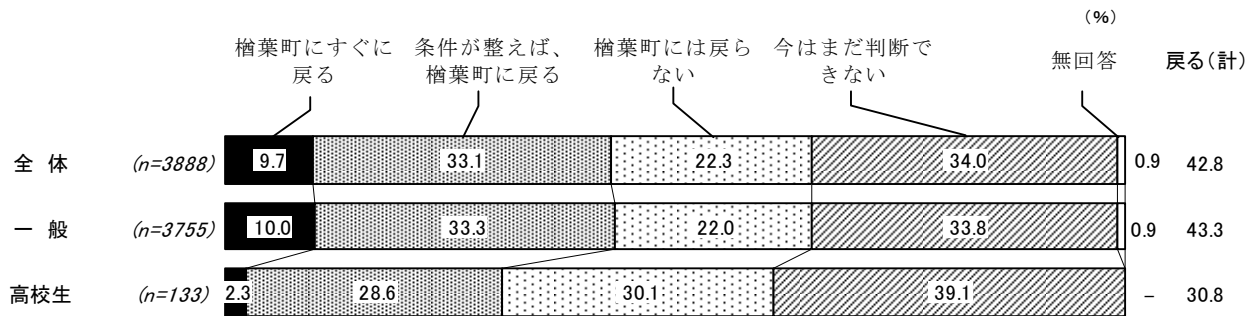
問 8(高校生) 将来、檜葉町の避難指示が解除され、戻ることができるようになった場合、あなたは檜葉町に戻りたいと思いますか。

(〇は1つ)

将来、避難指示が解除された際の檜葉町への帰還意向を聞いたところ、「檜葉町にすぐに戻る」という回答者は 9.7%で、「条件が整えば、檜葉町に戻る」(33.1%)という回答者を合わせると、『檜葉町に戻る』という“帰還意向”のある人はほぼ 4 割強(42.8%)である。一方、「檜葉町には戻らない」という回答者は 22.3%で、約 3 人に 1 人は「今はまだ判断できない」(34.0%)と回答している。(図表 4-3-1)

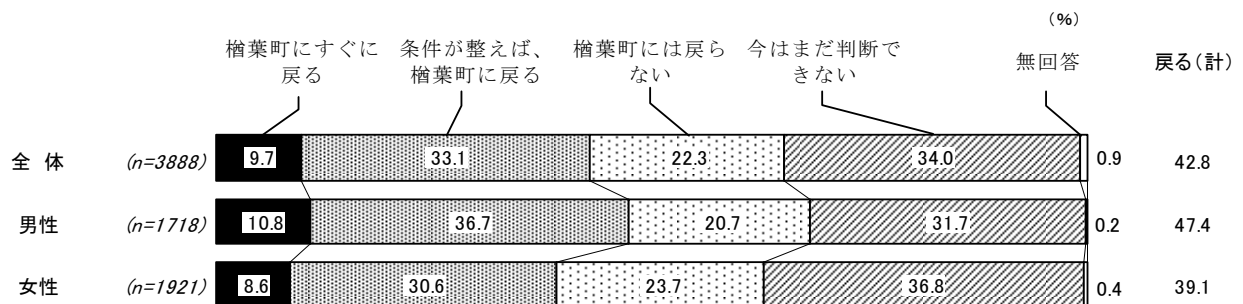
高校生(133 人)にしぼって帰還意向を見ると、「檜葉町にすぐに戻りたい」という回答者は 2.3%にとどまり、「条件が整えば、檜葉町に戻りたい」(28.6%)という回答者を合わせた“帰還意向”のある高校生は 3 割で、「檜葉町には戻りたくない」(30.1%)、「今はまだ判断できない」(39.1%)など、帰還意向が分散している。(図表 4-3-1)

図表 4-3-1 檜葉町への帰還意向



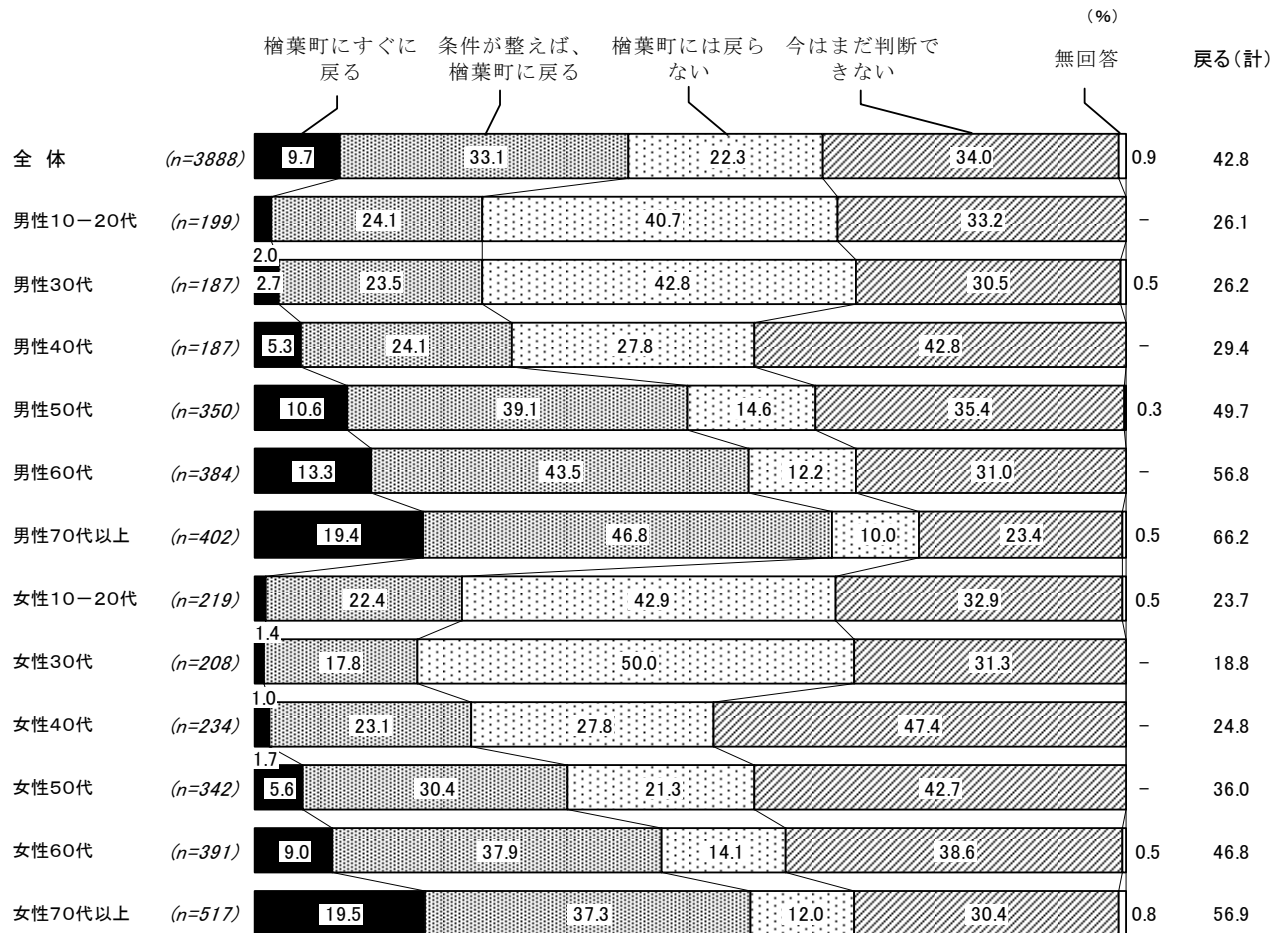
男女別に見ると、「条件が整えば、檜葉町に戻る」(男性 36.7%、女性 30.6%)という回答者は女性より男性に多く、帰還意向が強くなっている。(図表 4-3-2)

図表 4-3-2 檜葉町への帰還意向(男女別)



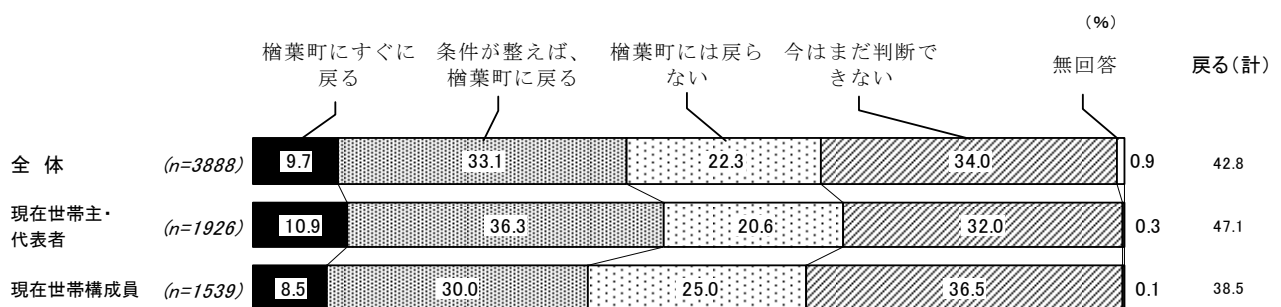
性・年代別に見ると、“帰還意向”は男女とも年齢の高い層ほど強い傾向がある。特に男女とも70代以上では、避難指示が解除されたら「檜葉町にすぐに戻る」(男性19.4%、女性19.5%)という、強い帰還意向を持った回答者が2割程度となっている。(図表4-3-3)

図表 4-3-3 檜葉町への帰還意向(性・年代別)



現在の世帯での立場別に見ると、『檜葉町に戻る』との回答は、世帯主または代表者では47.1%で、世帯構成員(38.5%)に比べて“帰還意向”が強くなっている。(図表4-3-4)

図表 4-3-4 檜葉町への帰還意向(現在の世帯での立場別)



(4) 帰還後の檜葉町に必要なもの

【問 18 で「1 檜葉町にすぐに戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 19 檜葉町に戻った時に、町内に必要なものは何ですか。最も必要と思うものから、3番目に必要と思うものまでを、それぞれ1つずつ教えてください。(○は1つずつ)

高校生以外の一般住民のうち、檜葉町の避難指示が解除された場合「檜葉町にすぐに戻る」という人(375 人)に、檜葉町に戻った時に町内に必要なものを聞いた。

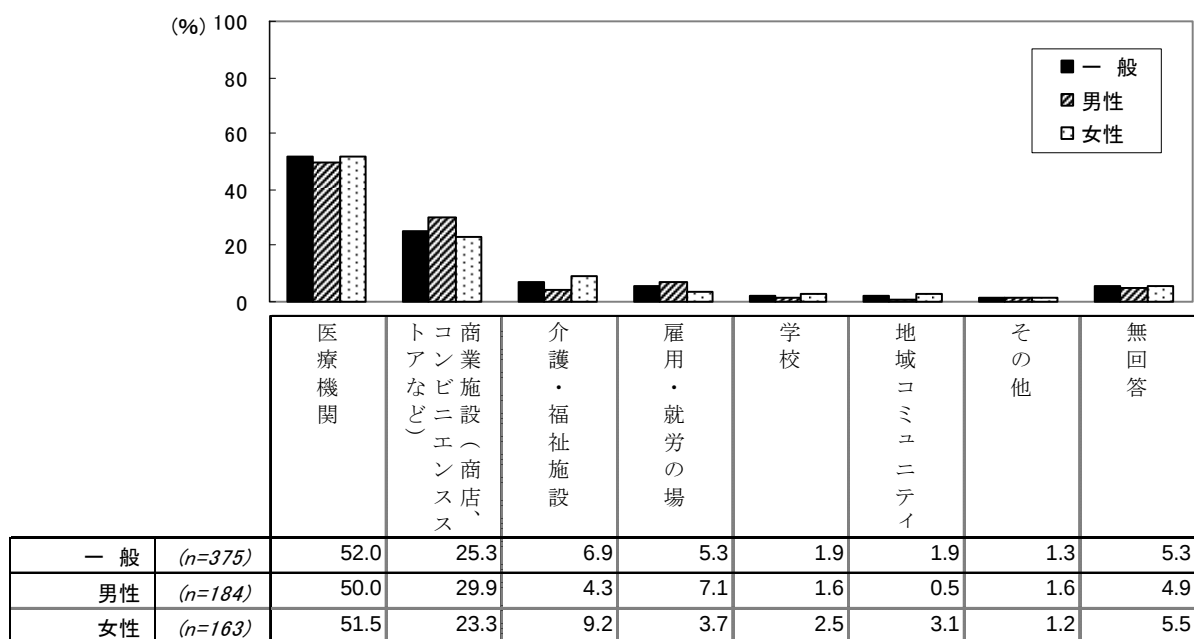
最も必要なものとしては「医療機関」(52.0%)が、2 番目に必要なものとしては「商業施設(商店、コンビニエンスストアなど)」(35.7%)が、3 番目に必要なものとしては「地域コミュニティ」(22.1%)があげられている。(図表 4-4-1)

図表 4-4-1 帰還後の檜葉町に必要なもの

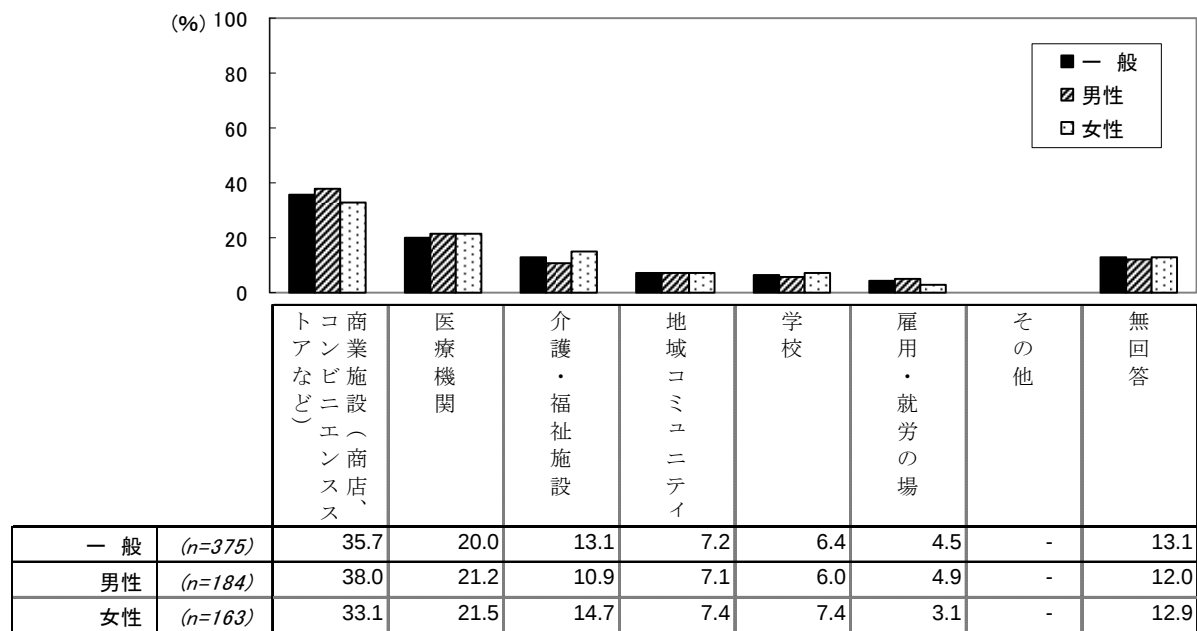
		(%)							
		医療機関	商業施設 (商店、 コンビニエンス ストアなど)	介護・福 祉施設	雇用・就 労の場	学校	地域コ ミュニ ティ	その他	無回答
1 番目	(n=375)	52.0	25.3	6.9	5.3	1.9	1.9	1.3	5.3
2 番目	(n=375)	20.0	35.7	13.1	4.5	6.4	7.2	-	13.1
3 番目	(n=375)	9.1	14.9	18.4	8.3	3.7	22.1	2.1	21.3

男女別に見ると、帰還後の檜葉町に必要なものの第 1 位から第 3 位までの順位に、大きな差はみられない。(図表 4-4-2～4-4-4)

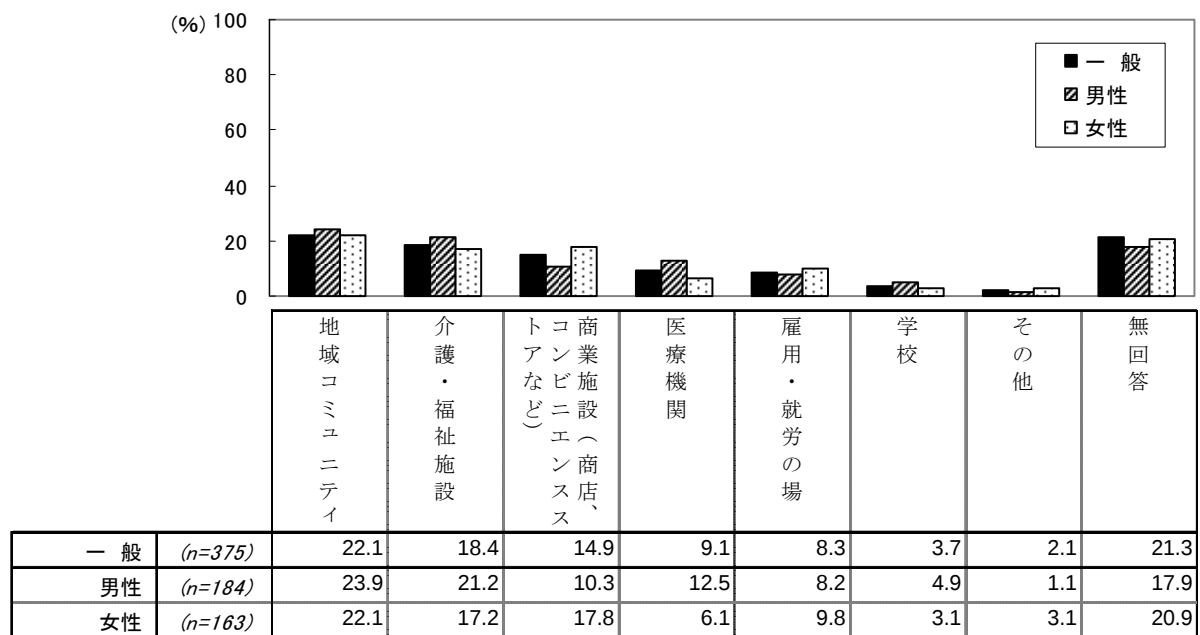
図表 4-4-2 帰還後の檜葉町に必要なもの:第1位(男女別)



図表 4-4-3 帰還後の檜葉町に必要なもの：第2位（男女別）



図表 4-4-4 帰還後の檜葉町に必要なもの：第3位（男女別）



(5) 帰還時に行政に要望する支援

【問 18 で「1 檜葉町にすぐに戻る」と回答した方にうかがいます。】

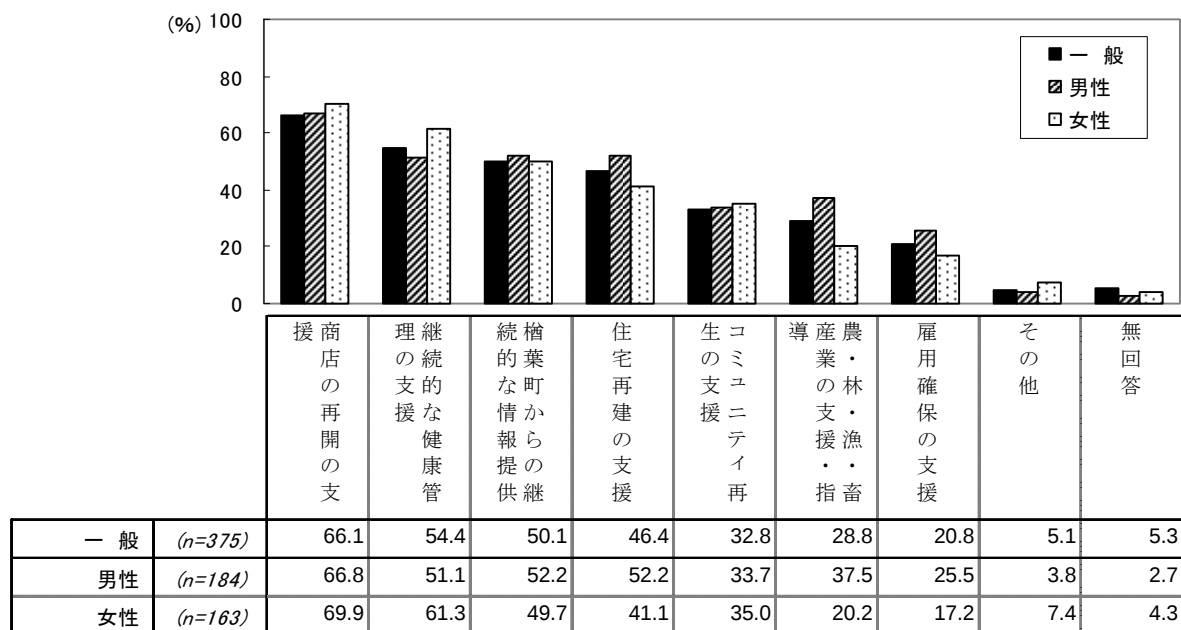
問 20 避難指示が解除され檜葉町に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。あてはまるものをすべて教えてください。

(○はいくつでも)

高校生以外の一般住民のうち、檜葉町の避難指示が解除された場合「檜葉町にすぐに戻る」という回答者(375 人)が行政に望む支援としては、「商店の再開の支援」が 66.1%で最も多く、次いで「継続的な健康管理の支援」(54.4%)、「檜葉町からの継続的な情報提供」(50.1%)、「住宅再建の支援」(46.4%)などの順となっている。(図表 4-5-1)

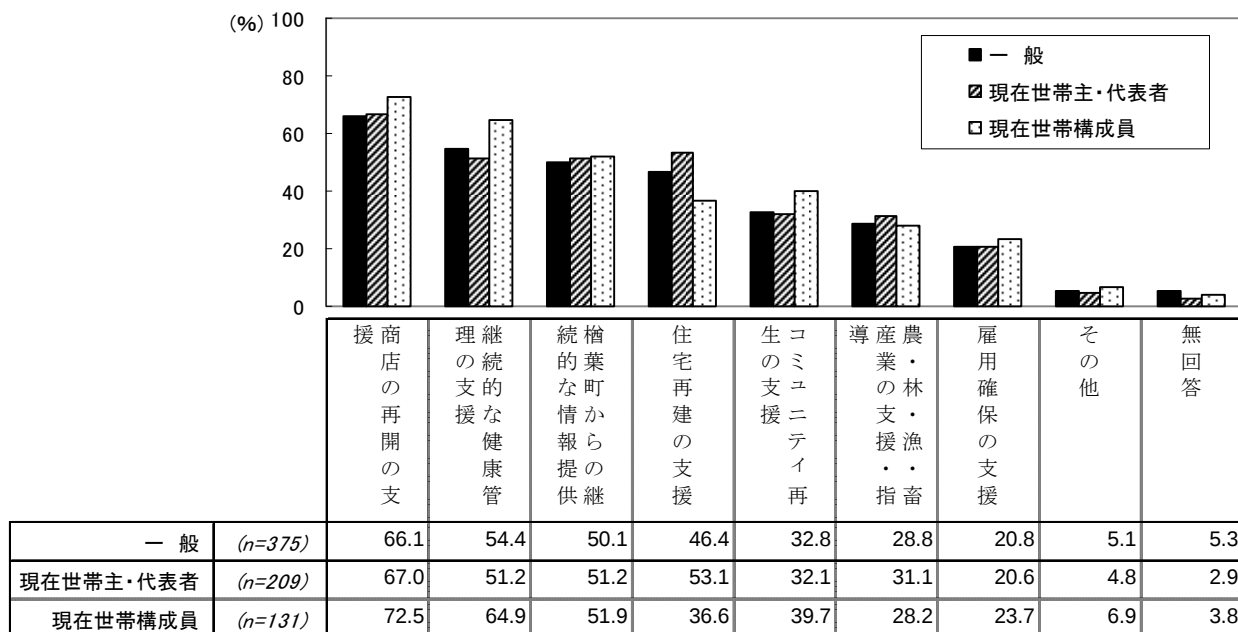
男女別に見ると、要望する順位に差はみられないが、「住宅再建の支援」(男性 52.2%、女性 41.1%)、「農・林・漁・畜産業の支援・指導」(同 37.5%、20.2%)、「雇用確保の支援」(同 25.5%、17.2%)などは女性より男性に、「継続的な健康管理の支援」(同 51.1%、61.3%)は男性より女性に、それぞれより強く要望されている。(図表 4-5-1)

図表 4-5-1 帰還時に行政に要望する支援(男女別)



現在の世帯での立場別に見ると、世帯主もしくは代表者では「商店の再開の支援」(67.0%)に次いで「住宅再建の支援」(53.1%)への要望が強くなっているが、世帯構成員の場合は、「商店の再開の支援」(72.5%)に次いで「継続的な健康管理の支援」(64.9%)が上位にあげられ、要望の強さに差がみられる。(図表 4-5-2)

図表 4-5-2 帰還時に行政に要望する支援(現在の世帯での立場別)



(6) 帰還のための必要条件

【問 18 で「2 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 21 避難指示が解除された際のあなたの考えを教えてください。

檜葉町に戻る条件として、最も必要と思うものから、3 番目に必要と思うものまでを、それぞれ1つずつ教えてください。

(○は1つずつ)

【問 8 で「2 条件が整えば、檜葉町に戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問9(高校生) 檜葉町に戻る条件として、特に必要と思うものを3つまで教えてください。(○は3つまで)

檜葉町の避難指示が解除された場合、「条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した人(1,288 人)が、帰還のための条件として必要だと考えるものを聞いた。高校生以外の一般住民(1,250 人)には、最も必要な条件から 3 番目に必要だと思う条件を聞いている。

一般住民が、帰還の条件として最も必要だと考えるのは、「放射線量が低下すること」(36.8%)で、4 割近くがあげている。2 番目の条件としては「水道水などの生活用水が安全であることが確認されること」(16.8%)が、3 番目としては「町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること」(20.6%)が、それぞれ最も多くあげられている。(図表 4-6-1)

図表 4-6-1 帰還のための必要条件(一般)

(%)

		放射線量が低下すること	原子力発電所の安全性が確保されること	水道水などの生活用水が安全であることが確認されること	医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	交通インフラ（道路、公共交通機関）が整備されること	災害公営住宅が整備されること	他の住民がある程度戻ること	檜葉町もしくは檜葉町から通勤できる範囲での雇用が確保されること	町内の学校が再開されること	その他	無回答
1 番目	(n=1250)	36.8	19.4	12.2	6.4	5.3	5.2	2.9	2.9	2.6	1.7	1.9	2.6
2 番目	(n=1250)	10.2	14.8	16.8	11.9	10.7	5.6	4.0	3.5	4.2	3.5	0.6	14.2
3 番目	(n=1250)	2.8	2.9	11.4	13.4	20.6	5.4	3.2	9.0	4.1	3.4	0.9	23.0

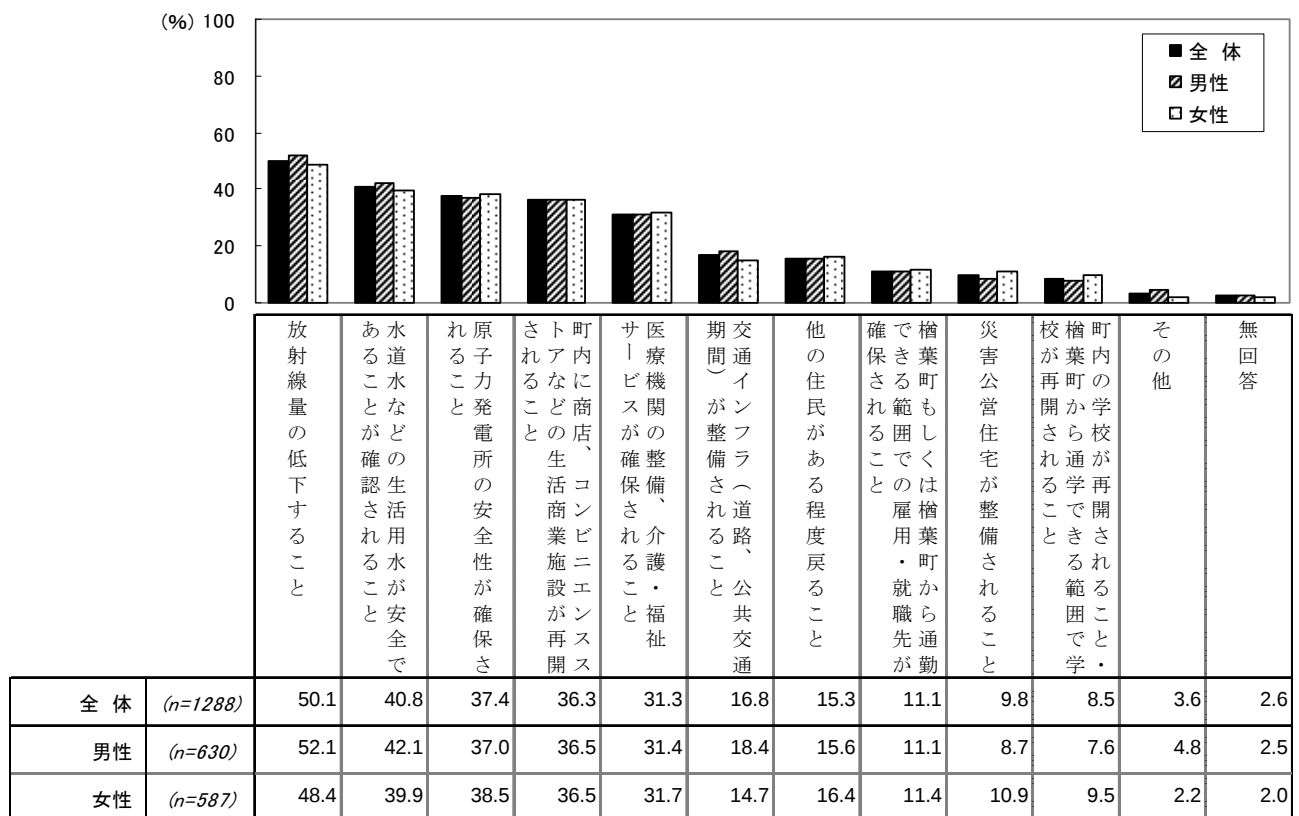
「条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した高校生(38人)を合わせて、一般住民についても3つまでの複数回答として集計したところ、帰還の条件としては「放射線量が低下すること」が50.1%で最も多くあげられ、以下「水道水などの生活用水が安全であることが確認されること」(40.8%)、「原子力発電所の安全性が確保されること」(37.4%)、「町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること」(36.3%)、「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること(高校生:医療機関が整備されること)」(31.3%)の順となっている。(図表4-6-2)

図表 4-6-2 帰還のための必要条件(複数回答)

		(%)											
		放射線量の低下すること	水道水などの生活用水が安全であることが確認されること	原子力発電所の安全性が確保されること	町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	他の住民がある程度戻ること	檜葉町もしくは檜葉町から通勤できる範囲での雇用・就職先が確保されること	災害公営住宅が整備されること	町内の学校が再開されること・檜葉町から通学できる範囲で学校が再開されること	その他	無回答
全 体	(n=1288)	50.1	40.8	37.4	36.3	31.3	16.8	15.3	11.1	9.8	8.5	3.6	2.6
一 般	(n=1250)	49.8	40.5	37.1	36.6	31.7	16.2	15.4	10.9	10.1	8.6	3.4	2.6
高校生	(n=38)	60.5	52.6	47.4	28.9	18.4	36.8	10.5	7.9	18.4	-	10.5	2.6

男女別に見ても、差はみられない。(図表4-6-3)

図表 4-6-3 帰還のための必要条件(複数回答)(男女別)



年代別にみると、いずれの年齢層でも、帰還の条件として「放射線量が低下すること」が最も多くあげられており、特に40代(57.6%)では6割近い。その他、上位項目は、多少順位の違いはあるものの「水道水などの生活用水が安全であることが確認されること」「町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること」「原子力発電所の安全性が確保されること」「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること(高校生:医療機関が整備されること)」となっているが、10～20代だけは、「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること(高校生:医療機関が整備されること)」に代わって「交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること」(26.8%)が上位に入っている。(図表4-6-4)

図表4-6-4 帰還のための必要条件(複数回答)(年代別)

(%)

		放射線量の低下すること	水道水などの生活用水が安全であることが確認されること	原子力発電所の安全性が確保されること	町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	交通インフラ（道路、公共交通機関）が整備されること	他の住民がある程度戻ること	檜葉町もしくは檜葉町から通勤できる範囲での雇用・就職先が確保されること	災害公営住宅が整備されること	町内の学校が再開されること・檜葉町から通学できる範囲で学校が再開されること	その他	無回答
全体	(n=1288)	50.1	40.8	37.4	36.3	31.3	16.8	15.3	11.1	9.8	8.5	3.6	2.6
10－20代	(n=97)	54.6	49.5	41.2	35.1	20.6	26.8	10.3	21.6	3.1	10.3	5.2	2.1
30代	(n=86)	52.3	33.7	38.4	32.6	36.0	16.3	22.1	19.8	7.0	16.3	5.8	－
40代	(n=99)	57.6	37.4	43.4	32.3	28.3	20.2	16.2	17.2	10.1	13.1	4.0	1.0
50代	(n=244)	53.3	39.8	37.7	39.3	30.3	11.9	16.4	16.8	11.5	9.4	5.3	1.2
60代	(n=325)	47.1	40.0	41.2	35.4	26.8	16.9	15.1	8.0	13.5	9.5	1.8	2.2
70代以上	(n=403)	47.1	42.2	32.0	37.0	37.2	16.6	15.6	4.5	8.2	4.0	2.7	4.7

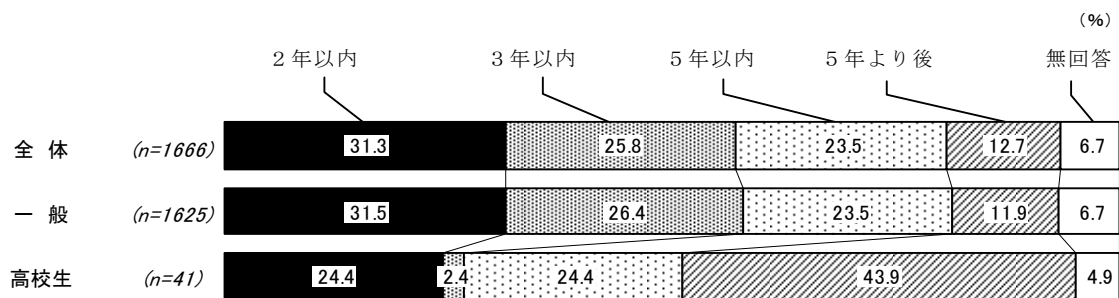
(7) 帰還までの猶予年数

【問 18 で「1 檜葉町にすぐに戻る」「2 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 22 檜葉町に戻る場合、現時点から何年以内に戻りたいとお考えですか。(○は 1 つ)(高校生:問 10)

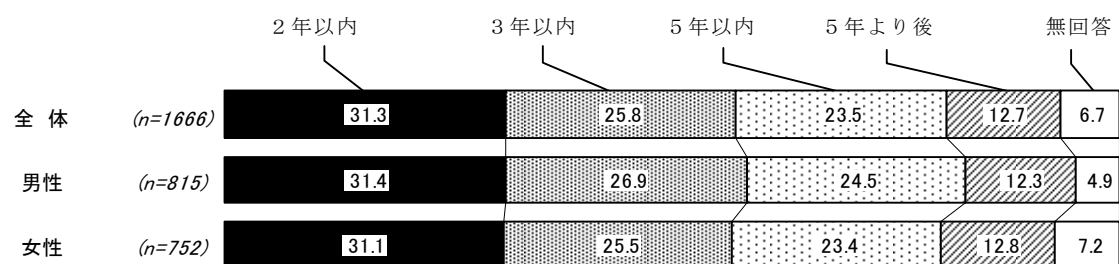
檜葉町の避難指示が解除された場合、「檜葉町にすぐに戻る」もしくは「条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した人(1,666 人)に、何年以内に戻りたいかを聞いたところ、「2 年以内」(31.3%)、「3 年以内」(25.8%)、「5 年以内」(23.5%)、「5 年より後」(12.7%)の順となっており、早期の帰還を希望している。(図表 4-7-1)

図表 4-7-1 檜葉町への帰還意向



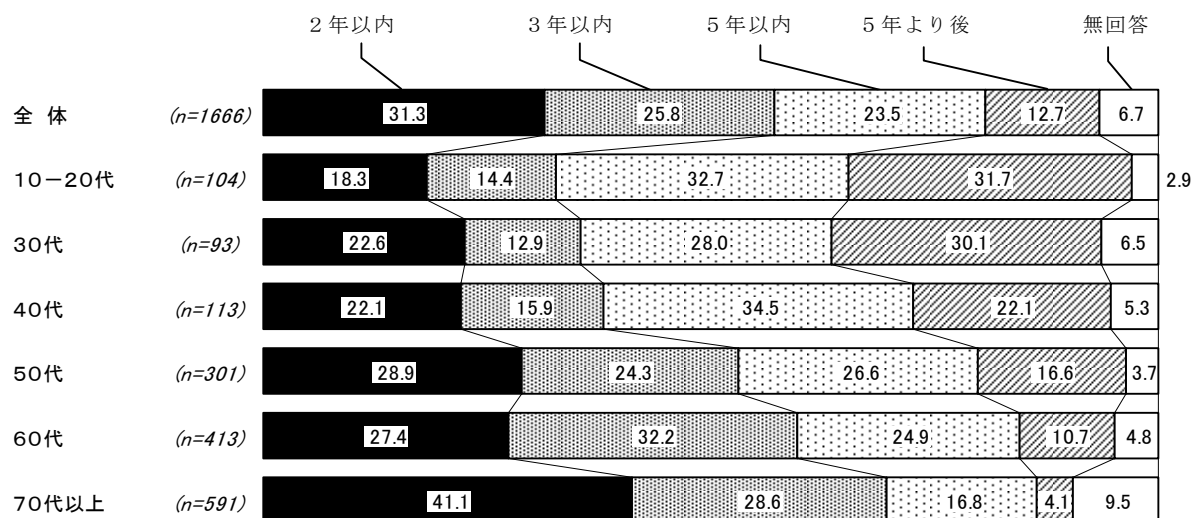
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 4-7-2)

図表 4-7-2 帰還までの猶予年数(男女別)



年代別にみると、「5年より後」と、長期間の避難を想定している回答者は、若年齢層に多く、30代以下では3割を上回っている。(図表 4-7-3)

図表 4-7-3 帰還までの猶予年数(年代別)



(8)帰還後の町内での事業再開

1) 帰還後の町内での事業再開意向

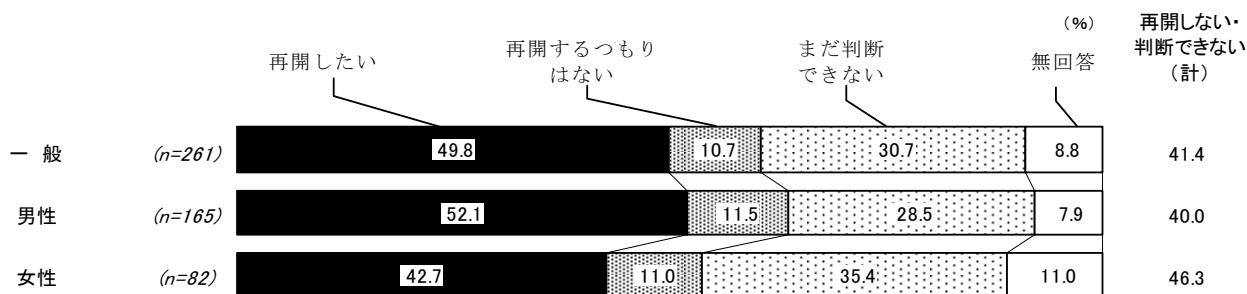
【問 18 で「1 檜葉町にすぐに戻る」「2 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答し、避難前に自営業(農・林・漁・畜産業、商業等)をされていた方にうかがいます。】

問 23(1) 避難指示が解除になって戻った場合、町内で事業を再開したいと思いますか。(○は1つ)

高校生以外の一般住民のうち、檜葉町の避難指示が解除された場合に“帰還意向”がある、震災発生当時の自営業者(261 人)に、事業再開意向を聞いたところ、半数は「再開したい」(49.8%)と回答している。一方、30.7%は「まだ判断できない」と回答している。(図表 4-8-1)

男女別に見ると、「再開したい」(男性 52.1%、女性 42.7%)という意向を持つ回答者は男性で過半数と、女性より多くなっている。(図表 4-8-1)

図表 4-8-1 帰還後の町内での事業再開意向(男女別)



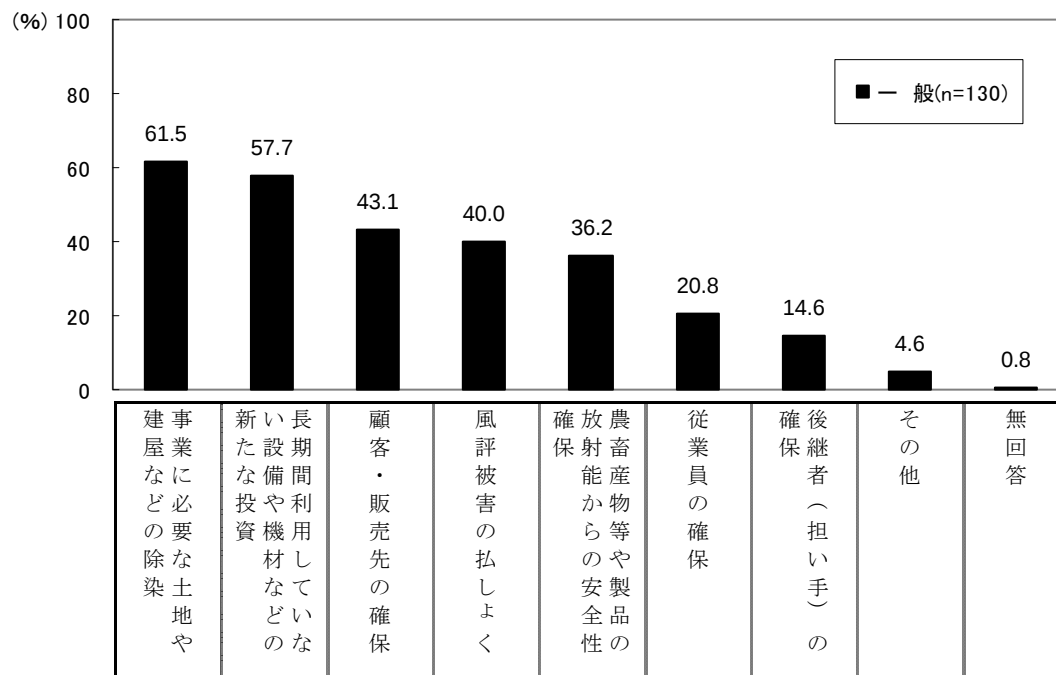
2) 事業再開の課題

【問 23(1)で「1 再開したい」と回答した方にうかがいます。】

問 23(2) 町内で事業を再開する際の課題があれば教えてください。(○はいくつでも)

高校生以外の一般住民のうち、帰還後に町内で事業再開意向がある震災発生当時の自営業者(130 人)の、事業再開にあたっての課題としては、「事業に必要な土地や建屋などの除染」が 61.5%で最も多くあげられ、「長期間利用していない設備や機材などの新たな投資」(57.7%)、「顧客・販売先の確保」(43.1%)、「風評被害の払しょく」(40.0%)、「農畜産物や製品の放射能からの安全性確保」(36.2%)などがあげられている。(図表 4-8-2)

図表 4-8-2 事業再開の課題



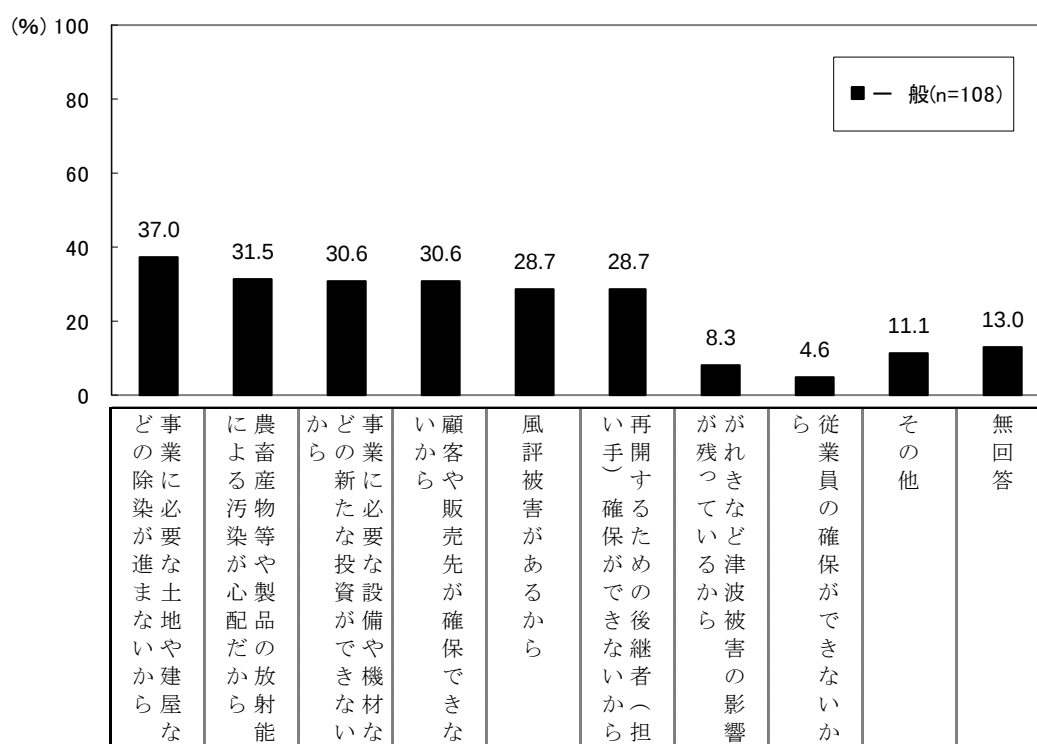
3) 事業を再開しない理由

【問 23(1)で「2 再開するつもりはない」「3 まだ判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問23(3) 事業を再開しない理由、判断できない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

高校生以外の一般住民のうち、帰還後に町内で事業を「再開するつもりはない」もしくは「まだ判断できない」と回答した震災発生当時の自営業者(108 人)の理由としては、「事業に必要な土地や建屋などの除染が進まないから」が37.0%で最も多くあげられ、次いで「農畜産物や製品の放射能による汚染が心配だから」(31.5%)、「事業に必要な設備や機材などの新たな投資ができないから」(30.6%)、「顧客や販売先が確保できないから」(30.6%)、「風評被害があるから」(28.7%)、「再開するための後継者(担い手)確保ができないから」(28.7%)が3割前後である。(図表4-8-3)

図表 4-8-3 事業を再開しない理由



(9) 檜葉町に帰還しない理由

【問18で「3 檜葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問24「檜葉町には戻らない」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

【問8で「3 檜葉町には戻りたくない」と回答した方にうかがいます。】

問11(高校生)「檜葉町には戻りたくない」と答えた理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

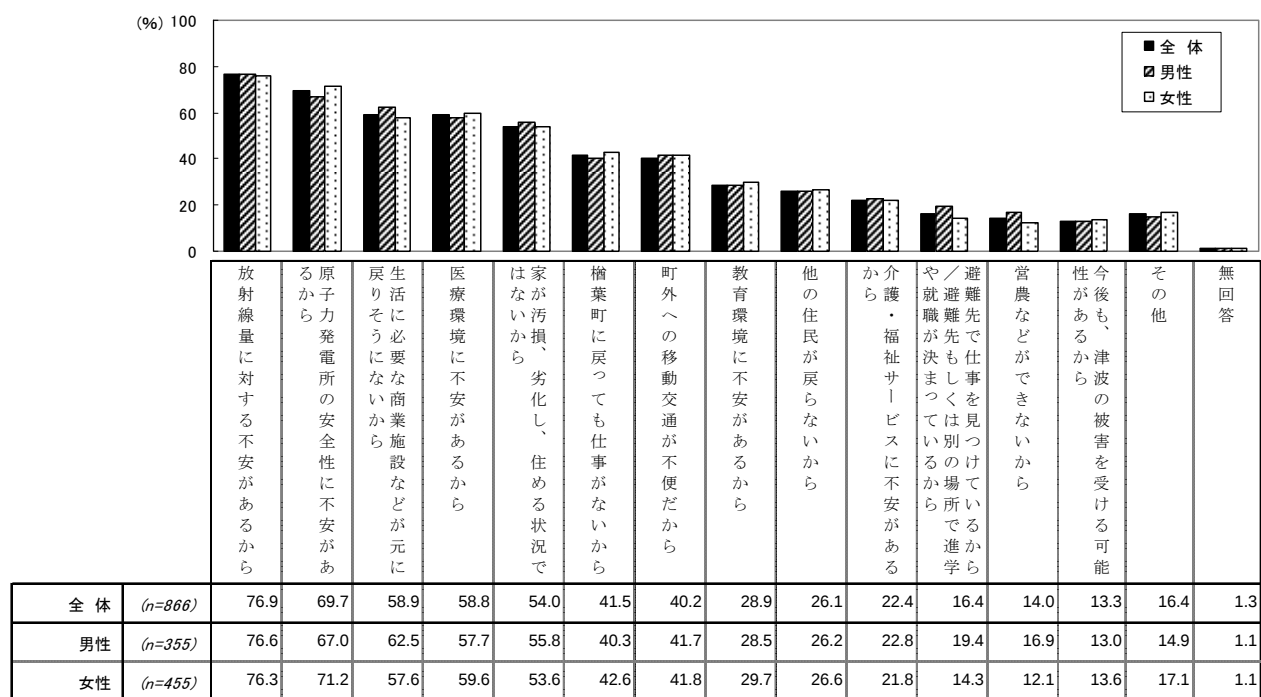
檜葉町の避難指示が解除された場合にも「檜葉町には戻らない」という回答者(866人)が、帰還しない理由としては、「放射線量に対する不安があるから」が76.9%で最も多くあげられ、以下「原子力発電所の安全性に不安があるから」(69.7%)、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」(58.9%)、「医療環境に不安があるから」(58.8%)、「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」(54.0%)などの順にあげられている。(図表4-9-1)

図表4-9-1 檜葉町に帰還しない理由

		放射線量に対する不安があるから	原子力発電所の安全性に不安があるから	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから	医療環境に不安があるから	家が汚損、劣化し、住める状況ではないから	檜葉町に戻っても仕事がないから	町外への移動交通が不便だから	教育環境に不安があるから	他の住民が戻らないから	介護・福祉サービスに不安があるから	避難先で仕事を見つけているから／避難先もしくは別の場所から就職が決まっているから	営農などができないから	今後、津波の被害を受ける可能性があるから	その他	無回答
全体	(n=866)	76.9	69.7	58.9	58.8	54.0	41.5	40.2	28.9	26.1	22.4	16.4	14.0	13.3	16.4	16.4
一般	(n=826)	76.8	69.7	59.2	59.3	53.8	40.6	39.7	30.3	26.0	22.4	15.6	14.6	13.6	17.1	1.3
高校生	(n=40)	80.0	70.0	52.5	47.5	60.0	60.0	50.0	22.5	27.5	-	32.5	-	7.5	2.5	-

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表4-9-2)

図表4-9-2 檜葉町に帰還しない理由(男女別)



年代別にみると、上位項目に大きな差はみられないが、60代で「医療環境に不安があるから」(70.9%)と「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」(61.2%)、「営農などができないから」(38.8%)などが、他の年齢層より多くあげられている。一方、10～20代の若年齢層では、「檜葉町に戻っても仕事がないから」(58.4%)と「町外への移動交通が不便だから」(48.3%)が、他の年齢層より多くあげられている。また、「教育環境に不安があるから」は30～40代で、「介護・福祉サービスに不安があるから」は70代以上の年齢層で、それぞれ多くあげられている。(図表4-9-3)

図表 4-9-3 檜葉町に帰還しない理由(年代別)

		(%)															
		放射線量に対する不安があるから	原子力発電所の安全性に不安があるから	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから	医療環境に不安があるから	家が汚損、劣化し、住める状況ではないから	檜葉町に戻っても仕事がないから	町外への移動交通が不便だから	教育環境に不安があるから	他の住民が戻らないから	介護・福祉サービスに不安があるから	避難先で仕事を見つけては別な場所や職が決められないから	営農などができないから	今後、津波の被害を受け可能性があるから	その他	無回答	
全 体	(n=866)	76.9	69.7	58.9	58.8	54.0	41.5	40.2	28.9	26.1	22.4	16.4	14.0	13.3	16.4	16.4	
10－20代	(n=178)	80.9	69.7	57.3	46.6	54.5	58.4	48.3	23.0	28.7	18.0	28.7	5.6	16.9	13.5	13.5	
30代	(n=190)	77.9	69.5	58.9	57.4	49.5	47.4	37.9	50.5	25.3	12.1	22.6	8.4	13.7	14.7	14.7	
40代	(n=118)	83.1	66.9	62.7	60.2	54.2	34.7	39.0	45.8	26.3	21.2	16.9	9.3	11.9	17.8	17.8	
50代	(n=127)	74.8	73.2	65.4	62.2	53.5	46.5	43.3	21.3	22.8	26.8	8.7	18.9	13.4	17.3	17.3	
60代	(n=103)	75.7	71.8	56.3	70.9	61.2	28.2	40.8	13.6	32.0	25.2	4.9	38.8	10.7	14.6	14.6	
70代以上	(n=106)	62.3	67.0	55.7	63.2	54.7	15.1	37.7	6.6	22.6	40.6	3.8	13.2	10.4	18.9	18.9	

さらに、現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表4-9-4)

図表 4-9-4 檜葉町に帰還しない理由(現在の世帯での立場別)

																(%)
		放射線量に対する不安があるから	原子力発電所の安全性に不安があるから	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから	医療環境に不安があるから	家が汚損、劣化し、住める状況ではないから	檜葉町に戻っても仕事がないから	町外への移動交通が不便だから	教育環境に不安があるから	他の住民が戻らないから	介護・福祉サービスに不安があるから	避難先で仕事を見つけては別の場所や職が決まってしまうから	営農などができないから	今後、津波の被害を受ける可能性があるから	その他	無回答
全 体	(n=866)	76.9	69.7	58.9	58.8	54.0	41.5	40.2	28.9	26.1	22.4	16.4	14.0	13.3	16.4	16.4
現在世帯主・代表者	(n=396)	76.5	68.7	60.1	60.4	53.3	40.2	41.4	31.8	26.5	23.2	15.4	16.4	12.1	18.4	1.5
現在世帯構成員	(n=384)	76.8	70.8	58.9	58.1	54.9	39.8	40.1	28.6	24.7	20.6	15.1	12.2	14.6	15.4	0.5

(10) 今後の生活拠候補の自治体

【問 18 で「3 檜葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 25 今後の生活拠点としてどちらをお考えですか。自治体名を教えてください。

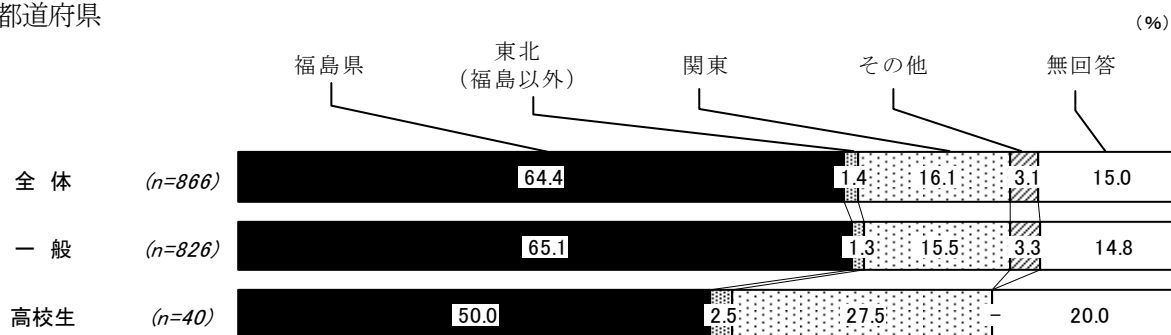
【問 8 で「3 檜葉町には戻りたくない」と回答した方にうかがいます。】

問 12(高校生) 今後、どこで生活したいと思いますか。自治体名を教えてください。

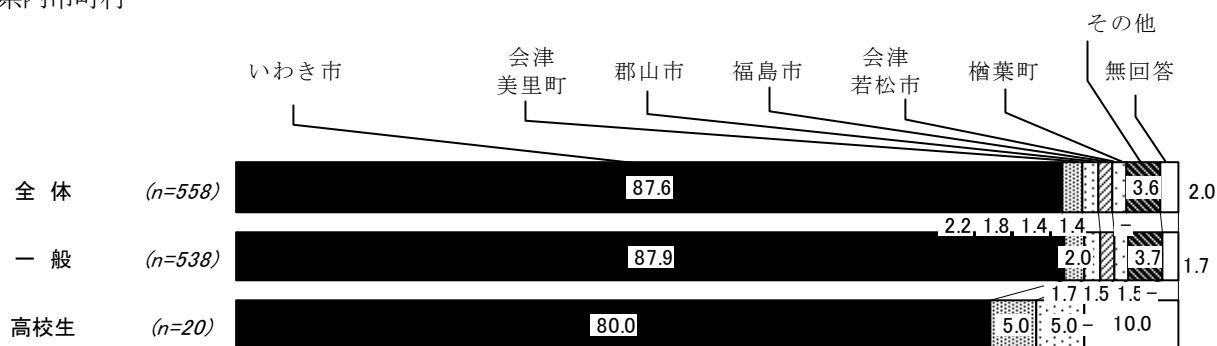
檜葉町の避難指示が解除された場合にも「檜葉町には戻らない」という回答者(866 人)の、今後の生活拠点として考える自治体は「福島県」が 64.4%を占め、県内(558 人)の中では、「いわき市」(87.6%)を 9 割近くが想定している。(図表 4-10-1①②)

図表 4-10-1 今後の生活拠候補の自治体

①都道府県



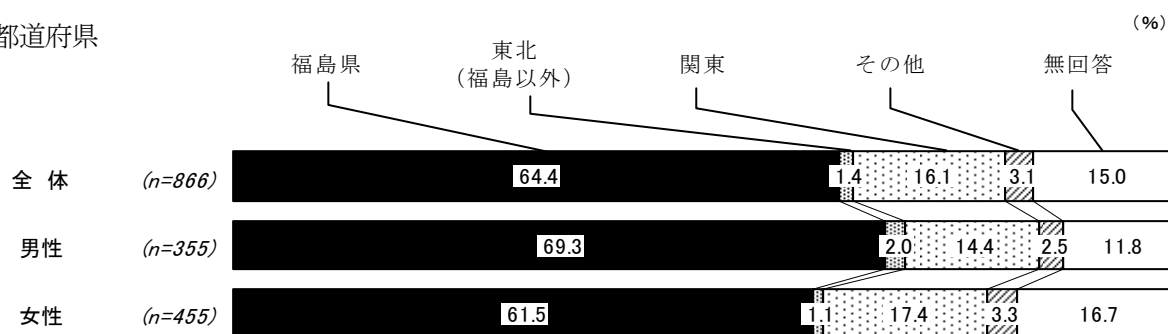
②県内市町村



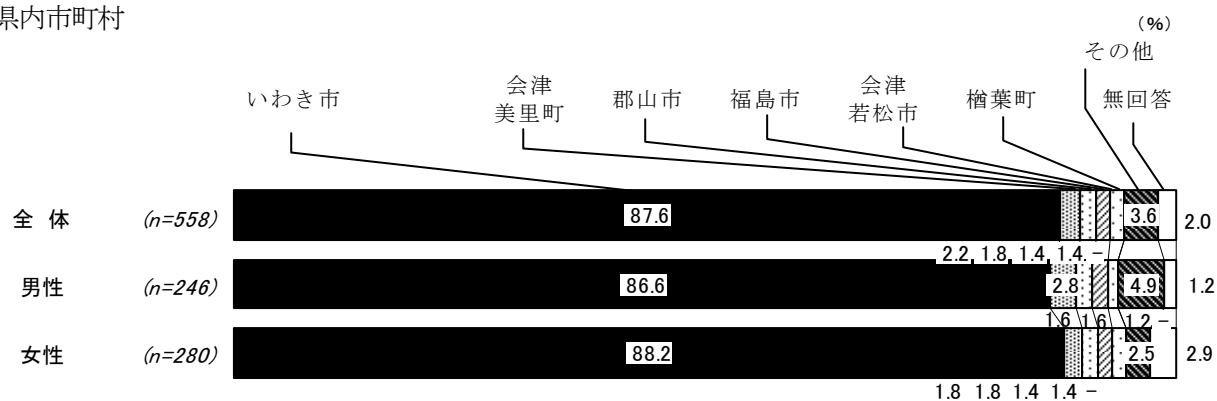
男女別に見ると、男女とも、檜葉町に戻らない場合も「福島県」(男性 69.3%、女性 61.5%)に居住したいと回答しており、その意向は女性より男性に強い。県内市町村の希望に、男女差は見られない。(図表 4-10-2①②)

図表 4-10-2 今後の生活拠候補の自治体(男女別)

①都道府県



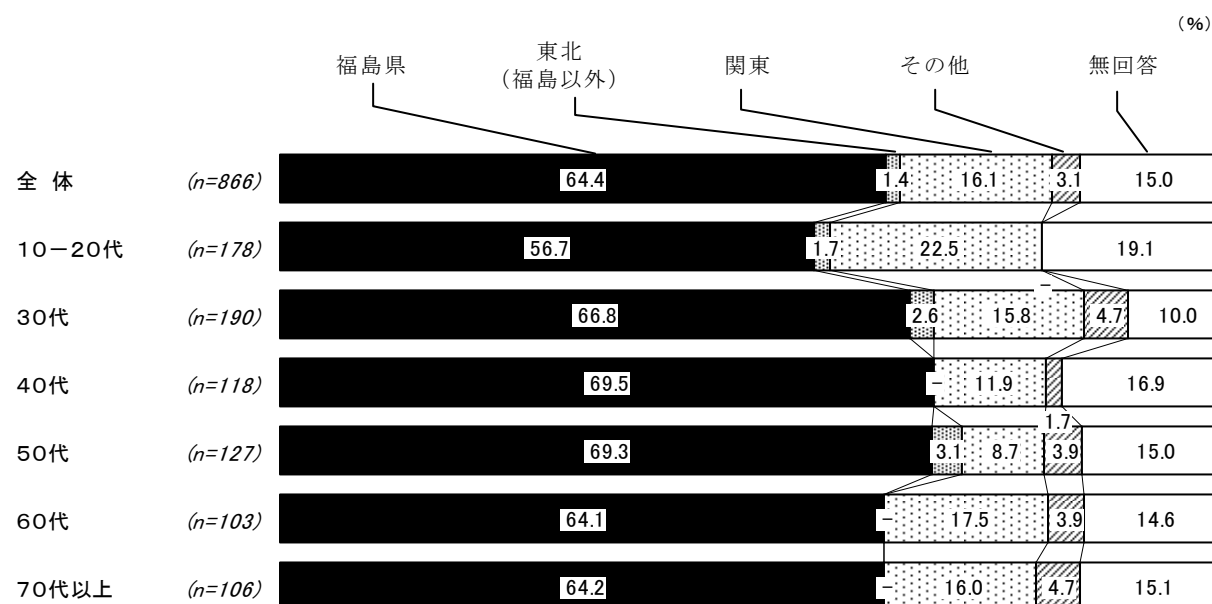
②県内市町村



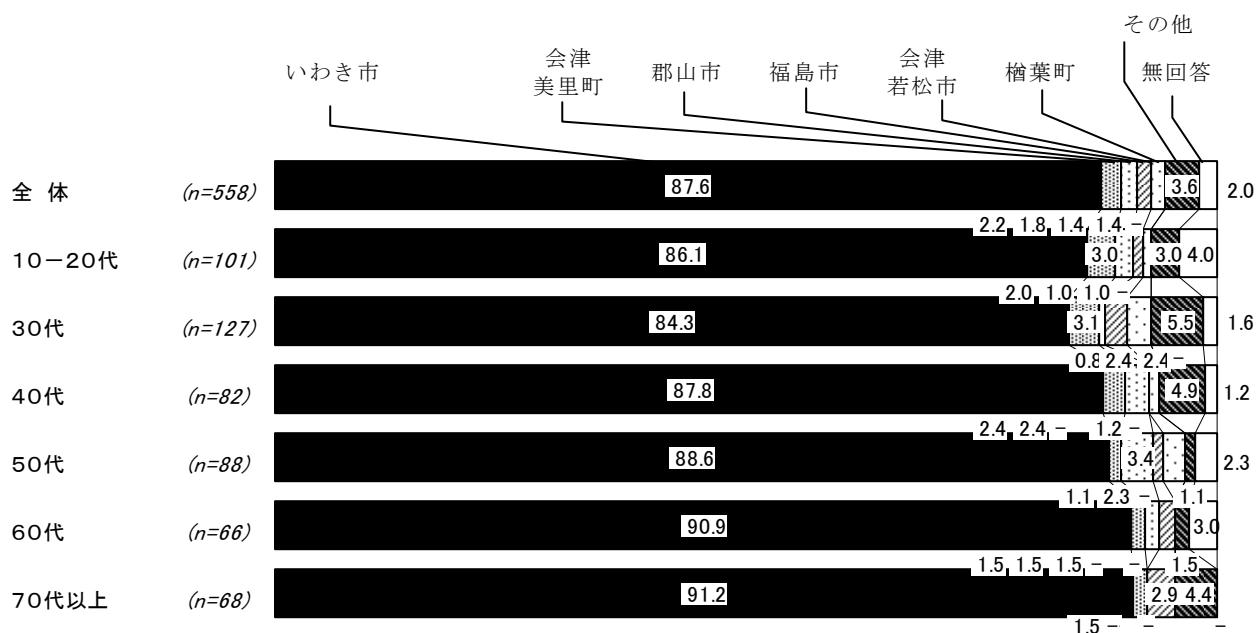
年代別にみると、いずれの年齢層でも「福島県」を希望する回答者が最も多くなっているが、若年齢層ほど「関東」での居住希望者が多く、10～20 代以下では 22.5%が「関東」と回答している。(図表 4-10-3①②)

図表 4-10-3 今後の生活拠候補の自治体(年代別)

①都道府県



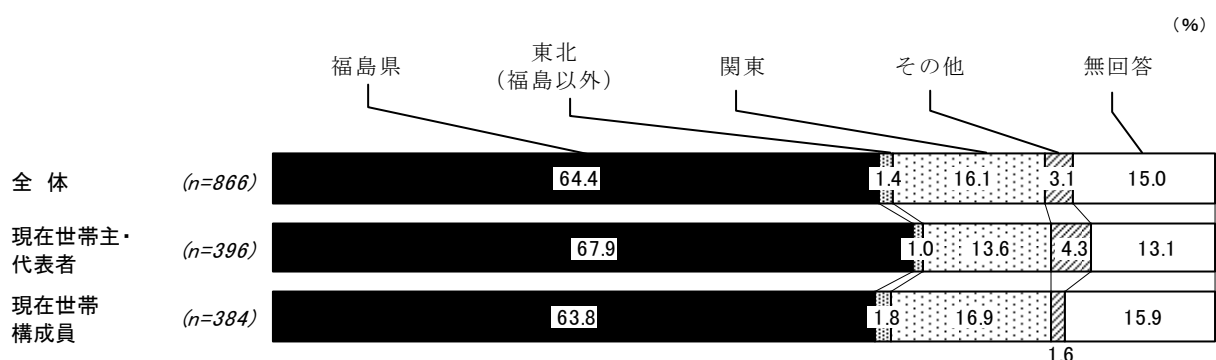
②県内市町村



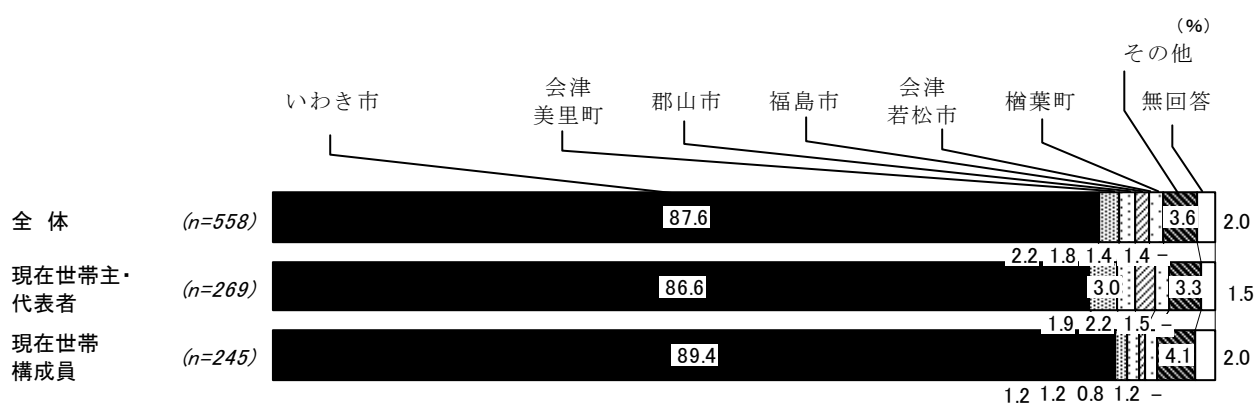
現在の世帯での立場別による差はみられない。(図表 4-10-4①②)

図表 4-10-4 今後の生活拠候補の自治体(現在の世帯での立場別)

①都道府県



②県内市町村



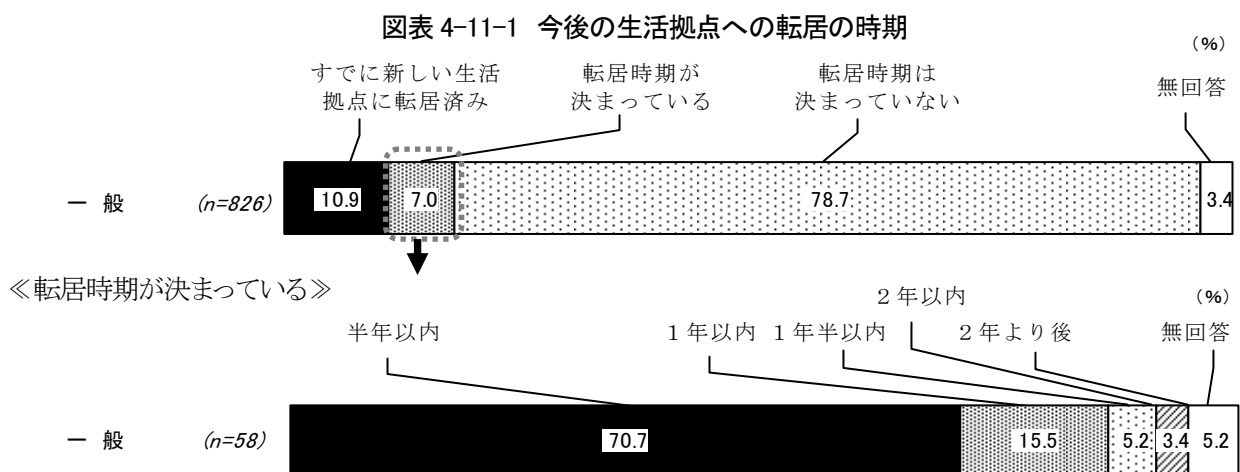
(11) 今後の生活拠点への転居の時期と判断のタイミング

【問 18 で「3 檜葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

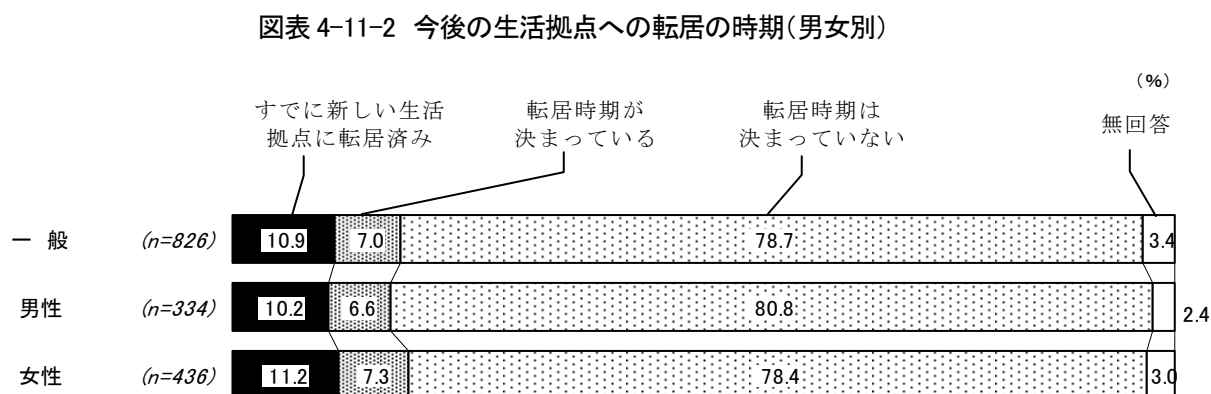
問 26(1) 檜葉町に戻らない場合に、今後の生活拠点に転居する時期は決まっていますか。(○は1つ)

高校生以外の一般住民のうち、檜葉町の避難指示が解除された場合にも「檜葉町には戻らない」という回答者(826人)に今後の生活拠点への転居の時期を聞いたところ、「転居時期は決まっていない」(78.7%)という回答者が多数を占め、「すでに新しい生活拠点に転居済み」(10.9%)もしくは「転居時期が決まっている」(7.0%)という回答者は1割程度になっている。(図表 4-11-1)

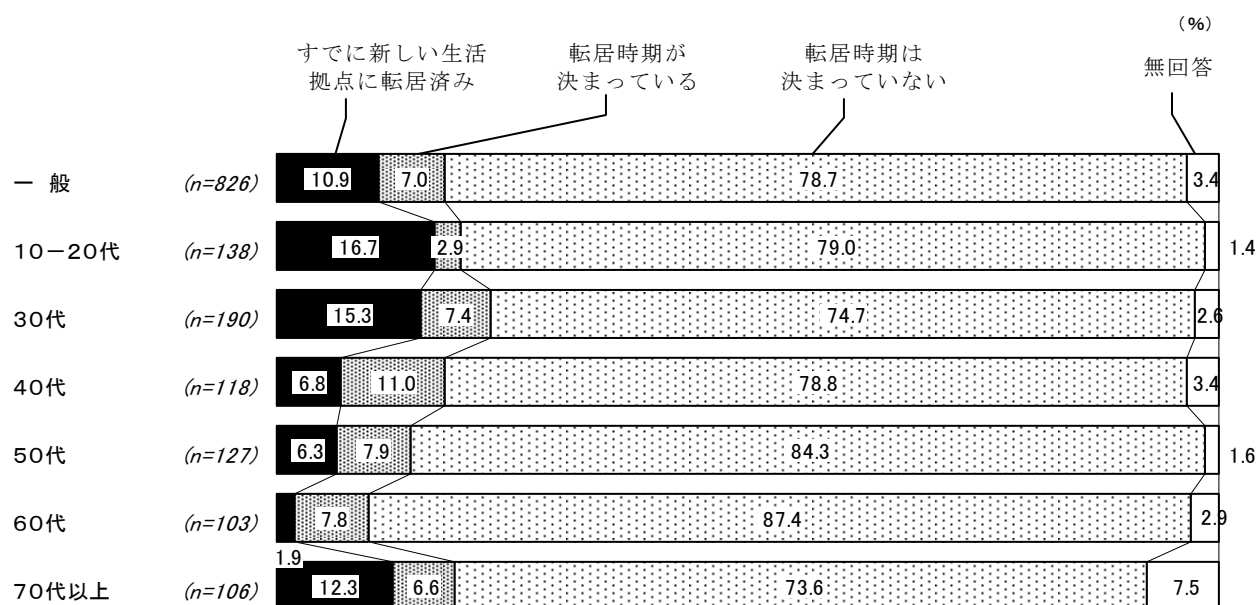
転居時期が決まっている回答者(58 人)の転居時期としては、「半年以内」(70.7%)が多数を占めている。(図表 4-11-1)



男女別にも、年代別にも、大きな差は見られない。(図表 4-11-2・図表 4-11-3)

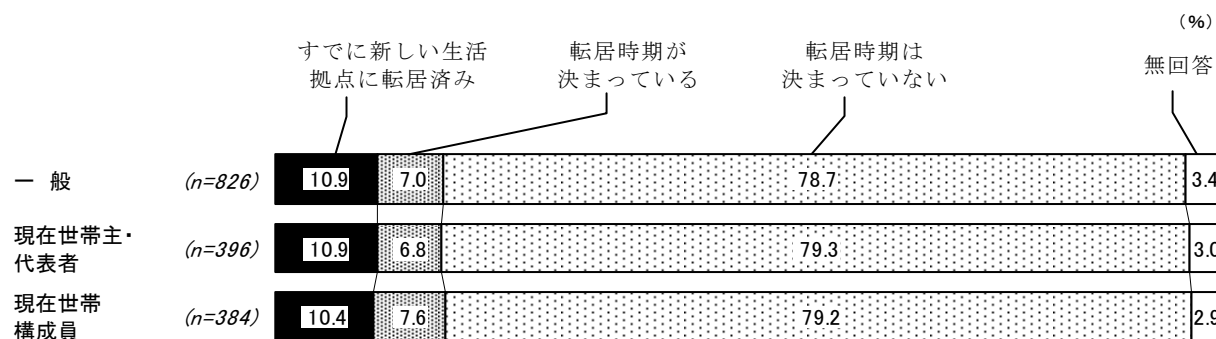


図表 4-11-3 今後の生活拠点への転居の時期(年代別)



現在の世帯での立場別による差は、見られない。(図表 4-11-4)

図表 4-11-4 今後の生活拠点への転居の時期(現在の世帯での立場別)



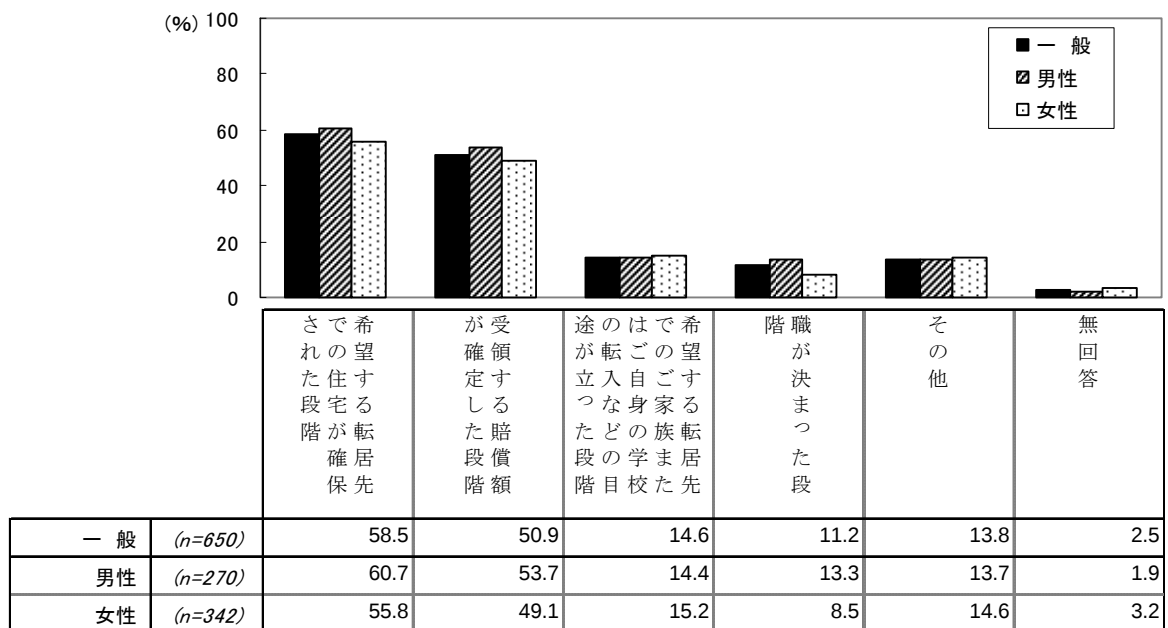
【問 26(1)で「3 転居時期は決まっていない」と回答した方にうかがいます。】

問 26(2) 転居時期は、どの段階で判断したいとお考えですか。(○はいくつでも)

高校生以外の一般住民のうち、檜葉町への帰還意向はないが、今後の生活拠点への転居時期が決まっていない人(650 人)が時期を判断するタイミングとしては、「希望する転居先での住宅が確保された段階」が 58.5%と、最も多くあげられ、次いで「受領する賠償額が確定した段階」が 50.9%である。(図表 4-11-5)

男女別に見ても、大きな差は見られない。(図表 4-11-5)

図表 4-11-5 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(男女別)



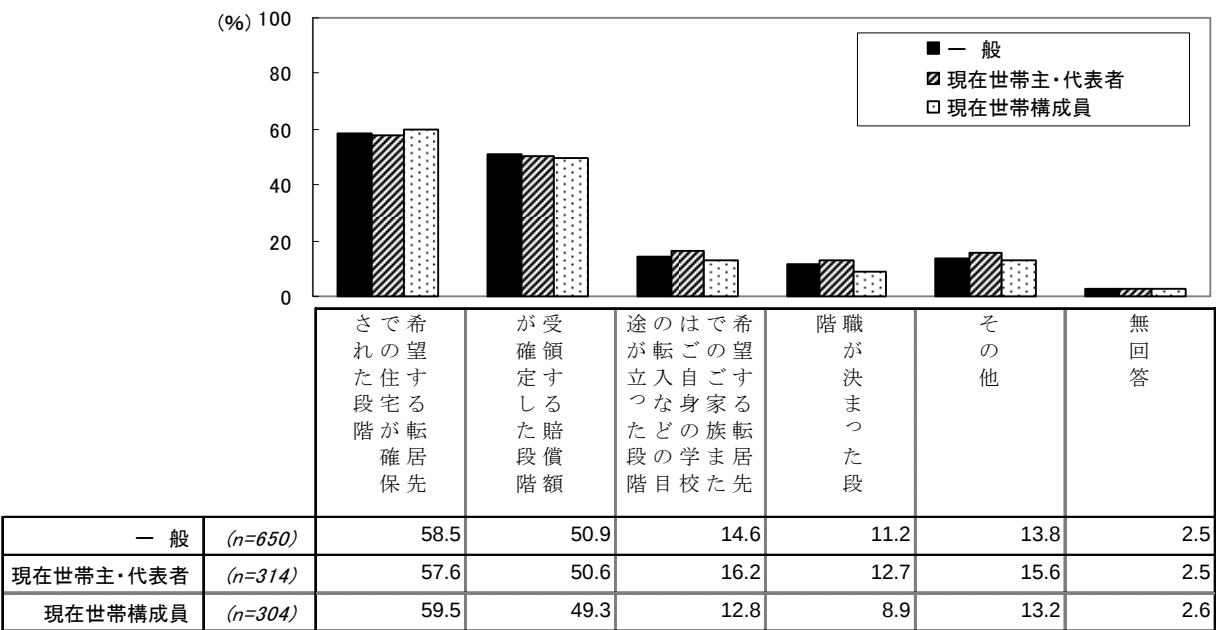
年代別に見ると、60代以上では「受領する賠償額が確定した段階」で判断するという回答者が、最も多くあげられている。また、30～40代では、「希望する転居先でのご家族またはご自身の学校の転入などの目途が立った段階」が2割台で、他の年齢層より多くあげられている。10～20代では、「職が決まった段階」で判断するという回答者が20.2%となっている。(図表4-11-6)

図表 4-11-6 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(年代別)

		(%)					
		たの希望 段階住宅 する が転居 先で 確 保 さ れ て	確 受 定 領 し た る 段 階 賠 償 額 が	たな自の希 段ど身ご望 階のの家す 目学族転 途校ま居 がのた先 立転は つ入こ で	職 が 決 ま っ た 段 階	そ の 他	無 回 答
全体	(n=650)	58.5	50.9	14.6	11.2	13.8	2.5
10-20代	(n=109)	56.9	35.8	13.8	20.2	9.2	2.8
30代	(n=142)	57.0	45.1	26.8	13.4	12.7	2.1
40代	(n=93)	57.0	47.3	22.6	7.5	12.9	3.2
50代	(n=107)	65.4	60.7	7.5	13.1	15.9	-
60代	(n=90)	60.0	65.6	7.8	5.6	14.4	3.3
70代以上	(n=78)	50.0	56.4	3.8	1.3	23.1	5.1

現在の世帯での立場別による差はみられない。(図表4-11-7)

図表 4-11-7 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(現在の世帯での立場別)



(12) 今後の生活において行政に望む支援

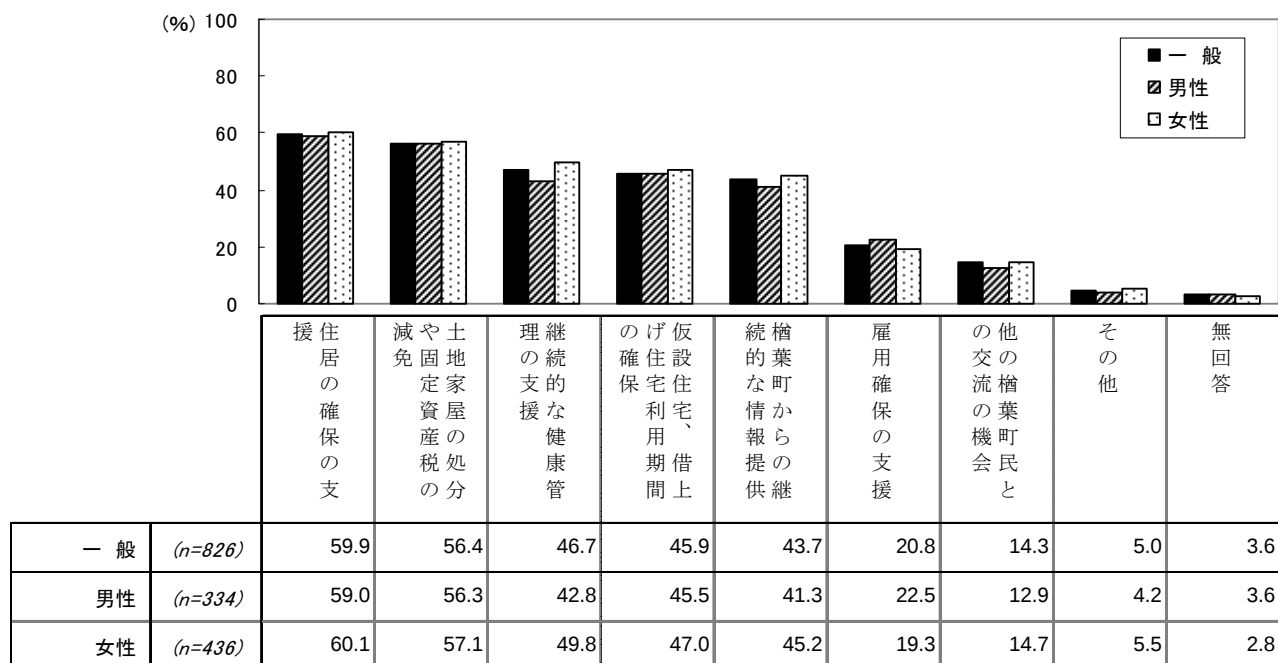
【問 18 で「3 檜葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 27 檜葉町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

高校生以外の一般住民のうち、檜葉町の避難指示が解除された場合にも、「檜葉町には戻らない」という回答者(826人)が、今後の生活において行政に望む事項としては、「住居の確保の支援」(59.9%)と「土地家屋の処分や固定資産税の減免」(56.4%)が5割台で要望が強く、以下「継続的な健康管理の支援」(46.7%)、「仮設住宅、借り上げ住宅利用期間の確保」(45.9%)、「檜葉町からの継続的な情報提供」(43.7%)が4割台で続く。(図表 4-12-1)

男女別に見ると、大きな差はみられないが、「継続的な健康管理の支援」(男性 42.8%、女性 49.8%)については、男性より女性の方が強く行政の支援を望んでいる。(図表 4-12-1)

図表 4-12-1 今後の生活において行政に望む支援(男女別)



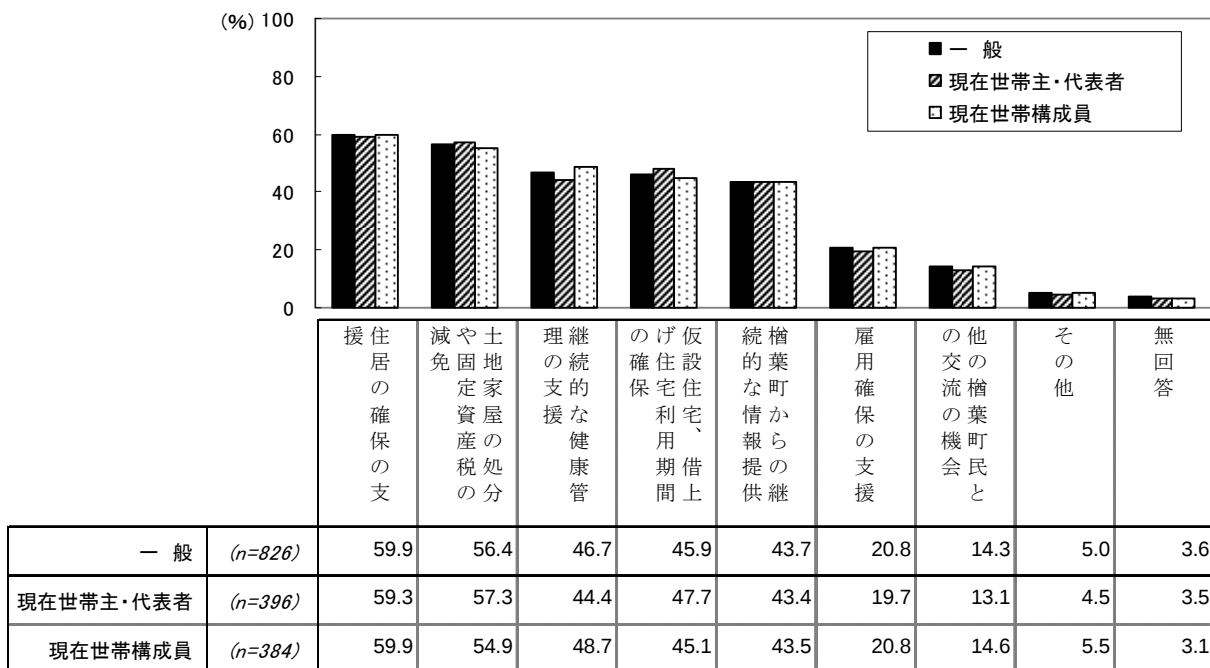
年代別に見ると、「住居の確保の支援」と「雇用確保の支援」は若年齢層、「土地家屋の処分や固定資産税の減免」と「他の檜葉町民との交流の機会」に対する支援は高年齢層で、行政に対する要望が強くなっている。(図表 4-12-2)

図表 4-12-2 今後の生活において行政に望む支援(年代別)

		(%)								
		援住居の確保の支	減や土地家屋の税の分	理継的支援な健康管	のげ仮確保住宅利用期間上	続檜葉な町情からの提供	雇用確保の支援	の他の檜葉町民と	その他	無回答
一 般	(n=826)	59.9	56.4	46.7	45.9	43.7	20.8	14.3	5.0	3.6
10-20代	(n=138)	65.9	39.9	47.1	42.0	38.4	31.2	8.7	5.1	4.3
30代	(n=190)	65.3	42.6	53.2	53.2	46.3	22.6	14.2	4.7	3.2
40代	(n=118)	63.6	61.0	48.3	55.9	41.5	28.0	11.9	1.7	2.5
50代	(n=127)	56.7	69.3	41.7	45.7	45.7	20.5	14.2	7.1	0.8
60代	(n=103)	51.5	71.8	39.8	39.8	39.8	12.6	16.5	1.9	5.8
70代以上	(n=106)	47.2	67.0	46.2	35.8	49.1	4.7	20.8	8.5	3.8

現在の世帯での立場別による差はみられない。(図表 4-12-3)

図表 4-12-3 今後の生活において行政に望む支援(現在の世帯での立場別)



(13) 帰還を判断する条件

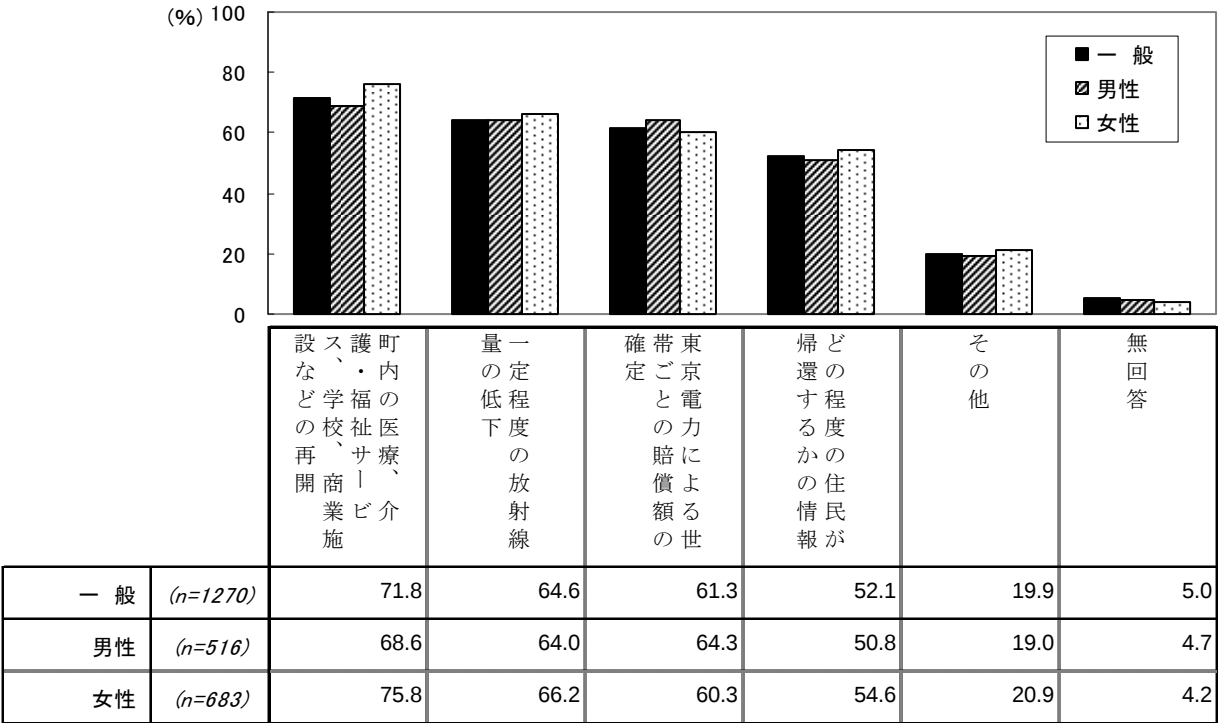
【問 18 で「4 今はまだ判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 28 どのような条件が提示されれば、檜葉町に戻るかどうかの判断ができますか。(○はいくつでも)

高校生以外の一般住民のうち、檜葉町の避難指示が解除された場合にも、帰還について「今はまだ判断できない」という回答者(1,270 人)に、帰還を判断するために必要な条件を聞いたところ、「町内の医療、介護・福祉サービス、学校、商業施設などの再開」が 71.8%で最も多くあげられ、以下「一定程度の放射線量の低下」(64.6%)、「東京電力による世帯ごとの賠償額の確定」(61.3%)、「どの程度の住民が帰還するかの情報」(52.1%)の順となっている。(図表 4-13-1)

男女別に見ると、「町内の医療、介護・福祉サービス、学校、商業施設などの再開」(男性 68.6%、女性 75.8%)は、特に女性で、帰還を判断する条件として必要とされている。(図表 4-13-1)

図表 4-13-1 帰還を判断する条件(男女別)



年代による、大きな差はみられない。(図表 4-13-2)

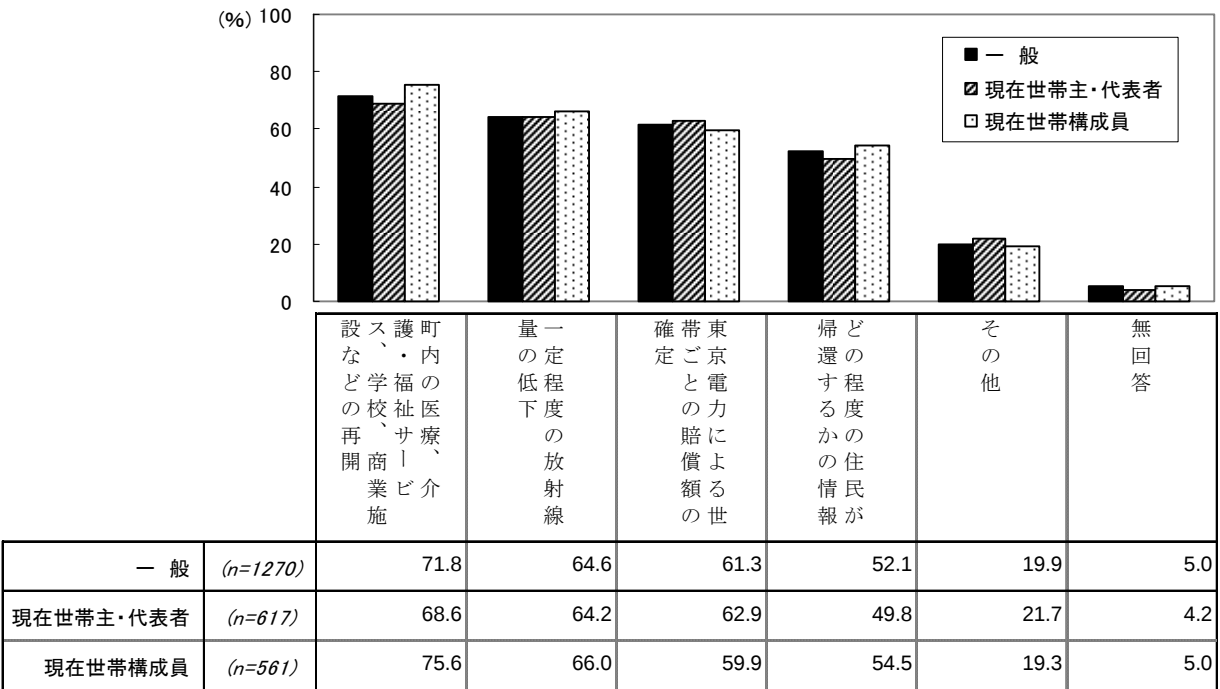
図表 4-13-2 帰還を判断する条件(年代別)

(%)

		町内の医療、 介護・福祉 サービス、学 校、商業施設 などの再開	一定程度の放 射線量の低下	東京電力によ る世帯ごとの 賠償額の確定	どの程度の住 民が帰還する かの情報	その他	無回答
一 般	(n=1270)	71.8	64.6	61.3	52.1	19.9	5.0
10-20代	(n=88)	69.3	65.9	56.8	51.1	22.7	2.3
30代	(n=122)	73.0	65.6	60.7	53.3	25.4	4.9
40代	(n=192)	76.0	70.8	63.5	54.2	24.5	3.6
50代	(n=272)	72.1	65.8	63.6	58.1	23.5	2.6
60代	(n=282)	70.6	69.5	64.2	54.6	17.0	5.0
70代以上	(n=263)	72.2	54.0	56.7	43.7	12.2	8.4

現在の世帯での立場別に見ると、「町内の医療、介護・福祉サービス、学校、商業施設などの再開」を、女性割合の高い世帯主以外の世帯構成員の 75.6%があげ、要望が強くなっている。(図表 4-13-3)

図表 4-13-3 帰還を判断する条件(現在の世帯での立場別)



(14) 世帯で所有している家屋等の今後の取り扱い(現在世帯主・代表者)

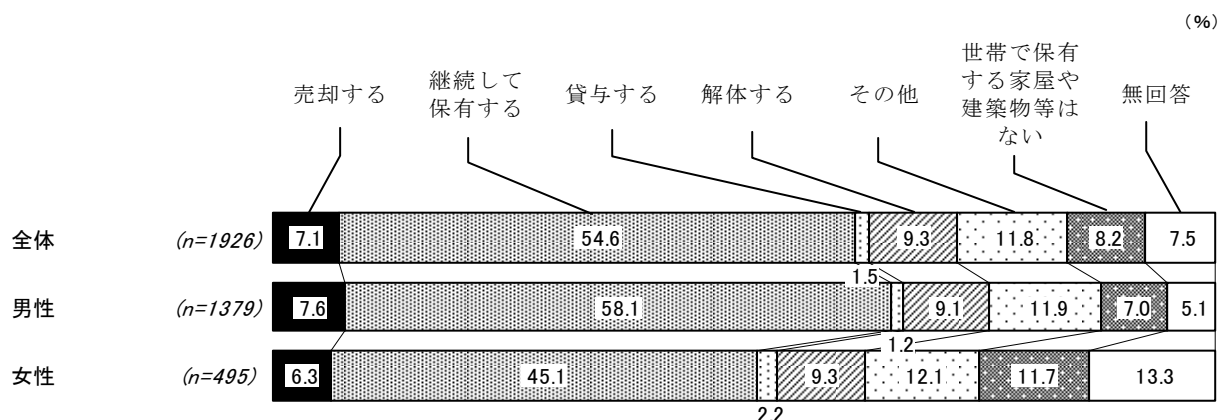
問 37 あなたの世帯で所有している家屋や、宅地、農地などをどうされるおつもりですか。

現在世帯主もしくは世帯の代表者(1,926 人)に、世帯で所有する家屋等の今後の取り扱いについて聞いた。

まず、『家屋、建築物等』については、「継続して保有する」という回答者が 54.6%と、過半数を占めている。(図表 4-14-1)

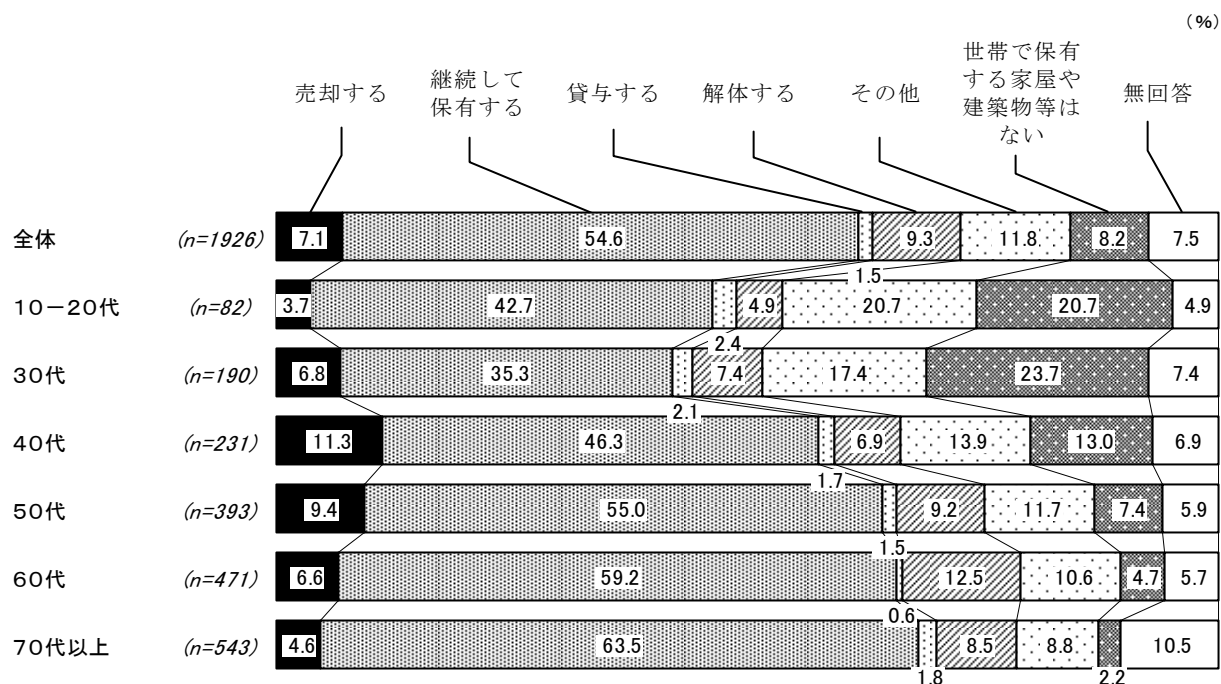
男女別に見ると、「継続して保有する」(男性 58.1%、女性 45.1%)という回答者は、女性より男性に多くなっている。(図表 4-14-1)

図表 4-14-1 世帯で所有している家屋等の今後の取り扱い：家屋、建築物等(世帯主・代表者の男女別)



世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、高年齢層ほど「継続して保有する」という回答者が多くなり、70 代以上では 63.5%を占めている。一方、40～50 代では、「売却する」という回答者が 1 割前後と、他の年代よりやや多くなっている。(図表 4-14-2)

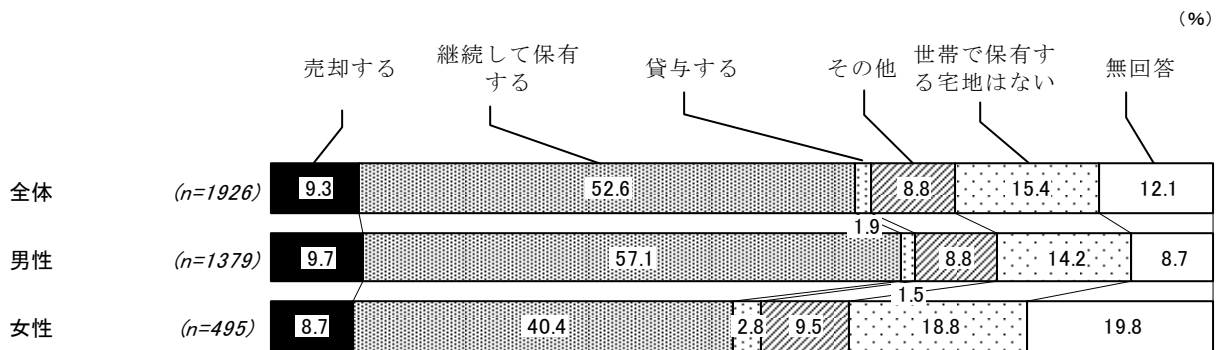
図表 4-14-2 世帯で所有している家屋等の今後の取り扱い：家屋、建築物等(世帯主・代表者の年代別)



『宅地』についても、『家屋、建築物等』と同様に、過半数が「継続して保有する」(52.6%)と回答している。(図表 4-14-3)

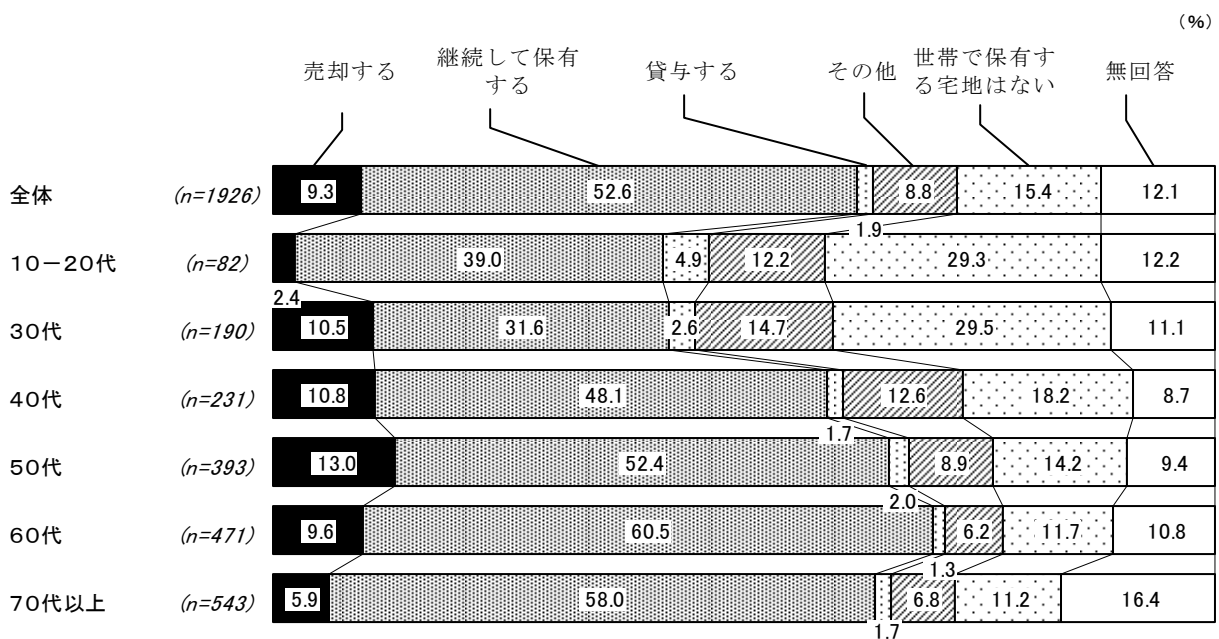
男女別に見ると、「継続して保有する」(男性 57.1%、女性 40.4%)という回答者は女性より男性に多い。(図表 4-14-3)

図表 4-14-3 世帯で所有している家屋等の今後の取り扱い: 宅地(世帯主・代表者の男女別)



世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、『家屋、建築物等』と同様に、高年齢層ほど「継続して保有する」と回答する傾向がある。一方、30～60代では「売却する」という回答者が1割前後となっている。(図表 4-14-4)

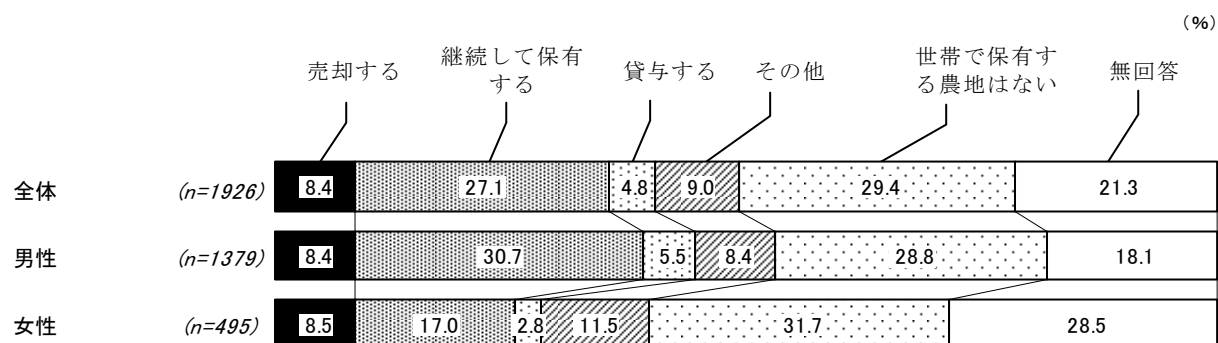
図表 4-14-4 世帯で所有している家屋等の今後の取り扱い: 宅地(世帯主・代表者の年代別)



『農地』については、「継続して保有する」という回答者は 27.1%と、『家屋、建築物等』や『宅地』に比べて少ないが、「世帯で保有する農地はない」(29.4%)という回答者がほぼ 3 割で、無回答も 21.3%となっている。(図表 4-14-5)

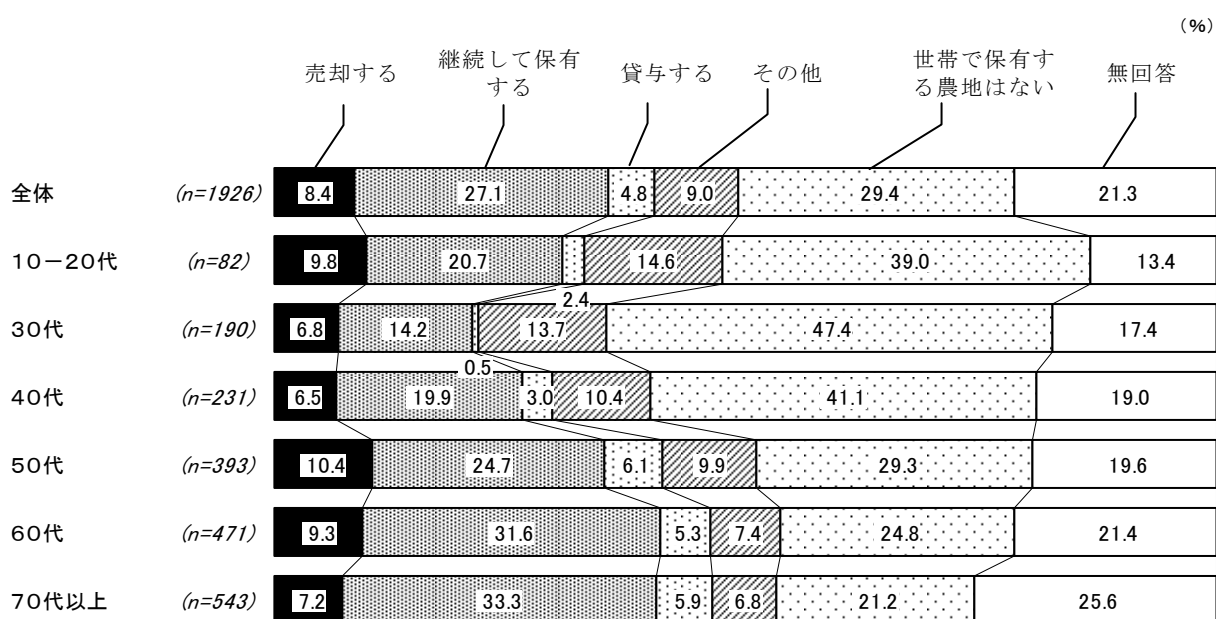
男女別に見ると、男性の 3 割は、『農地』を「継続して保有する」(30.7%)と回答している。(図表 4-14-5)

図表 4-14-5 世帯で所有している家屋等の今後の取り扱い：農地(世帯主・代表者の男女別)



世帯主もしくは世帯の代表者の年代別に見ると、30 代では「世帯で保有する農地はない」(47.4%)という回答者が半数近い。60 代以上では、『農地』を「継続して保有する」という回答者が 3 割を上回る。(図表 4-14-6)

図表 4-14-6 世帯で所有している家屋等の今後の取り扱い：農地(世帯主・代表者の年代別)



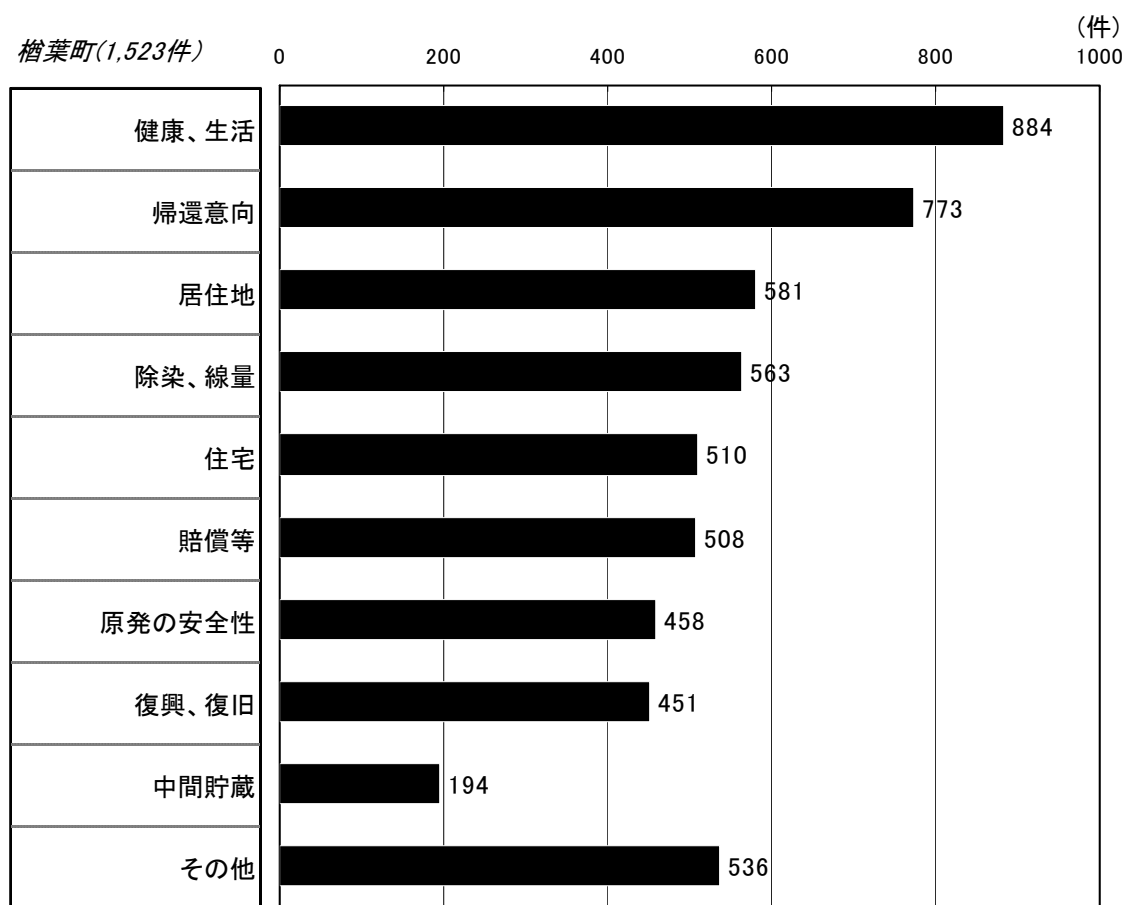
5 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて

問 29 【すべての方にうかがいます。】

国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて尋ねたところ、1,523 件の自由回答を得た。最も発言の多いのは「健康、生活」に関する内容(884 件)で、以下「帰還意向」(773 件)、「居住地」(581 件)、「除染、線量」(563 件)、「住宅」(510 件)、「賠償等」(508 件)、「原発の安全性」(458 件)、「復興、復旧」(451 件)、「中間貯蔵」(194 件)の順となっている。(図表 5-1)

図表 5-1 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(自由回答)



(同一対象者の発言が複数内容にわたっている場合は、件数として内容ごとに件数カウントしている。)

図表 5-2 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(代表的意見抜粋)

●健康、生活

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	将来に希望を持てるようにしてほしい。
一般	男性	30代	子供が本当に住める所になるのだろうか。
一般	男性	60代	家の修復と墓が心配。高齢者がいる為、医療も心配。
一般	男性	70代	夜は眠れないので体がわるい。
一般	男性	80歳以上	あらゆる面で、避難以前の生活環境に早急にしてほしい。
一般	女性	30代	今後、どうしていいのか自分でも判断できず、不安です。
一般	女性	50代	子供達が今までの生活に戻れる事を第一に、考えてほしい。
一般	女性	50代	この先どんな生活をするようになるのか考えると、不安と恐れで気持ちがおちこんでしまいます。
一般	女性	70代	医療環境に不安あり、年齢と共に1人で通院が難しくなるので。
一般	女性	80歳以上	高齢者が安心して住める状況にしてほしい。

●帰還意向

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	現実的に帰れないのに、どうにかして帰町しようとするのか考えが理解できない。現実的な判断をしてほしい。
一般	男性	40代	とにかくすぐに檜葉町戻りたい。
一般	男性	50代	放射線の不安のない所で暮らしたい。戻らないことを選択した人への支援をしてほしい。
一般	男性	60代	早期の帰町は望まない。原発の廃炉に向けて安全な道すじがついてから(1F、2F共)。
一般	男性	70代	早く戻りたい。一刻も早い復興を希望します。
一般	男性	80歳以上	早く除染し、上下水道等、インフラ復旧工事を進め、1日も早く戻れるように願います。
一般	女性	20代	早く除染をしてください。早く帰りたいです。
一般	女性	30代	できれば戻りたいが、乳児がいるためなかなか難しい。子供のことが最優先。
一般	女性	50代	檜葉に戻って、自分にできることで、ボランティアなど、誰かの役に立つことをして行きたい。
一般	女性	80歳以上	今までのように田畑をしながら、ゆっくり生活したい。檜葉に早く戻りたい。
高校生	女性	高校生	人が戻らない町には戻りたくない。友達に戻らないと言う人がたくさんいる。

●居住地

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	若い人達は戻らないと思う。年寄りだけ戻っても町は発展しません。今住んでいる所は何でも揃うし、わざわざ不便な町には戻らない。
一般	男性	30代	解除になった時点で、すぐに仮設を出て行けと言われては困る。
一般	男性	50代	放射線の不安のない所で暮らしたい。戻らないことを選択した人への支援をしてほしい。
一般	男性	60代	安住の地がほしい。
高校生	男性	高校生	完璧でなくても、震災前に近い感じにして、再び暮らしたい。
一般	女性	30代	災害公営住宅を建てるにしても、子どもの学校や仕事への交通が不便になる場所では困る。転校も、もうさせたくはないので、仮設の近くに建てるような計画も立ててほしい。
一般	女性	40代	檜葉町に戻らない人(仕事や、学校の都合)には、仮設住宅や借上げ住宅に、ずっと住めるようにしてほしい。
一般	女性	50代	戻れるなら住みなれた場所に近く、今までのコミュニティーを保つために住居を求めたいと思います。
一般	女性	60代	会津美里町に住みたいと思いますが、お墓が夜の森にあります。今どのようになっているかわかりません。この先、お墓はどうなるのでしょうか。行けるようになりますか。
一般	女性	70代	家の中は雨漏りで、外より放射線量が高いと知ったのだから、1日も早く住む場所を決めたい。年を考え5年先6年先は待てない。
一般	女性	80歳以上	安心安全な所に住みたい。

●除染、線量

一般／高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	除染の金をもっと教育や医療、福祉に利用できないものか。
一般	男性	50代	第一原発が廃炉になっていないのにもかかわらず、除染しても意味がなく、無駄だと思っています。(まだ放射能が、出ているのに)廃炉になってから除染することが、あたりまえ。
一般	男性	60代	室内除染を強く要望する。
一般	男性	70代	農地等の除染。
高校生	男性	高校生	放射性物質を完全に取り除いてもらいたいです。僕たちが育った、きれいな檜葉町に戻してほしいです。
一般	女性	40代	家をふきとる作業で放射線は取れるのか？
一般	女性	40代	誤った情報公開を止めてほしい。民間(専門の方)と行政の放射能に対しての情報に違いがある。
一般	女性	50代	放射線量は低下するのでしょうか！？何度も檜葉に通っています。が、11月の末に行った時の放射線量の高さに驚きました。1年8ヶ月も経ったのに。
一般	女性	60代	放射線量がこれから先何年位残るのがわからないため、子供達をつれて町に戻るのが不安です。
一般	女性	70代	きちんと、除染ができますように、どの家も、同じにやってほしい。
高校生	女性	高校生	放射能が漏れた所になんか住みたくない。いくら除染しても不安。

●住宅

一般／高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	仮設ではなく、アパートを増やしてほしい。
一般	男性	30代	仮設住宅の防音をぜひお願いしたい。隣人のいびきが聞こえ、とてもねむれません。
一般	男性	40代	現在、人数に対して、仮設等の割り当てがきびしいように感じます。
一般	男性	50代	賠償額が確定したら、住む家をさがし安住したい。
一般	男性	70代	少ない預金で家など直しても誰も住まない。なんせお金がありません。仮設を出された後は、檜葉にもどるにしても町営住宅などをのぞむしかない。
一般	女性	20代	檜葉町に戻るまで、借上げ住宅にйさせてもらわないと困る。
一般	女性	30代	今、避難指示が解除されても子供が今の学校になれてるので、借上げ住宅の延長を。
一般	女性	30代	地元に帰れない理由がある世代のために(学校・高校のことなど)、災害復興住宅をいわきに作してほしい。いわきに、みんなが住める復興住宅を作ってください！！
一般	女性	40代	檜葉町に戻らない人(仕事や、学校の都合)には、仮設住宅や借上げ住宅に、ずっと住めるようにしてほしい。
一般	女性	60代	仮に檜葉町に戻らないとした場合、他の自治体の災害公営住宅への入居は可能なののでしょうか。
一般	女性	80歳以上	私は津波で流れて何もないので、早く町や県での住宅に世話になりたいと思っています。

●賠償等

一般／高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	高速道路無料化の延長。
一般	男性	50代	檜葉町に安全に戻るまで、精神的補償を続けてもらいたい。
一般	男性	50代	すべての損害に対して一日も早い賠償をしてほしい。住宅建設のための補助。避難者の高速道路の無料の延長。避難者の減税。
一般	男性	60代	ローン支払い中の家屋の対処は、どうしてくれるのか。財物の賠償をしっかりとやってほしい。
一般	男性	70代	所有している土地・家屋を、震災前の価格で買上げすること。
一般	女性	10代	生活が厳しいので、1日でも早く保障(賠償)してほしい。
一般	女性	40代	避難解除後の補償問題を明確にしてほしい。仕事もない、補償も終わる、では生活できない。
一般	女性	50代	賠償額確定してほしい。檜葉町に帰っても、住める家を確保してほしい。雇用確保の支援を。
一般	女性	60代	数年後に檜葉に戻るにしても、かなりのリフォームをしなければいけません。そのための補償も早急に示してほしいと思います。
一般	女性	70代	一度汚染された所での生活は考えられない。家の中の物も全て利用する気になれない。全て賠償してほしい。

●原発の安全性

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	原発はまだ収束してませんよね！？なぜ解除するのか？放射能怖くないんですか？
一般	男性	30代	事態を風化させないでほしい。他県では、現在の原発のことで、今後のことの方が（他県の原発）多く報道されている。
一般	男性	40代	国や自治体が安全宣言をしても、本当に安全かどうかは、原子力に従事する人達の方がよく知っています。少しでも懸念が残る場合は、安全宣言をしないでほしい。
一般	男性	50代	福島第1原発が廃炉完了までの不安。自宅の生活用水が井戸水のため、いつ放射線量が増えるかが不安。
一般	男性	60代	東電のすべての核を安全に処理してから、各自治体が帰町・帰村するようにしてもらいたい。東電の1F2Fに核がある以上安全とは言えない。今作業中に事故がおきないとはだれも言えない。
一般	男性	70代	国、自治体及び東京電力による原発事故の一日も早い収束・除染がなされ、帰還ができますことを願っています。
一般	女性	40代	原子力発電所の安全性が確保されないと、前へ進めない。
一般	女性	40代	1Fは安定していると、国も東電も言っているが、安定していない事は東電の社員の人が言っているのをよく聞く。ほんとうの事を、正確に教えてほしい。
一般	女性	50代	第1原発の収束。安全が確実にならないと、除染し生活環境が整っても安心して暮らせない。
一般	女性	50代	原発のある所とない所の、温度差がありすぎる。
一般	女性	70代	放射線が、おさまらないし、今後も原発不安です。医療環境に不安があります。生活に必要な商業もない、農業も出来ないし不便だし、水も心配です。
高校生	女性	高校生	除染が適当すぎる。原発を廃炉にするにあたって積極的に協力すべき。

●復興、復旧

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	原発に近いこともあり、町がどう復興していくかよく想像できない。
一般	男性	30代	①ライフラインの復旧。 ②宿泊ができるように。
一般	男性	50代	復興という文字を簡単に使ってもらいたくない。現に、言葉だけ使われて、何も進展していない。
一般	男性	60代	復興等に関して、全てにおいて不透明で遅すぎる。確定、実行をすみやかに。
一般	男性	80歳以上	町民が戻って安心して生活できる町づくりをのぞむ。
高校生	男性	高校生	看護師になって復興に貢献したい。
一般	女性	30代	全てが元通りになることを願っています。
一般	女性	40代	上下水道の復旧を早くしてほしい。、自宅に宿泊できるようになると家や庭などの手入れが出来るので、少しでも早くしてほしい。
一般	女性	60代	ライフラインが早くできたら。
一般	女性	70代	インフラの整備、鉄道の開通。
一般	女性	80歳以上	すみやかな除染、インフラの整備を早く。

●中間貯蔵

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	放射性物質の貯蔵施設の設置場所がいつまでも決まらないが、20km圏内に作る他に選択肢は無いと思う。これ以上、他の地域に放射性物質をバラまいてはいけない。
一般	男性	30代	なぜ檜葉町に中間貯蔵施設を置くのか知りたい。(檜葉町に置く理由、許可した理由等、詳細に知りたい。)
一般	男性	30代	行政が檜葉町に戻る考えならば、中間貯蔵施設を受け入れないでいただきたい。中間貯蔵施設が建設されれば町に戻ることはないと思う。国は核廃棄物の最終処分場をどこに建設するつもりなのか。
一般	男性	50代	中間処理施設→最終処理施設 この流れは、変えられないでしょう！ ※他の地域に移動させる事(予定)を想定している事こそ、絵空事です！
一般	男性	50代	帰町したくとも、中間貯蔵施設が建設されるようでは帰れない。中間貯蔵施設は建設予定地の波倉地区だけの問題ではない。檜葉町全体の問題だ。檜葉町を国に売る気はない。
一般	男性	60代	双葉郡町村は国で買い取り、そこに中間貯蔵や最終処分場を作れば良い。双葉郡が復興するとすれば、廃炉にたずさわる会社が増えるのみで、住民に対する復興はあるとは思えません。
高校生	男性	高校生	国の思うつぽになってしまっはいけない。中間貯蔵施設を町内に置くべきではない。
一般	女性	20代	中間貯蔵建設を論じている町が、除染や子供・若者・未来の町を真剣に考えているか不安である。
一般	女性	30代	1日も早く自宅に戻り生活したいが、汚染された土地で暮らすのはとても不安です！ いまだに収束しない第一原発、それに第二原発が近くにあり、さらに恐ろしい事態が起こるような気がしてならない。その上、中間貯蔵地区が町にできたら、…絶対帰りたくない。今以上放射能が高くない保証は絶対にない。町に戻るのは、年金で生活する人がほとんどでないかなと思います。
一般	女性	40代	帰還困難区域の住民に全額賠償をし、全域を早急に国が買い上げ、そこに中間貯蔵施設の整備をすべきであると思う。帰還困難区域の方々も戻れない事を認識している住民が多いようです。
一般	女性	50代	中間貯蔵が町内に出来るようで、周辺の住民の健康のため 絶対反対。
一般	女性	60代	解除となり、檜葉町に戻ることができるようになったが、中間貯蔵施設が置かれると聞き、それが置かれたことによる周辺への影響や何年後かに本格的に住みはじめる時に、それが原因となって一部の地域だけが差別されないかなど不安がある。せっかく帰れることになったのに、なぜ檜葉町に設置を予定しているかが理解できない。

●その他

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	国は現在、本当にやる気があるのか、わからない。予算がぜんぜん違う所へ使っていると、なかなか目に見えていない。
一般	男性	40代	もうすでに2年近くなっている。国として最終的にどのように考えて、補償してくれるのかを早く明確にしてもらいたい。なにもかも、基本的に前に進めていない。
一般	男性	60代	家の修復と墓が心配。 高齢者がいる為、医療も心配。
一般	男性	60代	本当の情報をかくさずにすべて、公開してほしい。政治家や各自治体の長のパフォーマンス＝対マスコミなんかみたくない。本音で話をしてほしい。
一般	男性	70代	・完全なる除染→その後の線量の経過についてフォロー。・町民が安心して居住できる情報発信の継続。
一般	女性	20代	・TVから来てるニュースなど意見が全く違う。・檜葉町から情報が全く入って来ない。
一般	女性	40代	正しい情報と正しい判断をしてほしいです。
一般	女性	40代	東電の隠蔽体質をかえて、問題ごとに情報を流してほしい。
一般	女性	50代	国や東電はもっと被災者に寄り添うべきだ。世帯ごとに意向を聞きとり、できるだけその方向で進めてほしい。2、3年で立て直してほしい。
一般	女性	60代	本当の情報をかくさずにすべて公開してほしい。
一般	女性	60代	国の決断がおそすぎる。放射能汚染が除染で回復できるのか、回復しても人が戻るのか、町が戻るのか、無駄に予算を執行しているのではないかな。

Ⅲ 調査票

(付:単純集計結果)

楡葉町 住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

この調査は、**満 15 歳以上(中学生を除く)**の全楡葉町住民にお願いしています。
世帯で現在いっしょにお住まいの**満 15 歳以上(中学生を除く)の方それぞれ**に、ご記入をお願いいたします。

現在**高校生(高等専門学校の1年生～3年生を含む)の方**は 16 ページから 20 ページまでお答えください。

現在**高校生以外の方**は 1 ページから 15 ページまでお答えください。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、()内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている問いには、具体的な内容(地名、数など)をご記入ください。

※調査票はすべて無記名でお願いしております。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**12 月 13 日(木)まで**に、同封の返信封筒に入れ、郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

楡葉町 福島県 復興庁

●ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

復興庁 「住民意向調査」お問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-921-641

[設置期間: 11 月 30 日(金)～12 月 20 日(木) 平日 10 時～17 時]

高校生以外 の方回答欄

1～15 ページは高校生以外の方のみに回答をお願いいたします。
高校生の方は、16 ページにお進みください。

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

問 1 【すべての方にうかがいます。】

震災発生当時にお住まいだった地区を以下から教えてください。(○は1つ) (n=3, 755)

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|--------------------------|
| (0. 2) 旭ヶ丘 | (0. 1) 山所布 | (5. 1) 上小埜 | (2. 8) 波倉 |
| (4. 5) 宮団 | (12. 8) 山田岡 | (5. 2) 上繁岡 | (4. 4) 繁岡 |
| (0. 2) 乙次郎 | (3. 6) 山田浜 | (3. 6) 前原 | (9. 4) 北田 |
| (6. 2) 下井出 | (0. 9) 女平 | (0. 7) 大坂 | (1. 3) その他 |
| (12. 0) 下小埜 | (2. 5) 松館 | (4. 4) 大谷 | (わからない場合住所
を記載してください) |
| (4. 3) 下繁岡 | (14. 1) 上井出 | (0. 1) 榎木下 | () |

(1. 7) 無回答

問 2 【すべての方にうかがいます。】

あなたは震災発生当時まで、楡葉町にどのくらい前からお住まいでしたか。仕事や進学などで町を離れた期間は含まず、通算年数を教えてください。(○は1つ) (n=3, 755)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| (0. 9) 1 年未満 | (41. 9) 20 年以上 50 年未満 |
| (4. 3) 1 年以上 5 年未満 | (34. 7) 50 年以上 |
| (16. 7) 5 年以上 20 年未満 | |

(1. 5) 無回答

問 3 【すべての方にうかがいます。】

震災発生当時のあなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

問 3 (1) 職業 (就業形態) (○は1つ) (n=3, 755)

- | | | |
|-------------------|---------------------|--------|
| (12. 6) 自営業 | (3. 6) 公務員 | →問 4 へ |
| (9. 3) 会社員 (事務) | (2. 4) 学生 | →問 4 へ |
| (21. 5) 会社員 (労務) | (32. 9) 無職 (退職者も含む) | →問 5 へ |
| (12. 1) パート・アルバイト | (2. 3) その他 (具体的に |) |

(3. 2) 無回答

問 3 (2) 【就業していた方にうかがいます。】

業種 (○は1つ) (n=2, 171)

- | | | |
|-------------------|------------------------|-------------|
| (8. 6) 農・林・漁・畜産業 | (7. 9) 電気・ガス | (10. 7) その他 |
| (16. 3) 建設業 | (2. 8) 運輸業 | (具体的 |
| (16. 5) 製造業 | (30. 6) 卸・小売り・飲食、サービス業 |) |

(6. 7) 無回答

問3 (3) 【就業していた方にうかがいます。】

震災発生当時の職業は、原子力発電所に関連していましたか。(○は1つ) (n=2, 171)

- | |
|--|
| (10.5) 原子力発電所に勤務していた |
| (8.2) 「主な取引先が原子力発電所」である事業所に勤務していた |
| (2.7) 「主な客が原子力発電所に勤務している人」である店舗等に勤務していた |
| (2.4) その他 (具体的に) |
| (65.0) 原子力発電所との関連はなかった (または、あまりなかった) |

(11.2) 無回答

問4 【就業していた方、学生の方にうかがいます。】

あなたが震災発生当時まで通勤・通学していた地域と、利用していた移動手段を教えてください。移動手段については、利用していた手段をすべて教えてください。

問4 (1) 通勤・通学先(○は1つ) (n=2, 396)

- | | |
|--------------------|-----------------------------------|
| (40.2) 檜葉町内 | (6.3) 広野町 |
| (9.4) いわき市 | (3.8) その他 (具体的に) |
| (12.4) 富岡町 | (2.9) 通勤・通学はしていなかった |
| (11.6) 大熊町、双葉町、浪江町 | (自宅兼店舗等で勤務していた、通信教育を受講していた等) →問5へ |

(13.2) 無回答

問4 (2) 通勤・通学していた方は、その移動手段 (○はいくつでも) (n=2, 009)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| (80.6) 自家用車・バイク | (3.1) 自転車 |
| (4.5) バス | (4.9) 徒歩のみ |
| (6.3) 鉄道 | (2.5) その他 (具体的に) |

(4.2) 無回答

問5 【すべての方にうかがいます。】

あなたが、震災発生当時まで、日常の生鮮食料品や日用品の買物をしていた場所 (市町村) と、店舗までの移動手段を教えてください。

問5 (1) もっともよく買物に行っていた市町村を1つ教えてください。(○は1つ)

(n=3, 755)

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| (46.3) 檜葉町内 | (0.3) 広野町 |
| (9.7) いわき市 | (0.6) その他 (具体的に) |
| (35.6) 富岡町 | (3.6) 自分では買物に行っていなかった →問6へ |
| (1.5) 大熊町、双葉町、浪江町 | |

(2.3) 無回答

問5 (2) もっともよく行っていた買物場所へ行く際に利用していた移動手段を、すべて教えてください。(○はいくつでも) (n=3, 531)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| (87.2) 自家用車・バイク | (6.1) 自転車 |
| (0.8) バス | (10.8) 徒歩のみ |
| (2.5) 鉄道 | (1.1) その他 (具体的に) |

(0.7) 無回答

高校生以外の方

問6 【すべての方にうかがいます。】

あなたは、震災前の檜葉町では、コミュニティ活動や町内イベントに参加していましたか。

(n=3, 755)

(○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------------------|
| (16.6) 積極的に参加していた | (0.7) 地域に活動やイベントがあることを知らなかった |
| (48.0) たまに参加していた | (0.4) その他 (具体的に) |
| (32.3) 参加していない | |

(2.0) 無回答

問7 【すべての方にうかがいます。】

震災発生当時に、あなたは介護や福祉サービスを受けていましたか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=3, 755)

- | |
|-------------------------------------|
| (2.6) 通所系サービスを受けていた (デイサービスなど) |
| (1.0) 訪問系サービスを受けていた (ホームヘルプサービスなど) |
| (1.3) 施設・居住系サービスを受けていた (介護施設への入所など) |
| (0.8) その他 (具体的に) |
| (88.4) サービスを受けていなかった |

(6.7) 無回答

現時点のあなたの状況を教えてください。

問8 【すべての方にうかがいます。】

あなたが現在避難されている先の自治体名を教えてください。(具体的に)

()の中に具体的な地名をご記入の上、()内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。

(都・道・府・県) (n=3, 755)

- | | | | | |
|------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| (79.9) 福島県 | (0.9) 東北 (福島以外) | (13.0) 関東 | (2.6) その他 | (3.5) 無回答 |
|------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|

(市・町・村・区) (n=3, 000)

- | | | | |
|-------------|-------------|-----------|-----------|
| (83.1) いわき市 | (5.3) 会津美里町 | (1.7) 郡山市 | (1.5) 福島市 |
| (2.1) 会津若松市 | (2.3) 檜葉町 | (3.9) その他 | (0.2) 無回答 |

問9 【すべての方にうかがいます。】

現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

問9 (1) 職業 (就業形態) (○は1つ) (n=3, 755)

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| (5.2) 自営業 | (3.1) パート・アルバイト |
| (7.0) 会社員 (事務) | (1.4) 学生→問10へ |
| (15.8) 会社員 (労務) | (52.9) 無職(退職者も含む)→問9(5)へ |
| (7.1) 公務員 | (2.3) その他 (具体的に) |

(5.2) 無回答

問9 (2) 【就業している方にうかがいます。】

業種 (○は1つ) (n=1, 406)

- | | | |
|-----------------|-----------------------|------------|
| (3.7) 農・林・漁・畜産業 | (9.5) 電気・ガス | (13.2) その他 |
| (21.6) 建設業 | (3.5) 運輸業 | (具体的に) |
| (14.9) 製造業 | (27.2) 卸・小売り・飲食、サービス業 | |

(6.4) 無回答

問 9 (3) 【就業している方にうかがいます。】

(自営業の方に) 現在の仕事は、震災発生当時と同じですか。

(会社などに勤めている方に) 現在勤めている会社などは、震災発生当時の会社などと同じですか。

(○は1つ) (n=1,524)

(59.6) 同じ →問 10 へ

(30.4) 違う

(10.0) 無回答

問 9 (4) 【問 9 (3) で「2 違う」と回答した方にうかがいます。】

震災発生当時の仕事から、現在の仕事に変わられたのはなぜですか。もっとも大きな理由を教えてください。(○は1つ) (n=463)

(8.0) 自主的に退職した

(19.2) 会社が休業になった

(20.1) 解雇された

(25.5) 避難したため、職場に通えなくなった

(9.7) 会社そのものが倒産・廃業になった

(14.9) その他 (具体的に)



この設問の回答後は問 10 へお進みください

(2.6) 無回答

問 9 (5) 【問 9 (1) で「7 無職(退職者も含む)」と回答した方にうかがいます。

それ以外の方は問 10 へお進みください。】

あなたは現在、職を探していますか。(○は1つ) (n=1,986)

(14.2) 職を探している →問 10 へ

(68.9) 職を探していない

(16.9) 無回答

問 9 (6) 【問 9 (5) で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。】

現在、職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(○は1つ) (n=1,369)

(6.9) 元の地域・職場に戻る予定だから

(3.3) 希望する職場がないから

(0.7) 当面賠償金で生活できるから

(5.3) 震災を機にリタイア (退職など) したから

(18.8) 震災前からリタイア (退職など) しているから、専業主婦だから、学生だから

(41.0) 年齢的に困難・高齢のため

(13.2) 病気・体調不良のため

(7.7) その他 (具体的に)

(3.1) 無回答

問 10 【すべての方にうかがいます。】

現在の避難生活において居住環境以外でもっとも困っていること、改善を求める分野を 1つ 教えてください。(○は1つ) (n=3,755)

(13.0) 医療

(17.9) 就労・労働

(3.3) 教育

(33.7) コミュニティ形成 (地域社会とのつながり)

(5.2) 介護・福祉

(13.4) その他 (具体的に)

(13.5) 無回答

問 11 【すべての方にうかがいます。】

医療サービスについて困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。

(n=3, 755)

(○はいくつでも)

- (3. 2) 医療機関がない、もしくは少ない
- (12. 2) 遠くまで通院することになった
- (3. 3) 特定の診療科がない
- (21. 7) かかりつけ医がない (気軽に相談できない)
- (17. 0) どの病院に行けばよいかわからない
- (25. 6) 受付から診療まで時間がかかる
- (5. 8) 診察・診療の質に満足できなくなった
- (2. 4) その他 (具体的に)
- (42. 5) 特にない

(4. 4) 無回答

問 12 【すべての方にうかがいます。】

ご自身またはご家族が受けている介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。

あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

(n=3, 755)

- (33. 5) 自分や家族は、介護・福祉サービスを受けていない
- (2. 6) 施設・事業所が少なくサービスが受けられない (もしくはサービス頻度が相当減った)
- (4. 1) どの施設・事業所を利用すればよいかわからない
- (1. 6) 設備が整っていない
- (1. 8) 職員が少ない (足りていない)
- (2. 6) その他 (具体的に)
- (46. 4) 特にない

(9. 7) 無回答

問 13 【すべての方にうかがいます。】

ご自身またはご家族が受けている教育 (学校) について、困っていることはありますか。あてはまる

ものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

(n=3, 755)

- (27. 9) 自分や家族は、現在、学校に通って教育を受けていない
- (3. 6) 避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している
- (2. 1) 教員 (先生) による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった
- (2. 7) 震災による休校期間があったため学習の進捗が遅れている
- (4. 6) 避難している子供たちに対して放射能に関する偏見がある
- (6. 4) 通学に時間がかかるようになった
- (3. 5) その他 (具体的に)
- (42. 7) 特にない

(13. 7) 無回答

高校生以外の方

問 14 【すべての方にうかがいます。】

就労について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。

(n=3, 755)

(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| (34. 1) 就労していない | (5. 1) 避難していることに対して職場の人の目が |
| (17. 3) 職場が遠くなった (通勤に時間がかかる) | 気になる |
| (5. 1) 震災前と違う職であり、慣れない | (4. 2) その他 |
| (12. 8) 給与が減った | (具体的に) |
| (7. 9) 長期雇用が保障されない | (23. 0) 特にない |

(10. 8) 無回答

問 15 【すべての方にうかがいます。】

地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=3, 755)

- | |
|--|
| (56. 0) 震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない (もしくはまったくない) |
| (35. 3) 避難先の地域住民との交流が少ない (もしくはまったくない) |
| (17. 7) 気軽に困りごとを相談できる人 (民生委員、行政職員) が近くにいない |
| (2. 4) その他 (具体的に) |
| (27. 4) 特にない |

(4. 7) 無回答

ここからは、将来についてのあなたの想いをお聞かせください。

問 16(1) 【すべての方にうかがいます。】

あなたは、これから避難解除までの間の避難生活をどこで過ごしたいですか。(○は1つ)

(n=3, 755)

- | |
|-----------------------------------|
| (48. 7) 今の場所で過ごしたい →問 17 へ |
| (13. 7) 今の場所から移動 (転居) したい |
| (34. 2) 現時点ではわからない、判断できない →問 17 へ |

(3. 4) 無回答

問 16(2) 【問 16(1)で「2 今の場所から移動 (転居) したい」と回答した方にうかがいます。】

これからの避難期間中に、さらに転居をされる予定先があれば、その自治体名を教えてください。(具体的に)

()の中に具体的な地名をご記入の上、()内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。

(都・道・府・県) (n=514)

(55. 6) 福島県	(0. 2) 東北 (福島以外)	(8. 0) 関東	(1. 8) その他	(34. 4) 無回答
-------------	-------------------	------------	-------------	-------------

(市・町・村・区) (n=286)

(86. 4) いわき市	(-) 会津美里町	(1. 4) 郡山市	(0. 3) 福島市
(-) 会津若松市	(9. 1) 檜葉町	(0. 7) その他	(2. 1) 無回答

高校生以外の方

問 17 【すべての方にうかがいます。】

避難期間中の生活において居住を希望する住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方ですか。

問 17(1) 所有形態(○は1つ) (n=3,755)

(31.2) 民間賃貸	(36.5) 持ち家 (ご家族またはご本人所有)
(18.4) 公営住宅 (災害公営住宅を含む)	(3.9) その他 (具体的に)
(1.4) 給与住宅 (社宅、公務員宿舎など)	(8.7) 無回答

*「災害公営住宅」とは…今回の原子力災害による避難地域に指定され、帰宅が困難な方(もしくは住宅を失った方)に対して提供する低廉な家賃で入居できる公営住宅です。

問 17(2) 住宅の建て方(○は1つ) (n=3,755)

(12.4) 集合住宅 (一般的な中高層のもの)	(59.1) 一戸建て
(14.0) 集合住宅 (一戸建に近い低層なもの)	(1.9) その他 (具体的に)
	(12.7) 無回答

問 18 【すべての方にうかがいます。】

将来、檜葉町の避難指示が解除され、戻ることができるようになった場合、あなたは檜葉町に戻りますか。(○は1つ) (n=3,755)

(10.0) 檜葉町にすぐに戻る	→ 問 19、問 20、問 22、問 23 へ
(33.3) 条件が整えば、檜葉町に戻る	→ 問 21～問 23 へ
(22.0) 檜葉町には戻らない	→ 問 24～問 27 へ
(33.8) 今はまだ判断できない	→ 問 28 へ

(0.9) 無回答

問 19 【問 18 で「1 檜葉町にすぐに戻る」と回答した方にうかがいます。】

檜葉町に戻った時に、町内に必要なものは何ですか。最も必要と思うものから、3番目に必要と思うものまでを、それぞれ1つずつ教えてください。(○は1つずつ) (n=375)

優先順位⇒	最も必要と思うもの (○は1つ) ↓	2番目に必要と思うもの (○は1つ) ↓	3番目に必要と思うもの (○は1つ) ↓
ア 医療機関	(52.0)	(20.0)	(9.1)
イ 介護・福祉施設	(6.9)	(13.1)	(18.4)
ウ 学校	(1.9)	(6.4)	(3.7)
エ 雇用・就労の場	(5.3)	(4.5)	(8.3)
オ 商業施設 (商店、コンビニエンスストアなど)	(25.3)	(35.7)	(14.9)
カ 地域コミュニティ	(1.9)	(7.2)	(22.1)
キ その他 (具体的に)	(1.3)	(-)	(2.1)

(5.3)

(13.1)

(21.3) 無回答

問 20 【問 18 で「1 檜葉町にすぐに戻る」と回答した方にうかがいます。】

避難指示が解除され檜葉町に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=375)

(46. 4) 住宅再建の支援	(66. 1) 商店の再開の支援
(54. 4) 継続的な健康管理の支援	(28. 8) 農・林・漁・畜産業の支援・指導
(20. 8) 雇用確保の支援	(32. 8) コミュニティ再生の支援
(50. 1) 檜葉町からの継続的な情報提供	(5. 1) その他 (具体的に

(5. 3) 無回答



この設問の回答後は問 22 へお進みください

問 21 【問 18 で「2 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

檜葉町に戻る条件として、最も必要と思うものから、3 番目に必要と思うものまでを、それぞれ 1 つずつ教えてください。(○は 1 つずつ) (n=1, 250)

優先順位⇒	最も 必要と思う もの (○は1つ) ↓	2番目に 必要と思う もの (○は1つ) ↓	3番目に 必要と思う もの (○は1つ) ↓
ア 放射線量が低下すること	(36. 8)	(10. 2)	(2. 8)
イ 原子力発電所の安全性が確保されること	(19. 4)	(14. 8)	(2. 9)
ウ 水道水などの生活用水が安全であることが確認されること	(12. 2)	(16. 8)	(11. 4)
エ 檜葉町もしくは檜葉町から通勤できる範囲での雇用が確保されること	(2. 6)	(4. 2)	(4. 1)
オ 災害公営住宅が整備されること	(2. 9)	(4. 0)	(3. 2)
カ 交通インフラ (道路、公共交通機関) が整備されること	(5. 2)	(5. 6)	(5. 4)
キ 医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	(6. 4)	(11. 9)	(13. 4)
ク 町内の学校が再開されること	(1. 7)	(3. 5)	(3. 4)
ケ 町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	(5. 3)	(10. 7)	(20. 6)
コ 他の住民がある程度戻ること	(2. 9)	(3. 5)	(9. 0)
サ その他 (具体的に)	(1. 9)	(0. 6)	(0. 9)

(2. 6)

(14. 2)

(23. 0) 無回答

問 22 【問 18 で「1 檜葉町にすぐに戻る」「2 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

檜葉町に戻る場合、現時点から何年以内に戻りたいとお考えですか。(○は 1 つ) (n=1, 625)

(31. 5) 2 年以内	(26. 4) 3 年以内	(23. 5) 5 年以内	(11. 9) 5 年より後
---------------	---------------	---------------	----------------

(6. 7) 無回答

問 23(1) 【問 18 で「1 檜葉町にすぐに戻る」「2 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答し、避難前に自営業（農・林・漁・畜産業、商業等）をされていた方にうかがいます。】

避難指示が解除になって戻った場合、町内で事業を再開したいと思いますか。（○は1つ）

(n=261)

- | | |
|--------------------|------------|
| (49. 8) 再開したい | →問 23(2) へ |
| (10. 7) 再開するつもりはない | →問 23(3) へ |
| (30. 7) まだ判断できない | →問 23(3) へ |

(8. 8) 無回答

問 23(2) 【問 23(1) で「1 再開したい」と回答した方にうかがいます。】

町内で事業を再開する際の課題があれば教えてください。（○はいくつでも） (n=130)

- | |
|---------------------------------|
| (57. 7) 長期間利用していない設備や機材などの新たな投資 |
| (61. 5) 事業に必要な土地や建屋などの除染 |
| (36. 2) 農畜産物等や製品の放射能からの安全性確保 |
| (40. 0) 風評被害の払しょく |
| (14. 6) 後継者（担い手）の確保 |
| (20. 8) 従業員の確保 |
| (43. 1) 顧客・販売先の確保 |
| (4. 6) その他（具体的に |

)

(0. 8) 無回答

問 23(3) 【問 23(1) で「2 再開するつもりはない」「3 まだ判断できない」と回答した方にうかがいます。】

事業を再開しない理由、判断できない理由を教えてください。（○はいくつでも） (n=108)

- | |
|------------------------------------|
| (30. 6) 事業に必要な設備や機材などの新たな投資ができないから |
| (37. 0) 事業に必要な土地や建屋などの除染が進まないから |
| (31. 5) 農畜産物等や製品の放射能による汚染が心配だから |
| (8. 3) がれきなど津波被害の影響が残っているから |
| (28. 7) 風評被害があるから |
| (28. 7) 再開するための後継者（担い手）確保ができないから |
| (4. 6) 従業員の確保ができないから |
| (30. 6) 顧客や販売先が確保できないから |
| (11. 1) その他（具体的に |

)

(13. 0) 無回答



この設問の回答後は問 29 へお進みください

問 24 【問 18 で「3 檜葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

「檜葉町には戻らない」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=826)

- (76. 8) 放射線量に対する不安があるから
- (69. 7) 原子力発電所の安全性に不安があるから
- (13. 6) 今後も、津波の被害を受ける可能性があるから
- (15. 6) 避難先で仕事を見つけているから
- (40. 6) 檜葉町に戻っても仕事がないから
- (53. 8) 家が汚損、劣化し、住める状況ではないから
- (14. 6) 営農などができないから
- (39. 7) 町外への移動交通が不便だから
- (59. 3) 医療環境に不安があるから
- (22. 4) 介護・福祉サービスに不安があるから
- (30. 3) 教育環境に不安があるから
- (59. 2) 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから
- (26. 0) 他の住民が戻らないから
- (17. 1) その他 (具体的に)

(1. 3) 無回答

問 25 【問 18 で「3 檜葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

今後の生活拠点としてどちらをお考えですか。自治体名を教えてください。(具体的に)

()の中に具体的な地名をご記入の上、()内の都道府県、市町村区のいずれかあて はま
る内容にも、それぞれ○をつけてください。

(都・道・府・県) (n=826)

(65. 1) 福島県 (1. 3) 東北 (福島以外) (15. 5) 関東 (3. 3) その他 (14. 8) 無回答

(市・町・村・区) (n=538)

(87. 9) いわき市 (2. 0) 会津美里町 (1. 7) 郡山市 (1. 5) 福島市
(1. 5) 会津若松市 (-) 檜葉町 (3. 7) その他 (1. 7) 無回答

問 26(1) 【問 18 で「3 檜葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

檜葉町に戻らない場合に、今後の生活拠点に転居する時期は決まっていますか。(○は1つ)

「2 転居時期が決まっている」を選択された方は、の中に具体的な時期もご記入
ください。 (n=826)

(10. 9) すでに新しい生活拠点に転居済み →問 27 へ

(7. 0) 転居時期が決まっている →問 27 へ (n=58)

(70. 7) 半年以内 (15. 5) 1 年以内 (5. 2) 1 年半以内
(3. 4) 2 年以内 (-) 2 年より後 (5. 2) 無回答

(78. 7) 転居時期は決まっていない

(3. 4) 無回答

問 26(2) 【問 26(1) で「3 転居時期は決まっていない」と回答した方にうかがいます。】

転居時期は、どの段階で判断したいとお考えですか。(○はいくつでも) (n=650)

- (50. 9) 受領する賠償額が確定した段階
- (58. 5) 希望する転居先での住宅が確保された段階
- (14. 6) 希望する転居先でのご家族またはご自身の学校の転入などの目途が立った段階
- (11. 2) 職が決まった段階
- (13. 8) その他 (具体的に)

(2. 5) 無回答

問 27 【問 18 で「3 檜葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

檜葉町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。

(n=826)

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| (59. 9) 住居の確保の支援 | (14. 3) 他の檜葉町民との交流の機会 |
| (46. 7) 継続的な健康管理の支援 | (56. 4) 土地家屋の処分や固定資産税の減免 |
| (20. 8) 雇用確保の支援 | (5. 0) その他 |
| (45. 9) 仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保 | (具体的に |
| (43. 7) 檜葉町からの継続的な情報提供 |) |



この設問の回答後は問 29 へお進みください

(3. 6) 無回答

問 28 【問 18 で「4 今はまだ判断できない」と回答した方にうかがいます。】

どのような条件が提示されれば、檜葉町に戻るかどうかの判断ができますか。

(n=1, 270)

(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------------|
| (64. 6) 一定程度の放射線量の低下 |
| (52. 1) どの程度の住民が帰還するかの情報 |
| (61. 3) 東京電力による世帯ごとの賠償額の確定 |
| (71. 8) 町内の医療、介護・福祉サービス、学校、商業施設などの再開 |
| (19. 9) その他 (具体的に |
|) |

(5. 0) 無回答

問 29 【すべての方にうかがいます。】

国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。

自由記載

あなたご自身のことについて教えてください。

問 30 【すべての方にうかがいます。】

あなたご自身のことについてお答えください。

問 30(1) 性別 (○は1つ) (n=3, 755)

(43.9) 男性 (49.5) 女性
(6.6) 無回答

問 30(2) 現在の満年齢 (○は1つ) (n=3, 755)

(0.9) 15～19歳 (5.4) 40～44歳 (8.3) 65～69歳
(3.1) 20～24歳 (5.9) 45～49歳 (7.9) 70～74歳
(3.8) 25～29歳 (9.3) 50～54歳 (7.1) 75～79歳
(4.9) 30～34歳 (9.3) 55～59歳 (10.7) 80歳以上
(5.9) 35～39歳 (13.0) 60～64歳

(4.5) 無回答

問 31 【すべての方にうかがいます。】

あなたは震災発生当時、世帯主でしたか。(○は1つ) (n=3, 755)

(42.2) 当時世帯主だった (51.5) 当時世帯主ではなかった
(6.3) 無回答

問 32 【すべての方にうかがいます。】

あなたは現在、世帯主ですか。(○は1つ) (n=3, 755)

(42.0) 現在世帯主
(9.3) 世帯が分かれて避難している住まいの代表者
(41.0) 現在世帯主ではない → ご質問は以上です。ご回答誠にありがとうございました。

(7.7) 無回答

【以降の設問は、問 32 で「1 現在世帯主」または「2 世帯が分かれて避難している住まいの代表者」と回答した方にうかがいます。】

世帯・ご家族の状況を教えてください。

問 33 現在お住まいになっている住宅はどのような所有形態、住宅の建て方ですか。

問 33(1) 所有形態(○は1つ) (n=1, 926)

(34.5) 応急仮設住宅 →問 34へ (2.6) 給与住宅 (社宅、公務員宿舎など)
(40.8) 民間住宅・公営住宅などの借り上げ型 (1.2) 家族のうちどなたかの実家
(家賃無償) (2.0) 親戚・知人宅
(10.5) 民間賃貸 (有償) (3.9) 持ち家 (ご家族またはご本人所有)
(0.5) 公営住宅 (有償) (1.8) その他 (具体的に)

(2.2) 無回答

高校生以外の方

問 33(2) 【問 33(1)の所有形態で、「2」～「9」と回答した方にうかがいます。】

住宅の建て方(○は1つ) (n=1, 220)

(55. 9) 集合住宅 (2階建て以上)

(29. 2) 一戸建て

(2. 3) 集合住宅 (平屋建て)

(1. 5) その他 (具体的に)

(11. 1) 無回答

問 34 【すべての方にうかがいます。】

現在の世帯構成についてうかがいます。

問 34(1) 現在あなたが住まいの住宅のご同居人数を教えてください。 (n=1, 926)

現在の同居人数 (あなたを含めて)

(20. 9) 1人

(34. 0) 2人

(18. 4) 3人

(11. 7) 4人

(5. 7) 5人

(3. 8) 6人以上

(5. 4) 無回答

問 34(2) 現在あなたが同居されている方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。 (○はいくつでも)

(n=1, 926)

(8. 8) 未就学児 (小学校入学前)

(7. 1) 高校生

(10. 4) 小学生

(74. 7) 15～64 歳の方 (高校生を除く)

(6. 6) 中学生

(48. 9) 65 歳以上の方

(0. 3) 無回答

問 34(3) 現在、あなたが住まいの住宅には、震災発生当時の世帯でまともって避難していますか。(○は1つ) (n=1, 926)

(43. 2) 世帯でまともって避難している →問 36 へ

(46. 5) 複数箇所に分かれて避難している

(10. 3) 無回答

問 34(4) 【問 34(3)で「2 複数箇所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】

現在、あなたと別居している方の人数は何人ですか。 (n=895)

(25. 0) 1人

(25. 6) 2人

(16. 9) 3人

(13. 0) 4人

(6. 8) 5人

(4. 1) 6人以上

(8. 6) 無回答

問 34(5) 【問 34(3)で「2 複数箇所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】

震災発生当時、ご一緒にお住まいであった世帯のご家族は、現在、合計何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

※現在のあなたのお住まいも含めた数を教えてください。 (n=895)

(59. 9) 合計 2 か所に分散

(30. 7) 合計 3 か所に分散

(5. 5) 合計 4 か所以上に分散

(3. 9) 無回答

高校生以外の方

問 35 【すべての方にうかがいます。】

震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

問 35(1) 震災当時は、あなたを含めて何人でお住まいでしたか。 (n=1, 926)

震災発生当時の世帯合計人数（あなたを含めて）	(10. 1) 1 人	(21. 0) 2 人	(18. 3) 3 人
	(15. 8) 4 人	(12. 6) 5 人	(16. 8) 6 人以上

(5. 4) 無回答

問 35(2) 震災当時一緒にお住まいであった方を、あなた自身を含めてすべて教えて

ください。震災当時の学齢・年齢でご回答ください。 (〇はいくつでも) (n=1, 926)

(13. 9) 未就学児（小学校入学前）	(10. 3) 高校生
(14. 6) 小学生	(79. 9) 15～64 歳の方（高校生を除く）
(9. 9) 中学生	(56. 4) 65 歳以上の方

(1. 0) 無回答

問 36 【すべての方にうかがいます。】

震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方でしたか。

問 36(1) 所有形態(〇は 1 つ) (n=1, 926)

(85. 9) 持ち家（ご家族またはご本人所有）	(0. 8) 給与住宅（社宅、公務員宿舎など）
(3. 0) 民間賃貸	(0. 6) 間借り
(6. 9) 公営住宅	(0. 7) その他（具体的に

(2. 2) 無回答

問 36(2) 住宅の建て方(〇は 1 つ) (n=1, 926)

(86. 8) 一戸建て	(6. 3) 集合住宅（2階建て以上）
(2. 6) 集合住宅（平屋建て）	(0. 3) その他（具体的

(4. 0) 無回答

問 37 【すべての方にうかがいます。】

あなたの世帯で所有している家屋や、宅地、農地などをどうされるおつもりですか。

問 37(1) 家屋、建築物等（〇は 1 つ） (n=1, 926)

(7. 1) 売却する	(9. 3) 解体する
(54. 6) 継続して保有する	(11. 8) その他（具体的に
(1. 5) 貸与する	(8. 2) 世帯で保有する家屋や建築物等はない

(7. 5) 無回答

問 37(2) 宅地（〇は 1 つ） (n=1, 926)

(9. 3) 売却する	(8. 8) その他（具体的に
(52. 6) 継続して保有する	(15. 4) 世帯で保有する宅地はない
(1. 9) 貸与する	

(12. 1) 無回答

問 37(3) 農地（〇は 1 つ） (n=1, 926)

(8. 4) 売却する	(9. 0) その他（具体的に
(27. 1) 継続して利用する	(29. 4) 世帯で利用する農地はない
(4. 8) 貸与する	

(21. 3) 無回答

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、

12月13日(木)までに 郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

- ※ 世帯にご回答者が複数いらっしゃる場合は、同封の返信封筒に全員の調査票をいっしょに入れてご提出ください。
- ※ 高校生の方は、次ページよりご回答ください。

高校生 回答欄

16～20 ページは高校生の方のみに回答をお願いいたします。
高校生以外の方は回答なさらないでください。

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

問1 【すべての方にうかがいます。】

震災発生当時にお住まいだった地区を以下から教えてください。(○は1つ) (n=133)

(0.8) 旭ヶ丘	(-) 山所布	(5.3) 上小埜	(6.8) 波倉
(5.3) 営団	(11.3) 山田岡	(4.5) 上繁岡	(4.5) 繁岡
(-) 乙次郎	(2.3) 山田浜	(2.3) 前原	(9.0) 北田
(9.0) 下井出	(-) 女平	(-) 大坂	(-) その他
(11.3) 下小埜	(1.5) 松館	(3.0) 大谷	(わからない場合住所 を記載してください)
(7.5) 下繁岡	(15.0) 上井出	(-) 榎木下	()

(0.8) 無回答

問2 【すべての方にうかがいます。】

あなたが震災発生当時まで通学していた地域と、利用していた移動手段を教えてください。移動手段については、利用していた手段をすべて教えてください。

問2 (1) 通学先(○は1つ) (n=133)

(55.6) 檜葉町内	(9.8) 大熊町、双葉町、浪江町
(29.3) いわき市	(-) 広野町
(2.3) 富岡町	(2.3) その他 (具体的に)

(0.8) 無回答

問2 (2) その移動手段 (○はいくつでも) (n=133)

(36.8) 自家用車・バイク	(36.1) 自転車
(6.8) バス	(24.1) 徒歩のみ
(38.3) 鉄道	(0.8) その他 (具体的に)

(-) 無回答

現時点のあなたの状況を教えてください。

問3 【すべての方にうかがいます。】

あなたが現在避難されている先の自治体名を教えてください。(具体的に)

()の中に具体的な地名をご記入の上、()内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。

(都・道・府・県) (n=133)

(83.5) 福島県	(0.8) 東北 (福島以外)	(9.0) 関東	(6.0) その他	(0.8) 無回答
------------	------------------	-----------	------------	------------

(市・町・村・区) (n=111)

(83.8) いわき市	(9.0) 会津美里町	(0.9) 郡山市	(-) 福島市
(1.8) 会津若松市	(0.9) 檜葉町	(2.7) その他	(0.9) 無回答

問4 【すべての方にうかがいます。】

学校（教育）について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。（○はいくつでも） （n=133）

- （ 9.0）学校に、教室・運動場などの施設が不足している
- （ 3.8）先生による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった
- （ 8.3）震災による休校期間があったので学習の進捗が遅れている
- （ 9.0）檜葉町から避難しているということで偏見がある
- （10.5）通学に時間がかかるようになった
- （ 5.3）その他（具体的に
- （63.9）特にない

（ 3.0）無回答

ここからは、将来についてのあなたの想いをお聞かせください。

問5 【すべての方にうかがいます。】

あなたは、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。（○は1つ） （n=133）

- （57.1）進学を希望している、または進学が決まっている
- （24.8）就職を希望している、または就職が決まっている
- （16.5）まだ決めていない → 問8へ

（ 1.5）無回答

問6 【問5で「1 進学を希望している、または進学が決まっている」「2 就職を希望している、または就職が決まっている」と回答した方にうかがいます。】

あなたは、どの地域への進学や就職を希望していますか。すでに卒業後の進学先や就職先が決まっている方は、その場所を教えてください。（○は1つ） （n=109）

- | | |
|---------------|-----------------|
| （ - ）檜葉町 | （ 8.3）福島県外の東北地方 |
| （13.8）いわき市 | （45.9）関東地方 |
| （ - ）広野町 | （ 1.8）その他（具体的に |
| （ - ）その他双葉郡内 | （17.4）まだ決めていない |
| （ 8.3）その他福島県内 | |

（ 4.6）無回答

問7 【問5で「1 進学を希望している、または進学が決まっている」「2 就職を希望している、または就職が決まっている」と回答した方にうかがいます。】

その進路の希望は震災によって変わりましたか（○は1つ） （n=109）

- （59.6）震災によって変わっていない
- （ 2.8）震災によって進学をあきらめた
- （33.9）震災によって進学・就職先や地域を変えた

（ 3.7）無回答

問 8 【すべての方にうかがいます。】

将来、檜葉町の避難指示が解除され、戻ることができるようになった場合、あなたは
檜葉町に戻りたいと思いますか。(○は1つ) (n=133)

- | | |
|-------------------------|---------------|
| (2. 3) 檜葉町にすぐに戻りたい | → 問 10 へ |
| (28. 6) 条件が整えば、檜葉町に戻りたい | → 問 9、問 10 へ |
| (30. 1) 檜葉町には戻りたくない | → 問 11、問 12 へ |
| (39. 1) 今はまだ判断できない | → 問 13 へ |

(-) 無回答

問 9 【問 8 で「2 条件が整えば、檜葉町に戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

檜葉町に戻る条件として、特に必要と思うものを3つまで教えてください。(○は3つまで)
(n=38)

- (60. 5) 放射線量が低下すること
(47. 4) 原子力発電所の安全性が確保されること
(52. 6) 水道水などの生活用水が安全であることが確認されること
(7. 9) 檜葉町から通学できる範囲で学校が再開されること
(18. 4) 檜葉町もしくは檜葉町から通勤できる範囲で就職先が確保されること
(36. 8) 交通インフラ（道路、公共交通機関）が整備されること
(18. 4) 医療機関が整備されること
(28. 9) 町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること
(10. 5) 他の住民がある程度戻ること
(10. 5) その他（具体的に

(2. 6) 無回答

問 10 【問 8 で「1 檜葉町にすぐに戻りたい」「2 条件が整えば、檜葉町に戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

檜葉町に戻る場合、現時点から何年以内に戻りたいとお考えですか。(○は1つ) (n=41)

- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|---------------|
| (24. 4) 2年以内 | (2. 4) 3年以内 | (24. 4) 5年以内 | (43. 9) 5年より後 |
|--------------|--------------|--------------|---------------|

(4. 9) 無回答

問 11 【問 8 で「3 檜葉町には戻りたくない」と回答した方にうかがいます。】

「檜葉町には戻りたくない」と答えた理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。
(○はいくつでも) (n=40)

- (80. 0) 放射線量に対する不安があるから
(70. 0) 原子力発電所の安全性に不安があるから
(7. 5) 今後も、津波の被害を受ける可能性があるから
(32. 5) 避難先もしくは別の場所で進学や就職が決まっているから
(60. 0) 檜葉町に戻っても仕事がないから
(60. 0) 家が汚損、劣化し、住める状況ではないから
(50. 0) 町外への移動交通が不便だから
(47. 5) 医療環境に不安があるから
(22. 5) 教育環境に不安があるから
(52. 5) 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから
(27. 5) 他の住民が戻らないから
(2. 5) その他（具体的に

(-) 無回答

高校生の方

問 12 【問 8 で「3 檜葉町には戻りたくない」と回答した方にうかがいます。】

今後、どこで生活したいと思いますか。自治体名を教えてください。（具体的に）

（の中に具体的な地名をご記入の上、（ ）内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。）

（都・道・府・県） （n=40）

(50.0) 福島県	(2.5) 東北（福島以外）	(27.5) 関東	(-) その他	(20.0) 無回答
------------	-----------------	-----------	-----------	------------

（市・町・村・区） （n=20）

(80.0) いわき市	(5.0) 会津美里町	(5.0) 郡山市	(-) 福島市
(-) 会津若松市	(-) 檜葉町	(-) その他	(10.0) 無回答

問 13 【すべての方にうかがいます。】

檜葉町の将来に対する率直な想い、復興に対してあなたがやりたいと考えていることなどを自由にお書きください。

自由記載

あなたご自身のことについて教えてください。

問 14 【すべての方にうかがいます。】

あなたご自身のことについてお答えください。

問 14(1) 性別（○は1つ） （n=133）

(51.1) 男性	(48.1) 女性
(0.8) 無回答	

問 14(2) 学 年（○は1つ） （n=133）

(26.3) 1 年生	(33.1) 2 年生	(38.3) 3 年生
-------------	-------------	-------------

(2.3) 無回答

問 15 【すべての方にうかがいます。】

現在一緒に暮らしている人を教えてください。(〇はいくつでも) (n=133)

(72.9) 父	(0.8) 一人暮らし
(91.0) 母	(3.8) 寮生活
(61.7) きょうだい	(0.8) その他 (具体的に)
(18.0) その他の親戚	(0.8) 無回答

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、
12月13日(木)までに 郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

※ 世帯にご回答者が複数いらっしゃる場合は、同封の返信封筒に全員の調査票をいっしょに入れてご提出ください。